增補
尚古年表
一

常陸　山本隱倫著
文學士　入田整三增補

增補 尚古年表

藝苑叢書

CN 1180 .I7 v.1

例言

造像銘、鐘銘、碑銘、墓誌銘等を集めたる書に、古京遺文、金石私誌、擬集古錄、扶桑鐘銘集等あり。これ等銘文を紀年により、年序に排列したる書に金石年表あり。前者にありては全豹は窺ひ易けれど、他に同紀年銘の有無を知るに不便なり。後者にありては他の同一紀年銘の存否は、知り易きも、その全文は窺ひ難し。こゝに、この兩者を折衷し、長短相補へるものに尙古年表あり。そは常陸の國人山本隱倫の編著にして、一部七卷より成り、上は雄畧天皇の即位元年より、下は孝明天皇の嘉永二年に至る、實に一千三百九十三年間に於ける金石銘、古文書、古器、古經題跋等を載せ、所々に諸家の學說を註記せる一大年表なり。而して、その流布に至りては、未た上梓のことなければ、唯僅かに寫本として傳ふるものあるのみ。今、藝苑叢書の一として、訂正增補し以て世に公けにせんとす。その增補の範圍に至りては、金石銘にのみに限りぬ。たしかも全國に散在するものを細大洩らさず錄すること、到抵不可能のことなれば、た

だ東京帝室博物館藏品、家藏の柘本及び考古學雜誌其他二三の書籍に散見せるものに止め、大成を他日に俟つのみ。

終りに臨み本書題簽の揮毫を賜はりたる、高野山座主土宜大僧正、文學博士三宅米吉氏及び有益なる注意と貴重なる資料とを提供せられたる史料編纂官八代國治氏、黑川眞道氏、學友東京帝國大學助敎授文學士植松安氏、畏友少僧正水原堯榮師等に對して謝意を表す。

大正十年十一月

文學士　入田整三識

凡例

一、天皇ノ御歷代ハ原本ニヨリ別ニ修正ヲ加ヘズ心附ケル点ヲ補ヘリ
一、原本ニ收錄サレタルモノニシテ眞僞ノ疑ハシキモノモ別ニ眞僞ヲ言ハズ
一、原本ニ云云トシ下ヲ省畧セルモノハ心附ケルモノハ補ヘリ
一、本表原本ニ挿入ノ繪圖類ハコレヲ附錄ニ載セタリ
一、本表ニハナルベク古字ヲ使用セザル方針ヲ採レリ
一、本表ニ左ノ符號ヲ用ヒタリ
イ〔朱〕原本ニ朱書セルモノ
ロ〔貼〕原本ニ貼紙セルモノ
ハ〔增〕增補

一、本表上欄ノ小字數字中、括弧ヲ附セザルモノハ皇紀ニシテ括弧ヲ附セルモノハ西暦ナリ

一、板碑其他ノ墓標中單ニ紀年ト法名トヲ有スル外別段注意スベキモノナキハ原則トシテ省畧シソノ注意スベキモノ若クハ有名ナルモノハ之レヲ採レリ

増補尚古年表卷一

常陸 山本隱倫著
文學士 入田整三增補

雄略元 丁酉 一一一七 (四五七)	二 戊戌 一一一八 (四五八)	三 己亥 一一一九 (四七九)

雄略 四	五	六	七
庚子 一一二〇 （四六〇）	辛丑 一一二一 （四六一）	壬寅 一一二二 （四六二）	癸卯 一一二三 （四六三）

八 甲辰 一一二四 （四六四）	九 乙巳 一一二五 （四六五）	一〇 丙午 一一二六 （四六六）	一一 丁未 一一二七 （四六七）

雄略一二 戊申 一一二八（四六八）	
一三 己酉 一一二九（四六九）	
一四 庚戌 一一三〇（四七〇）	
一五 辛亥 一一三一（四七一）	

一六 壬子 一一三二 (四七二)	一七 癸丑 一一三三 (四七三)	一八 甲寅 一一三四 (四七四)	一九 乙卯 一一三五 (四七五)

雄略	干支	皇紀	西暦	
二〇	丙辰	一一三六	（四七六）	
二一	丁巳	一一三七	（四七七）	
二二	戊午	一一三八	（四七八）	
二三	己未	一一三九	（四七九）	

清寧元 庚申 二一四〇 (四八〇)	二 辛酉 二一四一 (四八一)	三 壬戌 二一四二 (四八二)	四 癸亥 二一四三 (四八三)

年號		干支	年
淸寧	五	甲子	一一四四（四八四）
顯宗	元	乙丑	一一四五（四八五）
	二	丙寅	一一四六（四八六）
	三	丁卯	一一四七（四八七）

仁賢 元 戊辰 一一四八（四八八）	二 己巳 一一四九（四八九）	三 庚午 一一五〇（四九〇）	四 辛未 一一五一（四九一）

仁賢 五 壬申 二一五二（四九二）	六 癸酉 二一五三（四九三）	七 甲戌 二一五四（四九四）	八 乙亥 二一五五（四九五）

九 丙子 二一五六（四九六）	一〇 丁丑 二一五七（四九七）	一一 戊寅 二一五八（四九八）	武烈元 己卯 二一五九（四九九）

年	干支	紀元	西曆	事項
武烈 二	庚辰	二一六〇	（五〇〇）	
三	辛巳	二一六一	（五〇一）	
四	壬午	二一六二	（五〇二）	梁武帝天監元內郭五銖
五	癸未	二一六三	（五〇三）	稚泉五銖（朱）珍錢奇品圖錄　梁代民間通用

六	甲申	二一六四	（五〇四）
七	乙酉	二一六五	（五〇五）
八	丙戌	二一六六	（五〇六）
繼體元	丁亥	二一六七	（五〇七）

繼體 二	三	四	五
戊子	己丑	庚寅	辛卯
二一六八	二一六九	二一七〇	二一七一
（五〇八）	（五〇九）	（五一〇）	（五一一）

六	七	八	九
壬辰	癸巳	甲午	乙未
二一七二	二一七三	二一七四	二一七五
（五一二）	（五一三）	（五一四）	（五一五）

繼體一〇	一一	一二	一三
丙申	丁酉	戊戌	己亥
二一七六	二一七七	二一七八	二一七九
（五一六）	（五一七）	（五一八）	（五一九）

一四 庚子 二八〇（五二〇）	一五 辛丑 二八一（五二一）	一六 壬寅 二八二（五二二）	一七 癸卯 二八三（五二三）

繼體 一八 甲辰 (五二四)	一九 乙巳 (五二五)	二〇 丙午 (五二六)

二一　丁未　二一八七（五二七）

筑紫國造磐井墓
筑後國上妻郡一條村東南一里許ニ石室及ヒ石人石馬等今尙存スト云此墓磐井生存ノ時造ル處ト云ヘハ其年歷コトコトク不可知タヽ繼體紀今年條ニ筑紫國造磐井陰謀叛逆ト云ヘル語ニ依テ姑ク今年ニ係ルモノトセリ
筑後風土記曰上妻縣々南二里有筑紫君磐井之墓墳高七丈單六丈墓田南北各六十丈東西各卅丈石人石盾各六十枚交陳成行周匝四面當東北角有一別區號曰衙頭其中有一石人從容立地號曰解部前有一人裸形伏地號曰偷人側有石猪四頭號賊物彼處亦有石馬三匹石殿三間石藏二間古老傳當雄大迹天皇之世筑紫君磐井豪强暴虐不偃皇風生平之時豫造此墓俄而官軍動發欲襲之間知勢不勝獨自遁于豐前國上膳縣終于南山峻嶺之曲於是官軍追尋失蹤士怒未泄擊折石人之手打墮石馬之頭古老傳云上妻縣多有篤疾蓋由玆歟
〔朱〕宣長曰周六丈、高サニカナハサレハ六ノ上ニ卅ナト云字ノ有ケンガオチタルナルベシ

繼體	二二	二三	二四	二五
	戊申	己酉	庚戌	辛亥
	（五二八）	（五二九）	（五三〇）	（五三一）

空位 一 壬子 二一九二（五三二）	空位 二 癸丑 二一九三（五三三）	安閑 元 甲寅 二一九四（五三四）

安閑	二	乙卯 一一九五（五三五）	〔宋〕寶元元年

安閑帝陵白玉器　河内古市村西琳寺藏一年大雨陵土崩壞所出云

貞幹集古圖云　口徑四寸分許内深二寸三分外高二寸八分圓點五層上四層凡七十一周各十九箇第五層一周七箇形大也

亡友忠友云　此玉碗假玉也古昔既ニ假玉器ヲ製セシコト近年出シ禰麻呂壽域中ノ假玉器ニテモ可知

（附圖參照）

宣化元年 丙辰 二九六（五三六）（朱）教到六年	二 丁巳 二九七（五三七）	三 戊午 二九八（五三八）	四 己未 二九九（五三九）

欽明 元 庚申 一二〇〇（五四〇）	二 辛酉 一二〇一（五四一）	三 壬戌 一二〇二（五四二）	四 癸亥 一二〇三（五四三）

五	六	七	八
甲子 一二〇四（五四四）	乙丑 一二〇五（五四五）	丙寅 一二〇六（五四六）	丁卯 一二〇七（五四七）

欽明 九 戊辰 一二〇八（五四八）	
一〇 己巳 一二〇九（五四九）	
一一 庚午 一二一〇（五五〇）	
一二 辛未 一二一一（五五一）	

一三 壬申 一二一二（五五二）	一四 癸酉 一二一三（五五三）	一五 甲戌 一二一四（五五四）	一六 乙亥 一二一五（五五五）
	常平五銖 北齊文宣帝天保四年		

欽明 一七 丙子（二二一六）（五五六）	一八 丁丑（二二一七）（五五七）	一九 戊寅（二二一八）（五五八）	二〇 己卯（二二一九）（五五九）

二一 庚辰 (一二二〇)(五六〇)	二二 辛巳 (一二二一)(五六一)	二三 壬午 (一二二二)(五六二)	二四 癸未 (一二二三)(五六三)
	布泉 後周武帝保定元		

欽明 二五 甲申 一二二四（五六四）	二六 乙酉 一二二五（五六五）	二七 丙戌 一二二六（五六六）	二八 丁亥 一二二七（五六七）

二九 戊子 一二二八（五六八）	三〇 己丑 一二二九（五六九）	三一 庚寅 一二三〇（五七〇）	三二 辛卯 一二三一（五七一）

年	事項
敏達元 壬辰 一二三二（五七二）	
二 癸巳 一二三三（五七三）	法隆寺藏鈴鈷 稱眞鈴物是也鈷折損 （朱）栗原信充曰上宮法王降誕日出現スト云
三 甲午 一二三四（五七四）	五行大布 後周武帝建德三年
四 乙未 一二三五（五七五）	

五	六	七	八
丙申 一二三六（五七六）	丁酉 一二三七（五七七）	戊戌 一二三八（五七八）	己亥 一二三九（五七九）
			興福寺東金堂釋迦像 釋書資治表　敏達天皇八年十月新羅國貢釋迦像上宮王子奏曰此像甚靈崇之則銷災受福蔑之則畜招縮壽 帝聞之敬崇供養今見在興福寺東金堂 陳宣帝 大建十一年　大貨六銖

年	干支	皇紀（西暦）	事項
敏達 九	庚子	一二四〇（五八〇）	
一〇	辛丑	一二四一（五八一）	小五銖 隋文帝開皇元
一一	壬寅	一二四二（五八二）	
一二	癸卯	一二四三（五八三）	

敏達 一三 甲辰 一二四四 (五八四)

一四 乙巳 一二四五 (五八五)

用明 元 丙午 一二四六 (五八六)

二 丁未 一二四七 (五八七)

甲戌 三 一二五〇（五九〇）	己酉 二 一二四九（五八九）	崇峻 元 戊申 一二四八（五八八）

大和斑鳩寺金銅二臂觀音座趺 三香筆記(增)御物 一説ニ辛亥年ヲ孝德天皇白雉二年辛亥ノ年トナス

(增)辛亥年七月十日記笠評君名大古臣辛丑日口去奈〇辰歟時故兒在布奈(?)太利古臣又伯在口〇或ハ建或ハ迸歟古臣二人志願

崇峻 五 壬子 (一二五二)(五九二)	推古 元 癸丑 (一二五三)(五九三)

法隆寺所傳一光三尊佛像 釋迦像今亡後光猶存銘文在後光 〔增〕後光今御物、高八寸三分、幅九寸九分

甲寅年三月廿六日弟子王延孫奉爲現存父母敬造金銅釋迦像一軀願父母乘此功德現身安穩生生世世不經三塗遠離八難速生淨土見佛聞法 栗原信充手錄

〔朱〕信充云王延孫何人ナルヤ不可知 〔增〕一說甲寅年ヲ以テ孝德天皇白雉五年トス

攝津姬古曾神社藏靈蹤甃碑

等由良宮治天下天皇二年甲寅歲次夏四月承國政君命補高津之宮皇居荒廢地於石花女關西丘○或作レ北白鴨御池上大小橋山池○池或作レ地以石墻疊之者即永保天下聖趾安固萬世靈蹤故也

奉行左大史攝津上官臣 武夫麿

埴土庋 日東

〔朱〕三香筆記云東生郡小橋村乾ノ方御殿谷ト云地ヨリ掘出ス今同處ヒメコソ社ニ納ムト云

甲寅　私云歲次甲寅ヲ寫誤歟

國政君　三香筆記　云聖德太子　外布目

大小橋　今ノ餌差口ノ南ニアタル　裏文

私案是恐後世僞造之物ナルヘシ

伍策之內未

推古
三
乙卯
一二五五（五九五）

四　丙辰　一二五六（五九六）

伊豫道後湯碑　碑石今亡

釋日本紀曰伊豫國風土記載立湯岡側碑文云

法興六年十月歲在丙辰（我法王大王與惠總法師及葛城臣逍遙夷與村正觀神井歎世妙驗欲叙意聊作碑文一首惟夫日月照於上而不私神井出於下無不給萬機所以妙應百姓所以潛扇若乃照給無偏私何異于壽國隨華臺而開合沐神井而瘳疹詎升于落花池而化溺窺望山岳之巖崿反冀子平之能往椿樹相廕而穹窿實想五百之張蓋臨朝啼鳥而戲哢何曉亂音之聒耳丹花卷葉而映照玉菓彌葩以垂井經過其下可優遊豈悟洪灌霄庭意與才拙實慚七步後定君子幸無蚩咲也）

北窓瑣談云　寛政甲寅ノ春伊豫國道後溫泉ノ傍ニ畑アリテ云々今年松山ノ主某ノ考ニテ此土中ニ必聖德太子ノ溫泉ノ碑アルヘシト人ヲシテ堀シメシニ果シテ大ナル碑石ヲ堀出スサレハコソトテイマタ全ク出終ラサル前ヨリ水ニテ洗ヒナドシテ見タリシニ聖德太子其昔溫泉ニメサレシ時ノ御文章ニテ其時ニ隨從ノ人ノ姓名ヲ載タリ稀代ノ云々溫泉ノ近キ土地ヲ堀穿シ故ニ溫泉ノ中ニ濁水出タリシカハ所ノ人大ニ驚キモシ溫泉ニ云々餘義ナクテ又其マヽニウヅミタリイトノコリ多キコト也トカノアタリノ人ノ語リキ

〔增〕銘文我法王以下原本欠、今釋日本紀ニヨリテ補フ

〔增〕元興寺露盤銘　（元興寺緣記）

大和國天皇、斯歸斯麻宮天下名阿米久爾意斯波羅支比里爾波彌已等世奉仕巷宜名伊那米大臣時、百濟國正明王上啓云、萬法之中佛法最上也、是以天皇並大臣聞食之宜、善哉、則受法造主倭國、然天皇大臣等受報業盡故、天皇之女佐久羅韋等由良宮治天下名等己彌居加斯支夜比彌乃彌己等、及甥名有麻移刀等刀己彌彌乃彌己等時奉仕巷宜名有明子大臣爲領、及諸臣等讚云、魏々乎、善哉々々造立佛法、父天皇父大臣也即發菩提心誓願十方諸佛化度衆生、國家太平敬造立塔廟緣此福力、天皇大臣及諸臣等過去七世父母廣及六道四生衆生、生々處十方淨土普因此願皆成佛果以爲子孫世々不忘莫絶綱紀、名建通寺、戊申始請百濟寺名昌王法師及諸佛等、故遣上釋令照律師惠聰法師鏤盤師將德自味淳寺師丈羅末大文賈古子瓦師麻那文奴陽貴文布陵貴文昔麻帝彌令、作奉者山東漢大費直名麻高垢鬼名意等如斯費直也、書人百加博士陽古博士、丙辰年十一月既、爾時使作金人等意奴彌首名辰星也阿沙都麻首名未沙乃也鞍部首名如羅爾也、山西首名都鬼也此四部首爲將、諸手使作奉也。

推古 五 丁巳 一二五七（五九七）	六 戊午 一二五八（五九八）	七 己未 一二五九（五九九）
法隆寺所傳聖德太子眞影並左右王子 〔增〕御物、紙本着色、縦三尺三寸三分、横一尺七寸五分 〔朱〕私按貞幹小錄ニ國朝古畫ノ存スル者此ニ過タル有ヘカラスト云ヘリ此眞影傳ヘテ百濟阿佐太ノ子筆ト云フ阿佐ノ來貢セシハ推古帝ノ五年丁巳ト史ニ見ユレハ此影實ニ阿佐ノ筆ナランニハ隋文帝ノ開皇十七年ナレハ歲嘉永元ニ至リテ千二百五十餘年ノ寶繪		

推古		
八 庚申 一二六〇（六〇〇）	九 辛酉 一二六一（六〇一）	一〇 壬戌 一二六二（六〇二）

十一 癸亥 一二六三 (六〇三)	大和法隆寺所傳御靫 〔朱〕栗原信充云新井氏ノ軍器考ニ法隆寺ノ靫ハ桐ノ木ヲ以テ作リ織物ノ類ヲ黏セシガ剝落セシトモ見エズ緒ヲ付タル處ニ綠青ヲ以テ葉ノ形ノ如クナルモノヲ彩畫セシガ殘リトトマレリトアリ此靫スナハチ書紀推古天皇十一年十一月皇太子請於天皇以作大楯及靫トアルモノナルヘシ
十二 甲子 一二六四 (六〇四)	

推古　一三　乙丑　一二六五（六〇五）

聖德太子十七條憲法　〔朱〕栗原翁云憲法製作ノ年時ヲ西土ノ大業元年ニ配スルコト國史ト一年ヲ違セリ

眞蹟今世ニ一字存セスト雖モ皇國文章ノ太祖ト云ヲ以テ揭ルモノナリ
柳庵隨筆云文章ノ奇古典雅ナルモノ憲法ノ右ニ出ルモノ有ヘカラス是上宮太子三十二歲ノ御時ニシテカノ國隋煬帝大業元年ニアタレリ漢魏ノ遺風ヲ追ヒ六朝ノ文格ニ準セラレシコト可知サテハ上宮太子ハ文章ノ大祖トハ申シ奉ルヘキ

大和元興寺丈六佛像　後光銘

推古天皇十三年歲次乙丑（四月八日戊辰）以銅二萬三千斤金七百五十九兩敬造釋迦丈六像銅繡二軀並挾侍等　〇等字無緣記

〔朱〕私案此銘當時ノモノニ後ニ記セシコト推古天皇云々ト云ルニテ可知
〔增〕元興寺緣記ニ推古天皇ノ四字ナシ、按スルニ後人緣記文ニ十三年トアルヲ以テ前後ノ關係ヨリ推古天皇ノ四字ヲ附加シタルガ如ク、四月八日戊辰ノ六字原本欠今緣起ニヨリ之レヲ補フナホ又原本三千ノ下ニ一本二百トアレド緣記ニナシ今之ヲ省畧セリ

一四 丙寅 一二六六 （六〇六）

大和法隆寺二臂如意輪観音大士 趺側銘 〔増〕御物

歳次丙寅年正月生十八日記高屋大夫爲分韓□ □作歸、婦、始等 夫人名阿麻古願南无頂禮作奏也

〔朱〕栗原信充正月生トハ哉生明ノ三日ヲ云、爾ル時ハ十八日ハ今ノ廿日也
信充云高屋大夫ノコト河内神別神魂命十世孫伊己止足尼大連ノ後ト姓氏錄ニ出タル氏族ナルヘシ

〔増〕一説ニ丙寅年ヲ天智天皇五年トナス

大和法隆寺御磬 上宮太子勝鬘經講讃ノ日用ヒ玉フ處トイフ

〔朱〕信充翁云此磬ハ齊梁ノ際ノ器ナルヘク皇太子降誕ヨリ百年許モ前ノモノニヤアラム

〔増〕御物 竪四寸五分、横一尺二寸弱、厚四分

推古 一五 丁卯 一二六七 （六〇七）	大和法隆寺金堂坐像藥師後光銘 〔增〕大和國生駒郡法隆寺村法隆寺藏 明治三十年十二月國寶指定 池邊大宮治天下天皇、大御身勞賜時、歲次丙午年、召於大王、天皇與太子而誓願賜、我大御病太平欲坐故將造寺藥師像作仕奉詔、然當時崩賜、造不堪者、小治田大宮治天下大王天皇、及東宮聖王、大命受賜而歲次丁卯年仕奉 〔朱〕柳庵隨筆曰此銘太子ニヤト思ヘド東宮聖王大命ト見エタレバ史官ノ筆ナルヘシ此銘ノ字體最奇ト云ヘシ 〔首〕屋代弘賢記池邊大宮治天下天皇トハ用明天皇ノ宮號、小治田大宮治天下トハ推古天皇ノ御事ナリ、東宮ハ聖德太子也

年	干支	紀元	西暦	事項
一六	戊辰	一二六八	（六〇八）	
一七	己巳	一二六九	（六〇九）	
一八	庚午	一二七〇	（六一〇）	
一九	辛未	一二七一	（六一一）	

推古二〇 壬申 一二七二（六一二）

二一 癸酉 一二七三（六一三）

二二 甲戌 一二七四（六一四）

法隆寺藏紺紙金泥梵網經　上宮法皇眞筆　〔增〕御物、一行幅、凡九分、行數、上卷四百八十五行、下卷五百二十二行

栗原信充翁云外題ニ御手皮ヲ貼スト云此御經推古天皇廿二年法王四十三歲ノ御時書寫シ玉フ處ト云

一行十七字紙長八寸九分首題皮長一寸九分幅三分八厘

二三 乙亥 一二七五 （六一五）	二四 丙子 一二七六 （六一六）	二五 丁丑 一二七七 （六一七）	二六 戊寅 一二七八 （六一八）

推古

二七 己卯 一二七九（六一九）

近江小野村日野近邑人魚墳

〔朱〕司馬江漢云此石八角高一尺一寸臺石方一尺三寸文字漫滅不可見墳傍有川幅二間許是蒲生河之水源 〔朱〕紀曰夏四月己亥朔壬寅近江國言方蒲生河有物其形如人

二八 庚辰 一二八〇（六二〇）

二九	辛巳	一三八一（六二一）	法興元卅一年

聖德太子御書碼碯石碑文　河内叡福寺藏

吾爲二利生一出二彼衡山一入二此日域一降二伏守屋之邪見一終現二佛法德一於二處々一造二立四十六箇伽藍一化二度一千三百餘僧尼一制二記法華勝鬘維摩等大乘義疏一斷惡修善之道漸以滿足矣今年歲次辛巳河内國石川郡磯長里有二一勝地一尤足二稱美一故點二墓所一已畢吾入滅以後及二四百三十餘歲一此記文出現哉爾時國王大臣發二起寺塔一願求佛法耳

〔增〕河内國南河内郡磯長村叡福寺藏、寶、大理石長四寸八分幅六寸厚二寸四分、天喜二年九月二十二日忠禪上人塔婆建立ノ時發掘、太子ノ薨去セシ推古二十九年ヨリ發掘迄四百三十四年、原本天平十三年ノ條ニ貼紙シテ載ス、蓋シ偏干支ノ辛巳ナルヲ以テ誤レル歟、又ソノ眞僞ニ至リテハ先人既ニ後人ノ僞託ナルヲ論スルアリ、後考ヲ俟ツ

唐高祖武德四　開元通寶　舊唐書　開元錢之文歐陽詢制詞其字八分及隸體其詞先上後下次左後右讀之自上及左廻環讀之其義亦通俗謂之開通元寶

〔朱〕亡友忠友云　法隆寺釋迦像光後銘ニ法興元世一年歲次辛巳トアルヲ貞幹カ元世一年ト讀シハ誤ナリ世ハ卅ニテ世ニハ非ス同ク背銘ノ中ニ世間又即世モテリ二世ノ字ト別ナリ崇峻帝ノ辛亥ヲ法興ノ元年トシ此ノ辛巳ヲ卅一年トスルコト論ナシ推古帝ノ丙辰ヲ法興六年トシ道後湯ニ記セルヲモ可合考、忠友云　元卅一ノ文字ハ衍文トモ云フヘシ

推古 三〇 壬午 （一二八二） （六二二）

大和中宮寺天壽國曼陀羅繡帳銘 斑鳩宮尼寺所傳 〔增〕大和生駒郡法隆寺村 明治二十年十二月國寶指定

斯歸斯麻 宮治天下 天皇名阿 米久尒意 斯波留支 比里尒波
乃彌已等 娶巷奇大 臣名伊奈 米足尼女 名吉多斯 比彌乃彌
己等爲大 后生名多 至波奈箄 巳比乃彌 己等妹名 等己彌居
加斯支移 比彌乃彌 巳等復娶 大后弟名 乎阿尼乃 彌己等爲
后生名孔 部間人公 主斯歸斯 麻天皇之 子名蕤奈 久羅乃布
等多麻斯 支乃彌己 等娶庶妹 名等已彌 居加斯支 移比彌乃
彌巳等爲 大后坐乎 沙多宮治 天下生名 尾治王多 至波奈等
己比乃彌 巳等娶庶 妹名孔部 間人公主 爲大后坐 濱邊宮治
天下生名 等巳刀彌 彌乃彌己 等娶尾治 大王之女 名多至波
奈大女郎 爲 后 歲 辛巳十二 月廿日癸 酉日入孔 部間人母
王崩明年 二月廿二 日甲戌夜 半太子崩 于時多至 波奈大女
郎悲哀嘆 息白畏天 皇前曰啓 之雖恐懷 心難止使 我大王與
母王如斯 從遊痛酷 旡比我大 王所告世 間虛假唯 佛是眞玩
味其法謂 我大王應 生於天壽 國之中而 彼國之形 眼所叵看
悕因圖像 欲觀大王 往生之狀 天皇聞之 悽然告曰 有一我子
所啓誠以 爲然勅諸 采女等造 繡帷二張 畫者東漢 末賢高麗
加西溢又 漢奴加己 利令者椋 部秦久麻

法隆寺座釋迦銅像後光銘

〔朱〕追考三香筆記云佛背銘也非光後
○歷代弘賢記云後光ノウラニ龍文彫アリ
〔增〕大和國生駒郡法隆寺村法隆寺藏　明治三十年十二月國寶指定

法興元世一年歲次辛巳十二月鬼前大后崩明年正月皇廿二日上宮法枕病弗念干食王后仍以勞疾並着於床前王后皇子等及諸臣深懷愁毒共相發願仰依三寶當造釋像尺寸王身蒙此願力轉病延壽安住世間若是定業以背世者往登淨土早昇妙果二月廿一日癸酉王后即世翌日法皇登遐癸未年三月中如願敬造釋迦尊像並俠侍及莊嚴具竟乘斯微福信道知識現在安隱出生入死隨奉三主紹隆三寶遂共彼岸普遍六道法界含識得脫苦緣同趣菩提使馬鞍首止利佛師造十四行

〔朱〕法王帝說釋云今依銘文應言壬午年正月廿二日聖枕病也即同時膳大刀自得勞也大刀自者二月廿一日卒也聖王廿二日薨也是以明知膳夫人先日卒也聖王後日薨也則證歌曰伊賀留我乃止美能井乃美豆伊加奈久爾多義氏麻之母之止美乃井乃美豆是歌者膳夫人臥病而爲臨沒時乞水然聖王不許遂夫人卒也聖王誄而詠是歌即其證也

○弘賢記鬼前太后ハ太子ノ御母穴穗部間人皇女ナリ法王トハ太子ヲサス也王后トハ太子妃膳氏ナリ推古紀ニハ廿九年春三月己丑朔巳太子薨平氏傳ニハ春二月太子ト妃ト同日ニ薨玉フトシルス是トハ年モ違ヒ事モタカヒタリ

推古 三二 甲申 一二八四（六二四）	三三 乙酉 一二八五（六二五）	三四 丙戌 一二八六（六二六）	三五 丁亥 一二八七（六二七）

三六	戊子	一二八八	（六二八）

大和法隆寺立像釋迦光背銘　〔增〕大和國生駒郡法隆寺村法隆寺藏、明治三十五年四月國寶指定

戊子年十二月十五日朝風父將其零濟師慧燈爲嗽加大臣誓願敬造釋迦佛像元以此

願力七世四恩六道四生俱成正覺

〔朱〕信充云五十九字ヲ四行ニ鐫タリ嗽加大臣ハ蘇我馬子大臣ヲ云歟、馬子ハ推古帝ノ三十四年五月廿日丁未ニ薨セシヨシ書紀ニ見ユ　〔朱〕追考三香筆記云非光後之銘佛背ノ銘也　〔增〕古京遺文父作文

舒明 元 己丑 一二八九（六二九）	二 庚寅 一二九〇（六三〇）	三 辛卯 一二九一（六三一）	四 壬辰 一二九二（六三二）

五 癸巳 二二九三（六三三）	六 甲午 二二九四（六三四）	七 乙未 二二九五（六三五）	八 丙申 二二九六（六三六）

舒明 九 丁酉 一二九七 (六三七)	一〇 戊戌 一二九八 (六三八)	一一 己亥 一二九九 (六三九)	一二 庚子 一三〇〇 (六四〇)

一三 辛丑 一三〇一 （六四一）	皇極 元 壬寅 一三〇二 （六四二）	二 癸卯 一三〇三 （六四三）	三 甲辰 一三〇四 （六四四）

孝德
大化元
乙巳
一三〇五
（六四五）

二
丙午
一三〇六
（六四六）

宇治橋碑銘　山城國宇治郡宇治村常光寺

浼浼橫流　其疾如箭　修々征人　倚騎成市　欲赴重深　人馬亡命
從古至今　莫知杭葦　世有釋子　名曰道登　（出自山尻）（惠滿之家）
大化二年　丙午之歲　搆立此橋　濟度人畜　即因微善　爰發大願
結因此橋　成果彼岸　法界衆生　普同此願　夢裡空中　導其苦緣

〔朱〕宇治河上常光寺ニ斷碑アリテ僅ニ浼々橫流其疾如箭修□世有釋子名曰道登□出　即因微善　爰發大願　結□ト云二十餘字ヲ存スト云、昔日穗井田忠友ニ此銘ノ事ヲ問ニ銘文ニ長短ノ異同アルコト道登ヲ國史ニハ道昭ニ作レルコト其道登ハ日本靈異記ニ出タルコト今昔物語ニ載ル處ハ其誤甚シキモノナル事ヲ語レリ銘文近クハ山城名跡志、山城名勝志ニ出ツ

○元亨釋書　釋道昭世姓船氏內州丹北郡人也居元興寺有戒行譽白雉四年癸丑五月奉勅從遣唐使小山長丹浮海緇侶同志者道嚴等一十有三人到長安謁三藏玄奘即高宗永徽四歲也云々山州宇治之大橋昭之創造也

〔朱〕日本靈異記高麗學生道登者元興寺自出山背惠滿之家而往大化二年丙午營宇治橋又曰故道昭法師者船氏河內國人也

擁書漫筆云　續日本紀道昭ガ傳ニ此橋ヲ造ルトシルサレテ道登ガ事ハ更ニ聞エザレバ元亨釋書本朝高僧傳等ノ書ニモ載セズイトイブカシキヲ此石文ノ折ナカラモカクツタハリテ道登ト云ル名ノアサヤカニノコリタルソ其功モ朽セテイトメデタシ屋代弘賢ノ道ノ幸附錄ノ說ヲ引證セリ

○濫觴抄　宇治橋孝德二年始造件北岸石銘曰世有釋氏名曰道登出自山尻惠滿之家大化二年丙午之歲構立此橋濟渡人畜云々

○塵囊抄云宇治橋ハ齊明天皇ノ御宇ニ元興寺ノ道昭法師始テ渡シケル也法相宗ノ人玄奘三藏ノ弟子也

○追考　帝王編年記卷九大化二年條　元興寺道登道昭奉勅始造宇治川橋石上銘

浼々横流　其疾如箭　憧々征人　停騎成市　欲赴重深　人馬忘命　從古至今
莫知船竿　世有釋子　名曰道登　出自山尻　惠滿之家　大化二年　丙午之歲
構立此橋　濟度人畜　即因微善　爰發大願　結因此橋　成果彼岸　法界衆生

〔增〕「出自山尻　惠滿之家」ノ八字帝王編年紀金石文考證ニヨリ補フ

孝德 大化 三 丁未 一三〇七 （六四七）	四 戊申 一三〇八 （六四八）	五 己酉 一三〇九 （六四九）
東國通鑑曰貞觀二一年新羅改元太和		
（一）	（二）	（三）

白雉元
庚戌
一三一〇
（六五〇）

大和法隆寺金堂二天像　刻字　〔増〕大和國生駒郡法隆寺村法隆寺藏
明治三十年十二月國寶指定

山口大口ノ費上（アタイトシテ）而次木閈二人作也　二行

藥師德保上而鐵師羽古二人作也　二行

〔朱〕栗原信充曰　先輩審定シテ山口ノ大口ハ書紀白雉元年ノ條ニ是歲漢ノ山口ノ直大口奉詔刻千佛像トアレバ此ニ天像モ白雉元年ノ作ナルヘシト云リ

〔朱〕松崎慊堂云　係孝德帝白雉元年

私云　貞朝目錄ニ藥師德保云々ノ十四字ヲ初ニ置キ山口大口云々ノ十四字ヲ以テ後トス

〔朱〕追考三香筆記云　四天也光背ニ非ス光熖ノ銘ト云フヘシ

孝德 白雉 二 辛亥 一三一一（六五一）	三 壬子 一三一二（六五二）
	大和法隆寺所傳古鐘銘 栗原手錄載 永徽三年八月二日 〔朱〕忠友云此事實否ヲボツカナシ恐ラクハ傳聞ノ誤歟
（五）	（六）

癸丑 一三一三 （六五三）	四

越前常宮所傳古鐘　銘文　〔增〕越前國敦賀郡松原村常宮神社藏　明治三十三年四月國寶指定

太和七年三月日菁州蓮池寺鐘成内節傳合入金七百十三廷古金四百九十八廷加入金百十廷、成典和上惠門法師、緣紆□慧法師上坐則忠法師、都乃法昧法師、鄉村主三長及手、朱雀飫系、作報舍　寶淸軍師、龍碎軍師史六三忠舍知行道舍知成博士　安海哀大舍　哀忍大舍節州坑　皇龍寺、覺明和上

（朱）大鄉信齋古志口號ニ云　豐太閤朝鮮征伐ノ時常宮ニ祈願ノコトアリ凱陣ノ後慶長二年二月廿九日大谷刑部少輔吉隆ニ命シテ彼地ヨリ獲タル洪鐘一口ヲ寄附シ玉フ云々　高サ龍頭ヨリ三尺八寸、圓周六尺九寸五分

（朱）忠友曰　太和七年ノ事淸人六如承ガ紀元通考ニ朝鮮史畧ヲ引テ大和ヲ新羅國王貞德女王勝曼カ年號ト定メ候此ノ說ヲ正トスレハ貞觀十九年ニ當リ候ニヤ

（增）一說ニ唐文宗ノ太和七年（我淳和天皇天長十年）トス實測ニヨレハ龍頭高七寸五分、高サ龍頭下迄二尺九寸二分　口徑二尺一寸五分

（七）

孝德 白雉五 甲寅 一三一四 (六五四)	齊明 元 乙卯 一三一五 (六五五)	二 丙辰 一三一六 (六五六)	三 丁巳 一三一七 (六五七)

四 戊午 一三一八（六五八）	（增）河內觀心寺觀世音菩薩造像記 河內國南河內郡川上村觀心寺藏 明治三十年十二月國寶指定 戊午年十二月爲命過治伊之沙古而其妻汙麻尾古敬造彌陀佛像以此功德願過往其 夫及以七世父母生生世世恒生淨土乃至法界衆生悉同此願（耳?）
五 己未 一三一九（六五九）	

齊明 六 庚申 一三二〇 （六六〇）	七 辛酉 一三二一 （六六一）	天智 元 壬戌 一三二二 （六六二）

二 癸亥 一三二三（六六三）	三 甲子 一三二四（六六四）	四 乙丑 一三二五（六六五）
[illegible]	[illegible]	[illegible]

天智 五

丙寅

一三二六

（六六六）

唐高宗
乾封元 乾封泉寶

（增）河内野中寺金銅彌勒菩薩造像銘 河内國南河内郡埴生村大字野々上野中寺

丙寅年四月大旧八日癸卯開記?橘寺智識之等?詣中宮天皇大御身勞坐之時誓願之奉彌勒御像也友?共?人數一百十八是依六道四生人等此殺?可相之也

〔註一〕木崎愛吉氏ハ此像ノ樣式ヲ以テ「丙寅年正月生十八日」ノ記年アリテ推古天皇十四年或ハ天智天皇五年ト稱スル法隆寺傳來御物二臂如意輪觀音像ノ樣式ト相吻合シ、殊ニ三正綜覽ニヨルニ丙寅ノ年ニシテ四月ノ大ニ當リテ八日ノ癸卯ナルハ天智天皇五年ナリトテ此像ヲ天智天皇五年トナス、今假ニ此年ニ挿入セリナホ又橘寺ヲ鵤寺トナスノ說アリ

〔註二〕此ノ像ニ關シテハ考古學雜誌第八卷第十二號木崎愛吉氏「野中寺ノ金銅彌勒菩薩」及ヒ同誌第九卷第二號喜田貞吉氏「河内野中寺金銅佛造像記ノ中宮天皇ニ就テ」同誌九ノ五ノ七〇ノ「野中寺金銅佛造像記の中宮天皇に就きて」京都美術畵報第二號富岡謙藏氏「野中寺金銅彌勒像に就きて」參照

六	丁卯	一三二七	（六六七）

近江滋賀宮殿屋瓦 〔朱〕藤貞幹云滋賀宮ノ屋瓦至テ得難シ世上ニ滋賀宮ノ瓦トシテ賞スルハ皆滋賀寺ノ瓦ナリ余滋賀花頭瓦研アリ密緻堅實石ニ減セス

七	戊辰	一三二八	（六六八）

河内船氏墓誌 銅牌面背鐫之、古市村西琳寺藏〔朱〕私云此訓點天明五年四月藤貞幹所考定

〔増〕今東京男爵三井源右衛門氏藏、長九寸七分、濶二寸二分厚一分

（面）惟船氏故王後首者是船氏中祖王智仁首兒那沛故首之子也生於乎娑陁宮治天下天皇之世奉仕於等由羅宮治天下天皇之朝至於阿須迦宮治天下天皇之朝天皇照見知某寸異仕有功勳勅賜官位大仁品爲第

（背）三殞亡於阿須迦天皇之末歳次辛丑十二月三日庚寅故戊辰年十二月殯葬於松岳山上共婦安理能刀自同墓其大兄刀羅古首之墓並作墓也即爲安保万代之靈基牢固永劫之寶地也

〔増〕墓誌を發掘せる古墳に關しては歷史地理第十九卷第六號梅原末治氏「河内國分山船氏の墳墓」參照

天智 八 己巳 一三二九 (六六九)	九 庚午 一三三〇 (六七〇)	一〇 辛未 一三三一 (六七一)

年	干支	皇紀	事項
天武 白鳳元	壬申	一三三二（六七二）	〔朱〕逸號年表云按良醞令年中行事及愚管抄以白鳳元年爲天武帝元年壬申疑鳳下脫雉字 追錄三香筆記云忠友說ニ云白鳳ハ壬申ノ年ニ非ス毛人墓誌ヲ白鳳五年ニ係ルコト甚論ノアルコトナリ白鳳考ニ詳カ也ト云ヘリ
二	癸酉	一三三三（六七三）	近江伊香郡大音村明神鐘銘 白鳳二年
三	甲戌	一三三四（六七四）	

天武
白鳳四
乙亥
一三三五
（六七五）

五
丙子
一三三六
（六七六）

上總望陀郡川谷村持明院藏王權現石像刻字

山城小野毛人墓誌 墓在山城高野川北山上一町許銅牌面背鐫

飛鳥淨御原宮治天下天皇御朝任太政官兼刑部大卿位大錦上

小野毛人朝臣之墓 營造歲次丁丑年十二月上旬即葬

盍簪錄云發塚之後邑里涼落意其爲崇復封予舊處又云牌署大錦上而史云小錦中此爲不合云云想碑系當時實錄史即自後裒集則要當從碑爲正

亡友忠友云大錦上ハ是贈位ヲ刻スル也文爾麻呂モ從四位ニテ卒セラレシ由續紀ニ出タリ墓誌ハ正四位上トアリ是正シク贈位タルコト續紀弔賻ノ文ニテ明白ナリ毛人モ同例ナルベシ小野毛野卒條下ニ其父毛人ヲ小錦中トアルハ在世補任ノ文ノママニテ贈位ヲ以テ記スベキヲ失シタルナルベシ又毛人ヲエミシトヨムノ說アリ其子ノ毛野ヲバイカガスベキヤ

〔增〕山城國愛宕郡修學院村崇道神社藏、墓誌形ヲ⌂トナスハ非也、金銅長方形版、長一尺九寸四分、幅一寸九分、厚約一分慶長十八年十一月二十四日 山城國愛宕郡高野村ニテ發掘セラレ暫ク同地ノ觀音堂、德雲軒等ニ安置ス、延寶元年十一月再ビ壙內ニ保藏セントシテ果タサズ、元祿十年始メテ收ムルコトヲ得タリ其後明治二十八年三月八日盜掘ニヨリ再ビ世ニ出デ大正三年八月國寶指定（考古學雜誌第七卷第八號四七四梅原末治氏「小野毛人の墳墓と其墓誌」參照）

天武 白鳳 七	戊寅	一三三八	（六七八）	
八	己卯	一三三九	（六七九）	
九	庚辰	一三四〇	（六八〇）	武藏珠玉山寶藏寺阿彌陀　背銘　寺傳云善導作也未知其詳 永隆元年十一月十七日彫刻
一〇	辛巳	一三四一	（六八一）	

年	事項
一一 壬午 一三四二（六八二）	攝津吳田吉田某藏古瓦 集古十種 白鳳十一年午壬正月 （朱）私案此古瓦恐贋造 太政官二品新田部親 左大巨土ノ[illegible]来
一二 癸未 一三四三（六八三）	
一三 甲申 一三四四（六八四）	
一四 乙酉 一三四五（六八五）	

天武 朱鳥（元） 丙戌 一三四六（六八六）

（增）長谷寺銅版法華說相圖銘 大和國磯城郡初瀨町長谷寺藏竪三尺濶二尺六寸 明治三十二年八月國寶指定

惟夫靈佛□□□□□□□□
立稱已乖□□□□□□□□
眞身然大聖□□□□□□□
不圖形表刹福□□□□□□
日夕功畢慈氏□□□□□□
佛說若人起㆓窣堵婆㆒□□□□
阿摩洛菓以佛馱都□□□□
安置其中樹以表刹□□□□
上安相輪如小乘葉或造佛像
下如穬麦此福無量粤以奉爲
天皇陛下敬造千佛多寶佛塔
上厝舍利仲擬全身下儀竝坐
諸佛方位菩薩圍繞聲聞獨覺
翼聖金剛師子振威伏惟聖帝
超金輪阿逸多眞俗雙流化度
无央庶冀永保聖蹟欲令不朽

天地等固法界无窮莫若崇據
靈峯星漢洞照恒祕瑞巘金石
相堅敬銘其辭曰
遙哉上覺至矣大仙理歸絕妙
事通感緣釋天眞佛降茲豊山
鷲峯寛塔涌此心泉負錫來遊
調琴練行披林晏坐寧枕熟定
乘斯勝善同歸實相壹投賢劫
倶値千聖歲次降婁漆菟上旬
道明率引捌拾許人奉爲飛鳥
淨御原大宮治天下天皇敬造

（註）銘文中ノ「歲次降婁」ヲ天武天皇即位二年甲戌トシ或ハ朱鳥元年丙戌トス今假リニ續古京遺文ノ說ニ從ヒ此ニ載ス

持統元（朱鳥二）丁亥 一三四七（六八七）	紀伊侯所傳琵琶　集古十種云　元刀田山鶴林寺什嵯峨帝御寄附　腹板之裏面　白鳳丁康ノ四字及在田坊等ノ文字アリ
二（朱鳥三）戊子 一三四八（六八八）	鬼室集斯墓　〔朱〕三香筆記云近江日野近邑宮津領所出　鬼室ハ朝鮮人ノ姓アリ 朱鳥三年戊子十一月八日殞 鬼室集斯墓 庶孫美成造

三

朱鳥（四）

己丑

一三四九（六八九）

唐武后永昌元

河内形浦山竹良卿墓碑　春日村妙見寺〔增〕今河內國南河内郡山田村（碑石亡）

飛鳥浄原大朝廷大弁官直大貳采女女竹良卿所請造墓所形浦山地四十代他人莫上敬木犯穢機傍也

己丑年十二月廿五日

〔朱〕亡友云竹良ノ名義和名抄魚名鰢都久良是歟竹或作トスルハ蛇足ナリ

四

庚寅

一三五〇（六九〇）

持統　五　辛卯　一三五一　（六九一）

六　壬辰　一三五二　（六九二）

（增）出雲鰐淵寺觀音菩薩造像記　像高二尺六寸四分、銘ハ八角臺座ノ上緣ニアリ、出雲國簸川郡鰐淵村　鰐淵寺藏　明治三十五年七月國寶指定

壬辰年五月出雲國若倭部臣德太里爲父母奉作菩薩

七　癸巳　一三五三　（六九三）

八

甲午

一三五四

（六九四）

（增）大和法隆寺觀音菩薩造像記　大和國生駒郡法隆寺村法隆寺藏
明治四十二年四月國寶指定

（表）甲午年三月十八日鵤大寺德聡法師片罡王寺令弁法師飛鳥寺弁聰法師三僧所生父母報恩敬奉觀世音菩薩像依此小善根令得无生法忍乃至六道四生衆生倶成正覺

（裏）族大原博士百濟在王此土王姓

長七寸五分廣一寸六分、表面三行、第一行二十三字、第二行二十二字、第三行二十四字、裏面一行十三字

大和法隆寺藏七卷法華經跋（增）御物

長壽三年甲午六月一日雍州長安李元惠於楊州敬寫此經

持統 九
乙未
一三五五
（六九五）

一〇
丙申
一三五六
（六九六）

文武 元
丁酉
一三五七
（六九七）

二	戊戌	一三五八	（六九八）

山城淨金剛院鐘　此鐘今在于妙心寺

戊戌年四月十三日壬寅收糟 一作精非也 屋評造舂米連廣國鑄鍾

妙心寺庫院之西樓上所挂鐘腹有斯欣識余躬登樓上響搨而得之唯收字評漫漶難辨餘皆易觀古老傳道曾屬世騷亂有壯夫數人擔此鐘来粥五千錢而去盖綠林豪客也天正慶長之間耶後有知音謂是法金剛院之鐘吉田兼好法師所謂黄渉調者是也（貞享三年四月沙門師點誌）

（朱）和漢三才圖繪云法金剛院在双岡南太秦戒律眞言淨土兼學私案同書ニ仁明天皇天安二年建立號天安寺右大臣清原夏野之山荘ト記ス 天安二年ノ後二十二年ハ元慶二年戊戌ナリ或ハ其時ノ干支ナル歟後考スベシ

（朱）集古十種云妙心寺鐘銘戊戌文武天皇二年兼好所謂淨金剛院鐘者卽是也

○三香筆記云糟屋筑前國郡名鐘銘集作精屋誤也又曰評造猶言郡領古時郡縣用評字大神宮儀式帳云難波朝廷天下評時續紀天平寶字八年紀載（下略）郡司亦稱評督領舂米連左京神別神饒速日命之後見姓氏錄廣國書傳無載鍾卽鐘字古書通用

○都林泉名所圖會云寺說ニ云此鐘ハ嵯峨淨金剛院ノ鐘也 此寺久シク荒廢シテ鐘モ民間ノ手ニアリアル時妙心寺ノ前ヲ擔フテ京師ニ出ル者アリ 開山國師是ヲ見 咎メテ云ク其鐘ハ何レヨリ何レヘ 持行ソヤ 鐘主ノ云クワレラハ嵯峨淨金剛院ノ古跡ニ栖ム農人也 此鐘村中ニ久ク持傳シカ今日京師ニ出シ農具鋤鍬ノ類ニ交易セン爲持行也國師悅テ幸ニ此寺ニイマタ鳧鐘ナシ 我ニ讓リ與ヘヨト賴玉ヘハ農人悅テ鳥目壹貫文ニ賣テ嵯峨ヘ歸ルソレヨリ國師嵯峨ニ到リ淨金剛院ノ鐘ナルヿヲ糺シココニ掲ル也

○易得子云以長曆推之四月十三日壬寅正合收謂取而收也　○此鐘モト樂鐘也樂人音律ヲ熟考スルニ妙音古今ノ名鐘也ト云　銘文一行廿二字高一尺三寸八分　○北窓瑣談淨金剛院ノ鐘今洛西妙心寺

文武 二

ニ在ト聞テ尋シニ此ノ鐘チ撞時ハ凶變アリトテ土藏中ニ納シニ近來卓見ノ僧出テ取出シテ撞キタル
ニ折フシ凶事アリケレハ一山恐レテ又土藏ニ深ク秘セリト聞ク其處實チ不知

〔增〕龍頭八寸五分、龍頭下迄高四尺八寸、口徑二尺八寸四分、山城國葛野郡花園村妙心寺藏、明治三十五
年七月國寶指定

奈良藥師寺東塔露盤銘

〔增〕大和國生駒郡都跡村西ノ京藥師寺藏
明治三十七年二月國寶指定

維淸原宮馭宇　天皇即位八年庚辰之歲建子之月以中宮不悆創此伽藍而鋪金遂龍
駕騰仙大上天皇奉遵前緒遂成斯業照先皇之弘誓光後帝之玄功道濟郡生業傳曠劫
式於高躅敢勒貞金其銘曰
巍巍蕩蕩藥師如來大發誓願廣運慈哀猗歟聖王仰色冥助爰餝靈宇莊嚴調御亭亭寶
剎寂寂法城福崇億劫慶溢萬齡

〔朱〕貞幹小錄云寺傳テ舍人親王撰並書ト云按日本紀壬申年チ以天武天皇即位ノ元年トス此銘即位八年庚
辰歲ト云ルハ癸酉ノ年チ天武天皇ノ即位ノ元年トシ壬申ノ年チ皇子大友ニ係テ紀ノ壬申ノ年チ天武
天皇即位ノ元年トスルモノト合ザレハ親王ノ撰ニ非ルヿ可知

○屋代弘賢云銘文ハ心ノ柱ノ東ノ方ニヨリテアリ塔ノ心ノ柱チハ擦ト云ヨシ順朝臣ノ和名抄ニ見エタレ
ハ擦ノ銘ト云ヘキ也世人ノ露盤ノ銘ト云ハ誤リ也

〔貼〕追錄露盤銘係年ノ事三香筆記ニ白凰八年ノ條ニ可係ト云ヘリ是銘文ニ天皇即位八年庚辰之歲トアルチ
證トスル歟蓋シ是ハ其權輿チ云ルニテ露盤ノ成就ハ其後ニアルヘキヿ其證ハ照先皇之弘誓光後帝之玄
功ト書ルニテ可知タヽシ露盤成就ノ年月實ハ今年トモ難知ニヨリテ姑ク此ノ條ニ係ル處ナリ的實ノ考據
チ得テ可改モノ也

〔増〕此銘ノ年代ニ異說多々アリテ決セズ諸書ニ文武天皇ノ御宇トナス今假リニ原本ニ從ヒ此條ニ收メヌ

三 己亥 一三五九 （六九九）	

文武 四 庚子 一三六〇（七〇〇）

下野那須國造碑

〔增〕下野國那須郡湯津上村笠石神社藏 明治四十四年八月國寳指定

朱鳥四年己丑四月飛鳥淨御原大宮那須國造追大壹那須宜事（一本直韋提評督）提評督被賜歲次庚子年正月二壬子日辰節物故意斯麻呂等立碑銘偲云爾仰惟殞公廣氏尊胤國家棟梁一世之中重被貳照一命之期連見再甦碎骨視（視古京遺文作飛）髓豈報前恩是以曾子之家无有嬌子仲尼之門无有罵者者行孝之子不改其語銘夏堯心澄神照乾六月童子意香助神作徒大（一本作夫或六）合言喩字故無長飛无根更固

〔朱〕碑文ノ朱鳥四年己丑ヲ一說ニ永昌元年ナリトシ則天武氏ノ年號ヲ用ルモノト定ムルハ源君美ナリ今ハ貞幹好古小錄ニ朱鳥四年ト定メシニ從フ

年	干支	紀元	西暦	事項
大寶元	辛丑	一三六一	（七〇一）	
二	壬寅	一三六二	（七〇二）	
三	癸卯	一三六三	（七〇三）	勅書殘闕文 廿□到奉行 大寶三年七月二十日 天皇御璽
慶雲元	甲辰	一三六四	（七〇四）	

文武

慶雲

二

乙巳

一三六五

七〇五

大和龍田社所傳古升 三香筆錄國朝最初之升云

黃器盃一鈞升百分一　慶雲二乙巳年

〔增〕山城宇治宿禰墓誌　東京帝室博物館藏

前誓願物部神

八繼孫宇治宿禰

大平子孫安坐

雲二年十二月

墓誌ハ銅薄板製現存部長三寸〇五厘、幅一寸八分五厘ニシテ鍍金ヲ施セリ、

大正六年一月十一日山城國乙訓郡大枝村大字塚原小字宮田第四十二番地ノ地下約五尺ノ地點ニテ花崗岩製石櫃（身ノ上面縱一尺三寸二分横一尺二寸、中央ニ骨壺ヲ納メタル徑六寸六分、深三寸一分、蓋縱一尺五寸横一尺四寸高四寸餘ニシテ蓋裏ニ徑四寸七分、深八分ノ穴アルモノ）銅製骨壺（高二寸二分五厘內徑三寸七分深二寸餘）ト共ニ發掘、ソノ銘文ハ缺失シテ全文ヲ知ル可カラズ、蓋シ我カ元號ニ「雲」字ヲ有スルモノ二アリ一ハ文武天皇慶雲ニシテ一ハ稱德天皇ノ神護景雲ナリ、誌ニ見ユル雲二年ハ何レノ紀年ナルカヲ知ラス、今假リニ藝文第八年第四號（大正六年四月號）ニ登載セラレタル「山城に於ける宇治宿禰の墳墓と其の墓誌」ト題スル梅原末治氏ノ說ニ據リ收錄シ後考ヲ俟ツ

三

丙午 一三六六 (七〇六)

〔增〕大和法起寺三重塔露盤銘 大和國生駒郡法隆寺村今亡 (顯眞自筆本古今目錄抄所載)

上宮太子聖德皇壬午年二月廿二日臨崩之時於山代兄王勅御願旨此山本宮殿宇卽處專爲作寺及大倭國田十二町近江國田卅町至于戊戌年福亮僧正聖德御分敬造彌勒像一軀搆立金堂至于乙酉年惠施僧正將竟御願搆立堂塔丙午年三月露盤營作

〔註〕法隆寺傳來御物古寫本古今目錄抄云永保元年辛巳二月七日岡本寺ニ官使下塔露盤銘文書取京上云々ト蓋此頃ヨリ世ニ知ラレタル歟

良訓補忘集ニ「壬午」「乙酉」「丙午」ノ下ニ「之」字、「搆立堂塔」ノ下ニ而ノ字ヲ加ヘタルハ誤寫歟、又大和志料ニ太子傳抄ヲ引用シテ卅町ノ下ニ寄附爲ノ三字アリ蓋衍文歟

文武
慶雲　四
丁未
一三六七
（七〇七）

小納言威奈卿墓誌　明和年中大和葛下郡從穴蟲山所出

小納言正五位下威奈卿墓誌銘井序

卿諱大村檜前五百野宮御宇天皇四世後岡本聖朝紫冠威奈鏡公之第三子也卿温良在性恭儉爲懷簡而廉隅柔而成立後清原聖朝初授務廣肆藤原聖朝小納言闕於是高門貴冑各望備員天皇特擢卿除小納言授勤廣肆居無幾進位眞廣肆以大寶元年律令初定更授從五位下仍兼侍從卿對揚宸展參贊絲綸之密朝夕帷幄深陳獻替之規四年正月進爵從五位上慶雲二（原本作三誤也）年命兼太政官左小辨越後北疆衝接蝦虜柔懷鎭撫允屬其人同歳十一月十六日命疆卿除越後城司四年二月進爵正五位下卿臨之以德澤扇之以仁風化洽刑清令行禁止所冀享茲景祐錫以長齡豈謂一朝遽成千古以慶雲四年歳在丁未四月廿四日寢疾終於城時年卌六粤以其年冬十一月乙未朔廿一日乙卯歸葬於大倭國葛木下郡山君里狛弁山崗天漢疏派若木分枝標英啓哲載德形儀惟卿降誕餘慶在斯吐納參贊啓沃陳規位由道進榮以禮隨製錦蕃維令望攸屬鳴弦露冤安民靜俗憬服來蘇遙荒企足輔仁無驗連城析玉空對泉門長悲風燭

〔朱〕好古小錄曰盛骨銅器蓋上所鐫銅器圓徑八寸　〔増〕志ハ銅製鍍金ノ壺（梅原末治氏曰胴徑七寸八分高糸底共八寸）ニ記サル、大阪市南區天王寺元町四天王寺藏、明治四十二年國寶指定

文忌寸禰麻呂墓誌　天保二年秋大和宇陀郡八瀧村（今内牧村ノ大字）（笠松）土中所出、銅板長八寸五分

〔增〕東京帝室博物館藏

壬申年將軍左衛士府督正四位上文禰麻
呂忌寸慶雲四年歲次丁未九月廿一日卒

〔朱〕忠友曰續紀坊本作彌麻呂其誤炳焉卒去爲卒去十月戊子推干支則實廿四日恐是奏聞之月日也　墓誌豈謬哉

〔增〕墓誌、長八寸六分、幅一寸四分五厘厚サ八厘ノ銅板ニシテ、身ノ長九寸四分五厘幅一寸八分深一寸二分厚二分餘、內被蓋（縱橫身ト同ジ）總高一寸五分、銅製函ニ納メラレ、天保二年九月二十九日、硝子製骨壺（總高五寸五分身ノ口徑二寸高五寸、蓋高九寸徑二寸二分）及ビ金銅製骨壺容器（總高九寸餘）ト共ニ發掘

元明 和銅元 戊申 一三六八 （七〇八）

和同開珎

〔朱〕泉譜序云按春秋外傳周語云財用不乏民以和同謂由其語而制此文亦可矣

貞幹小錄云同ハ銅字ノ省文銅錢ノ故ニ金ヲ省クト云說據アリノ西土古鏡ノ銘ニ鏡ヲ竟ニ作リ鑑ヲ監ニ作ル者アリ

下道國勝夫人盛骨鐵器　備中國小田郡三谷村國勝寺藏
大正六年四月國寶指定

〔增〕下道圀勝朝臣右二人母夫人之骨藏器故知後人明不可移破和銅元年歲次戊申十一月廿七日乙酉成

〔朱〕本朝博古圖所載蓋シ其ノ鐵器地藏院ニ收ム領主伊藤侯地藏院ヲ改メテ國勝寺ト號ス國勝ハ吉備公ノ父君ナリ

〔朱〕又一書ニ所載アリ並擧テ參考ニ備フ

〔朱〕小田郡東三成村ニ下坂（テリサカ）ト云フ地アリ元祿十年二月十一日賤民地ヲ穿テ甌ヲ得タリ白骨幷ニ銅佛ト錢六枚ヲ得タリ領主板倉侯是ヲ叡聞ニ達シ享保元年光圀靈神ノ號ヲ賜フ骨器ノ蓋ノ文字破字ノ上ニ在處ノ一字土ヲ穿ツ鋤ニ中リテ摸滅スト記セリ

〔增〕銘ハ身高五寸一分口徑六寸九分、原二分蓋被蓋徑七寸八分厚一分七厘外側面高一寸九分上部中央ニ高七分徑七分ノ山形鈕ヲ有セル銅製ノ骨藏器ノ蓋ノ外部ニ記サル、發掘ノ年月ハ元祿十年三月十一日ニアラスシテ元祿十二年十一月六日ナリトノ說アリ考古學雜誌第七卷第五號梅原末治氏「備中國小田郡ニ於ケル下道氏ノ墳墓」參照

〔増〕同墓誌斷片　同上

左衛士府……夫人丁上

〔註〕誌ハ明治初年備中國小田郡三谷村字谷川内國勝等母夫人墳墓ノ稍北方ヨリ發見シタルモノニシテ長五寸二分幅三寸六分厚一寸ノ赤褐色ノ磚ナリ

二

己酉　一三六九（七〇九）

攝津吳田吉田某藏古瓦　集古十種

〔朱〕私按白鳳十一年ノ古瓦和銅二年ノ古瓦トモニ多胡郡ノ碑ヲ祖トシテ僞造スル處歟

和銅二年正月廿

太政官二品穗積親王

奉行左大臣正二位石上尊

元明　和銅　三　庚戌　一三七〇（七一〇）

因幡伊福吉部德足墓誌　安永三年夏因幡鳥羽巽府中所出銅器圓徑九寸
〔朱〕本朝博古圖云法美郡於无量光寺山内

因幡國法美郡伊福吉部德足比賣臣藤原大宮行宇大行天皇御世慶雲四年歲次丁未春二月二十五日從七位下被賜仕奉矣和銅元年歲次戊申秋七月一日卒也三年庚戌冬十月火葬殯此處故末代君（原本作吾非也）等不應崩壞上件如前故謹錄錍

和銅三年十一月十三日己未

〔朱〕貞幹云錍字可疑字書云錍鈭錍也

〔增〕誌ハ圓徑八寸ノ銅製合子ノ蓋ニ鐫ケラレタルモノニシテ安永三年六月二十四日發掘スル所（今東京男爵益田孝氏藏）

四	辛亥	一三七一	（七一一）

上野多胡郡碑　〔増〕碑石高四尺濶二尺八寸蓋方三尺、上野國多胡郡吉井町大字池村

弁官符上野國片岡郡緑野郡甘
良郡并三郡内三百戸郡成給羊
成多胡郡和銅四年三月九日甲寅
宣左中辨正五位下多治比眞人
太政官二品穗積親王左太臣正二
位石上尊右太臣正二位藤原尊

〔朱〕貞幹小錄云多胡郡池村ニ在リ按續日本紀云和銅四年三月辛亥割上野國甘良郡織裳韓級矢田大家緑野武美片岡郡山等六郷別置多胡郡此碑始テ多胡郡ニ置レシ時建タル碑也羊半ノ誤ナラム并テ三郡ノ内ノ三百戸ノ郡ト成シ給ヒ半ナ成ニ多胡郡ト讀テ其義通ズベシ

〔朱〕續紀慶雲二年九月詔二品穗積親王知太政官事

〔朱〕和銅元年三月右大臣正二位石上朝臣麻呂爲左大臣

〔朱〕和銅元年三月大納言正二位藤原朝臣不比等爲右大臣

〔増〕碑石質軟砂岩二枚ノ蓋石ハ後世ノ修補セルモノ歟

元明
和銅

五　壬子　一三七二（七一二）

海屋老人藏經卷跋文　平安庄村何某所摸贈

藤原宮寓　天皇慶雲四年六月十五日登遐三光慘然四海遏密長屋殿下地極天倫情深福報乃爲天皇敬寫大般若經六百卷因盡酸割之誠焉和銅五年歲次壬子十一月十五日庚辰竟

六　癸丑　一三七三（七一三）

七　甲寅　一三七四（七一四）

大和多武峯開定走慧碑銘（七）

入唐求法沙門定慧和銅七年六月廿五日春秋七十

元正	靈亀元	乙卯	一三七五	（七一五）

大和粟原寺塔露盤銘

今多武峯妙樂寺藏
（朱）忠友云オホハラト土俗ハ云ナリ

寺壹院四至　限東竹原谷東岑　限南大岑
　　　　　　限樫村谷西岑　限北忍坂川

此粟原寺者。仲臣朝臣大嶋。惶惶誓願。奉爲大倭國淨美原宮治天下天皇時。日並御宇東宮。敬造伽檻之爾故比賣朝臣額田。以甲午年始。至於和銅八年。合廿二年中。敬造伽檻。而作金堂。仍造釋迦丈六尊像。和銅八年四月敬以進上於三重寶塔七科鑪盤矣仰願藉此功德皇太子神靈速證无上菩提果。願七世先靈。共登彼岸。願大嶋大夫必得佛果。願及含識。俱成正覺。

○屋代弘賢記云此記文ヲ見レハ中臣大嶋カ天武天皇ノ皇子草壁王ノ奉爲ニ建立セシナリ和銅八年ハ皇子薨シ玉ヒテヨリ廿七年ニアタレリ記文ノ初ニ寺壹院四至東竹原谷東岑限南大岑限樫村谷西岑限北忍坂川」トエリテアルハ筆ノ跡モツタナクテ同シ時ノモノトハ見エズ

（增）青銅製鍍金、高一尺一寸五分、上徑一尺五寸五分、下徑二尺六寸五分、大和國磯城郡武峯村談山神社藏、明治三十五年四月國寶指定

元正 靈亀二 丙辰 一三七六（七一六）	
養老元 丁巳 一三七七（七一七）	近江新田村碑（朱）草津西南（朱）忠友云可疑 養老元年十月十日石村立超明僧

二 戊午 一三七八（七一八）	三 己未 一三七九（七一九）	四 庚申 一三八〇（七二〇）
山崎天王神殿 梁銘 〔朱〕忠友云可疑 養老二年再興 尾張眞清田大神宮鐵鳥居 銘云養老二年三月□藤原不比等 閑窓瑣談		

元正
養老五
辛酉
一三八一
（七二一）

元明帝陵碑　今在大和奈良坂村春日祠傍

大倭國添上郡平城之宮馭宇八洲太上天皇之陵是其所也
養老五年歲次辛酉冬十二月癸酉朔十三日乙酉葬

（朱）續紀養老五年十月丁亥太上天皇詔曰謚號稱其國其郡朝廷馭宇天皇流傳于後世庚寅太上天皇詔曰喪地者皆植常葉之樹即立刻字之碑

（朱）追考　好古日錄云東大寺要錄奈保山太上天皇陵碑文養老五年十二月馬瑙石鐫之碑高三尺許厚一尺許此碑今傳テ奈良坂ノ春日祠中ニ在練石ニシテ石ニ非ス新成ノ時白瑪瑙石ノ如ク光澤アリシニヤ

同帝奈保山御陵上隼人　好古小錄云一ハ立二ハ踞ス（附圖參照）

（朱）私云山陵志狗トシ狐トス獸ニシテ犢鼻褌ヲ着ケ沓ヲ穿ツ理アランヤ人ノ假面ヲ被レルヿ必セリ貞幹隼人ト定ムルヿ具眼ト云ヘシ

六 壬戌 一三八二（七二二）

七 癸亥 一三八三（七二三）

聖武 神亀元 甲子 一三八四（七二四）

法隆寺所傳黒漆琴　〔朱〕長三尺四寸八分

池中銘　開元十二歳在甲子五月五日於九隴縣造

〔朱〕栗原翁曰國史補云蜀中雷氏斲琴嘗自品第上者以玉次者以瑟々又次以金徽螺蚌ト云此琴徽ヲ見ルニ金ニ非ス螺蚌ニ非ス又玉ニ非ス恐クハ瑟々ナルヘシ

〔朱〕銘文十八字墨ヲ以テ二行ニ書ス其詳ナル事ハ雲琴圖說ニ出タリ

尾張眞清田社藏神弓　銘云　神□□年　柿本人麿　閑窻瑣談

聖武 神亀 二 乙丑 一三八五（七二五）

參河牟呂八幡宮藏古鉾 三香子手錄

銘曰 牟呂八幡宮神亀二年二月　日

三 丙寅 一三八六（七二六）

上野下賛郷碑 高崎山所出高二尺餘濶一尺七寸許（朱）貞幹小錄曰文義難通 〔增〕上野國多野郡八幡村字山名

上野國羣馬郡下賛郷高田里三家子□爲七世父母現在父母現在侍家刀自□□君□□刀自人兒□部刀自後物部君千足次馱刀自次□□刀自合六□又知識所結人三家氏人□次知万呂鍐師礒ア君□廡呂合原本作今誤據拓本合也三□如是知識結而天地（誓願）此二字原本脫今以拓本補之仕奉石文神亀三年丙寅二月廿九日

一三八七 （七二七） 丁卯 四

大和興福寺觀禪堂鐘　刻字銘（朱）忠友筆記

捷槌神器金懿仁風聲振鷲岳響暢龍宮奉爲四恩先靈聖躬遊神壽域晤言天衆釦輪息下折機淸空芥城伊竭弘誓無窮鑄銅四千斤白鑞二千六十斤神龜四年歲次丁卯十二月十一日鑄口主德因時

（增）聲振以下二千六十斤ニ至ル五十二字及ビ鑄以下五字金石私志、古京遺文ニヨリ補フ又鑄字ノ下口ハ石齋雜錄ニ施トアリ　香取秀氏曰　龍頭ノ高八寸八分、笠ノ徑二尺一寸、龍頭下マデノ高四尺七分口徑二尺九寸六分撞座ノ徑五寸五分撞座中心ノ高一尺四寸四分　奈良市登大路町興福寺藏、明治三十五年四月國寶指定

聖武	神龜 五	戊辰	一三八八 （七二八）

長王書大般若經殘欠　第五十三　跋文

神龜五年歲次戊辰五月十五日佛弟子長王至誠發願奉寫大般若經一部六百卷其經

乃行行列華文句句含深議讀誦者蠲耶去惡披閱者納福臻榮以此善業云云

〔朱〕石希聰曰日本史曰長王者天武帝第四子也引續日本紀曰長親王靈龜元季六月薨謹考跋文曰神龜五年長王

寫後于靈龜元王薨季實十又四年紀齟齬不知孰是

〔貼〕續紀天平元年二月辛未左京人從七位下漆部造君足无位中臣宮處連東人等告密稱左大臣正二位長屋王私

學左道欲傾國家其夜遣使固守三關云々壬申就長屋王宅窮問其罪癸酉令王自盡其室

私曰續紀ノ文此長屋王神龜五年ノ書アル事勿論ナリ石希聰ノ疑評却テ可疑　戊申七月十九日追錄

聖武	天平 元	己巳	一三八九 (七二九)

〔増〕小治田朝臣安萬侶墓誌　東京帝室博物館

左琴神亀六年二月九日

右京三條二坊従四位下小治田朝臣安

萬侶大倭國山邊郡都家郷郡里歳安墓

神亀六年歳次己巳二月九日

右書神亀六年二月九日

金銅製基志（中央）長九寸八分巾二寸五厘弱、厚一分三厘副志（左右二枚）中「左琴」ノ字アルモノ長五寸餘巾九分厚五厘、右書トアルモノ長五寸二分弱巾九分厚五厘、明治四十五年五月初旬大和國山邊郡都介村大字甲岡ニテ東京帝室博物館藏檜製木棺殘缺ト共ニ發掘（寫眞參照）

〔増〕正倉院白銅柄香爐箱銘

〔墨書〕神亀六年七月六日

聖武

天平 二

庚午

一三九〇

（七三〇）

河内駒谷五所明神神寶埴鏡二 〔朱〕集古十種

表 水月紋 背 釼形 經津神寶 以天香山之土造 天平二年三月朔

表 半月波紋 背 釼形 經津神寶 天平二年三月三日造

〔朱〕亡友忠友曰河内國駒谷村金剛輪寺及伽藍神等所藏毎品悉是明和安永已來寛政ニ至リテ最甚シク住僧覺峯ト云者ノ造意或ハ骨董ノ購得ニ出前白川侯欺カレ玉フモノ數條削去テ可也

〇私云河内名所圖繪ニ矢作連ノ三字アリ

〔增〕美努岡萬連墓誌 東京帝室博物館藏

我祖美努岡萬連飛鳥淨御原 天皇御世甲申年勅賜連姓藤原宮御宇大行 天皇御世大寶元年歲次辛丑五月使乎唐國平城宮治天下大行 天皇御世靈龜二年歲次丙辰正月五日授從五位下任主殿寮頭神龜五年歲次戊辰十月廿日卒春秋六十有七其人爲人小心事帝移孝爲忠忠簡帝心能秀臣下成功廣業照一代之高榮揚名顯親遺千歲之長跡令聞難盡餘慶無窮仍作斯文納置中墓天平二年歲次庚午十月廿日

〔註〕銅版縱九寸六分五厘横六寸九分厚八厘、明治五年十一月大和國生駒郡南生駒村大字萩原字龍王發掘
（寫眞參照）

三　辛未　一三九一（七三一）	
四　壬申　一三九二（七三二）	
五　癸酉　一三九三（七三三）	信濃釋尊寺開山塔銘 當山開基行基大菩薩 天平五癸酉天四月佛　碑石剝落
六　甲戌　一三九四（七三四）	

聖武 天平七 乙亥 一三九五（七三五）

八 丙子 一三九六（七三六）

〔增〕大和安井寺碑　亡

九 丁丑 一三九七（七三七）

大和榮山寺武智麻呂斷碑　〔朱〕忠友曰高一尺許四寸角許ノモノニテ天平九年ノ四大字アルノミ古作トハ云難シ

三香筆記云天平九年ノ四字ヲ存ス

一〇 戊寅 一三九八（七三八）

〔增〕大和長樂寺石碑　亡

大和志　添下郡古跡ノ條ニ「在南田原村寺前有碑　刻二天平十年二」トアルノミ

十一　己卯　一三九九（七三九）

大和楊貴氏墓誌　亨保年間（十三年）宇知郡大澤村（今牧野村）山崩テ所出今同村ノ蓮華寺ニ藏ス

〔增〕墓誌今亡好古小錄云長六寸八分濶九寸厚二寸

從五位上守右衛士督兼行中宮亮
下道朝臣眞備葬亡妣楊貴氏之墓
天平十一年八月十二日記
歲次己卯

〔朱〕忠友云墓誌ハ甎瓦ナリシト云其寺此誌ヲ藏スルニヨリテ文人墨客ノ來訪ヲ厭ヒフタタヒ土ニ埋ムト聞ケリ

十二　庚辰　一四〇〇（七四〇）

光明皇后御書

皇后藤原氏光明子奉爲　尊考贈正一位太政大臣府君尊妣贈從一位橘氏太夫人敬寫一切經論及律莊嚴既了伏願憑斯勝囙奉資冥助永庇菩提之（原本在虫損之形今以正倉院文書補之）樹長遊般若之津又願上奉　聖朝恒延福壽（朝以下四字以正倉院文書補之）下及寮采共忠節又（原本作文誤也）光明子自發（老以下以四字正倉院文書補之）誓言弘濟沈淪勤除煩障妙窮諸法早契菩提乃至傳燈無窮流布天下聞名持卷獲福消災切迷方會歸覺路天平十二年五月一日記

聖武　天平一三　辛巳　一四〇一（七四一）

上野山名村觀音堂碑　碑石在此山名村山上長三尺許年代不詳據干支今係今年　上野國多野郡八幡村大字山名

辛巳歲集月三日記

佐野三家定賜健守命孫黑賣（刀）以柘本補之　自此新川臣兒斯（多）以古京遺文金石私志拓本等補之珍足（君）

金石私志柘本補元　孫大兒臣娶三兒長利僧母爲記定文也放光寺僧

〔朱〕忠友曰貞幹小錄作伏野誤也

〔增〕（一）刀原本□トシ朱ニテ刀集古ト書シ（多）（君）モ亦□トシ（君）ニハ朱ニテ之集古ト書セリ

（二）好古小錄云碑石長三尺許濶一尺□寸許　（三）一說ニ天武十年辛巳トス

東大寺大佛蓮趺須彌山圖

同　古瓦額

招提寺鐘　銘　南都左京唐招提寺

〔增〕今亡失、一說ニ淳仁天皇天平寶字七年トナス

一四	壬午	一四〇二	（七四二）

大和法隆寺不滅貝韓櫃

〔朱〕栗原信充云上宮法王廣東蜀江ノ御被ヲ納置キタリシ法量ニ就テ考ルニ東院資財帳ニ韓櫃三合一長三尺
此韓櫃横モ長三尺廣二尺二寸此唐櫃モ二尺二寸右天平十四年歳次壬午二月十六日正三位橘夫人宅奉納賜者トアルニカナヘハ
此韓櫃ナル事論ナシ

同　經机　表沈水香　班竹縁　象牙足
〔增〕今御物、高一寸八分、竪一尺一寸八分横巾一尺四寸七分

〔朱〕同信充云東院資財帳ニ經櫃座ニ具一ハ班竹床子象牙爲足在蝸結褥右天平十四年歳次壬午二月十六日正
三位橘夫人宅奉納賜者ト見ユル此經机ナルヘシ

〔朱〕唐玄宗天寶元

聖武 天平 一五 癸未 一四〇三（七四三）	
一六 甲申 一四〇四（七四四）	
一七 乙酉 一四〇五（七四五）	對馬八幡社鐘　〔增〕國府八幡宮一ツニ和多都美神社ト云ヒ對馬國嚴原町大字中村鎭座ス、蓋シ此鐘亡失歟 天寶四載乙酉思仁大角于賜夫只山村旡盡寺鐘成教受内成記時願助在衆師僧村宅方一切壇越幷成在願首者一切衆生苦離樂得教受成在節雀乃秋長幢主 〔朱〕貞幹日錄曰大角于新羅低階ノ名ナレハ其國所鑄ノ鐘ナル事可知〔朱〕傾一本作顚壇一本作檀 追考摸刻ノモノチ視ルニ顚壇ノ字ニシテ傾壇ニ非ス　〔增〕東京帝室博物館藏拓本作檀

一八 丙戌 一四〇六（七四六）		
一九 丁亥 一四〇七（七四七）	尾張眞福寺寶生院所傳瑂玉集	天平十九年書寫本（尾張名所圖繪）
二〇 戊子 一四〇八（七四八）		

孝謙	天平勝寶	天平感寶	元	己丑	一四〇九	（七四九）

太上天皇東大寺封戸宸書 〔增〕正倉院御物、銅版、長一尺八寸廣六寸八分厚約五厘
封施 五千戸水田一萬町 以前捧上件物遠限日月窮未來際敬納彼三寶分依此發願
太上天皇沙彌勝滿諸佛擁護法樂薰質萬病消除壽命延長一切所願皆使滿足令法久
住拔濟群生天下大地人民快樂法界有情共成佛道以代々國王爲我等壇越若我寺與
複天下興復若我寺衰弊天下衰弊複誓其後代有不道之主邪賊之臣若犯若破障而行
不者是人心得敬辱十方三世諸佛菩薩一切賢聖之罪終當墮大地獄無數劫中永無出
離十方一切諸天梵天護塔大善神王及普天率土有勢威力天神地祇七廣尊靈幷佐命
立功大臣將軍靈共起太禍永滅子孫若不犯觸敬勤行者世々累福終隆繼子孫共塵城
早登覺岸天平勝寶元年平城宮御宇太上天皇法名勝滿
〔朱〕亡友忠友曰銅版勅書ハ一枚ノウスキ銅ニ面背トモニ毛彫ノ如ク記シアリ天平勝寶ノ頃ヨリ遙ノニ後出來タルモノト見ユ實ハ此銅版勅書ト云フモノ恐クハ六七百年許ノモノト見ユ聖武宸翰ト云テ紙ニ書キタル一通アリ實否ハ知ラサレトモソレチ爰ニハ出スヘキ事ニヤアラム
〔增〕太上天皇以下覺岸ニ至ル今古京遺文ニヨリテ補ヘリ

攝津昆陽寺鐘

昆陽寺鐘銘　建立壹院敷地肆町院家惣領空閑荒野壹所云云
右壹院建立緣起者本願行基大僧正奉爲護國家利益衆生天平五年癸酉點猪名野旡
生淺薄之地所草創也天竺婆羅門僧正朝覲之始云云
天平勝寶元年己丑二月十五日雕之

〔朱〕此鐘今亡蓋其銘文ハ嘉曆元年所鑄鐘ニ附刻スト云

〔增〕行基舍利瓶銘（奈良縣史蹟調查會報告書第二回第一五頁水木氏報告）（考古學雜誌第五卷第十二號九〇七、梅原氏論文參照）

大僧上舍利瓶記
和上法諱法行　一號行基　藥師寺沙門也　俗姓高志氏　厥考諱才智　字智法君
之長子也　本出於百濟王子王爾之後焉　厥妣蜂田氏諱古爾比賣　河內國大島郡
蜂田首虎身之長女也　近江大津之朝戊辰之歲　誕於大島郡　至於飛鳥之朝壬午
歲　出家歸道　苦業精勤　誘化不息　人仰慈悲　世稱菩薩　是以天下蒼生　上
及人主　莫不望塵頂禮　奔集如市遂得
聖朝崇敬　法侶歸服　天平十七年○　別授太僧上之任並施百戸之封　于時僧綱已

備　特居其上　雖然不以在懷勤苦彌厲　壽八十二　廿一年二月二日丁酉之夜右脇而臥　正念如常　奄終於右京菅原寺　二月八日火葬於大倭國平群郡生馬山之東陵　是依遺命也　弟子僧景靜等　攀號不及　瞻仰無見　唯有碎殘　舍利然書輕灰　故藏此器中　以爲頂禮之主　界彼山上以慕多寶塔　天平廿一年歲次己丑三月廿三日沙門眞成

四條天皇天曆二年八月廿五日大和平群郡（今生駒郡）有里村竹林寺境內發掘其斷片ハ大和國生駒郡南生駒村大字有里輿山高瀨音吉氏所藏ニシテ銅製長サ三寸三分巾二寸二分厚一分五厘約一分ノ彎曲アリ、銘文中〇ナ附セル字ハ現存セル文字ナリ（寫眞參照）

東大寺大像

（朱）元亨釋書云天平勝寶元年十月二十四日大像成經年三歲改鑄八度十二月丁亥帝及聖武上皇幸寺禮佛云云

一四一〇（七五〇）　庚寅　二

東大寺寶庫所傳十字二行額

金光明四天王護國之寺

〔朱〕長八尺餘亘六尺餘四隅ニ四天王像左右ニ日天月天中央ニ金光明云云ト題セリ

〔朱〕大郷信齋云宇治拾遺物語ニ七大寺ノ額モトハ魚養ノ書ナリト云ヒ高僧傳ニハ此額ヲ空海ノ筆トス七大寺記天平勝寶二年廿二日聖武法皇及大臣百官參東大寺拜大佛殿定十字二行之額ト云ニ据レハマサシク空海ニハアラス

孝謙　天平勝寳 三　辛卯　一四一一　（七五一）

大和龍福寺竹野王碑　〔朱〕大和高市郡稻淵村（今高市村ノ大字）高一尺六寸、横一尺四寸五分　曉鐘成云高凡六尺七寸許

南面　昔阿育云云　西面　加峰北云云　北面　道幽云云

東面　天平勝寳三年　歳次辛卯四月

廿四日丙子　從二位竹野王

〔增〕上部缺失シテ四層ヲ存シ高サ凡六寸ニシテ石質ハ流紋岩ナリ、銘ハ第一層ニアリテ南面ヨリ一周シテ東面ニ終ル、大和志、廣大和名勝志ニ「葬于朝風南」トアレハ此碑モト朝風ト云フ所ニアリシカ如シ、今現ニ稻淵ノ西ノ方ノ山ニ朝風ト云フ所アリト云フ

東大寺鳧毛屏風

種好田良易以得穀君賢臣忠易以至豊諂辞之語多悅會情正直之言倒心逆耳正直爲心神明所佑禍福無門唯人所招父母不愛不孝之子明君不愛不益之臣清貧長樂濁富恒憂孝當竭力忠則盡命君臣不信國政不安父母不信家門不睦

〔朱〕年歴實ハ詳カナラス姑ク今年ニ係ルモノハ貞幹日錄ニ鴨毛屏風ハ西土所造ト云固ヨリ非也屏風ノ畫側ニ天平勝寳三年十月ノ八字アリ」ト記セルニ從フ忠友彼ニ評シテ云鳧毛ノ屏風ハ書屏風ナリ然ルヲ貞幹畫側ト記セル最モ疑フヘシ三年十月モ然リヤ否詳カナラス五年ト有シヤウニモオホエタリ此屏風元祿六年修飾ノ時丹青ヲ以テ塗抹シ新鴨毛ヲモ用ヒラレシ由ノ惡説モアリテ古色ハ過半亡失シタリドモ云ヘキ程ノモノ也ト云ヘリ

四

〔增〕正倉院天蓋莊嚴雲花形銘　長徑一尺四寸五分

〔刻銘〕東大寺　高笠万呂作　（第一行）

天平勝寶四年四月九日　（第二行）

〔增〕大和東大寺乾漆伎樂面銘

〔朱書〕東大寺相季廣成作　天平勝寶四年四月九日

壬辰

一四一二

（七五二）

孝謙	天平勝寶 五	癸巳	一四一三（七五三）

太上天皇御願文　銅版、〔增〕正倉院御物天平感寶元年ノ封戶宸書ト表裏チナス

菩薩戒弟子皇帝沙彌勝滿稽首十方三世諸佛法僧去天平十三年歲次辛巳春二月十四日朕發願稱廣爲蒼生遍求景福天下諸國各合敬造金光明四天王護國之僧寺并寫金光明最勝王經十部住僧廿人施封五十戶水田十町又於其寺造七重塔一區別寫金字金光明最勝王經一部安置塔中又造法華滅罪之尼寺并寫妙法蓮華經十部住尼十人水田十町所冀聖法之盛與天地而永流擁護之恩被幽明而恒滿天地神祇共相和順恒將福慶永護國家開闢已降先帝尊靈長幸珠林同遊寶刹又願太上天皇太皇同藤原氏皇太子已下親王及大臣等同資此福俱到彼岸藤原氏先後太政大臣及皇后先妣從一位橘氏太夫人之靈識恒奉先帝而陪遊淨土長顧後代而常衞聖朝乃至自古已來至於今日身爲大臣竭忠奉國者及見在子孫俱因此福各繼前範堅守君臣之禮長紹父祖之名廣給群生通該庶品同辭愛網共出塵籠者今以天平勝寶五年正月十五日莊嚴已畢仍量塔中伏願前日之志悉皆成就若有後代聖主賢卿承成此願乾坤致福愚君拙臣改替此願神明効訓

三倉御物象牙札

仁王會獻廬舍
印佛淺香壹材

長九寸五分幅二寸厚四分

裏書

天平勝寶五年歲
次癸巳三月廿九日

易得子筆記

〔增〕正倉院金字牙牌　長九寸一分幅一寸一分二厘厚三分九厘

平城宮御宇中太上天皇恒持心經　（表）

天平勝寶五年歲次癸巳三月廿九日　（裏）

大和藥師寺佛足石歌碑　高六尺餘廣一尺五寸餘厚一寸五分五厘許
〔增〕明治三十年十二月國寶指定

（佘佛跡　一十七首）

美阿止都久留伊志乃比鼻伎波阿米爾伊多利都知佐閇由須禮知々波々賀多米爾
毛呂比止乃多米爾

彌蘇知阿麻利布多都乃加多知夜蘇久佐等會太禮留比止乃布美志阿止々己呂
麻禮爾母阿留可毛

與伎比止乃麻佐米爾美祁牟美阿止須良乎和禮波衣美須氏伊波爾惠利都久
多麻爾惠利都久

已乃美阿止夜與呂豆比賀利乎波奈知伊太志毛呂毛呂須久比和多志多麻波奈
須久比多麻波奈

伊可奈留夜比止爾伊麻世可伊波乃宇閇乎都知止布美奈志阿止乃祁留良牟
多布刀久毛阿留可

麻須良乎乃須々美佐岐多知布賣留阿止乎美都々志乃波牟多太爾阿布麻氏爾
麻佐阿布麻氏

麻須良乎乃布美於祁留阿止波伊波乃宇閇爾伊麻毛乃己禮利美都々志乃覇止
奈賀久志乃覇止

己乃美阿止乎多豆禰毛止米氏與伎比止乃伊麻須久爾々波和禮毛麻胃氏牟
毛呂毛呂乎爲豆

舍加乃美阿止伊波爾宇都志於伎宇夜麻比氏乃知乃保止氣爾由豆利麻都良牟
佐々義麻宇佐牟

己禮與乃宇都利佐留止毛止己止婆爾佐乃己利伊麻世乃知乃與乃多米
麻多乃與乃□□

(麻)(須)良乎能美阿止　下闕　　(以上上段)

佐伎波比乃阿都伎止毛加羅麻爲多利氏麻佐米爾彌祁牟比止乃止毛志佐乎

宇禮志久毛阿留可

乎遲奈伎夜和禮爾於止禮留比止乎於保美和多佐牟多米止宇都志麻都禮利

都加閉麻都禮利

舍加乃美阿止伊波雨宇都志於伎由伎米具利宇夜麻比都利和我與波乎閇牟

已乃與波乎閇牟

久須理師波都禰乃母阿禮等麻良比止乃伊麻乃久須理師多布止可理家利

米太志可利鷄利

已乃美阿止乎麻婆利麻都禮婆阿止奴志乃多麻乃與曾保比於母保由留可母

美留期止毛阿留可

於保美阿止乎美爾久留比止乃伊爾志加多知與乃都美佐閇保呂與止曾伊布

乃曾久止叙佐久

阿阿嘖生死

比止乃山徴波衣賀多久阿禮婆乃利乃多能與須加止奈禮利都止米毛呂毛呂

須々賣毛呂母呂

與都乃閉美伊都都乃毛乃乃阿都麻禮流伎多奈伎徵乎婆伊止比須都閉志
波奈禮須都倍志
伊加豆知乃比加利乃期止岐己禮乃微波志爾乃於保岐美都爾爾多貝霸利
於豆閉可良受可
□都□□□□□□□比多留□□乃多爾久須理師毛止牟與伎比止毛止无）
佐麻佐（牟）我多米爾
（以上下段）

（同趺石銘）

釋迦牟尼佛跡圖

案西域傳云今摩揭陁國昔阿育王方精舍中有一大石有佛跡各長一尺八寸 廣六寸輪相花文十指各異是佛欲涅槃北趣拘尸南望王城足所蹈處近爲金耳國商迦王不信正法毀壞佛跡鑿已還生文相如故又捐於河中尋復本處今現圖寫所在流布觀佛三昧經若人見佛跡内心敬重无量衆罪由其而滅今俱□ 非有幸之所致乎又北印度烏仗那國東北廣二百六十里入大山 有龍泉河源春夏含凍晨夕飛雪有暴惡龍常雨水災如來往化令金剛神以杵擊崖龍□□伏歸依於佛 恐惡心起齊跡示 之於泉南大石上現其□跡隨心淺深量有 長短今丘茲國城北四十里寺 佛堂中玉石之上亦有佛跡

齋日放光道俗至時同往慶修 觀佛三昧經佛在 世時若有衆生見佛行者及見千輻輪
相即除 千劫極重惡罪佛去世後想佛行者亦除千劫極重惡業雖不想行見佛迹者見
像行者歩歩之中亦除千 劫極重惡業觀如來足下平滿不容一 毛足下千輻輪相轂輞
具足魚鱗相次金剛杵相足跟亦有梵王頂相衆蠡之相不異諸惡是爲[休]祥 以上在正面南
智識家口男女大小 正面方圓外下方題字
三國眞人淨足 左側方圓外右方題名
大唐使人王玄策向中天竺摩□□國中轉法輪□回見跡得轉寫搭是第一本日本使
人黃書本實向大唐國於普光寺得轉寫搭是第二本此本在右京四條一坊禪院向禪
院壇披見神跡敬轉寫搭是第三本從天平勝寶五年歲次[癸巳]七月十五日盡廿七日
并一十三個日作□檀主從三位智努王以天平勝寶四年歲次壬辰九月七日改王寫
成文室眞人智努畫師越田安万書寫□石手□□□呂人足□仕奉□□□人 以上左側在西
三國眞人淨足 左側方圓外題名在第十行下方
至心發願爲亡夫人從四位下茨田郡王法名良式敬寫釋迦如來神跡伏願夫人之靈
駕遊[入]无勝之妙邦受□□□□之聖神託□脫有漏高證无爲同霑三界共契一眞 以上背面在北
諸行無常諸法无我涅槃寂靜 以上右側在東

〔註〕原本「爾帥跡、十七首」及ビ第三首以下ヲ畧シ末尾ニ同趺石銘ノ「天平勝寶四歲壬辰九月改王寫成文室眞人智努」二十四字ヲ擧ク今古京遺文、金石文考證ニヨリ之レヲ補フ、原本此ノ碑ヲ以テ天平勝寶四年ノ條ニ載ス蓋シ趺石銘ハ天平勝寶五年ナルヘク佛足跡歌モ亦同年ノ作トナスヲ是トスヘキカ如シナホ又趺石銘中烏仗那國東北（廣）ノ（廣）古京遺文ナシ今金石文考證ニヨリ補ヘリ

孝謙
天平勝寶六
甲午
一四一四
（七五四）

七 乙未 一四一五（七五五）

〔增〕正倉院磁皿銘 徑一尺四寸、高一寸九分、深凡一寸五分、糸底徑凡八寸八分、厚凡二分、銘ハ墨書ニテ皿ノ裏面ニアリ

戒堂院聖僧供養盤（中央）

天平勝寶七歲七月廿□日?（左右）

八 丙申 一四一六（七五六）

大和法隆寺寄附物勅書〔增〕所謂法隆寺献物帳御物

大和法隆寺藏調布〔增〕墨書

常陸國信太郡中家郷戸主大伴□□調布進納天平勝寶八年十月

大和東大寺藏水無瀨地圖

文尾日天平勝寶八歲十二月十六日

孝謙 天平寶字 元 丁酉 一四一七 （七五七）	大和東大寺藏聖武帝周忌道塲幡銘 〔增〕正倉院御物長八尺五寸、色々穀地縦緣錦草花金糸綴付 東大寺 （墨書） 平城宮御宇後太上天皇周忌御齋道塲幡 天平勝寶九歲歲次丁酉夏五月二日巳酉 （朱書） 同枚幡銅鐸 〔增〕正倉院御物、高一尺一寸（鐶ヲ除ク）底口、徑三寸六分（東瀛珠光ニヨル） 東大寺枚幡鎮鐸 天平勝寶九歲五月二日

東大寺藏子日辛鋤同玉帚 〔增〕正倉院御物、辛鋤尖鐵刄ハ金銀泥ノ草花模樣柄淡紅色、柄長四尺三寸二分

鋤柄墨書　東大寺子日獻

天平寶字二年正月

二 戊戌 一四一八（七五八）	唐肅宗乾元元	乾元重寶
淳仁 天平寶字 三 己亥 一四一九（七五九）	唐肅宗乾元元	小乾元之錢得壹元寶、順天元寶、文獻備考曰史思明據東都鑄得一元寶既而惡得壹非長祚之兆改其文曰順天元寶

淳仁

天平寶字　四　庚子　一四二〇（七六〇）

大和東大寺所傳惠美押勝書　（增）正倉院文書

勅　東大寺封伍千戸右平城宮御字後太上天皇皇帝皇太宮以去天平勝寶二年二月廿二日專自參向於東大寺永用件封入寺家訖而造寺了後種々用事未宣分明因茲今追議定如左營造修理塔寺精舍分壹仟戸供養三寶幷常住僧分貳仟戸官家修行諸佛事分貳仟戸天平寶字四年七月廿三日太師從一位藤原惠美朝臣

萬年通寶　開基勝寶（朱）西大寺一枚存（增今御物）　太平元寶　（朱）銀今亡

五　辛丑　一四二一（七六一）

大和法隆寺沉水香

墨書□定重十二斤八兩、字五年三月四日、

（朱）忠友曰字五年ハ天平寶ノ三字ヲ省キタル法ナリ道鏡ノ書ニ字七年六月卅日トアル例同シ

六

壬寅　一四二二　（七六二）

陸前多賀城碑　〔朱〕高六尺餘濶三尺四寸許
〔増〕陸前國宮城郡多賀城村大字市川

去京一千五百里　去蝦夷國界一百廿里　去常陸國界四百十二里
去下野國界二百七十四里　去靺鞨國界三千里
此城神亀元年歳次甲子按擦使兼鎮守將軍從四位上勳四等大野朝臣東人之所置也
天平寳字六年歳次壬寅參議東海東山節度使從四位上仁部省卿兼按察使鎮守將軍
藤原惠美朝臣朝獦修造也天平寳字六年十二月一日

攝津石川年足墓誌　〔朱〕三香筆記金銅版九寸五分、三寸四分、從高槻領所出
文字六行所々滅金殘レル至テ見克也ト云

武内宿禰命子宗我石川宿禰命十世孫從三位行左大辨石川石足朝臣長子御史大夫
正三位兼行神祇伯年足朝臣當平成宮御宇天皇之世天平寳字六年歳次壬寅九月丙
子朔乙巳春秋七十有五薨于京宅以十二月乙巳朔壬申葬于攝津國嶋上郡白髪鄉酒
垂山墓禮也儀形百代冠蓋千年夜臺寂松柏含煙嗚呼哀哉

續紀天平寳字六年九月乙巳御史大夫正三位兼文部卿神祇伯勳十二等石川朝臣年足薨時年七十五

〔増〕梅原末治氏云金銅版長九寸八分餘幅三寸四分厚一分、文政三年三月十五日攝津國嶋上郡眞上光德寺村荒神山出土、攝津國三島郡清水村年足神社藏明治四十四年四月國寳指定、
又曰墓誌發掘ニ就テハ考古學雜誌第十卷第十號梅原末治氏「石川年足の墳墓」參照

淳仁 天平寶字 七 癸卯 一四二三 （七六三）

大和當麻寺所傳曼陀羅 〔朱〕集古十種

下野藥師寺村鑑眞和尙墓 （碑今河内郡藥師寺村龍興寺境內）

鑑眞大和尙天平寶字七壬寅五月五日

〔朱〕私案恐クハ是後人ノ所造且壬寅ヲ以テ七年トス最可疑

追考壬寅ハ六年也、世事百談云碑ハ古物ナレ𪜈文字漫滅シタルハ後世彫加ヘタルモノナルヘシ

八 甲辰 一四二四 （七六四）

大和法隆寺所傳百万塔幷陀羅尼

忠友曰孝謙帝紀曰神護景雲四年四月戊午初天皇八年亂平乃發弘願令造三重小塔一百萬基高各四寸五分基徑三寸五分露盤之下各置本慈心相輪六度等陀羅尼至是功畢分置諸寺トアリテ今ハ法隆寺ニ幾萬許カ遺レル其他ノ諸寺ニハ曾テ見聞及ハヌ事也又曰此多羅尼ハ正ニ天平寶字八年ノ草創ニテ唐ノ中宗ノ中和三年ヨリ百二十年前ナル廣德二年ニ當レハ天下古今板本ノ魁タルモノ也

栗原信光曰梓刻ノ古キハ稱德天皇ノ百萬塔ニ籠ラレシ經ニ過タルハナシ

〔朱〕貞幹小錄ニ此陀羅尼ヲ銅版ナルヘシト疑ヘリ

稱德 重祚
天平神護

元

乙巳

一四二五

（七六五）

神功開寶

二

丙午

一四二六

（七六六）

稱德 神護景雲 元

丁未

一四二七

（七六七）

大和東大寺銀壺銘 〔增〕正倉院御物 高一尺四寸口徑一尺四寸
（東大寺銀壺）（重大五十五斤）（甲）（原本天平神護三年二月四日ノ十字ヲ擧ケタルノミ）
（蓋實竝臺惣重大七十四斤十三𠔁）
天平神護三年二月四日 （以上壺底銘）
（東大寺銀壺臺）（重大十二斤）（甲）（以上臺銘）

大和法隆寺藏孝仁法師法華經 卷尾文
若夫法海淵曠譬波滄慧日高明等斯靈曜 云云 六道有職離苦得樂者登覺道
神護慶雲元年九月五日敬奉書寫竟

二	三
戊申	己酉
一四二八	一四二九
（七六八）	（七六九）

紫野大德寺　大乘顯識經卷下　聖武天皇宸書跋文
甲寅初夏拜觀

維神護景雲二年歲在戊申五月十三日景申弟子謹奉爲先聖敬寫一切經工夫之莊嚴畢矣法師之轉讀盡焉伏願橋山之鳳輅向蓮塲而鳴鑾汾水之龍驂泛香海而留影遂披不測之了義永證彌高之法身遠曁存亡傍周動植同茲景福共沐禪流彧變桑田散作頌曰非有能仁誰明正法惟朕仰山給修慧業權門利廣子拔苦知力用妙子登岸敢對不居之歲月式垂田極之頌幹

宗彥長老曰此一切經素栂屋高山寺之所傳中世有故而爲紫野之物空海師菅公等之書亦不少最可謂希世之經典也

光仁
寶亀 元
庚戌
一四三〇
（七七〇）

〔增〕南天竺波羅門僧正碑并序（群書類従第六十九卷）

夫佛日西流、遺風東扇、十地開士、住菩提而播形、八輩應眞、逼機演化、是以眞如奥旨、殊五天而共融、實相圓音、同八部而但顯、若乃深達法相、洞了宗極、研尋七覺、空有兩亡、遊戲六通、眞假雙照者僧也、僧正、諱菩提僊那、姓婆羅遲、婆羅門種也、一十六國景慕其高義、九十五種鑽仰其英徽、但以區域遥隔、史傳闕然、本鄉風範、難可縷言、僧神情湛寂、風宇明敏、靈臺可仰而不可窺、智海可注而不可挹、於是追支讖之英範、逐世高之逸軌、跨雪峰而進影、泛雲海而飛儀、冐險遠遂到大唐、唐國道俗、仰其徽猷、崇敬甚厚、于時聖朝通好、發使唐國、使人多治比眞人廣成、學問僧理鏡、仰其芳譽、要請東歸、僧正感其懇志、無所辭請、以大唐開元十八年十二月十三日、與同伴林邑僧佛徹、唐國僧道璿、隨船泛海、及于中路、忽遭暴風、波濤注日、陰雲逆天、計命忽若贅流、去死猶其一分、擧船惶遽、不知所爲、乃端仰一心、入禪觀佛、少選之間、風定波息、衆咸嘆其奇異、以天平八年五月十八日、　築紫太宰府、昔騰蘭聿來澄什刹往停跡振旦之邦、未蹋日域之境、計遠論勞、彼有愧德、自非位超修成行積永劫、其孰契於茲乎、同年八月八日、到於攝津國治下、前僧正大德行基、智煥心燈、定凝意水、扇英風於忍土、演妙化於

季運、聞僧正來儀、嘆未曾有、軼燕王擁篲於郭隗、侔伯喈倒屣於王粲、主客相謁、如舊相知、白首如新、傾蓋如舊、於是見矣、乃囑同法緇侶云、法本不然、今亦不滅、故雖赴化之質、翳跡族雙林、而法身之體、布影於沙界、經云應以婆羅門身得度者、即現婆羅門身、而爲說法、是也、原夫開闢以來、雖時經百王、世更萬載、未有葱右梵英、印度聖種、梯山航海、弘化聖朝、而今聖德作而異人至昌、運起而大化降、非但諸佛悲願之感、抑亦聖朝崇法文應也、我等既逢期運、腹覩此人、盍各盡至歎共致迎接、於是道俗輻輳、闐城溢郭、遠成幕之袂、濯爲雨之汗、肩隨踵接、送入京華、皇上大喜、仍勅住大安寺、供給隆厚、公王英彥莫不宗敬、行基又率京畿緇素兩衆五十餘種前後合三度、僧正諷誦華嚴經、以爲心要、尤善咒術、弟子承習、至今傳之、僧正居敬行簡、喜慍不形於色、含章隱曜、莫能測其淺深、高秩厚禮、不能廻其慮、嚴威峻法、未足懼其心、光雖和世、而弗汙其體、塵雖同其心、而不測其眞、以天平勝寶二年有勅、崇爲僧正、大法申斯紹隆、群生以之回向、雖道迹未影、而時英感謂、已階聖果、但夜壑貿遷、閻浮業謝、以天平寶字四年歲次庚子二月二十五日夜半、合掌向西、辭色不辭、如入禪樂、奄爾遷化、即以同年三月二日、闍維於登美山右僕射林、春秋五十七、臨終告諸弟子云、吾常觀淸性直

嚴自性身、而猶尊重彌陀景仰觀音、汝曹宜抽吾帑藏衣物奉造阿彌陀淨土、又云、吾生在之日、普爲四恩奉造如意輪菩薩像、而情願更造八大菩薩像列坐其像、而無常行迫、其事不諧、汝曹不忘疇昔、宜共相助畢功、弟子等不忘遺旨、備飾八像、而感梁木之既摧、慟德音之永閟、所以炳發神功、崇茂範、莫若在妙像於當今傳遺影於後葉、乃造成形像、雖英智茂範共其人既往、而美質風器與嚴像而如在、爰命謏才爲像贊、其辭曰

至象無色　大道無名　湛然常住　非滅非生　隨機汲引　應物分形　發揮正敎
如谷傳聲　道不自弘　弘之在哲　猗歟聖王　海內有截　接武異人　連肩英傑
慈訓惟闡　慧燈斯徹　爰有應眞　寔曰僧正　愛道崇法　忘軀委命　茂德彌新
玄化尤盛　四輩祛惑　一乘得徑　德心有類　道非獨顯　綽々行基　幽贊妙典
起予聖賓　撿揚羣善　竭誠致敬　超羣惟腆　是生滅法　諸行無常　哲人薪盡
火移光亡　一朝歸寂　萬古增傷　傳法道侶　奄絕舟航　藏山易速　閱水難息
仰德酬恩　昊天無極　幽誠曷寄　寫像追福　遍及無邊　廣覃有識

神護景雲四年四月二十一日　故婆羅門僧正入室　弟子傳燈住僧修榮

越前織田明神鐘 〔增〕龍頭ノ高四寸七分 笠ノ徑一尺七寸七分、龍頭下マテノ高三尺一寸六分、
口徑三尺五寸厚三寸一分 撞座横徑四寸、縱徑三寸六分、撞座中心ノ高一尺三分
（以上香取秀眞氏實測）越前國丹生郡織田村劔神社藏明治三十五年四月國寶指定

釼御子寺鐘神護景雲四年九月十一日

〔朱〕往年冶鑄ニ精シキ僧アリ此鐘ヲ鑒定シテ曰ク鐘ハ數百年ノ古物ナレ𪜈銘文ハ後世ノ贋鑄ニ出タリト云ヘリト聞ク予退テ續紀ヲ閲スルニ稱德帝ノ神護景雲四年庚戌即チ光仁帝ノ寶亀元年也故ニ史ニ寶亀元年冬十月己丑朔即天皇位大極殿改元寶亀ト記シ改神護景雲四年爲寶亀元年ト記サレタリ終ニ一月ノ違ニテ猶神護ノ年號ヲ鑄タルニテ此鐘銘ノ贋ナラサル事ヲ可知ト論定セリ

土俗云社頭及於村中將有凶事此鐘忽流汗如雨滴下之土砂爲之被穿爲一奇

光仁

寶龜二　辛亥　一四三一（七七一）

河内狛ヶ谷金剛輪寺藤原永手公墓　增　今河内國南河内郡駒ヶ谷村杜本神社ニアリ

〔朱〕亡友忠友曰永手ノ文字ノ朧々ト見ユト云ヘキモノ大和小島村榮山寺山中ニアリカノ天平九年トアリトテ武智麻呂ノ墓ナリト云石イツレモ〳〵同時ニ出來タル僞物ナリ狛カ谷ニ永手公ノ僞墓ヲ設ケ立タル事ハ未タ聞モ及ハサル事也

三　壬子　一四三二（七七二）

四　癸丑　一四三三（七七三）

五　甲寅　一四三四（七七四）

光仁 寶亀 六 乙卯 一四三五 （七七五）

〔增〕大安寺碑文一首幷序 今乜

原夫六合之外老莊存而不談。三才之中周孔論而未盡。探微索隱寧通八卦九疇。設敎流規唯止五禮六樂。文繫窮乎視聽。心行滯於名言。莫識三性之間。誰辨四諦之理。偉哉妙覺。超玆大夢。物我雙泯。空有兼謝。不皦不昧。非道聲之可求。無來無去。豈迎隨之能測。於是浮般若之舟檝。拯溺愛河。導芔之津梁。救焚火宅。遂使不言之化。施洽西生。無緣之慈澤周三界。旣而眞敎西秘像比東馳。八萬法門自五大而被漢地。十二分敎從百濟而集皇朝。佛法傳來盖有緣也。此大安寺者聖德太子之創興也。初太子奉爲國家祈天永命。於熊凝村立道場焉。舒明天皇龍潛之日爲問病故詣太子宮。太子以此道場附囑天皇。其後大殂落。寺遇兵亂。僧徒聞其無人。堂宇毀而靡構於今。莫其場處可爲長歎息矣。舒明天皇即位十一年歲次己亥春二月天皇念太子之附囑。憫此寺之落構。爰詔有司。於百濟邑建九重塔。名百濟大寺。施三百戶爲寺封。院之傍先有子部神社。有司便斫社樹。交構堂塔。社神大怒。飛熖焚寺。未修復間天皇尋崩。遺詔曰。此寺業熟於覆簣。功遂於羸瓶。朕今遭疾彌重。志遂不果。王公卿士等彌勵經始之功。副我臨終之願。時屬諒闇。未遑他事。新羅引兵滅百濟。淡海聖帝以爲。昔有苗弗卒倘勞大禹之駕。葛伯仇餉猶動成湯

之師。況彼新羅附餉小國敢逆皇命。彌我雄英若不致誅。何以懲肅。爰奉太后巡幸筑志。將欲遣兵問罪之間。太后奄然登遐。于時行宮太后臨崩。託于時聖帝以此寺之事。因言先奉遂聖詔是吾願也。聖帝撫心則痛結風枝。擧目則悲纏露葉。虔奉遺旨。就筑前某社神猶銜怨吐焔不已。故遷高市村新作造焉。增七百戶。改名大官寺。今前殿安置釋迦牟尼丈六尊像幷二菩。是淡海天朝馭宇昊天寶開闢天皇之所造也。佛工權化無有再來。以之誦之不虛應矣。爰天人降臨讚相好之妙躰矣。瑞頻告顯能仁之深德。爰神鑒無隱靈應有徵。凡所祈願無不蒙祉。所以遐邇歸心。崇仰無替。其後和銅三年歲次庚戌。皇朝遷于乃樂之京。伽藍亦隨同時遷矣。然彼火災時。猶不輟架築之事。歷歲未成。爰有道慈律師梵門之領袖也。幼挺悟聰夙彰貞敏。往遊唐國十七有年。學完五明。智洞三藏。粤以天平元年歲次己巳。詔遣法師修營此寺。法師以爲不滅妖火。功業難成。於是無上表請爲寺業。每年四月設般若會。天皇嘉之。制詔有司親族寺物官供其事。自爾以來火難絕矣。若天皇居奧壤帝里名區。北望平岡。揚震耀於紫闕。南膽上野。泛仙氣於碧峯。東嶺嵯峨煙嵐之所搖蕩。西阜隱軫日月於焉蔽虧。信上京之勝地也。於是人揆光景。工展規矩。然。比靈墟。創茲梵宇。鐘樓經藏開峻牖於于雲。像殿構堂起高甍於蔽日。長廊南軒丹蕚唉枝光函

北砌口。鏘々寶鐸風傳般若之聲。靄々仙鑪浮解脫之馥。乃登眞之淨刹。是諫國之良緣也。由是道璿律師澄心戒定。超海脹而來遊。幷僧正凝神總持。涉流沙而戾止。三綱衆僧戒機二諦。尅心三明。諫持律儀。薰修定惠。積善因於紺宇。資勝福於丹園。寺內東院皇子大禪師者是淡海聖帝之曾孫。今上天皇之愛子也。希世特挺際神命世。爲德固時建。道在人改。悲正敎之陵遲。痛迷塗之危幻。於是永厭生死。志求幷。捨樂宮而出家。甘苦行而入道。以此伽藍丈六尊像是聖睿願所作。緬惟祖德情深。追遠登梵宇而傷懷願增飾以崇麗。遂乃流霞澹彩飛霧擒英縟于艷土。瓊楹圖八相之銀壁。姮娥辭漢。引月鏡以照梁。仙務遁宵聚星璫而照梠。扣霜鐘雲閣。則釋衆成行。散金花於王堂。則梵音揚響。結構之功誰窮妙於往年。而輪煥之姸良。盡美於今日。夫前賢前哲有功必刻銘於鐘鼎。又勒碑於宗廟。世雖遠而業逾顯。人雖古而名更新。是以皇子思。所以懸盛烈乾坤。流鴻名於日月。爰詢翰莊之容載。求絕妙之詞。下走影暮桑楡。文倦彫龍之筆。高命難辭。謬擒土鳳之章。仍作頌云。

眞性邈矣　亥獻湛然　仁靄有截　德被無邊　圓鏡長懸　輪法恒轉

弘濟四生　炳發三衍　於穆立良　作民慈父　煩降國祈　創玆梵字

露往露來　移都改市　風墟有北　雲構無路　前岡後岡　建塔建岡

清徽誰遠　至治餘光　赫我聖帝　開玆寶緣　神力潛通　感應如響。
道慈上人　法門領袖　識量宏傳　功思兼秀　明々帝子　厭俗慕眞
赫々靈舍　飾故成新。經臺峻嶙　像殿玲瓏　莊嚴千號　雕刻千工
道以人弘　理由言喚　敢頌眞靜　流聲谷岸。

寶亀六年四月十日作　正四位淡海眞人三船

河内高屋枚人墓誌　叡福寺東南院藏貞幹云長八寸濶六寸厚二寸餘　朱耳比磨利帖ニ此碑河州磯長里東福院物ト記セリ不知孰是

故正六位上常陸國大目高屋連枚人之墓
寶亀七年歳次丙辰十一月乙卯朔廿八日壬午葬

〔增〕河内國南河内郡磯長村叡福寺藏　赤褐色磚長八寸三分巾五寸八分、厚約二寸
延享年間河内郡石川郡（今南河内郡）上ノ太子出土、明治四十二年九月國寶指定

大和宇智川磨崖碑并佛像　〔增〕奈良縣大和國宇智郡宇智村子嶋

大般涅槃經諸行（无常是生）滅法生滅々巳寂滅爲樂（如是偶句乃是過去未來現在
諸佛説開空法道如來證涅槃永斷 生死若有至心聽常得无量 樂若有書寫讀誦爲他
能説一經其身於劫後七劫不墮惡道）
寶亀七年十月四日　　工沙彌　　知識

〔增〕原本「无常是生」及ヒ如是偶以下惡道ニ至ル五十八字ナシ今金石私志、古京遺文、金石文考證等ニヨリ之レヲ補フ、又「沙彌」「智識」ノ下各二字アルカ如キモ明カナラス蓋シ此碑一説ニ寶亀九年二月四日トナス

光仁 寶亀 八 丁巳 一四三七（七七七）	九 戊午 一四三八（七七八）	一〇 己未 一四三九（七七九）

一一

庚申

一四四〇

（七八〇）

參河小松原松林寺藏　古磬　三香筆記

唐建中元年歳次庚寅春正月己卯朔三日

（背銘）　爲法眼秀清唯　得樂往生淨土也

承元二年戊辰十月日

〔朱〕松林寺ノ藏品後ニ立入大和守ノ物トナリ今ハ服部熊五郎ノ藏品ノ由三香話也

私云寅字恐傳寫之誤

唐德宗建中元　建中通寶　泉志張臺曰此錢未施用今民間往々有之

光仁

天應 元

辛酉

一四四一

（七八一）

大正十二年一月二十日印刷
大正十二年一月三十日發行

東京市京橋區新榮町五丁目三番地
編輯兼發行者 圖書刊行會
代表者 林縫之助

三重縣北牟婁郡尾鷲町知古町一七〇番地
印刷者 岩井亀次郎

三重縣北牟婁郡尾鷲町知古町一七〇番地
印刷所 尾鷲印刷株式會社
電話一二九番

東京市京橋區新榮町五丁目三番地
印行所 合資會社 吉川弘文館
電話京橋 二九九番 六九七番
振替東京 二四四番

B7
1

增補 尚古年表 二

CN 1160 .I7 v.2

桓武 延暦 元 壬戌 一四四二 (七八二)	大和法隆寺沈水香 〔増〕御物、材長二尺二寸三分、徑凡三寸ニ四寸、重量一貫四百八十七匁 墨書曰 更定廿四斤天應二年二月三日 〔増〕追刻延暦二十年定二十五斤トアル外 格印 アリ
二 癸亥 一四四三 (七八三)	

桓武

延曆　三

甲子

一四四四

（七八四）

河内紀廣純女吉繼墓誌　河内國南河内郡春日村妙見寺藏、以瓦造之、長八寸餘、濶五寸餘、厚二寸餘

維延曆三年歲次甲子朔癸酉丁酉叅議從四位下陸奥國按察使兼守鎭守副將軍勳四等紀氏諱廣純之女吉繼墓志　〔朱〕文字四行

續紀文、廣繼大納言中務卿正三位麻呂之孫左衞士督從四位下宇美之子寶龜中出爲陸奥守尋補按察使在職視事見禰韓酒

〔增〕黑色甎、身長八寸三分弱、幅五寸二分厚三寸、左上部缺損アリテ裏ニ布目模様アリ、蓋付、發掘年時不詳、河内國河内郡山田付（舊稱春日村）天白山妙見寺境内茶臼山出土、明治四十二年九月國寶指定

四 乙丑 一四四五（七八五）	五 丙寅 一四四六（七八六）	六 丁卯 一四四七（七八七）	七 戊辰 一四四八（七八八）
洛北今宮所傳鳳凰 〔朱〕追錄、三香筆記			

桓武 延暦 八 己巳 一四四九 （七八九）	九 庚午 一四五〇 （七九〇）	一〇 辛未 一四五一 （七九一）	一一 壬申 一四五二 （七九二）

一二
癸酉
一四五三
（七九三）

一三
甲戌
一四五四
（七九四）

一四
乙亥
一四五五
（七九五）

一五
丙子
一四五六
（七九六）

隆平永寳
（日本紀畧）延暦十五年十一月乙未詔制新錢爲隆平永寳
〔朱〕私云和漢年契誤載延喜十五年之條

桓武 延曆一六 丁丑 一四五七（七九七）	一七 戊寅 一四五八（七九八）	一八 己卯 一四五九（七九九）	一九 庚辰 一四六〇（八〇〇）
	備前磐梨鄕松本村（朱）信齋紀行（朱）日本記畧云延曆十八年二月乙亥朔乙未薨 正三位和氣淸麻呂卿墓		

二〇　辛巳　一四六一　（八〇一）

大和法隆寺藏沉水香　〔增〕御物材長一尺九寸八分五厘徑三寸ニ二寸五分重七百七十一匁

延曆廿年□十三斤　寺斤十斤　塔更定重十二斤八兩字五年三月四日

延曆二十年□定廿五斤　烙印 [illegible] アリ

（コノ分延曆元年ノ條參照）

〔增〕肥後淨水寺南大門碑　肥後國下益城郡豐野村大字下鄉字寺下鄉神社境內高四尺三寸、幅南一尺八寸三分、東一尺八寸、西一尺四寸四分、北一尺一寸七分

南大門並碑文開

夫不人獨登々者不獨弘々者人然玄弉法師早苞四忍先悟三空智通無累神測未形超六塵而逈出掩千古以無對悲此法之陵遲概深文之訛謬遠涉百濟□□國□□萬里之山川積雪失地驚沙迷天西域□楊八藏五乘之敎梵本經論一千□六百五千七部乎□?□□□□弉善願□淨水寺治田壹拾□益城與宇土郡間宮椅料田林七所（益城三所宇土四所）□岡?崎內與□□合六□千四百□卷□以前若□親等□犯用者妙見並及一千七百善神羣□知□□命□□□理□寺矣延曆廿年二月廿二日　（南面即チ正面）

東佛像經塔並妙見之院　（東面）

西□□□□□□院　（西面）

北彌勒□□之堂　（北面）

桓武 延暦 二一 壬午 一四六二 （八〇二）	
	〔增〕肥後淨水寺龍宮石　肥後國下益城郡豐野村大字寺下鄕神社境內、圓形、高二尺一寸五分、直徑一尺五寸、頂上周圍四尺七寸五分 「弉善和上」　「御願造奉」　「燈樓一基」　「延暦廿年」　「七月十四日」 「眞上日乙」　「肥公馬長」　「化僧藥蘭」 〔註〕正德ノ頃隣村ノ隱士某其ノ古キヲ好ミテ已ガ家ニ持チ歸リ手洗鉢ニト庭ニ置ギケルカ其夜ヨリ塔上ニ怪火顯シ火災ヲ放チ其狀名狀スヘカラス後來ヲ恐レテ舊地ニ歸セリト（考古學雜誌第七卷第十號）

二二 癸未 一四六三 （八〇三）	
二三 甲申 一四四六 （八〇四）	紀伊大同寺藏天臺大師影　銘 靈山一會儼然未散天安〻〻地平〻〻依最澄和尚之命奉圖寫天臺山國淸敎寺智者大師影堂之遺像記　于時貞元廿年冬十月　義眞愼記 〔朱〕按一書義眞和尚延暦寺第二世座主始從傳教大師入唐爲譯語於天臺山從大師入密宗灌壇弘仁十四年四月歸朝天長十年寂五十三

桓武	
延曆 二四	東大寺藏參議眞道卿筆內侍宣 文尾曰　延曆廿四年九月廿四日 唐鄭審則振最澄法師印記　眞書橫川松禪院藏　〔朱〕鄰交徵書 孔夫子云吾聞西方有聖人焉其敎以淸淨無爲爲本不染不着爲妙其化人也具足功德 乃爲圓明最澄闍梨性禀生知之才來自禮儀之國万里求法視嶮若夷不憚艱勞神力保 護南登天臺之嶺西泛鏡湖之水窮智者之法門探灌頂之神秘可謂法門龍負靑蓮出池 將此大乘往傳本國求茲印信執以爲憑昨者陸臺川己與題記故具所覩爰申直筆大唐 貞元廿一年五月十五日朝議郎使持節明州諸軍事守明州刺史上柱國滎陽鄭審則書
乙酉	
一四六五	
（八〇五）	

平城

大同元

丙戌

一四六六

（八〇六）

攝津丹生山田千年屋棟札

大同元年丹生山大工日原

武藏橋場法源寺碑　法源又保元

大同元丙戌三月十四日入寂春秋七十九歲

大僧都　知海法印

砂尾石濱道場開基初祖

忠寄曰此碑裏書ニ元祿八乙亥十月十四日十五日兩夜開山二世云云等ノ文アレバ元祿乙亥ノ作ナルコ明著也靑木昆陽モ裏書ニ心ノ付アル所

下總守谷里牛頭天王社神鏡背銘　相馬日記

下總國守谷鄕牛頭天王守護所

大同元年丙戌九月廿一日神主吉信

平城

大同

二

丁亥

一四六七

（八〇七）

喜撰嶽巖洞中石塔婆　大同二年之文字纔存云

播摩西有年村大圓寺古鈴銘

大同二年六道山遍照院

武藏日登山妙林寺藏不動像背銘　延亨三年從淺草川所得云

金利石堅神惠佛救授福與德靈驗不動大同二丁亥四月空海

信濃飯田外屋治郞八藏古銅板銘

大同二年丁亥孟秋

攝津草津大歲神社石灯臺　銘云大同二年勸請（名所圖會）私案後世所建

伊勢菩提山　（朱）伊勢名所圖會　（朱）餘按後世ノ僞作歟

梵字石　大同二年空海刻之

尾張二村山石地藏　尾張名所圖繪

大同二　二

平安御影堂某阿彌藏古瓦　（朱）追考三香手錄

大同二年

越後普光寺毘沙門堂　大同二年造營有ㇾ棟札ㇾ事北越雪譜所載也

三	戊子	一四六八（八〇八）

四	己丑	一四六九（八〇九）

高野山所傳空海親書伊呂波　〔朱〕模刻ノモノナ視ニ字之古ナ徵スルニ足レリ凌雲集嵯峨帝空海師ニ賜ノ御製ノ詩アリ字母弘三乘眞言演四句ト宣フ伊呂半ハ空海師ノ所造疑フヘキニ非ス

文尾　大同四年秋　奉眞如法親王

陸奧守山大元帥社碑　高五尺一寸幅三尺六寸餘　〔朱〕文字漫滅不可讀者多云

人白　大平寺

大同四年己丑歳三月十二日

陸奧會津伊佐須美明神御正體　〔朱〕會津風土記

奧州二宮正一位伊佐須美大明神　大同四年所鑄

嵯峨　弘仁元　庚寅　一四七〇　（八一〇）

攝津長田太神々鐘（集古十種）

大國主神　天下泰平五穀
大物主神　成就國家守糺巳
大己貴神　福壽切一遂刀御願
弘仁庚寅天九月十一日
志固男　淳和王
八千戈神　御所神事空海七日護摩燒
天國玉神　社司從三位中將臣春榮
鎭國玉神

二	三	四
辛卯 一四七一 (八一一)	壬辰 一四七二 (八一二)	癸巳 一四七三 (八一三)

嵯峨　弘仁 五　甲午　一四七四　（八一四）

下野日光山碑　高三尺九寸、幅一尺七寸

蘇巔鷲嶽異人所都達水龍玆靈物斯在所以異人卜宅所以靈物化產豈徒然乎請試論之夫境隨心變心垢則境濁心逐境移境閑則心朗心境冥會道德玄存至如能寂常居以利見妙祥鎭住以接引提山垂迹孤岸津梁並皆靡不依仁山託智水臺鏡瑩磨俯應機水者也有沙門勝道者下野芳賀人也俗姓若田氏神邈救蟻之齡意淸惜囊之齒桎枷四民之生事調飢三諦之滅業厭聚落之轟轟仰林泉之皓然粤有同州補陀洛山蒼嶺插（或作挃）銀漢白峯衛碧落礙雷腹而鼉吼翔鳳足而羊角魑魅罕通人蹊也絕借問振古未有攀躋者法師顧義成而與歎仰勇猛以策意遂以去神護景雲元年四月上旬跋上雪潛巖峻雲霧雷迷不能上也還住半腹三七日而却還又元應元年四月上旬更事攀陟亦上不得也二年三月中奉爲諸神祇經圖佛裂裳裹足弃命殉道繦負經像于山麓誦（或作讀）經禮佛一七日夜堅發誓（或作願）曰若使神明有知願察我心我所圖寫經及像等當至山頂爲神供養以崇神威饒群生福仰願善神加威毒龍卷霧山魅前導助果我願我若不到山頂亦不至菩如是發願訖跨白雪之皚皚攀綠葉之璀璨脚踏一半身疲力竭憩息信宿終見其頂怳惚怳惚似夢似寤（或作寐）不因乘查忽入雲漢不甞藥妙得見神窟一喜一悲心魂難持山之爲狀也東西龍臥彌望無極南北虎踞棲息有有與指妙高以爲儔引輪鐵（或作鐵輪）而作帶笑衡岱之猶卑哂崑香之又劣日出

先明月來晩入不假天眼萬里目前何更（或作曾）乘鵠白雲足下千般錦華無機常織百種靈物誰人陶冶北望則有湖約計一百頃東西狹南北長西顧亦有一小湖合有二十餘頃昕坤更有一大湖纍計一千餘町東西不濶南北長遠四面高岑倒影水中百種異莊木石自有（或作在）銀雪敷地金華發枝池鏡無私萬色誰逃山水相映乍看絶腸（或作腹）瞻佇未飽風雪趂人我結蝸菴于其坤角住之禮懺勤（或作動）經三七日（或日字缺）已遂斯（或作期）願便歸故居去延曆三年三月下旬更上經五箇日至彼南湖邊四月上旬造得一小船長二丈廣三尺即與二三子棹湖遊（或作游）覽遍眺四壁神麗夥多東看西看汎濫自逸日暮與餘强託南洲其洲則去陸三十丈餘（或作三百丈來）方圓三十丈餘諸洲之中美華富焉復更遊西湖去東湖十五許里又覽北湖去南湖（湖欠）三十許（或作計）里並雖盡美揔不如南其南湖則碧水澄鏡深不可測千年松柏臨水而傾緑蓋百圍檜杉竦巖而搆紺樓五彩之華一株而雜色六時之鳥同響而異囀（或作喃）白鶴舞汀（或作汗）紺鳬獻水振翼如鈴吐音玉響松風懸琴抵浪調鼓（或作皷）五音爭奏天韻八德澹澹自貯霧帳雲幕時時難陀之纍麗星燈電炬數々普香之楓杷東見池中圓月知普賢之鏡智傾仰空裡慧日覺遍智之在我託此勝地聊建伽藍名曰神宮寺住此修道荏苒四祀七年四月更移住北涯四望無㝵沙塲可愛異華之色難名驚目奇香之息亘尋悅意靈仙不知何去神人髣髴如存忩歲精之無記惜王侯之不遊思餓虎而不遇訪子喬而適去觀華藏於心海念實

相於眉山蘊蘿遮寒蔭葉避暑喫茱喫水樂在中乍彳乍亍出塵外九皐鶴聲易達于天去延曆中柏原皇帝聞之 便任上野國 講師利 他有時虛心逐物（逐或作遂） 又建立華嚴精舍於都賀郡城山就此往彼利物弘道去大同二年國有陽九州司令法師祈雨 則上補陀洛山祈禱應時甘雨（或作油） 霧霈百穀豐登所有佛業不能縷說咨日車難駐人間易變從心忽至四蛇虛羸攝誘是務能事畢矣前下野伊博士公與法師善秩滿入京于時法師歎勝境之無記要屬文於余筆伊公與余故固辨不免課虛抽毫（或作豪） 乃爲銘曰

雞黃裂地　粹氣昇天　蟾烏運轉　萬類跰闐
山海錯峙　幽明殊阡　俗波生滅　眞水道也
一塵搆嶽　一滴深湖　埃涓委聚　盡飾神都
嶺岑不梯　鸑鷟無圖　皚皚雪嶺　曷矚誰廬
沙門勝道　竹操松柯　仰之正覺　誦之達磨
歸依觀音　禮拜釋迦　殉道斗藪　直入嵯峨
龍跳絕巘　鳳擧經過　神明威議　歷覽山河
山也崢嶸　水也泓澄　綺華灼灼　異鳥嚶嚶
地籟天籟　如筑如箏　異人乍浴　音樂時鳴

一覽消憂　百煩自休　人間莫比　天上寧儔
孫興擲筆　郭詞豈周　咄哉同志　何不優遊

弘仁之年敦牂之歲月次壯朔三十之癸酉也

人之相知不必在對面久話意通則傾蓋之遇也余與道公生年不相見幸因伊博士公聞其情素之雅致兼蒙請洛山之記余不才當仁不敢辭讓輙抽拙詞幷書絹素上詞翰俱弱深恐玄之猶白寄以以瓦礫表其情至百年之下莫忘相憶耳西岳沙門遍照金剛題

〔增〕弘仁之年ヲ一本ニ弘仁元年トナス蓋シ之ヲ元ニ讀ミタルガ如シ殊ニ壯月ハ卽チ八月ナリ、三正綜覽ニヨリ弘仁年中ニ八月ニシテソノ月ノ大ナルヲ求ムレバ三年、四年、五年、十年、十二年、十三年ノ七回アリ、而シテ三十日ノ癸酉ナルハソノ朔ハ甲辰ナルベカラズ之レヲソノ七回中ニ求ムレバ五年ヨリ外ナキヲ見レバ明カナルベシ

弘仁六
乙未
一四七五
（八一五）

嵯峨　弘仁七　丙申　一四七六（八一六）

大和南圓堂銅燈臺鑄字銘　𢕄同放言曰景ハ丙也唐律ニ景ニ作ル世祖ノ諱ヲ避シ也天朝ニ丙字ヲ諱ヘキ理ナシ然レ𪜈當時ノ儒官爰ニ心付サリシナラム是不諱シテ諱ニ似タリ

銅燈臺銘並序弘仁七載歲次景申伊豫權守正四位下藤原朝臣公等追遵先考之遺敬志造銅燈臺一所心不乖麗器期於撲慧景傳而不窮慈光燭而無外遺敎經云燈有明明命也燈延命譬喩經云爲佛燃燈後世得天眼不生冥處普廣經云燃燈供養照諸幽冥苦病衆生蒙此光明緣此福德皆得休息然則上天下地匪日不明向晦入冥匪大不照是故以斯功德奉翊先靈七覺如遠一念孔邇庶幾有必有色並超於九攢無小無大共踰於八苦昔光明菩薩燃燈說呪善樂如來供油上佛居今望古豈不美哉式標良因貽厥來者云大雄降化應物闡神三乘分轍六度成津百非洗蕩万善惟新更昇忉利示以崇親　其一　薰修福

〔朱〕北條鉉曰其書或云空海或曰逸勢燈週凡六版今惟存四版故欵題不可復放

追考叢簪錄云唐高祖父名炳故唐世嫌名亦諱丙字故文中丙子曰景子丙辰曰景辰白氏韓氏文集所載可見也南都興福寺南圓堂前有古銅臺座有七銘其序曰弘仁七載次景申伊豫權守正四位下藤原朝臣等追遵先考之遺敎云云人不知景申爲何事按弘仁七年乃唐憲宗元和十一歲在丙申想爲唐諱嫌名曰景申也當時唐交最親使聘往來殆無虛歲其典章制度多遵用之恐其時上下通避唐諱不獨藤公等而已後人諱而不傳故不復知其義

伊勢小丹生村丹生山神宮寺什空海表文眞蹟

文尾曰　弘仁七年八月十五日　沙門空海上表

八 丁酉 一四七七 (八一七)

伊豆益山寺金剛盤 (集古十種)
養加山
于時弘仁八歳正月吉日
當山住

九 戊戌 一四八七 (八一八)

富壽神寶 (逸史) 嵯峨天皇弘仁二年冬十一月朔詔改錢文曰富壽神寶

嵯峨
弘仁
一〇
己亥
一四七九
（八一九）

一一
庚子
一四八〇
（八二〇）

比叡山相輪樘銘（朱）三香手錄曰數度改鑄非當時之物京都名所圖會云傳教大師ノ銘高サ四丈五尺、九層アリ十一ノ寶鐸ヲ懸タリ
弘仁十一年歲次庚子九月十一日

一二
辛丑
一四八一
（八二一）

一三

壬寅

一四八二

（八二二）

青蓮院宮所傳　嵯峨帝宸書傳敎大師御製

紙尾細書云　弘仁十三年十月十三日賜御製使圖書助從六位下藤原朝臣常永

〔朱〕哭澄上人吁嗟雙樹下攝化契如々惠遠名猶駐支公業已空草彌新廟塔松掩舊禪居燈焰殘空坐香烟續像爐蒼生橋梁少緇侶律儀疎法体何久住塵心傷有餘

〔朱〕盍簪錄曰相傳此十數字圓仁筆也

嵯峨
弘仁
一四
癸卯
一四八三
（八二三）

東寺所傳後宇多帝宸書　〔朱〕北條鉉曰爲空海書謬矣

不勝歡喜云云弘仁十四年正月十九日以東寺永給〔額〕於小僧□

釋光定受戒疏闕本

受菩薩戒比丘光定稽首和南竊以無明長夜戒光爲炬滅後軌範木叉爲師所以賊縛比丘脫草繫於王遊乞食沙□顯鵝珠於死後故能三觀佛像乘云云　弘仁十四年四月十四日於比叡峯延曆寺宗□濟謹和南疏

元亨釋書第三釋光定姓贊氏豫州風早郡人云云初叡山大乘戒壇爾衆沮之傳教卒後得建定之力居多焉弘仁帝好文定有外學常陪文宴以故與帝狎及叡壇立定抱戒疏草乞宸書帝笑而書分註云北野天神所草也

東溟云乞食沙門賊縛比丘ノ故事法苑珠林九十九可見

文館詞林殘缺二本　攝津武庫側勝福寺所傳

六百九十五校書殿寫弘仁十四年

三百四十八校書殿寫弘仁十四歲

〔朱〕忠友話文館詞林二卷前白川侯買得シ玉フ出所攝津須磨寺トモ云則此武庫側云云ナルヘシ實否未詳此二卷一部中ナルモノ二三十卷今猶高野山無量壽院ニ藏セリ學侶方三十許院此事ニ知タル趣ナリ近來一卷前濱松侯ニ收ル

〔朱〕橋本肥州曰文館詞林ハ唐書藝文志ニ千卷トシ和名類聚抄序ニ百帙ト見エ藤原佐世ノ日本現在書目錄ニモ出善隣國寶記ニ沙門奝然吾國ニ傳ヘシト記セリ穗井田忠友云弘仁已前存在如而奝然カ傳ヘシト云新本今存亡ヲ不知

淳和 天長元 甲辰 一四八四 （八二四）

甲斐野田尻西光寺藏石誌　〔朱〕信齋紀行

天長元甲辰空門□□

弘仁二辛卯如空西光寺殿長峯山□□

〔增〕攝津地藏院碑　（日本金石年表）

〔增〕相模鎌倉八幡宮雙池研　（日本金石年表）

淳和

天長二

乙巳

一四八五

（八二五）

大和益田池碑銘　空海師五十二歳所書ト云摹刻本ノ尾ニ天長二年ト記ス

集古十種ニ曰碑則傭夫築高取城折以編砌城垣可勝惜哉好事者時僅就石垣間打取一雷字以寶愛欣賞亦吉光片羽矣　一日聞高野山上智院藏眞蹟草本驚喜不可禁乃使人摸取而來筆力險輕雜以飛白勢變幼不可端倪實絕代妙墨也粗工鉤影猶能驚人原本可想非海決不能作也

愚友云　此碑高取城營築ノ時採去シト云ハ不足信說也文章ノミ有テ碑石造立セスシテ止シモノト可知今其邊ノ山ニ碑ノ趺石ノ遺レルト云モノアリ上世ノ石棺ニテ屍ヲ並ヘ埋メタルモノニテ　決シテ天長建碑ノ爲ニ造リシ物ニハ非ズ

若夫感星緩漢下灑之功深湖水天池上潤之德普故能屮卉因之而欝茂蟲卵賴之長生至若八氣播植或作殖五才陶冶北方之行偏居其最坎之爲德遠矣哉皇矣哉粤有益田池兩尊鼻子之州八島初導之國地是漢諸之舊宅號則村井之故名去弘仁十三年仲冬之月前和州監察藤納言紀大守或作太末等慮亢陽之可支歎膏腴之未開占斯勝處奏請之綸詔即應爰則令藤紀二公及圓律師等拠功未幾皇帝逝駕汾襄藤公從之辭職紀守亦遷越前今上膺堯揖讓馭舜寶圖照玉燭乎二儀撫赤子於八島簡伴平章事國道代檢或作撿國事拜援藤廣任刺史兩公撿校池事於焉靑鳧引塊數千之馬日聚赤馬驅入或作駈百計之夫夜集既而車馬轟轟而電往男女磤磤而靁歸土雰雲而雪積堤倏忽而雲騰宛如鬼神之𡑮埴還疑洪

鑪之化産成也不日舉也不年造之人也辨之天也爾乃（或作邇）池之爲狀也左龍寺右鳥陵大墓南聳畝傍北峙米眼精舍鎭其艮武遮荒龍押其坤十餘大陵聯綿虎踞四面長阜邐迤龍臥雲藹松嶺之上水激檜隈之下春繡映池觀者忘歸秋錦開林遊人不倦鴛鴦鳧鴨戲水奏歌玄鶴黃鵠遊（或作游）汀爭舞龜鼈延頸鮒鯉掉尾淵獺祭魚林鳥反哺泊如積水含天疊山倒景深也似海廣也超淮笑昆明之非儔哂耨達之猶小（或作少）虎嘯鼓濤則驚汰沃漢龍吟決堤則容與不飽襄陵之罔象不得溢其塘焦山之女魃不能涸其底六郡蒙潤萬渝湯湯一人有慶兆民賴舞之蹈之詠千箱以擊腹手之足之唱萬歲而忘力歎蒼海之數變索銘詞乎余筆貧道不才當仁固辭不能課虛吐章廼爲銘曰

希夷象帝　丨一未崩　盤古不出　國常無生　元氣條動
葦牙乍驚　八風扇鼓　五才縱橫　日月運轉　山河錯峙
千名森羅　萬物雜起　藤膚既隱　稷秕爰始　天池人池
灑霑功似　前堯後禹　慮淳恤人　智略廣運　慈悲且仁
機事不測　成功若神　潤物如雨　榮人似春　綸綍雷震
有司創功　紀藤薙草　果績圓豊　伴相施計　原守在公

良才奇術　民具靡風　爰有一坎　其名益田　堀之人力
成也自天　車馬霧聚　男女雲連　歸來似子　畢功不年
深而且廣　鏡徹紺色　湜瀁渺瀰　瞻望罔極　百溪之宗
萬派之職　魚鳥涵泳　虬龍斯匿　畎澮汎溢　留畜播殖
莘莘我藝　穟穟我穡　如墉如京　足兵足食　井田我事
堯帝何力

天長二年歲在大荒落玄月二十五日建之池口上

〔註〕原本銘文追錄ト朱書シテ「希夷象帝―堯帝何力」トノミ記シ全文ヲ缺グ

〔增〕武藏法源寺社碑　（日本金石年表）

三 丙午 一四八六 (八二六)	四 丁未 一四八七 (八二七)
〔増〕肥後浄水寺碑　肥後下益城郡豐野村字寺下郷神社境内 三千三百八十八町是淨水寺布薩田如件 釋迦院者僧藥蘭之秘伽藍成如件 天長三年二月三日	

淳和 天長 五 戊申 一四八八 （八二八）	美濃長瀧寺鐵燈爐銘　（貼）飛驒古川人何某ノ筆記ニ所載也長瀧寺一老僧ノ話ニハ天延元年ノ鉄燈爐ニテ社頭ニ秘シテ漫觀ヲ許サストモ云並擧テ後考ヲマツモノ也天延元年ハ天長五年ヨリ百十六年也 諸願成就滿足也奉寄進金灯爐者白山長瀧寺天長五年□□六月尾州山住人水野 勘左衛門
六 己酉 一四八九 （八二九）	平安錦小路新町西亀龍院梁簡銘　天長六年酉八月建立　（都名所拾遺）

七 庚戌 一四九〇（八三〇）

蜷川家藏古土器

〔增〕武藏橘塲法源寺二世了海墓碑（集古一滴）

權大僧都了海法印天長七庚戌年四月十五日

八 辛亥 一四九一（八三一）

河内眞念寺石佛（日本金石年表）

九 壬子 一四九二（八三二）

淳和

天長一〇

癸丑

一四九三

（八三三）

奈良一乘院御藏伊豆內親王願文　橘逸勢書

菩薩戒弟子從五位下藤原朝臣平子稽首和南　奉納山階寺東院西堂香燈讀經料事

側聞惟父惟母慈之悲之者云云　天長十年九月廿一日梵釋四王鹿取鹿嶋相殿枚罡四

所大神證知證成改變却磐善不破矣而受遺言口內親王伊都

〔朱〕好古小錄曰橘逸勢書眞蹟ノ存スル者伊內都親王願文ノミ聊唐人ノ氣アリ

仁明 承和元 甲寅 一四九四（八三四）	伊勢菩提山藏舟板名號 〔朱〕伊勢名所圖會所載〔増〕恐ラク後世ノ僞作歟 承和元年三月十五日空海刻之
二 乙卯 一四九五（八三五）	承和昌寶 續日本後紀正月戊辰詔懋遷之軌標自昌言交貿退而取諸噬嗑則知龜文人幣興於曠時蝸影栖緡彰於舊術姬王圜法有無以之化居漢室泉刀歛散由其不遺斯固邦家取要配地馬而无彊公和攸宜擬天龍而自遠然而權輕作重沿世或悛子去母隨適時開務况年祀浸久資幣已賤不有平量何救流弊是以今制新錢以叶通變文曰承和昌寶以新幣之一當舊錢之十新之與舊宜令並用

仁明 承和三 丙辰 一四九六（八三六）	河內觀心寺藏四至封疆之官符 承和三年閏三月十三日
四 丁巳 一四九七（八三七）	
五 戊午 一四九八（八三八）	
六 己未 一四九九（八三九）	

七 庚申 一五〇〇（八四〇）

唐臺州史漆邁與圓載印記 〔朱〕眞書唐院藏 隣交徵書

圓載闍梨是東國至人洞西竺妙理梯山航海以月繫時涉百餘萬道途之勤歷三大千世界之遠經文翻於貝葉鄉路出於扶桑云云開成五年

八 辛酉 一五〇一（八四一）

九 壬戌 一五〇二（八四二）

仁明 承和 一〇 癸亥 一五〇三 （八四三）

伊勢安濃郡塔世村土中所出石器

栗原信充曰文化六年八月十八日[illegible]九寸五分同年九月廿一日同様ノ物ヲ得タリ大ニハ比佐津知社藤原清兄ト有シト云（[illegible]）

一一 甲子 一五〇四 （八四四）

一二
乙丑
一五〇五
（八四五）

新鑄開元通寶　唐武宗會昌五年背文福平丹梁洛等數品皆世ニ傳ハル處製作麁悪文字漫暗

一三
丙寅
一五〇六
（八四六）

一四
丁卯
一五〇七
（八四七）

尾張熱田宮神寶　承和十四年丁卯三月七日太政官符　同年閏三月十四日太政官符

仁明

嘉祥　元　戊辰　一五〇八（八四八）

長年大寶

續日本後紀九月乙亥詔　觀夫洞八連三重規疊短莫不交易以強國代遷以利故鷹揚神文立九府之圜經龍相天人施五銖之異制象乾坤之方圓同川岳而流積無遠不往無深不臻便用輕通家國同利但輕重有異子母相通影入星楡形圖水荇用捨之端無定小大之變隨時今者天賜嘉祥曆改年號若使銖文貨制仍舊不悛恐乘變通之規或曰惟流弊之咎宜改舊貫於鳧錙磨新彩於金刀文曰長年大寶一以當舊之十新之與舊並用雜行將令用而不倦既富之而教之

二　己巳　一五〇九（八四九）

三 庚午 一五一〇（八五〇）

尾張熱田神寶　嘉祥三年庚午二月九日太政官符　同年三月十一日同月廿二日太政官符

文德 仁壽元 辛未 一五一一（八五一）

〔增〕武藏橋𡋽法源寺碑（日本金石年表）

二 壬申 一五一二（八五二）

〔增〕武藏秩父郡坂本村碑（日本金石年表）

三 癸酉 一五一三（八五三）

文德 齊衡元 甲戌 一五一四 （八五四）

〔增〕武藏橋場法源寺三世惠海碑（集古一滴）
齊衡元甲戌年四月十五日

二 乙亥 一五一五 （八五五）

三 丙子 一五一六 （八五六）

天安元 丁丑 一五一七 （八五七）

二 戊寅 一五一八（八五八）	
	比叡山西寶幢院鐘 〔增〕山城國愛宕郡岩倉村大雲寺藏 明治三十九年四月國寶指定
	〔增〕比叡山延曆寺西寶幢院鳴鐘天安二年八月九日至心（鑄）甄
	唐朝散大夫嚴修睦與圓珍印記 三井唐院藏 〔朱〕隣交徵書
	圓珍上人遠辭本國來赴大唐問法尋師頗得宗旨傳寫經義益見精勤洞曉清淨之門深知生滅之理懇請印狀以表行由便遂所懷亦足爲美　大中十二年四月八日
清和 貞觀元 己卯 一五一九（八五九）	
	饒益神寶
	三代實錄四月二十八日詔　書稱科斗篆籀之訓斯彰簡號韋編交易之方日遠是以姜公通市井之貨齊國大彊鶡夷善發歛之居陶葉爰盛遠則赤側白金近則鵝眼綖環順世而異名逐時而輿利但權輕作重子去母隨誠是曆年之壽深遂知行用之彌賤宜改舊幣更制新錢勒此變通救流弊文曰饒益神寶一以當舊之十即舊之與新並令雜用

清和
貞觀二
庚辰
一五二〇
（八六〇）

三
辛巳
一五二一
（八六一）

四
壬午
一五二二
（八六二）

一五二三（八六三）	癸未	五

陸奥欅木郡陸奥介高道墓
刻曰高道墓　貞觀五年五月
〔朱〕好古小錄云土人傳云高道蝦夷ト戰死スト按文德實錄云天安二年正月甲申授正六位上坂上大宿禰高道從五位下己酉爲陸奥介

大和赤埴郡佛隆寺鐘銘　古鐘今亡
覺王權出轉化衆生密（一本圓）敎深（一本妙）妙法覺悟迷情（一本沙）桑門賢（堅一本）惠頂戴密法四（心一本）臍雕鏤四安樂行靈山遠敎近付圓形萬里求法無還俗憂仙橋花頂遇而皆遊日唐兩國付屬領收生長忍土受遺靈臺有爲緣盡無漏軒廻眞遊（遠一本）己還世路旋哀强望不朽式慰將來仁壽二歲月在夏中自書自撰虔建佛隆尋法界宮期三會衆龍花未發莫墜遺風以此功德同及四恩決無明瞙瞻仰世尊悠々三界蠢々四魂刀輪永息早出苦門貞觀五年九月十一日都維那師僧觀濟寺主都維那僧觀敎權寺主都維那僧法朝別當都維那僧仲盛檢校威儀師僧明俊
〔朱〕朝野群載亦出之
〔朱〕密法一作妙經、四臍一作心臍、己還一作已遠、旋一作徒哀、尋法界宮一本作持釋迦敎、
〔朱〕穗井田忠友曰佛隆寺現存ノ鐘ハ享保六年三月十五日ノ銘アリテ古銘ト徵シテ覺王權出以下ノ文ヲ擧タリ又彼寺ニ古鐘ノ破片ヲ藏スト聞テ乞テ視シニ厚サ纔ニ五六分ノモノ也是貞觀舊物ノ破片ノニアラス大工九郎兵衛ノ六字アリテ決シテ貞觀ノ鐘ノ人名ニ非ズ然レバ今所懸鐘ハ改鑄三度ノ物ナル事明著也

清和 貞觀六
甲申
一五二四
（八六四）

七
乙酉
一五二五
（八六五）

唐開元寺鐘銘 〔朱〕銘文都氏文集所載銅鐘存亡今不可知
大唐明州開元寺鐘銘一首並序 乙酉歲二月癸丑十五日丁卯
日本國沙門賢直敬造銅鐘云云

八 丙戌 一五二六 (八六六)	九 丁亥 一五二七 (八六七)	一〇 戊子 一五二八 (八六八)	一一 己丑 一五二九 (八六九)

清和 貞觀 一二

庚寅 一五三〇 （八七〇）

貞觀永寶 三代實錄正月二十五日詔

夫古先哲王所以立鐵官設圜法者以其能權斂散通有無遠近同施公私共利也但始終難一興廢有時非因變通何激風化是以輕重不定大小無常沿世而分形適時而異稱朕冀政令之簡要嫌貨之類改歲序雖積錢文不新今聞流弊尤甚交貨多妨囊裡貯而難資杖頭懸而令用既非泉流之喩還作姧詐之煩宜變舊色於青蚨驚聽於黔首文曰貞觀永寶一以當舊之十母子相隨並共通用庶俾下民之得宜將招上天之冥祐

咸元通寶 唐桂陽監王彤所鑄進停廢不行

一三 辛卯 一五三一 (八七一)	一四 壬辰 一五三二 (八七二)	一五 癸巳 一五三三 (八七三)	一六 甲午 一五三四 (八七四)
武藏比企郡岩殿山觀音閣大般若經 每卷跋文、提醒紀談 貞觀十三年歲次辛卯三月檀主前上野國權大目從六位下安倍朝臣小水麻呂			

淸和

貞觀 一七

乙未

一五三五

（八七五）

武藏牛嶋牛御前社碑　高三尺九寸餘、幅一尺九寸餘

奉造立釋迦像一軀法花千部　明王院

貞觀十七乙未天三月日

（朱）江戸名所圖會云過年土中所得法華ノ二字貞觀ノ二字剝缺鮮明ナラスト云ヘリ

山城高雄山神護寺鐘銘（朱）好古小錄曰敏行朝臣書高雄山鐘銘ノ外一字其書ヲ見ス鐘銘ハ徐浩ノ風アリ

愛當之山神護之寺三寶旣備六度無虧唯所有梵鐘形小音窄故禪林寺少僧都眞紹和尙始發弘願有心改鑄鎔範未成祓衣早化檀越少納言從五位上和氣朝臣彝範悼和尙之遺志尋先祖之舊蹤以貞觀十七年八月二十三日雇冶工志我部海繼以銅一千五百斤令鑄成焉恐年代久遠後人不知仍聊記於鐘側右少辨橘朝臣廣相之詞也

銘一首八韻

傳音在器證果惟因佘祖初業厥孫聿遵宿昔三尺今日千斤體有寬窄功無舊新山聲萬歲谷響由旬聞宜覺夢扣即歸眞慈周世界感及非人彫琢勝趣豪叟當仁參議正四位下勘解由長官兼式部大輔播磨權守菅原朝臣是善銘圖書頭從五位下藤原朝臣敏行書

一八 丙申 一五三六 (八七六)	陽成 元慶元 丁酉 一五三七 (八七七)	二 戊戌 一五三八 (八七八)
		吉野山櫻本坊所傳劍 讃州高篠行光 元慶二年ノ銘

陽成　元慶三　己亥　一五三九　（八七九）

山城元慶寺鐘　菅原道眞公（增）今亡

此寺之有此鐘弘誓甚深至心無等元胎發願遇其人之開八萬歲九乳翹誠待彼力之及三千界是故日識內應霜氣外催皇帝馭曆之四歲己亥月建庚午八日丁酉金火用事治鑄施功謹禪器也唱梵音也欲使有緣行道之徒窺圭漏以知警誡無明受苦之宅遂槌風以證菩提如是功德不可思量國土衆生同大歡喜乃有敕勒銘曰鳳曆無限龍銜有機睿情一往凡識三歸念發丹懇功成翠微令辰器備旁午聲飛動自虛楷盛於漸稀見聞踊躍幽顯庶幾滿恒沙界超大鐵圍累刼離縛長夜排扉合應皆是智音孰非以無礙意施彼神威元慶己亥五月

四 庚子 一五四〇（八八〇）	五 辛丑 一五四一（八八一）	六 壬寅 一五四二（八八二）	七 癸卯 一五四三（八八三）

陽成 元慶八	甲辰	一五四四	（八八四）
光孝 仁和元	乙巳	一五四五	（八八五）
二	丙午	一五四六	（八八六）
三	丁未	一五四七	（八八七）

宇多 四 (元) 戊申 一五四八 (八八八)		
寛平 元 己酉 一五四九 (八八九)		
二 庚戌 一五五〇 (八九〇)	〔増〕和泉犬鳴谷犬碑 犬靈大菩提寛平二年三月十五日 熱田神寳緣起一卷 貞觀十六年守部宿禰清稻撰 寛平二年藤原村椙重修古寫本 寛平大寳 〔朱〕拾芥抄	

宇多
寛平三
辛亥
一五五一
（八九一）

四
壬子
一五五二
（八九二）

五
癸丑
一五五三
（八九三）

六
甲寅
一五五四
（八九四）

山城吉祥院鐘 銘 〔朱〕鐘銘集菅公ノ作トス蓋シ支干ヲ詳ニセス錄シテ後考ヲ俟ツ
科限非器遠覃是仁和心播響應手成因他利弘誓我歸至眞魔降伏刀劔解輪

七

乙卯

一五五五

（八九五）

大和大安寺縁起　〔朱〕大和般若寺藏、菅公眞蹟

聖武天皇奉遵先帝遺詔曰夜紹隆此寺遍降綸命搜求良工時有稱沙門道慈者奏天皇曰道慈問道求法自唐國來聖朝但有一宿念欲造大寺偷圖取西明寺結構體天皇聞而大悅以爲我願滿也天平元年己巳更勅道慈改造此寺即以道慈補律師兼賜食封一百戶褒賞有員不具記之二七年間營造既成天皇歡悅開大法會施入三百町水田得度五百人之沙彌十七年乙酉改大官大寺以爲大安寺詔曰令天下大平安樂之義也同國復有東大西大兩大寺故俗呼爲南大寺焉外從五位下行左大史兼春宮大屬壬生忌寸望村去七月十七日侶儞遣唐副使從五位上守右少弁兼行式部少輔文章博士讚岐介紀朝臣長谷雄傳宣中納言兼右近衛大將從三位行春宮大夫藤原朝臣時平宣奉勅宣須令大安寺司等勘申彼寺建立代々緣起者仍令勘出從流記十二卷中准知弘仁承和八年之宣旨等例畧取注進如右寬平七年八月五日俗別當遣唐大使中納言從三位兼行左大辯春宮權太夫侍從菅原朝臣

八	丙辰	一五五六（八九六）	大和長谷寺緣起 菅公眞蹟 寛平八年二月十日 執筆遣唐大使中納言從三位兼行左大辯 春宮大夫式部大輔侍從菅原朝臣道眞 〔朱〕貞幹好古小錄曰長谷寺ノ緣起公ノ眞蹟也又大安寺緣起モ公ノ撰幷書ト云書體長谷寺ノ緣起ト似タル所ナシ
九	丁巳	一五五七（八九七）	
醍醐 昌泰元	戊午	一五五八（八九八）	大和吉野山銅鳥居
二	己未	一五五九（八九九）	〔增〕武藏法源寺（集古一滴） 昌泰二己未歲七月日

三 庚申 一五六〇（九〇〇）

尾張熱田宮神寶 昌泰三年庚申四月廿一日大政官符傳云菅公御書

延喜元 辛酉 一五六一（九〇一）

二 壬戌 一五六二（九〇二）

菅公御書 在所不詳予見榻本〔增〕嘉永壬子之春得榻本後世ノ僞作歟

坤天下太平國家安穩五福意順六德兼備延喜二年正月廿七日應需菅原道眞添書之

三 癸亥 一五六三（九〇三）

醍醐 延喜 四 甲子 一五六四 （九〇四）

豐後宇佐八幡宮鐘　左文

天復四年甲子二月廿日松山村
大寺鐘成□文節薄本和□上本村牛
蓮華一合入金五千八十方合停□

〔朱〕栗原信充手錄〔朱〕唐昭宗天復四年甲子也
三美㒵雜記ニ狩谷掖齋ハ朝鮮鐘ナルベシト云リト記ス
〔增〕豐後國宇佐郡宇佐町、明治三十九年四月國寶指定

五 乙丑 一五六五 （九〇五）

六 丙寅 一五六六 （九〇六）

〔增〕大和橋本廢寺唐草瓦

延喜六年造壇越高階茂生

（考古學雜誌第五卷第十二號二十四頁）
水木要太郎藏

七 丁卯 一五六七 （九〇七）

延喜通寶　〔朱〕拾芥抄

八 戊辰 一五六八（九〇八）	九 己巳 一五六九（九〇九）	一〇 庚午 一五七〇（九一〇）
山城白河村天神社鐵鉾銘 長四尺二寸許 〔朱〕好古小錄所載 （附圖參照） 延喜八年三月十三日一之鉾		前蜀王建永平元 永平元寶

醍醐

延喜 一一

辛未

一五七一

（九一一）

土佐寺山鐘　〔增〕土佐國幡多郡平田村赤龜山寺山院延光寺藏
龍頭ノ高サ約二寸五分、龍頭下迄ノ高九寸七分、徑七寸六分

〔增〕延喜十一[年]歲[次]辛未正月九日甲午鑄彌勒寺鐘

〔增〕鑄出銘四行（年）（次）ノ二字土佐國古鐘類聚ニナシ、第一行、第二行各四字、第三行、第四行各五字、拓本ニヨリ配字ト磨滅ノ跡トヲ考フレバ第一、第二ノ兩行モ亦五字ナリシガ如ク、第一行ノ（一）字ノ下ハ（年）ト讀マル、然ラハ（歲）ハ曆年ノ義ニアラスシテ歲星ノ意トナリ、第二行ハ歲次辛巳正月ナリトノ說從フヘシ（考古學雜誌第六卷第二號山田孝雄氏ノ土佐寺山ノ古鐘）又土佐國古鐘類聚ニ九日甲子ニ作ル三正綜覽ニヨルニ九日ハ甲子ニアラスシテ甲午ナリ、蓋シ拓本ニ徵スルニ（午）字ノ頭磨滅シテ子ノ如ク見ユルニヨリ、甲子ト作リシカ或ハ傳寫ノ誤リ歟、ナホ同書ニ（按彌勒寺在山城國葛野郡寺今廢）トアレド確證ナシ、原本此鐘ヲ延喜十三年ノ條ニ置キ此處ニ彌勒寺鐘ヲ擧グ、著者ガ彌勒寺鐘トハ土佐寺山鐘ヲ指セルカ或ハ銘文ニ彌勒寺鐘ノ文字ヲ見テ別箇ノモノト考ヘシ歟、後考ヲ俟ツ、今增補ニ際シ十一年條下ノ彌勒寺ノ鐘ヲ削リテ十三年條下ノ土佐寺山鐘ヲ擧ゲタリ

燕劉守光應天元寶今不傳

十二

壬申

一五七二

（九一二）

攝津總持寺鐘　古鐘今亡銘文朝野群載所出

學若祖父越前守藤原朝臣歸心於普門妙智傾首於無礙大悲而墜露溘然閃電倏爾納言尊考軫先業之不遂歡善因之未成多以黃金附入唐使大賀御井買得白檀香木造千手觀世音菩薩像一體仍建道場於攝津國島下郡安置此像號曰總持寺於是第二男備前權介公利鑄豊鐘一口于時延喜十二年夏四月八日爲銘曰命大鑪冶施錘師工鴻鐘協律鳧乳應宮聲徹霄漢響傳晚風感動隨聽懺悔生夢徹告諸佛唱導大衆雖遠必達無幽不通悲想慧下阿鼻獄中長夜知曉妄有歸空觀音依願先公善功俱滿三界拔出焚籠

醍醐 延喜 一三 癸酉 一五七三（九一三）	土佐山寺鐘 〔增〕十一年ノ條參照
一四 甲戌 一四七四（九一四）	大和東大寺所傳銅鉢 銘 〔朱〕忠友曰今秤九百五十六匁二分五厘 延喜十四年十二月十一日別當大法師智愷任時作入重大五斤五兩 〔增〕延喜以下入ニ至ル二十二字鉢銘、重以下稾銘
一五 乙亥 一五七五（九一五）	前蜀王建 通正元 通正元寶
一六 丙子 一五七六（九一六）	前蜀王建 天漢元 天漢元寶

一七　丁丑　一五七七　（九一七）

山城深草道澄寺鐘　此鐘今在于大和榮山寺〔增〕宇智郡宇智村、明治三十年十二月國寶指定

道澄寺者從三位守大納言兼右近衛大將行皇太子傅藤原朝臣參議左大辯從四位上兼行勘解由長官播磨權守橘朝臣爲報四恩濟六趣合誠勠力所建立也堂宇比甍南北輪奐尊像接座前後跏趺兩相公宿殖香火之緣生爲瓜葛之戚非唯現世結契闊之情亦欲淨刹共安養之樂故各取其名首字以爲此寺額題所以貽本緣於來代期同志於他生也藤亞相爰命梟匠乃鑄鴻鐘且將令長夜昏迷聞妙聲而知曉苦海沈溺驚梵唄而通津延喜十七年十一月三日銘之其詞云俚師施治菩提催緣虡受必應響高自傳從夕至曉出定入禪傍唱衆聖遙警大仙法喜增感耶夢驚眠通阿鼻獄達有頂天劫數億萬世界三千、音利益無限無邊

〔朱〕穗井田忠友云貞幹小錄ニ道風朝臣書道澄寺鐘銘ノ如キ古今ノ碑銘其右ニ出ル者ヲ見ストト記シ置タルヨリ海内雷同シテ疑フ人ナキハ如何其年歷ヲ推シ見レハ道風其頃十二三歲ナルヘシ天性ノ能書ト云ヒ鐘銘ヲ書ニ至ルヤ近來具眼ノ人有リテ此評ヲ云（一本作出）リ予モ亦是ニ左袒スヘシ

〔頭書〕南畝夢吉云藤原ノ朝臣名ハ道明橘朝臣名ハ澄清ナリヨリテ其名ノ首字ヲトリテ道澄寺ト名付シハ永欣寺ノ事ニ本ツキシナルヘシ

○永欣寺ハ智永惠欣ノ二僧ノ名ヨリ出タル事格古要論ニ出タリ

前蜀王建　光天元　光天元寶

南漢劉龑　乾亨元　乾亨通寶　乾亨重寶

醍醐
延喜一八 戊寅 一五七八 （九一八）
前蜀王衍乾德元
乾德元寶

一九 己卯 一五七九 （九一九）

二〇 庚辰 一五八〇 （九二〇）

二一 辛巳 一五八一 (九二一)	二二 壬午 一五八二 (九二二)	延長元 癸未 一五八三 (九二三)	二 甲申 一五八四 (九二四)
	天贊通寶 遼太祖天贊元		信濃矢代山王宮梁間銘 延長二年甲申八月神主竹田右守太夫 咸康元寶 前蜀王衍咸康元

年	事項
醍醐 延長 三 乙酉 一五八五 （九二五）	桂川甫周藏古鈴銘（附圖參照） 延長三乙酉年十一月廿日
四 丙戌 一五八六 （九二六）	後唐明宗天成元 天成元寶 今世不傳
五 丁亥 一五八七 （九二七）	
六 戊子 一五八八 （九二八）	

七 己丑 一五八九 （九二九）

大和志貴山毘沙門堂飛鉢

〔增〕高五寸四分、口徑二尺八寸大和國生駒郡平群村朝護孫子寺藏

聖德君奉施入金御鉢一口施主前上總講師寛運延長七年歲次己丑

八 庚酉 一五九〇 （九三〇）

朱雀 承平元 辛卯 一五九一 （九三一）

二 壬辰 一五九二 （九三二）

朱雀承平三　癸巳　一五九三（九三三）

甲斐岩殿山觀音堂前三重石塔銘　（朱）信齋紀行

承平三年七月廿五日大檀那廣阿禪尼

四　甲午　一五九四（九三四）

五　乙未　一五九五（九三五）

六　丙申　一五九六（九三六）

七 丁酉 一五九七（九三七）

天慶元 戊戌 一五九八（九三八）

山城松尾明神金皷 〔朱〕追錄三香手錄

〔增〕和泉（泉南郡）安松村石佛（和泉志）

晉高祖天福三 天福元寶

後蜀孟昶廣政元 廣政通寶 〔增〕原本廣政元年トナスモソノ鑄造ハ同十八年即チ我天曆九年ナリ

二 己亥 一五九九（九三九）

〔增〕增田氏所藏鐸（日本金名年表）

閩王延羲永隆元 永隆通寶 大泉今不傳 〔增〕永隆元年ハ非ニシテ永隆四年鑄造チ是トス

朱雀	
天慶 三	
庚子	
一六〇〇（九四〇）	

武藏大宮氷川神社所傳文書
敬白祈願事　夫以氷川大明神者本地寘慮月明晶于東方瑠璃之光垂跡化現之德新利于南贍卒土之濱爰頃年之間有平賊將門忝取掠八州惱亂萬民自稱親王私置諸司蔑如王道忽絡人望暴惡莫甚焉然愚父國香不忍見彼積惡起兵而欲鎭凶徒自把斧越致一戰之日到中矢聿於彼戰場殞命自此逆賊威漸飮四海禍亂起于茲國民不安居然今貞盛繁盛兼任等苟雖以不肖之身起一擧之義兵欲誅朝敵報父仇非神靈加護之力者爭得勝於瞬目之中所仰神威代干戈怨退羅願滿一時丹心有誠玄鑒無誤者先令見一之瑞驗給仍祈願如件　天慶三年正月廿五日平貞盛敬白

伊勢平藏所傳小烏丸太刀
朱雀帝承平壬辰平將門叛天慶戊戌將門殺吾祖平國香明年庚子國香子貞盛射倒將門藤原秀鄕斬其首朝廷賞功授官爵貞盛一箭兼罰國賊與父仇因重賞賜小烏劍與唐皮鎧爾來嫡子相傳自貞盛至貞丈凡三十代自天慶庚子至明和戊子凡八百二十九年也唐皮應仁兵火燒亡小烏免災今尙存貞文自畫其象是實其靈器之餘也明和五年戊子秋八月朔旦伊勢平藏貞丈

四 辛丑 一六〇一（九四一）	五 壬寅 一六〇二（九四二）	六 癸卯 一六〇三（九四三）	七 甲辰 一六〇四（九四四）
		南唐李璟 保大元 永通泉貨 保大元寶	大和大峰藏王堂鐘銘 大和國吉野郡天川村洞川 遠江國佐野郡原田鄕長福寺鐘 天慶七年六月二日 （朱）志友云鄕一本作庄非也又七年六月一本六年七月トス亦非也（朱）追考里人談作天曆六年今不取 （增）總高三尺三寸一分、口徑二尺一寸八分 閩王延義 天德二 天德通寶

朱雀　天慶　八　乙巳　一六〇五　（九四五）

近江日野大宮梁簡銘　閑田耕筆所載蓋異物亡而所藏是摸寫也云尤可惜

大嵩社者天穂日命神世之古趾也於是欽明天皇御宇六年觀瑞以創祠於錦嶽其後天武天皇白鳳甲申仰德更作時於筱谷而奠儀竟備矣雖然赤烏早翔兮春雨點其瑤玄兎速過兮秋露疵其瑶淸宮既廢矣故今復上棟立柱以全其佳躅因以祝冀明謨朗融四裔定焉良弼協和八荒安焉四時序季疾病除焉十兩順節穀梁登焉俯念神明叡聖尙垂皇愍矣敬白天慶八年乙巳八月二日從四位下行木工頭紀朝臣貫之謹誌神主正六位上出雲宿禰貞主工匠無位鞍部稻足

九 丙午 二六〇六（九四六）	村上 天暦元 丁未 二六〇七（九四七）	二 戊申 二六〇八（九四八）	三 己酉 二六〇九（九四九）
			漢高祖劉知遠乾祐二 漢通元寶

年	干支	皇紀	西暦	事項
村上 天暦四	庚戌	一六一〇	（九五〇）	
五	辛亥	一六一一	（九五一）	
六	壬子	一六一二	（九五二）	遼穆宗應暦二 應暦通寶
七	癸丑	一六一三	（九五三）	

八	甲寅	一六一四（九五四）

九	乙卯	一六一五（九五五）
周世宗顯德二	周元通寶	五代史周紀論曰世宗即位之明年廢天下佛寺三千三百三十六是時國中錢乏乃詔天下銅佛以鑄錢

村上	天曆一〇	丙辰	一六一六	（九五六）

土佐蓮臺寺鐘　今在吸江寺〔增〕土佐國長岡郡五台山村吸江寺

〔增〕蓮臺寺天曆十年二月之頃鑄陶鐘矣

平安空也堂叩鐘銘　擁書漫筆

天曆十年伊丹住貞俊

〔增〕琉球波上宮鐘　高二尺一寸四分、口徑一尺八寸五分、銘陰刻

退火郡大寺鐘表　夫鐘者三身摠名　也靜如金山應則　天雷猗裁大覓曉
度三界之群迷女　第子明好子正朗　壽剛者上求菩提　正路下濟群生昏
衢敬造洪鐘仰歸　梵磬　伏願今上　聖帝德被有裁次　願國內安泰法界
芒々咸登彼岸　維顯德參季太歲丙辰正月廿五日記　（以上第一面）
弼造都領佐齋鄭達喧公
禁敎指揮都領釋惡祐 釋能會
都監典村主明相鄉庚順典吉貞覔能達 能寂日京如幹如良吉
諸檠事使內道俗並三百許人　（以上第二面）

〔註〕此鐘ハ即チ朝鮮鐘也、顯德ハ後周ノ元號、那覇區若松町波上宮藏　明治四十年五月國寶指定

天德元 丁巳 一六一七（九五七）	〔增〕法隆寺傳來御物如意 金銅雲形、唐草毛彫、破損修繕、柄朱塗、長九寸二分、頭部横八寸八分、長（莖共）一尺一寸二分、傳行信僧都所用 施入（柄刻字云表） 天暦十一年還入善勝院長財（裏）
二 戊午 一六一八（九五八）	〔增〕東京帝室博物館藏瓦經破片 縦最長四寸二分、横最長三寸四分 南城州男山醫王山藥師寺　天平年創立　□瓦天德二年之製法花□ 乾元大寶 日本紀畧曰圖書充阿保懷之書錢文
三 己未 一六一九（九五九）	南唐李璟中興元 開元通寶 大唐通寶 唐國通寶 陶岳貨志錄曰徐鉉篆

村上　天德四　庚申　一六二〇（九六〇）	
應和元　辛酉　一六二一（九六一）	
二　壬戌　一六二二（九六二）	

三

癸亥

一六二三

（九六三）

攝津長田神社石燈臺　社記曰應和三年七月十五日祈雨於當社時所寄附

〔增〕大和法隆寺佛名經函銘　（日本金石年表）

〔增〕安藝照蓮寺鐘　朝鮮鐘高サ龍頭三寸七分、龍頭下迄ノ高一尺七寸、徑一尺一寸九分
安藝國賀茂郡竹原町照蓮寺藏、明治四十三年四月國寶指定、

伐昭大王　當縣聰規沙干峻豊四年癸亥九月十八日古彌縣西院鑄鐘記徒人名䟽同院主人領玄和尙信嚴長老曉玄上坐欣宜㷅丈言□大百十一羅州只未百十一

〔註〕鑄出銘文中ノ文ハ進ト讀ミ百七ヲ百十一ト讀ム人アリ。

村上
康保元
甲子
一六二四
（九六四）

二
乙丑
一六二五
（九六五）

三
丙寅
一六二六
（九六六）
信濃戸隱山釋長明火定所五輪石塔婆銘
康保三丙寅　此外文字不見云

四
丁卯
一六二七
（九六七）

冷泉 安和元 戊辰 一六二八 （九六八）

趙宋太祖開寶元

宋通元寶

私云奇紗百圓闊緣ノ宋通錢ヲ擧ケテ開寶六年鑄ト云フ

二 己巳 一六二九 （九六九）

圓融 天祿元 庚午 一六三〇 （九七〇）

二 辛未 一六三一 （九七一）

圓融

天祿 三

壬申

一六三二

（九七二）

山城施無畏寺銘　源兼明　此銘載鐘銘集于蓋未詳干支俟後考

北山有寺曰施無畏云排丹霞聊啓銀地昔我先妣語吾往事少奉巾櫛久從珠翠淸凉秋景空入舊思上陽春色常在夢寐蒼梧慘雲綠竹含淚曉鏡落飾朝案却味習聖皇恩昧空王義古之歡樂今還懺愧問釋迦文聞無盡意觀音弘誓不可思議終宵翅誠達且不睡望月方滿逌露未墜靑蓮眼開白毫相備伽藍纔成繪素巳至即造乾槌以充法器吉日遇奇良治呈異鑄作妙音銘著鏤字飛霜警節鷲露驚知德之隣兮善是遠自界期大千天梭第三上從有頂下抵阿鼻回此一音濟彼群類

天延元	二	三
癸酉 一六三三 (九七三)	甲戌 一六三四 (九七四)	乙亥 一六三五 (九七五)
	安井門跡御藏制札 幅二尺二寸長一尺二寸厚三寸以榎造之 (朱)私日眞僞未詳 勅許羅生門變爲退治蒙攝津源朝天延二年二月	

年號	干支	紀年	記事
圓融 貞元 元	丙子	一六三六（九七六）	宋太宗太平興國元　太平通寶
二	丁丑	一六三七（九七七）	
天元 元	戊寅	一六三八（九七八）	
二	己卯	一六三九（九七九）	遼景宗乾亨元　乾亨元寶　（朱）錢書曰此錢今不傳俗以南漢乾亨錢爲遼鑄非也

年	事項
圓融 天元 三 庚辰 一六四〇（九八〇）	甲斐明見村荒神石室柱銘 天元三年 〔朱〕信齋紀行
四 辛巳 一六四一（九八一）	
五 壬午 一六四二（九八二）	
永觀 元 癸未 一六四三（九八三）	遼聖宗統和元 統和元寶

圓融 永觀二 甲申 一六四四（九八四）	花山 寬和元 乙酉 一六四五（九八五）	二 丙戌 一六四六（九八六）	一條 永延元 丁亥 一六四七（九八七）

年	記事
二 戊子 一六四八（九八八）	
永祚元 己丑 一六四九（九八九）	佐竹家藏 八稜鏡（集古十種） 永延三年八月三日幸囗奉始八莖九尊囗囗願主傔文 伴守光女且主伴希子願也 佛師天台僧蓮如
正曆元 庚寅 一六五〇（九九〇）	宋太宗淳化元 淳化元寶 宋史曰淳化改鑄親書淳化元寶作眞行草三體

年	記事
一條 正曆 二 辛卯 一六五一（九九一）	古瓦硏銘 穗井田忠友曰此硏不用正曆之號蓋庚寅十一月廿日改元正曆也閑散隱士未聽新號之令耳 永祚三年辛卯六月日
三 壬辰 一六五二（九九二）	
四 癸巳 一六五三（九九三）	

年號	干支	紀元	西暦	事項
五	甲午	一六五四	（九九四）	
長德元	乙未	一六五五	（九九五）	宋太宗至道元 至道元寶　私曰此錢有眞行草三體恐是亦宸書
二	丙申	一六五六	（九九六）	
三	丁酉	一六五七	（九九七）	〔增〕和泉菅原神社水盤　堺市、眞僞明カナラズ

一條 長德四 戊戌 一六五八（九九八）	伊勢大神宮正印筥 〔增〕銅製、身高二寸八分五厘、深二寸六分三厘、直徑四寸一分强 大神宮司正印筥元雕木也而大司公忠長德四年五月廿日鑄改於銅 〔朱〕貞幹集古圖所載 〔增〕銘ハ身ノ側面ニアリテ二重文字ノ陰刻七行各行各四字宛 〔增〕出羽霞城實方朝臣碑 （日本金石銘年表） 宋眞宗咸平元 咸平元寶
長保元 己亥 一六五九（九九九）	
二 庚子 一六六〇（一〇〇〇）	

三　辛丑　一六六一（一〇〇一）	
四　壬寅　一六六二（一〇〇二）	
五　癸卯　一六六三（一〇〇三）	多武峯紫蓋寺增賀上人石塔婆　〔增〕大和國高市郡高市村尾曾（奈良縣金石年表）
寛弘元　甲辰　一六六四（一〇〇四）	宋眞宗景德元景德元寶

一條 寛弘 二 乙巳 一六六五 (一〇〇五)		山城紫野正受院鐘 此鐘奉鑄立而鎭座感神院社寛弘第二暦云云桓武御宇延暦二年紫野今宮社大神宮號承應二年癸巳十二月元祿八年乙亥年三月良日正受院住持端堂肅記焉 私云此鐘初鑄寛弘第二鑄承應第三鑄元祿ニテ奇トスルニ足ラスト雖銘文中地名ニ就テ可考事アレハ記載ス 〔増〕今此鐘亡失セルカ考古學雜誌第四卷第五號田坂謙一氏ノ京都ニ現存セル梵鐘中ニモ見ヘズ 〔増〕大和木幡寺鐘（日本金石年表）今亡
三 丙午 一六六六 (一〇〇六)		

四	丁未　一六六七（一〇七）

〔增〕大和國金峰神社經筒

金銅製、總高一尺二寸、身高一尺一寸七分、徑五寸二分
蓋外被蓋高一寸七分、徑五寸五分（附圖參照）

南瞻部州大日本左大臣正二位藤原朝臣道長百日潔齋率信心道俗若干人以寛弘四年秋八月上金峰山以手自奉書妙法蓮華經一部八卷無量義經觀普賢經各一卷阿彌陀經一卷彌勒上生下生成佛各一卷般若心經一卷合十五卷納之銅篋埋于金峰其上立金銅燈樓奉常燈始自今日期龍華晨於是弟子焚香合掌白藏王而言法華經者是爲奉報釋尊恩爲値遇彌勒親近藏王爲弟子无上菩提先年奉書欲覔參之間依世間病惱事與願違爲恐浮生之不定且於京洛供養先了合猶所以埋於玆者蓋償初心復始願之志也阿彌陀經者此度奉書是爲終臨時身心不散亂念彌陀尊往生極樂世界也彌勒經者又此度奉書是爲除九十億劫生死之罪證无生忍遇慈尊之出生也仰願當慈尊成佛之時自極樂界往詣佛所爲法華會聽聞受成佛記其庭此所奉埋之經卷自然湧出令會衆成隨喜矣弟子得宿命通知今日事如智者之記靈山於前會文殊之識往劫於須臾者歟嗚呼發菩提心懺無量罪運東閤之匪石加南山之不騫埋法身之舍利仰釋尊之哀愍藏信心之手跡憑龍神之守護願根己固我望己足抑憩一樹之蔭飮一水之流猶不是小緣況此之道俗若干人或有以香花手足與此善者或有以翰墨工藝從此事者南無敎主釋迦藏王權現知見證明願與神力圓滿弟子願法界衆生依此津梁皆結見佛聞法之緣

弟子道長敬白　寛弘四年丁未八月十一日

〔註〕銘、側面陰刻、又身底面ノ刻銘ニ「伴延助」「艮明」又蓋ノ外側ニ二重文字ノ梵字十二字アリ、發掘年月不詳、經筒内ニ紺紙金泥ノ无量義經説法第二ノ殘缺二枚（十七行五十字）ノ外伴出物ニ經箱アリ、大和國吉野村金峰神社奥ノ宮境内井筒ヶ嶽山麓出土、明治三十五年四月國寶指定金峯神社藏

〔增〕東京美術學校藏瑞花雙鸞八稜鏡裏面針書

寛弘四丁未年戊午五月廿九日甲午始

八	七	六	五
辛亥 一六七一 （一〇一一）	庚戌 一六七〇 （一〇一〇）	己酉 一六六九 （一〇〇九）	戊申 一六六八 （一〇〇八）
		世尊寺行成郷書 正一位高野大明神 裏書 寛弘六年己酉正月二十八日甲申書之參議正三位行右大辨兼侍從美作權守 藤原朝臣行成	北宋眞宗 大中祥符元 祥符元寶 祥符通寶

三條 長和 元
壬子
一六七二
（一〇一二）

古斗　長和壬□月

（朱）貞幹日錄所記蓋不錄於所在可惜（朱）好古日錄曰一升六合許ヲ受蓋山科斗ノ二升斗ナラム底板ニ長和壬子□月ノ數字ヲ鐫ル又四面ニ納世寳ノ三字及〻ヲ墨書ス長和中ノ書ニハ非ルベ〻シ何ノ意ヲナル不知

遼 耶律隆緒 開泰元　開泰元寳

二
癸丑
一六七三
（一〇一三）

年	干支	記事
三	甲寅 一六七四 (一〇一四)	
四	乙卯 一六七五 (一〇一五)	關白道長公贈圓通大師書 念救來授手札筆語如面喜與感生珍重云云夏晩候也云云長和四年六月日日本國右大臣藤原道長
五	丙辰 一六七六 (一〇一六)	

後一條

寛仁元 丁巳 一六七七（一〇一七）

攝津小橋村比賣許曾社所傳文書

攝津守源賴光

丹後國大江山夷賊爲退治蒙勅命發向訖速可祈比賣許曾大神靈驗可抽丹誠之狀執達仍如件寛仁元丁己年正月十一日 社家

〔朱〕卯花園漫錄所載眞僞未詳〔朱〕一書所載不知眞僞〔增〕恐ラク後世僞作ナルベシ殊ニ寛仁元年ハ四月二十三日ノ改元ナレバ日附ノシニテモ明カナルベシ

宋眞宗天禧元 天禧通寶

二 戊午 一六八七（一〇一八）

〔增〕大阪正祐寺鐘　大阪市上本町正祐寺藏、明治四十二年九月國寶指定

菩薩戒弟子高麗國興麗府棟樑僧彥修名保
戶長陪戒校尉金珪舍
聖壽天長鴻基地久……上與
立願鑄成金鐘一口重五百斤觀者□容端正聲響淸高掛於當府內陪
以寺者□竺謹疏　天禧三年龍集己未十二月　日　謹　記

〔註〕銘第一行ノ「名保」及第四行ノ「重五百斤」ノ六字ハ陰刻ニシテ他ハ鑄出シナリ第一行「金」字ノ下ハ「珪舍」ナルベク、第三行第六字目ハ攝河泉金石文ニ基ニ作リ同行末字チ興トシ、高田十郎氏ノ雑誌「奈良」ハ基及與トナス蓋シ拓本ト字句トヨリ考レバ基及興ナルガ如シ、ナホ又ハ此鐘ノ追銘ニ「此鐘久在日向國其製甚古雅也渡來之年代不詳矣有故販於浪花因募檀緣而購得之以遠傳龍華會云爾維明治七年甲戌十一月光照山正祐密寺僧觀空」トアリ

後一條 寛仁四 一 庚申 一六八〇 (一〇二〇)	治安元 辛酉 一六八一 (一〇二一)	二 壬亥 一六八二 (一〇二二)
	遼隆緒太平元 太平元寶 今世不傳	

三	癸亥	一六八三	（一〇二三）	宋仁宗天聖元 天聖元寶
萬壽元	甲子	一六八四	（一〇二四）	
二	乙丑	一六八五	（一〇二五）	

後一條

萬壽　三

丙寅　一六八六　（一〇二六）

〔增〕明治初年獨逸人ヘーレン氏ノ購フトコロトナリテ外國ニ流出シソノ所在不明ナリナ、ホ又コノ鐘ニ關シ次項「肥前惠日寺鐘」參照スヘシ

水野越前侯藏遼代古鐘銘

大平六年丙寅九月日河淸部曲北寺鍮鍾壹軀入重百二十斤棟梁僧談日

〔朱〕屋代弘賢翁（附記）曰此鐘高サ二尺六寸六分半、口ノ徑一尺四寸七分律平調ニ當レリ此鐘モト肥前松浦郡鏡村惠日寺ニ在シト云銘文ニ云處ノ河淸部ハ契丹國志ニ云遼東邊遼不記州十餘縣外見記五處ト題シテ金肅河淸曷童五花振武ト見ユ重百二十斤ハ今ノ十八貫六百匁アリ是ヲ百二十一ニ除ハ百五十三匁七分一厘九毛ナリ權量揆亂ニ宋ノ一斤今ノ百五十三匁六分ト云モノ甚相近シ大平ハ遼ノ聖宗ノ四十四年宋ヘ仁宗ノ天聖四年後一條帝ノ萬壽三年ニ當レリ此ノ銘ノ外ニ奉施入勝樂寺追鐘一口右意趣者爲天長地久國土四海靜謐殊僧應信檀那沙彌妙賢心中所願皆令滿足法界衆生平等利益而已應安七年甲寅十一月日願主沙彌妙賢敬白ト云ル識文アリ此勝樂寺ハ同郡牛田村ニ在シカト廢シテ後明應ノ比其佛具ヲ用ヒテ禪刹ヲ鏡村ニ再建シ惠日寺ト號スト云フ

〔增〕肥前惠日寺鐘　肥前國東松浦郡鏡村大字鏡惠日寺藏
大正二年九月國寶指定

大平六年丙寅九月日河淸部曲北寺鍮鑄壹軀入重百二十斤棟梁僧談日

此鐘銘ノ水野侯藏鐘（即チ勝樂寺鐘）ノ銘ト同一ナルヨリ一時ソノ存否ニ就イテ異說アリシモ全ク別物ナルコト明白トナレリ、高橋健自氏云、惠日寺ハ肥前國東松浦郡鏡村大字鏡ニアリ鐘ハ今ソノ鐘樓ニ懸ク前揭勝樂寺鐘ト同一ナル原銘アリタメニ前者ニ比シテ異ナルトコロハ追銘ノ存セザルニアルモノノ如シ是レ一時兩者ノ混同セラレシ所以ナラン

江戶一商家藏鬼面古鈴銘

萬壽三歲九月七鑄之

〔朱〕私曰此鈴曲尺ヲ以テ量ルニ九寸八分銘文一行鬼面ノ方ヲ下トス古色可愛是マデ具眼ノ鑒定ヲ經タリシ物ト云フ〔增〕眞僞ニ就キテハ研究ノ餘地アリ

四
丁卯
一六八七
(一〇二七)

長元 元
戊辰
一六八八
(一〇二八)

二
己巳
一六八九
(一〇二九)

後一條　長元三　庚午　一六九〇（一〇三〇）

攝津長柄鶴滿寺鐘銘　〔增〕梅原末治氏云鐘身高二尺六寸旗挿高五寸八分
口徑一尺九寸六分口部厚一寸七分

大平十年二月日　寺棟梁□□
青鐘入三百斤　長二尺四寸二□

〔朱〕此鐘新銘文　長門州厚東郡宇部鄕松江山普濟禪寺聞鐘聲愼惱輕智惠長菩提出離地獄生火坑願成佛度衆生皇風永扇帝道遐昌佛日增輝法輪常轉天下太平四海靜謐專祈諸大檀那信力彌堅善根增長二世願聖一切圓滿矢冀山門鎭靜海衆成安脩行有慶進道無魔般若智以現前菩提心而不退四恩總報三有偏資法界含情同圓種智永和五年己未仲呂日

〔朱〕聖遼宗太平十年庚午宋天聖八年

〔註〕鐘銘集青鍾作金銅　如天平十年其誤可知

〔增〕朝鮮鐘寫眞集ニ棟梁□□□トナシ木崎好尙氏ノ攝河泉金石文ニハ棟梁[元]?[康]?□□トナス又拓本ニヨルニ「青鐘入三百斤」ハ「青金鍾入三百斤」ナルガ如シ而シテ此鐘普濟寺退轉後元文ノ頃毛利侯堤防工事中土中ヨリ掘出シ延享年中攝津國西成郡豐崎村大字南長柄鶴滿寺ニ寄附セシト云フ、明治四十三年十月國寶指定

四	辛未	一六九一	（一〇三一）

佐竹家古鏡　〔朱〕集古十種

長元四年六月十三日景々富岡

五	壬申	一六九二	（一〇三二）

平安七觀音院藏古鐘銘　近江大津市別所圓滿院藏　〔增〕銘文陽

太平十二壬申十二月日青鳧大寺」鐘百七十斤大匠位金慶門棟」梁元善十四人戸

長阮賢等

〔朱〕栗原翁信〔一本充〕曰往年三井寺微妙寺開扉〔一本作帳〕ニ所借用是也

寛政七年ノ事ト云フ

〔朱〕私按〔イ曰〕橘氏ノ北窓瑣談ニ此鐘銘ヲ太平四年壬子ト讀〔一本定〕メテ北燕瀉跋太平四年〔一本云太平年中ノ〕物ト定ムル事

今不取

○追考太平ノ號ハ十年ニ盡テ壬申ハ耶律宗眞ノ景福二年ナリ是可疑

〔朱〕位作一本愛慶則〔朱〕鍾北窓瑣談鐘位爲作

十四人戸作十四金長〔朱〕遼太平年間ノ古鍾三四皇國ニ現存スル事奇ト云フヘシ（此項一本ナシ）

〔增〕朝鮮鐘寫眞集「鳧」ヲ「龍」「七」ヲ「六」、「匠」ヲ「□」「門」ヲ「明」「戸長」ヲ「□□」ニ作ル

年	事項
後一條 長元六 癸酉 一六九三 (一〇三三)	遼興宗重熙元 重熙通寶
七 甲戌 一六九四 (一〇三四)	宋仁宗景祐元 景祐元寶
八 乙亥 一六九五 (一〇三五)	
九 丙子 一六九六 (一〇三六)	

後朱雀 長暦元 丁丑 一六九七 （一〇三七）	
二 戊寅 一六九八 （一〇三八）	大和春日社石灯臺 （朱）忠友曰未及見聞恐非春日社
三 己卯 一六九九 （一〇三九）	宋仁宗寶元二 皇宋通寶 文獻通考日國朝錢文皆用元寶而冠以年號及改號寶元文當曰寶元元寶詔學士議因請改曰豐濟元寶仁宗特命皇宋通寶爲文
長久元 庚辰 一七〇〇 （一〇四〇）	

後朱雀　長久　二　辛巳　一七〇一（一〇四一）	山城國栂尾山高山寺藏韓櫃蓋銘　甲寅四月親視之曲尺量之横一尺五寸五分竪一尺一寸五分高七寸七分足高一寸七分 甲乙二合之内長久二年二月九日富喜麿	
三　壬午　一七〇二（一〇四二）	〔増〕大和手向山神社皇地久面仁庭面　木彫彩色 長久三年　（二面共紀年ノ外ニ面ノ名稱アリ）墨書	
四　癸未　一七〇三（一〇四三）		

寬德元 甲申 一七〇四 （一〇四四）			
二 乙酉 一七〇五 （一〇四五）	宋仁宗慶曆五	慶曆重寶	新校正孔方鑑曰舊本爲慶曆元年今據食貨志改元
後冷泉 永承元 丙戌 一七〇六 （一〇四六）			
二 丁亥 一七〇七 （一〇四七）			

後冷泉
永承三
戊子
一七〇八
（一〇四八）

四
己丑
一七〇九
（一〇四九）

宋仁宗皇祐元　皇祐元寳　奇品圖錄云安藝國廣嶋松風堂主人藏字文隸體古色鐵鏽精妙可見

五
庚寅
一七一〇
（一〇五〇）

六
辛卯
一七一一
（一〇五一）

年	干支	皇紀	西暦	事項
七	壬辰	一七一二	（一〇五二）	宇治平等院鳳凰堂扉色紙形 觀無量壽經九品之文　堀河左大臣俊房公之書
天喜元	癸巳	一七一三	（一〇五三）	
二	甲午	一七一四	（一〇五四）	宋仁宗 至和元　至和元寶
三	乙未	一七一五	（一〇五五）	遼道宗 清寧元　清寧通寶

後冷泉 天喜四 丙申 一七一六（一〇五六）	宋仁宗嘉祐元　嘉祐元寶　嘉祐通寶
五 丁酉 一七一七（一〇五七）	
康平元 戊戌 一七一八（一〇五八）	
二 己亥 一七一九（一〇五九）	武藏法源寺碑　（朱）江戸名所圖會 一光三尊像　妙具色林即　背　康平二年武州保元寺

三　庚子　一七二〇（一〇六〇）

四　辛丑　一七二一（一〇六一）

〔増〕大和手向山神社三鼓胴　高一尺四寸六分、徑八寸二分、永曆二年修理
奈良市雜司町（永曆二年欄參照）

康平肆季歳次辛丑参月拾肆日前別當法印大和尙位權大僧都覺源殊抽淸淨之誠施入
東大之寺仙臺久翫不出仁祠雅曲遙奏將期佛會矣（續奈良縣金石年表）

〔増〕山城平等院鳳凰堂天井鏡裏銘　徑三寸五分（考古學雜誌第二卷第六ノ三七〇所載）

平等院伏花　康平四年九月□□

〔増〕經筒　金石欵識、集古一滴所載、高橋健自氏、和田千吉氏云僞物也

妙法蓮華經　願主僧賴源　康平四年十月四日□賴源

後冷泉 康平五 壬寅 一七二二（一〇六二）

尾張貞清田社所傳 閑窓瑣談

源賴義朝臣奉納白旗

六 癸卯 一七二三（一〇六三）

周防茶湯原鐵札

七 甲辰 一七二四（一〇六四）

〔增〕肥後淨水寺塔 肥後下益城郡豐野村字寺下鄕神社境內、高三尺九寸（考古學雜誌第七卷第十號）

願主道入

南無如法妙法蓮華經

康平七年十一月十日辛未

甲辰

宋英宗治平元 治平通寶

治平元寶

〔增〕筑前承天寺鐘　鑄出銘、福岡市上辻堂町承天寺藏、明治三十九年四月國寶指定

維清寧十一年乙巳三月日戒持寺金鐘鑄成入重百五十斤棟梁寺主大師智觀大匠金水副大匠保只末亭　朝鮮鐘寫眞集作「序？」

〔註〕此鐘明應七年ノ追銘アリ、其條參照

治暦元　乙巳　一七二五（一〇六五）

〔增〕金石欵識所載鰐口　恐ラク僞物ナルベシ

敬白□石坂星宮鰐口大檀那平内三郎治暦元年巳十月一日

〔註〕□ハ金石款識ニ「木」ト讀ミタレド或ハ（七）トモ或ハ（大）トモ見エ坂チ同書ニ界トセリ

遼道宗咸雍元　咸雍通寶

二　丙午　一七二六（一〇六六）

肥前岩倉寺山所出納筒　庄村子所寫送、嘉永四年所出品（圖略ス）

銘曰　治暦二年二月□日藤原維任 以下數名 僧勢圓 略之

〔增〕大和靈山寺木造藥師如來胎内銘　大和生駒郡富雄村 大正二年四月國寶指定

治暦二年十二月　（國寶目錄）

後冷泉

治曆三

丁未

一七二七

（一〇六七）

陸奥安積郡大重院碑　高七尺餘（朱）以下文字湮滅難讀

妙法蓮華經　阿□□□

治曆三丁未二月□□　僧□□□

僧□□□

大法奉行勅大曆言友雄一大法主平道寺海流

前彌五郎入道平國時

治曆三年丁未二月日

賴國

賴時

國時

碑高九尺五寸横四尺五寸

（朱）嘉永癸丑ノ春庄村貞甫子ヨリ一友人ノ模藏セルモノトテ送ル金石年表ニ大重院碑ト出タル此碑歟ト疑ヘリ

戊申 四 一七二八 (一〇六八)	宋神宗熙寧元 熙寧元寶	
後三條 延久元 己酉 一七二九 (一〇六九)	大和元興寺石燈臺 (朱)三香筆記 〔增〕大和法隆寺繪殿本像聖德太子座像胎內銘 明治三十九年九月國寶指定 唵阿嚧哩迦娑婆哥 佛師圓快 繪師秦致眞 敬白 奉造顯聖德太師御童子形御影 高二尺一寸一體事 右始自太子生年壬辰及治曆五年五百五歲事イ來偏イ乃爲自他法界共成佛道法隆寺大衆爲結緣所奉造顯也如敬白 治曆五年歲次己酉二月五日 此銘文ノ次ギニ永德四年修補銘アリ	

後三條
延久二
庚戌
一七三〇
（一〇七〇）

山城圓宗寺鐘　大江匡房
大日滿月分光於沙界之中甘露慈雲垂澤於鐵圍之外不滅不生道斷言語無適無莫憶隔心肝夫圓宗寺者爲護國利生弘法傳灯殊發叡慮所艸創也擇地拾仁和寺勝形之左卜處於古先帝山陵之前於是班倕從事土木畢功朞年而成金堂寶塔似從地涌出不日而止紺頂烏瑟如自天來降方今寺有樓樓有鐘聲三千之月響驚朝夕之風若無其銘何以示後作銘曰偉哉此器侔造化工陰陽生炭山谷生銅梟氏施巧雁王說功晨昏聲動幽顯響通下驚八大上振四空應聞象外豈限雲破無明睡罷有漏夢遂令法界皆嚮梵風
〔朱〕續文粹載圓宗寺鐘銘江大府卿延久二年作之未作序之間被實檢東大寺鐘無銘仍准彼例不進此銘

武藏法源寺石塔
〔朱〕江戸名所圖會云俗ニ鎌倉權太夫景道塔ト云
此塔恐クハ後世其一族ノ造立スル處歟
向阿彌陀佛湛樂　延久二年庚戌十月廿二日

三　辛亥　一七三一（一〇七一）

高野山寶亀院鐘　一本ニ寶幢院鏡トアルハ誤也

武藏勝樂寺村大坊鐘〔朱〕武藏夜話曰延久ノ鐘ハ火災ニ破レタリシ故元祿年間鑄改メタレトモ銘ハ舊文チ用ヒ新語チ加入シタル也銘文ニ高麗郡トアレモ今ハ入間郡ナリイカナル故ニヤ

武州高麗郡勝樂寺〔村〕奉新造立鐘銘曰

諸方空相　寂滅異名
常樂我常(原本淨)　箇箇圓成
延久三年辛亥九月十九日開闢
本願　尊宥順説
初響　二見相覺妙性
御大工　椎名兵庫頭吉繩
奉日侍講供養　奉念講供養
奉誘奉加供養　願主藤原重信
奉修山王七社大權現御寶前攸
辰爾山別當佛藏院勝樂寺大坊
住持中興開闢法印權大僧都善海上人尊榮上人

〔註〕（村）ノ字新編武藏風土記稿ニナシ、原本十九日開闢云云トシ下チ省畧セリ、今新編武藏風土記稿ニヨリ補ヘリ、新編武藏風土記稿云後三條院ノ御宇延久三年中興開闢大僧都善海カ時鑄シ鐘アリシカ是モ年歴テ響止リシカハ明暦三年丁酉九月鑄改シテ境内ニカクサレト古ヘシ鐘銘チモ共ニシルシチケリトイヘリ

宋神宗熙寧四　熙寧重寶

後三條 延久 四 壬子 一七三二 （一〇七二）	白河 五 癸丑 一七三三 （一〇七三）

承保元　甲寅　一七三四　一〇七四

山城西山三鈷寺碑　〔朱〕碑字三香改作標石
不許女人魚肉五辛等　承保元甲寅季三月廿九日
〔朱〕庄村易得子ハ開山源等上人ノ筆ト記セリ、川口好和曰此碑恐後世之模刻
一本ニ〔朱〕奇遊談云恐是後所摸刻

〔増〕近江藥師堂木造藥師如來立像銘　近江國高島郡西庄村大字上開田
明治四十二年四月國寶指定
石師宮光沙彌頼深
僧赤僧僧　興　僧　大中臣介時
僧赤施僧　僧長久　僧春口
手盡僧頼圓結緣人々漢人定任同者
佛師僧源増　僧光仁　沙彌妙源
成次氾寅御庄本家圓囙房大僧都口
延久六年八月廿五日于時彼岸入日庚寅藪聖
念算僧源滿
賀守宮口延船延成

白河 承保 二 乙卯 一七三五 （一〇七五）	丙辰 三 一七三六 （一〇七六）	承曆 元 丁巳 一七三七 （一〇七七）
遼道宗 太康元 大康元寶 大康通寶		

年	干支	皇紀（西暦）	記事
二	戊午	一七三八（一〇七八）	宋神宗元豐元　元豐通寶
三	己未	一七三九（一〇七九）	
四	庚申	一七四〇（一〇八〇）	
永保元	辛酉	一七四一（一〇八一）	

白河

永保二

壬戌

一七四二

（一〇八二）

栂尾高山寺藏源賴義朝臣笈

永保二年九月二日五合山中不出

同寺藏調度掛　三香筆記

永保二年九月家兄長州傳領之机明實　（朱）右ノ引出シ

甲寅ノ四月登山シ親ク覩之經机ノ少シク大ナル物ニテ引出アレ圧外ヨリハ急ニ見難シ故ニ是カ隱シ机ト云ト寺僧ノ話也然レハ調度掛ト云ヘキ物ニハ非ス明實ハ天臺座主ノ其一人也ト同人ノ話也

〔增〕磐城國廣度寺鐘銘　磐城國田村郡逢隈村大字鬼生田村（東京帝室博物館藏拓本）

大日本國□□□田村□」廣度寺住持元□應□」本寺檀那平□長」結緣之衆二十一人」大工秦景重」永保二年壬戌十一月八日奉行比　□□本

〔註〕

〔增〕鴛鴦瑞花八稜鏡　京都杉浦丘園氏藏（雅樂堂好古雜誌第一）

永保二年壬戌二月二十八日

尾張眞淸田社藏源義家奉納甲冑　閑窓瑣談

三	癸亥	一七四三（一〇八三）	
應德元	甲子	一七四四（一〇八四）	
二	乙丑	一七四五（一〇八五）	遼道宗大安元　大安元寶
三	丙寅	一七四六（一〇八六）	宋哲宗元祐元　元祐通寶

堀河	寛治元	丁卯	一七四七（一〇八七）

豐前西明寺經筒　豐前國企救郡中谷村山本發掘　發掘年時未詳
（新家力三氏藏拓本）

〔增〕豐前國
　規矩郡大野庄西明寺
奉書寫供養妙法蓮華經一部十卷
右經爲自他法界平等利益供養
如右敬白
　寛治元年歲次丁夘十一月廿三日辛未
　　勸進僧延照
　　鑄師僧賴源

堀河 寛治二 戊辰 一七四八 (一〇八八)	三 己巳 一七四九 (一〇八九)	四 庚午 一七五〇 (一〇九〇)

堀河

寛治 五

辛未 一七五一 （一〇九一）

山城高山寺藏蘇磨呼童子請問經卷下 〔朱〕印文 西大寺體性院 甲寅四月視之

寛治五年三月卅日書之了四月四日一交了

〔增〕大和藥師寺吉祥天銘 大和國生駒郡都跡村西ノ京（奈良縣金石年表）

寛治五年辛未十二月十五日 （墨書）

六

壬申 一七五二 （一〇九二）

七

癸酉 一七五三 （一〇九三）

堀河　嘉保元　甲戌　一七五四（一〇九四）

◆蘇子膽眞蹟　〔朱〕盍簪錄曰蘇長公眞蹟涪翁跋本豐太閤征韓時俘來賜紹巴得罪賜之昌比癸未歲從先子得觀之其裔昌億家誠絕世奇寶也

陳大觀園中竹　迂叟自在園中有千竿竹兒啼無晨炊炮筍實空腹我身不嫌瘦終日寧無肉豈可無此君令人嘲我俗朝亦對竹吟暮亦對竹宿所以朝夕間相對情不足不同園中花艶々賣眉目見人墻頭唉放蕩唯檢束方知竹君情全特如碧玉與君節兩高作詩作淸躅　右陳大觀自名迂叟作小園栽植竹數畦家貧無肉令兒取芽燔以充飢因作此詩戲之聞讀詩大噱返喜而不怒眞可喜也　紹聖元年十二月廿日眉山蘇子瞻書

宋哲宗紹聖元　紹聖元寶　紹聖通寶

堀河

嘉保二 乙亥 一七五五（一〇九五）

尾張眞福寺藏阿彌陀經疏　嘉保二年寫本　○尾張名所圖繪

遼道宗壽昌元　壽昌元寶　〔朱〕壽昌或爲壽隆　○一本昌一作隆トアリ

永長元 丙子 一七五六（一〇九六）

承德元 丁丑 一七五七（一〇九七）

二 戊寅 一七五八（一〇九八）

宋哲宗元符元　元符通寶

康和元 己卯 一七五九 (一〇九九)	美濃加治田平井氏藏八稜銅器　私云表ニ男女裸形婬戲ノ形チ鑄タリ是壓勝ノ器ナル歟(附圖參照) 尾張眞福寺藏將門記　○尾張名所圖繪 承德三年正月廿九日寫
二 庚辰 一七六〇 (一一〇〇)	

堀河 康和三 辛巳 一七六一 （一一〇一）

〔增〕東大寺銅燈寶珠銘

康和三年歲次辛巳十一月二日己未別當永觀修造畢

遼天祚乾統元 乾統元寶

高麗肅宗明孝王六年 東國通寶 三韓重寶 東國重寶 海東通寶 三韓通寶 海東重寶

四 壬午 一七六二 （一一〇二）

〔增〕大和法隆寺觀世音面銘 大和國生駒郡法隆寺村（續奈良縣金石年表）

康和四年十月九日佛師僧善祐法隆寺造觀音面形來迎料 （墨書）

五　癸未　一七六三　（一一〇三）

東寺所傳古文書　〔朱〕好古日錄

四丈絹壹切進上本寺政所如件康和五年七月十日内人大和眞吉

〔增〕伯耆倭文神社藏經筒　青銅製、高一尺三寸九分、身徑四寸　（家藏拓本）

釋迦大師壬申歲入寂日本年代記康和五年癸未歲粗文籍勘計年序二千五十二載也今年十月三日己酉山陰道伯耆國河村東鄕御坐一宮大明神御前僧京尊奉供養如法經一部八卷即社辰巳岳上所奉埋納也願以此書寫供養之功結緣親疏見聞群類縱使雖異受生之所昇沈必定値遇慈尊之出生奉堀顯此經卷自他共開佛之智見仍記此而已願以此功德普及於一切我等與衆生皆共成佛道釋迦舍那成道塲成正覺一切法界中轉於无上輪

正遍知者大覺口　邊際智滿方知斷　補處今居都率天　下生當坐龍花樹

願我生生見諸佛　世世恒聞法華經　恒修不退菩薩行　自他法界證菩提

大正四年十二月一日伯耆國東伯郡舍人村大字宮内字寺屋敷俗稱御參所ニテ彌勒菩薩像、十一面觀音像觀音菩薩像各一軀及短刀ト共ニ發掘シ舍人村倭文神社藏トナリ、大正九年四月國寶ニ指定サル

〔貼〕奥州平泉淸衡一町佛像碑　河世寧金石目康和中ト載ス

宋徽宗崇寧二　聖宋通寶　聖宋元寶　〔朱〕許天啓鑄　背文當伍

堀河 長治元 甲申 一七六四 (一一〇四)	東大寺所傳古籤 長治元才九月二十日 宋徽宗崇寧三 崇寧重寶 崇寧通寶
二 乙酉 一七六五 (一一〇五)	〔增〕住友吉左衛門氏藏經筒 僧行圓敬白 長治二年十月三十日 法花如法經爲自他法界平等利益供養之右 幸田成友氏ガ集古會誌丙午ノ三ニ公ニセルトコロ、高橋健自氏ハ第三行ガ第一行トナリ第一行ハ第三行ナルヘキニアラザルカト考古界第六編第八號所載經筒沿革考ニ見ヘタリ蓋シ首肯スヘシ
嘉承元 丙戌 一七六六 (一一〇六)	

嘉承二

丁亥

一七六七

（一一〇七）

宋徽宗大觀元

大觀通寶

松平樂翁公藏古鐘

龍頭三寸七分高一尺一寸七分周圍三尺三寸七分〔增〕余ノ實測龍頭ノ高三寸七分五厘龍頭下迄ノ高一尺二寸鐘座中心ノ高二六分五厘口徑一尺九分厚六分五厘笠ノ徑八寸一分五厘笠ノ蓮辨二十一個

川北観世音寺主法弘棟」梁郎宗引道副戸長同士」迪良州史守英明賛倉」史寗成長士國眞立邊介」先等亦聖壽天長之」愿以金鍾入重五十斤」乾統七年丁亥二月十九日

〔朱〕私云遼天祚帝年號　〔貼〕遼代ノ古鐘四品也可稱一奇

〔增〕子爵松平定晴氏藏、銘陰刻、此鐘ハ武田信玄ノ陣鐘ト傳ヘラレ元祿頃マチ駿府研屋町顯光院ノ鐘樓ニ懸カリシガ如シ集古十種ニ見ユル家藏乾統鐘ハ即チコノ鐘ナリ（考古學雜誌第十一卷第九號、松平樂翁公ノ朝鮮鐘參照）

〔增〕武藏青鳥阿彌陀堂碑

武藏國比企郡野本村大字下青鳥

（東京帝室博物館藏拓本）

逆修

嘉承二年八月　日

性圓

鳥羽 天仁元 戊子 一七六八（一一〇八）

二 己丑 一七六九（一一〇九）

天永元 庚寅 一七七〇（一一一〇）

豊前霜田菴經筒　銅製、高一尺、口徑一寸九分、發掘年月未詳、豊前國京都郡久保村光圓寺藏

〔增〕妙法蓮華經一部八軸但如法　勸進僧信快意趣非他偏爲往生極樂頓證菩提也又於此妙文指南專輩一隻一葉□義合力歸依之人者定備吊慈專三會之曉矣敬白天永元年十月十四日

二 辛卯 一七七一（一一一一）

〔增〕伊勢正法庵十一面觀音立像後背銘

天永[三]年十一月廿七日願主藤原有助

本彫、伊勢國度會郡中川村
大正五年八月國寶指定

宋徽宗政和元 政和通寶

遼延禧天慶元 天慶通寶 天慶元寶

三 壬辰 一七七二（一一一二）

山城般若寺鐘

〔朱〕或曰此鐘銘朝野群載所記然則永久已上之古鐘炳焉闕年月故世人不知爲古物可惜

驚衆之器信鼓先鳴打則三下形是四明遍一佛土繞十方程上堂意動入定眠驚拔長夜苦開群迷情泥梨刑措覺樹花明韻帶月徹響和霜淸無幽顯拔幾含生

鳥羽 永久 元 癸巳 一七七三 （一一一三）

駿河久能寺藏度牒 〔朱〕信齋紀行

駿州有渡郡久能寺沙彌圓爾俗姓氏平見年十八役當寺住持堯辨禮爲本師賜度僧牒

剃髮受具者永久元年

二 甲午 一七七四 （一一一四）

大和西大寺無量壽院所傳風鐸 〔朱〕忠友曰恐是中之川村成身院之具散逸及此歟

刻字銘 永久二甲午年二月日成身院

〔增〕一古器銘纂云高五寸二分、口徑四寸四分、厚一分弱、共是中川寺寶塔之風鐸已、二、成身院以下文字ナシ三、金石年表、奈良縣金石年表等無量壽院梵鐘ヲ擧ゲ、風鐸ヲ擧ゲズ蓋シ風鐸ヲ梵鐘ト誤レル歟

大山庄官符籤 東寺所傳

永久二年十一月廿六日

三 乙未 一七七五（一一一五）

金太祖元年　金世圓寶　奇鈔百圓所記

四 丙申 一七七六（一一一六）

〔增〕東京帝室博物館藏經筒　銅製、鍍金、高九寸五厘、口徑五寸五分、蓋笠形寶珠付、高凡二寸、外形六寸五分、

敬白大中臣石國奉加如法經筒結緣人々帳僧助僧定勝僧源範僧永源僧定實筑前得業僧慶勝僧善譽僧源榮僧行命僧聖□藤原季兼麻胡氏□野部氏僧增觀藤井國友僧壹圓三御許僧永尊文屋氏上道氏上野貞友中原依貞僧朝快僧連範右奉加之志爲六道衆生成佛得道各道俗男女所奉加如右永久四年二月廿六日敬白

以上銘文ノ外「藤原女僧慶暹文屋國末安部國定僧定慶僧慶秀」ト細字銘アリ、明治三十五年山城國綴喜郡八幡町大字八幡庄通稱鳩ヶ峰山頂發掘

鳥羽
永久五
丁酉
一七七七
（一一一七）

尾張眞福寺藏　請雨經文度幷卷數案永久五年勝覺筆　〇本州名所圖繪

〔增〕大和興福寺鐵釜　奈良市奈良公園今亡カ（奈良縣金石年表）

元永元
戊戌
一七七八
（一一一八）

〔增〕東京帝室博物館藏經筒　青銅製、總高九寸四分、身高毫共八寸一分、口徑二寸五分、底萩島鐶、荏擬寶珠鈕付高一寸三分五厘、明治三十九年豐前國企救郡西紫村大字蒲生字ハリヤマ山林發掘

豐前國規矩郡平等寺住僧良禪奉恭敬供養如法妙法蓮華經三部内右書寫供養之志者爲二十五有之情非情草木无差平等利益永久六年二月十八日勸進僧良禪

〔增〕筑前發堀經筒　素燒陶製、筑前國粕屋郡小野村農夫某氏ノ維新前ニ發掘セシモノト傳へ故江藤正澄氏舊藏、現今伊勢徵古館所藏

如法經供養竝四觀經書寫了元永元年一月十六日勸進僧容覺口口僧定源助成也

此經筒ハ考古界第二卷第五號ニ江藤正澄氏ノ紹介スルトコロ、文中一月十六日トアレド元永ハ四月三日ノ改元ナレバ一ハ誤讀カ或ハ誤植ナランモ實物ヲ見サレバ定メ難シ

宋徽宗重和元　重和通寶

二 己亥 一七七九 (一一一九)

宋徽宗宣和元

宣和元寶 宣和通寶

保安元 庚子 一七八〇 (一一二〇)

二 辛丑 一七八一 (一一二一)

〔增〕東京帝室博物館藏銅板 長四寸二分五厘幅一寸六分五厘

(表)尊勝陀羅尼三十遍般若心經六十卷

(裏)伊福部延行爲成佛所奉也保安二年七日□日

明治四十年山城國愛宕郡修學院村字四明ヶ嶽小字牛ヶ瀬ニテ阿彌陀佛丈六像、沙門僧西源敬白僧道寞ト刻セル長四寸七分幅二寸二分ノ銅板及素燒製經壺ト共ニ發掘

鳥羽

保安三

壬寅

一七八二

（一一二二）

〔增〕東京帝室博物館藏經筒

青銅製、身高七寸七分、口徑四寸三分、明治二十六年七月常陸國新治郡山之莊村大字東城寺發掘

保安三年大歲壬寅八月十八日甲辰如法經書寫供養願主聖人僧明覺大檀越朝臣致幹爲法界衆生平等所遂果如右敬白

〔增〕土佐發掘經筒

出土年月及郡村不詳

（考古界第一編第三號沼田賴輔氏）

保安三年

四

癸卯

一七八三

（一一二三）

越前吉江西光寺藏古硯銘　未得親恐有傳寫之誤

宣和五年五月帝召邇英殿說出賜此硯其後子孫世守之張時識

〔朱〕私按文字恐有寫誤　〇一本ニ未得親視恐有傳寫之誤

〔貼〕嘉永庚戌二月自往テ西光老隱ニ此硯ノ事ヲ問ニ老隱答云此硯當寺ノ物ニ非ス一年福藩笹治大學家ヨリ借得一ニ年此硯ヲ用シ事アリ世人聞キ誤テ拙寺ノ什器ト云ルナルヘシ此端硯故人方外頻ニ賞歎セシヨリ彼家ニモ尊重スル事トナリシ也云云私云是本ニモ西光寺ノ物トス改ムヘキモノ也

〔增〕東京帝室博物館藏經筒

青銅製、總高九寸蓋高一寸一分二厘身高八寸徑二寸二分二厘、明治四十年筑前國嘉穗郡碓井村大字平山發掘

如法妙法蓮華經一部　保安四年二月二十七日僧義延敬白

崇德　天治元　甲辰　一七八四　（一二二四）

〔増〕陸中中尊寺梁上銘　棟札ノ研究（考古學雜誌第八卷第七號）
天治元年歳次甲辰八月廿日甲午建立堂一宇廣一丈七尺長一丈七尺大工物部清國鍛冶二人小工十二人大檀那散位藤
厚清衡女檀安部氏清原氏平氏大行事山口頼近

〔増〕東京帝室博物館藏經筒　青銅製、高九寸三分、口徑四寸三分五厘、口邊瓔珞形ノ彫刻アリ、鑄出シ銘、明治二十年常陸國新治郡山之莊村大字東城寺藥師堂脇山林内發掘
天治元年歳□甲□十一月乙酉」奉安置銅壺一口」行者延暦寺沙門經暹」大檀那陰子平致
幹」銀作三國將時
〔註〕第一行「歳」字ノ下ハ「次」字ナルヘク、天治元年ハ甲辰ノ年ニ相當スレハ甲字ノ下ハ「辰」ナルヘシ

〔増〕讃岐遍照院古瓦　金石款識、日本金石年表ニ梵鐘トアレド古瓦ノ誤リ也
讃岐國北條郡高屋」弘法大師堂七間四面」天治元年八月廿六日瓦燒慈氏山松浦寺遍照院

〔増〕讃岐同白峯寺古鐘　（福家惣衛氏報）

崇德
天治二
乙巳
一七八五
（一一二五）

平安庄村易得子藏顯揚聖敎論卷之五　〔朱〕癸丑之冬於洛陽視之
卷尾云　天治二年乙巳二月六日書寫　西松尾寺住僧明千
尾張眞福寺所傳空也誄　天治二年源爲憲書本〇尾張名所圖繪
〔增〕東京帝室博物館藏經筒　青銅製、總高一尺八分、蓋段形、高一寸四分、徑五寸三分、九輪缺失、身高八寸八分、口徑三寸四分、臺高一寸徑四寸八分、明治四十三年三月筑前國粕屋郡須惠村大字左谷字觀音ノ谷山林發掘
上段「妙法蓮華經天治二年乙巳年六月初乙日」　下段……宋人馮榮伏第子鄭廕丙午日次辛未勸進僧經尋藤原朝臣未貞」

大治元
丙午
一七八六
（一一二六）

〔增〕阿波大山寺藏經筒
銅製、身高八寸七分、口徑五寸七分五厘、底徑六寸五分五厘、蓋高一寸六分、寶珠臺共一寸六分、徑七寸五分、發掘年月土地未詳、（阿波國板野郡大山村大山寺藏）明治四十三年八月國寶指定

大治元年歲次丙午十月二日甲辰日」閻浮提日本國阿州於大山寺」如法經書寫供養畢願頌四範」爲結緣法界六道三有受苦者也」

二
丁未
一七八七
（一一二七）

〔增〕山城最福寺菩堂瓦經
山城國葛野郡松尾村（今亡）
硯鼠漫筆第十五卷

大治二年

宋欽宗
靖康二
南宋高宗
建炎元

靖康元寳
建炎元寳
建炎通寳

〔朱〕近聞寓筆曰頃觀宋建炎通寳錢字法全規撫黄双井想必高宗御書也
追考鈔品百圓ニ建炎二年鑄トス可考

崇德

［增］大和吉水神社藏笙刻銘　大和國吉野郡吉野山（續奈良縣金石年表）

勝手宮神大治三年八月十二日菩提樹院內別處罡前住僧慶俊作也

［註］ナホ（美）勝手宮、（乞）勝手宮（凡）勝手宮神（上）勝手ト刻セリ

大治三

［增］羽後龍頭寺石函　羽後飽海郡厰岡（考古界第六編第四號二十五頁）

大治三年十月十七日

戊申

一七八八

（一一二八）

［增］出土地不明經筒（古跡古物集）

四

大和中川寺鐘

〔朱〕忠友曰此鐘損亡

〔朱〕三香云長寛二年所改鑄可删

〔増〕長寛二年改鑄シタル鐘ハ神戸聖德寺ノ所藏トシテ現存セリソノ銘ニ至リテハ同年ノ欄參照

〔増〕筑前發掘經筒

銅製、明治十三四年頃筑前國宗像郡赤間村發掘

（江藤正澄氏舊藏、中村祐興氏藏）

日本鎭西筑前國　宗像郡赤馬院　桂田村住尼妙法　奉書寫如法經

大治四年乙酉十月廿七日壬寅　尼妙法

考古界第二卷第五號ニ十月廿七日壬月トナシ、考古界第六篇第八號所載高橋健自氏經筒沿革考ニ壬□トナス、三正綜覽ニヨルニ大治四年十月ハ小ニシテ丙子ノ朔、十一月ハ大ニシテ乙巳ノ朔ナレバ、十月廿七日ハ壬寅ナリ按スルニ月ハ寅ノ誤植ナルヘク寅ヲ二作リタルヘキモ拓本ヲダニ見ザレハ論シ難シ

己酉　一七八九　（一一二九）

齊劉豫阜昌元　阜昌元寶　〔朱〕國憲家猷曰宋高宗建炎四年知濟南府劉豫叛降金金人以山東河南陝西爲濟國立豫僭號改元阜昌

崇德

大治五 庚戌 一七九〇（一一三〇）

〔增〕金石欵識所載經筒 貿、出土年月、出土地未詳

大治五年歲次庚戌九月十九日戊午奉弘入如法經筒一口大檀那源次郎助成大施主藤原道弘檀女檀那藤原氏打細工淸原爲正

天承元 辛亥 一七九一（一一三一）

祇園社神庫油次瓶 〔朱〕三香筆記

長承元　壬子　一七九二（一一三二）

栂尾高山寺藏長櫃　蓋裏書

以故太皇太后之御物充秘密灌頂之具足奉資冥福
長承元年壬子七月十六日癸卯施入傳燈大法師念範依
故大宮大進時房之遺願也建保二年九月傳領高山寺方便智院

〔增〕大和東大寺法華堂柱刻文　奈良市雜司町

始自長承元年十一月廿八日千日不斷花也

二　癸丑　一七九三（一一三三）

〔增〕常陸神先寺發掘經筒　水戸市上市常磐神崎寺、寛文年中發掘
（西山遺事、桃源遺事）

如法經筒長承二年法主聖

桃源遺事、西山遺事ニヨルニ此經筒ハ神先寺境內ノ大松大風ノタメニ倒レソノ根ヲ掘リテ得タルモノニシテソノ質ハ銅ナリ

崇德 長承三 甲寅 一七九四（一一三四）

大和三笠山八幡宮鼓 〔朱〕追考三香筆記

〔增〕大和東大寺鉦鼓 奈良市雜司町（續奈良縣金石年表）

長承三年三月十一日

保延元 乙卯 一七九五（一一三五）

大和三月堂柱落書 〔朱〕追考三香手錄

〔增〕大和東大寺法華堂柱刻文 奈良市雜司町

保延元年八月廿三日千日滿但結願九月十二日畢

二 丙辰 一七九六（一一三六）

三 丁巳 一七九七（一一三七）

足利學校本活字鄭註禮記十卷 〔朱〕信齋紀行

跋曰保延三年四月廿一日於永昌坊亭見合或本東市正賴滋

四　戊午　一七九八（一三三八）

〔增〕法隆寺傳來御物金銅舍利塔黑書銘
保延四年八月十六日（十六日ト廿七日トノ間文字讀ミ難シ）廿七日此御堂塋了以此功德當來必結成佛預
五師覺嚴敬白
金銅高二尺〇五分銀臺高二寸三分方八寸七分臺ヨリ屋根軒迄凡八寸九輪高七寸七分椽四隅及屋根裏瓔珞ヲ懸ク九輪上部ヨリ屋根四隅ニ鎖ヲ張ル、今方三方ヲ失ス木臺上面中央綠青塗花形霞紋上面周邊黑塗緣及側面金箔押側面地及裏綠青高一寸九分五厘上面方一尺四寸
〔增〕筑前國鎭國寺佐伯氏藏經筒　靑銅製、出土年月未詳、羽前國發掘？（考古界第二編第五號）
奉鑄赤銅塔一基　奉納如法經二百八卷
關西筑前國宗像宮內　宇田島村候人　擬大宮司藤原貞包　同　藤原氏
保延四年十月廿日　勸進僧善慶
明治廿年三月筑前國筑紫郡松原村崇福寺ニテ展覽會ヲ開キシ時同國宗像郡吉田村鎭國寺前住佐伯慈航氏ノ藏品ナレバ現今何處ニ藏スルカ否ヤ明カナラズ

五　己未　一七九九（一三三九）

崇德
保延六
庚申
一八〇〇
（一一四〇）

［增］東京帝室博物館經筒　青銅製、高七寸、口徑四寸八分四厘、中央ニ竹節形ノ線二條アリ、明治三十一年羽前國東置賜郡宮内町別所山發掘

保延六年三月九日大檀主勸進僧正寅玄宗　（蓋上面ノ銘）

出雲千貞女共　（蓋裏ノ銘）

豐前求菩提山經筒　高六寸八分、口徑一寸三分、外彼蓋、文化六年三月豐前築上郡岩屋村於菩提山發掘、同山國魂神社藏

［增］妙法蓮華經一部　保延六年十月廿二日　願主僧賴巖

尾張眞福寺藏　如法尊勝記　保延六年法眼寛信筆　尾張名所圖會

崇德	永治元	辛酉	一八〇一	（一一四一）

大和芳野山世尊寺鐘　〔朱〕俗號三郎鐘
大和國吉野郡吉野村金峯山寺藏

保延七年歲次辛酉□□花奉鑄之
執行法□仁春幷滿山同心相大勸進聖人道寂鑄□?散位丹治□□□□御位□□師酙
位廣田□□同仁□
保延六年十二月三日右京大夫兼播磨守平朝臣忠盛奉施入熟銅□□三□在大和國
添山郡內穴師□八□□□廿三坪內是爲禪定聖靈往生極樂先妣□□□□乃至法界
平等利益矣
蔭子橘季兼　紀安任　僧法
永曆元年庚辰九月□循依其聲以□所奉□所入熟銅六千三十斤□執行仁□□□勸進
聖人辶□□□大□汇□□□義鑄師□□　（以上鑄出銘）
三度鑄定　鑄物師散位船是守

金峯山寺洪鐘龍頭鑄續
寬元二年甲辰四月九日
穴師寄進田之代水田三段奉入立在大和國吉野郡藥師寺庄之內字牛房谷田一段大

和國吉野郡藥師寺庄之內字井上田一段大和國葛上郡字馬屋戸西邊田一段奉入立
仍貴賤靈等皆成佛道乃至法界衆生平等利益勸進聖願阿彌陀佛　（以上陰刻銘）

〔朱〕咋是窄之　忠友云此鑄改タル物ニハ非ス奥ニ空所アルヲ幸トシ文字ヲ刻セルモノナリ

〔增〕原本「保延六年十二月三日右京大夫兼播磨守平朝臣忠盛奉施入金峯山寺洪鐘保延七年歲次辛酉普勸進云云永曆元年庚辰九月廿猶依其聲咋改取奉鑄也已下刻字金峯山寺洪鐘龍頭鑄續寬元二年甲辰九月九日」ト書シテ六年ノ條ニ入ル今本文ヲ按スルニ此鐘保延六年十二月三日平忠盛熟銅ヲ施入シ同七年鑄終ル後音聲ノタメ永曆元年九月ニ鑄改メタリ其ノ後再ビ龍頭ノ破損ニテモアリシカ此ノ鐘ヲ修補セシモノナルヘシ

長七寸、幅五寸九分、一面妙法蓮華經卷第八、他面、般若心經、

小場恒吉氏藏

〔增〕豐後富貴寺傳來銅板經

保延七年八月二日未時打了金剛弟子僧隆嚴僧永明

豐後國西國東郡田染村落中富貴寺ニ傳來シ、モト七枚アリシカ雨乞ノタメ池中ニ投入セシタメ今ハ一枚ヲ存スルノミト云フ

〔增〕大和東大寺舊藏鐵燈籠

大阪府賈人殿邑氏別莊置ニ乃樂東大寺古鐵燈臺一或日嘗寄ニ黃金數百片一所ニ乞得一焉餘偶觀之其三面粗全而背則缺損矣前面中央有東大寺大佛殿六字東大二字所蝕不得全見其右有永治□□七月納所沙門實英數字永治以下似有元年等字漫漶不可見沙門ニ字亦稍難見其左有大工備前重久六字皆陽識也實六百年上之物豈不奇珍乎今圖其形摹其文以備同好之玩弄文化紀元之春　蘭聰逸人識

大正十二年四月二十日印刷
大正十二年四月三十日發行

編輯兼發行者　東京市京橋區新榮町五丁目三番地
圖畫刊行會
代表者　林縫之助

三重縣北牟婁郡尾鷲町知古町一七〇番地
印刷者　岩井亀次郎

印刷所　三重縣北牟婁郡尾鷲町知古町一七〇番地
尾鷲印刷株式會社
電話一二九番

印行所　東京市京橋區新榮町五丁目三番地
合資會社　吉川弘文館
電話京橋　二九九番
　　　　　六九七番
振替東京　二四四番

增補尚古年表

三

CN
1180
.I7
v.3

近衛 康治元 壬戌 一八〇二 （一一四二）

豊前求菩提山銅版經

〔増〕竪五寸九分五厘、横同上、三十三行三十五字詰、現存枚數三十三
明治三十九年國寶指定、豊前國築上郡岩屋村國玉神社藏

康治元年壬戌九月廿四日巳時書寫畢 （三十三枚最後段上）
大勸進金剛佛子賴源小勸進僧勢實」執筆僧嚴尊 但九枚 此外五人千慶余太」
良仁隆鑒隆胤 鑄物師義元 （同上下段）
奉鑄銅如法經妙法蓮華經一部求菩提山供養畢」勸進賴嚴 勸進勢實」康治元年
十月廿一日供養畢」同日堂供養了大勸進雅財」十二神將勸進行賀」貢上紀長
雅」御馬口檢校紀重永大中臣三子 （銅筥銘）

〔註〕此經第三ノ偈文ノ下ニ「一交了奉彫金色文字後生必救給佛子千慶」第二十二ノ最後ノ偈文ノ下ニ「奉彫文字千慶丸垂後生助給」トアリ、又銅筥表面ハ中央ニ釋迦三尊左右ニ不動明王、毘沙門天、裏面ニ二佛ヲ毛彫ニシテ底面ニ銘ヲ刻スト云フ

豊前求菩提山碑

近衛

康治 二

癸亥

一八〇三

（一一四三）

播摩極樂寺瓦經　（考古界第一編第一號播磨瓦經及願文考）（墨水鈔）

〔增〕奉書寫　八名普密陁羅尼經一卷　右爲上生都攣春事彌勤聞法得益　蒙記莂奉
事　供養弘法大師傳授眞言秘密　灌頂乃至當時字會得曖　還東漸處見是經典自
他　法界平等利益也敬白　康治二年歲次癸亥八月廿七日　願主金剛佛子禪慧

（八名普密陀羅尼經）

一切如來必秘密全身舍利寶篋印陁羅尼經　康治二年九月五日書寫畢僧永賀並温
室行人僧經勢□往生極樂頓證菩提也（寶篋印陀羅尼）

普願十願　願□□諸衆生　往生安樂國　比企　康治二年九月六日　比企念西

（墨水抄）

天元
元
甲子
一八〇四
（一一四四）

播磨極樂寺瓦經

〔增〕天養元年歲次甲子六月廿日於播州」極樂寺依大法主禪慧之勸進」奉書寫已畢

欣求淨土　歲離穢國」捨身流浪」沙門嚴智（藥師經十二枚目終）

天養元年歲次甲子六月廿四日於播州」極樂寺依大法主禪慧勸進」奉書寫已畢　金剛佛子仁勝」願以此功德普及於一切我等與衆生皆共成佛道

天養元年歲次甲子六月廿六日於播州極樂」寺依大寶缶（此二字恐法主）禪惠之勸進奉書寫畢　捨身流浪　沙門嚴智

（前畧）前一條院聖靈陛下御菩提並曩祖勘解由相公藤有國從三位橋德子代々別當圓有長尊寬緣大法師丹生春久上人師主法橋上人位最嚴悲母比丘尼行妙出離生死頓證菩提殊別聖朝安穩鎭國家太上仙院太上天皇禪定大王禪定親王玉體安穩寶壽長遠無邊御願決定圓滿國中安穩諸人快樂天下法界平等利益敬白　天養元年歲次甲子六月廿九日願主東寺眞言宗僧禪慧　書寫山　客僧（墨水鈔瓦經考）

〔增〕出羽立石寺碑　羽前國東村上郡山寺村立石寺

立石寺如法經所碑

維天養元年歲次甲子秋八月十八日□□□□□僧大阿大德兼□□心□物爲事同法□人□志□□敬奉書妙法蓮華經□□八卷精進□□如法所說誅□大師之□持更期□乙之出生奉納□靈□□既畢願令參詣此地之輩必結病此之緣因一見一聞倂□巨□上則游知足之雲西　翫之月于時有釋以應乃　銘曰□上人　鳫經如說　利益附覃□誰□記□

久安元
乙丑
一八〇五
（一一四五）

〔增〕肥後發掘經筒　滑石製、身高八寸五分、臺高一寸、蓋高一寸二分、肥後國鹿本郡三玉村大字蒲生發掘（和田千吉氏手記）
久安元年□十月八日　勸進僧庡有　斯彌勤如來　出生可供養

久安二
丙寅
一八〇六
（一一四六）

山城栂尾高山寺藏甲冑櫃　〔朱〕信充著書
銘　久安二年九月九日
底銘　建保二年十一月八日方便智院
同　久世郡白川村金色院牛王印板　〔增〕竪九寸五分横一尺五寸
久安二年正月日　（背刻文）
武藏淺草寺六地藏石燈臺　〔朱〕江戸名所圖會
銘　久安　六月十一日　鎌田兵衛
〔朱〕文字剝落今不可讀傳云久安二年丙寅鎌田兵衛正清所建
〔增〕紀伊小川鄕八幡宮鐘　小林辰（黑川氏日本金石年表）

近衛 久安 三 丁卯 一八〇七（一一四七）

〔增〕河內葛井寺瓦銘　南河內郡藤井寺村（攝河泉金石文）

葛井寺後修理瓦——久安三年丁卯三月六日

四 戊辰 一八〇八（一一四八）

武藏平澤寺經筒　〔增〕高七寸九分、口徑四寸、享保年間武藏國比企郡平澤寺境內發見（拓本武藏風土記稿）

〔增〕敬白　勸進沙門實與

奉施入如法經御筒　一口

右志者爲自他法界平等利益也

久安四年歲次戊辰二月廿九日戊午　當國大主散位平朝臣茲繩方緣等

藤原守道　安ア末恒　藤原助貞

美濃赤坂虛空藏山如法經碑（考古學雜誌第四卷第五號小川榮一氏美濃國の金石文）

〔增〕如法經　久安三年

五　己巳　一八〇九　（一一四九）

〔增〕下總香取神宮藏雙龍鏡　（家藏拓本）
五瀧雲乘形□鑄□久安五年己巳正月十一日甲午宜□□重奉

和泉高倉村高藏寺鐃　〔增〕徑一尺二寸、和泉國泉北郡陶器村高倉寺藏
久安五年己巳十月八日造之大修惠院　〔朱〕集古十種

大和三月堂東面扉副柱　北方刻字
久安五年四月十五日自千日花奉始畢也　〔朱〕忠友手錄

河内石川郡上ノ太子々院西方尼院古瓦文字
泓（法歟）樂寺久安五年　二（己歟）巳二月八日始

〔增〕播摩黑田庄經筒　陶製
久安五年八月廿二日供養長尾氏妙法經施入佐伯是元

近衞	久安 六	庚午　一九一〇　一二五〇

山城太秦廣隆寺鐘

藤原通憲、此鐘在于西本願寺、鑄年未詳今據久安六年之語係于今年

〔增〕明治四十年五月國寶指定

夫廣隆寺者上宮太子濫觴之秦河勝艸創之本朝之佛法爰始此地之繁昌被今靈驗奇異言語道斷事在前記不須復說於是久安六年正月十九日仁祠忽逢回祿之殃住侶空隔鑾巴之術雖悲靈寺之爲灰唯感驗佛之免煙方今佛閣僧院鐘樓經藏悉尋基趾新加修復故鎔洪鏡即作銘曰　梟氏呈巧鎔範旣成朱火吐焰赤銅鍊精雄龍擧首鯨魚發聲秋風夕報控霜和鳴聞有頂上達無間城菩提曉至妄想眠驚速待三下利益四生宜成法器乾椎標名

武藏淺艸街頭碑

豐前求菩提山經筒

豐前國築上郡岩屋村國玉神社藏

（考古雜誌第八編第二號）

〔增〕大觀進僧林我勸進□求□□□□久安六年三月十一日

仁平元　辛未　一八一一（一一五一）

大和三月堂東面扉副柱　南方刻字〔朱〕忠友手錄

仁平元年十二月卅日

尾張眞福寺所傳　新修往生傳　仁平元年書　藤原宗友作

二　壬申　一八一二（一一五二）

陸奥平和泉安倍宗任女墓碑　高三尺八寸餘、幅九寸餘

仁平二壬申年

前鎭守府將軍基衡室安倍宗任女墓

四月二十有日

〔增〕東京帝室博物館藏經筒　青銅製總高一尺三寸、身高九寸三分、口徑二寸七分、蓋高四寸二分、徑三寸五分、明治三十九年筑前國筑紫郡太宰府町大字大原野發掘

仁平二年歲次壬申十一月十日庚子僧成仁

近衞

仁平 三

癸酉

一八一三

（一一五三）

〔增〕播磨發見經筒　明治十七年播磨國美囊郡志染村發見（考古學第六編第八號經筒沿革考）

勸進聖人進西　結緣女雀部氏　仁平三年歲次癸酉八月日

〔增〕山城發掘經筒　青銅製高蓋共約一尺二寸徑中央部約五寸銘文陰刻ノ二重文字、大正十年山城國愛宕郡花脊村字別所ニテ仁平三年在銘佛像容器ト共ニ發掘、

???　?

……佐伯氏……女泰子尼□子……仁平三年三月　日

〔增〕山城發掘佛像容器　青銅製圓筒、高四寸三分五厘、口徑一寸九分五厘、前揭仁平三年三月在銘ノ經筒ト共ニ大正十年山城國愛宕郡花脊村別所ニテ發掘、

佐伯氏□子」　飛鳥□□」　山氏女佐伯氏」　藤井貞永」　佐伯氏尼氏女」

?

藤井有貞」　仁平三年四月日

〔註〕銘文陰刻、山氏女以下仁平三年四月日ニ至ル廿九字、二重文字形ハ經筒ニシテ內部ノ底ニ方形ノ臺ヲ設ケタル上部ニ金銅製、毘沙門天立像ヲ安置シタルママ發掘、

〔增〕出雲鰐淵寺藏經筒　滑石製、高一尺四寸二分　出雲國簸河郡鰐淵村大字別所（好古山陰めぐり）

釋迦文佛末法弟子僧圓朗始自仁平元年辛未二月卅日至于同三年癸酉五月二日殊致精誠如法奉書寫妙法蓮華經一部八卷奉安置鰐淵山金剛藏王寶窟但行法寫經之勤禮拜供花之行皆勸有心知識同殖无滿妙因乞願有緣无緣共生一佛土法界無生同證之菩提矣　寫經衆　僧圓朗　僧順朗　僧信尊　僧嚴澄

〔增〕山城宇治三室戶寺石燈臺（山城金石年表）

宋 高宗　紹興元寶

紹興廿三年　紹　通寶

久壽元 甲戌 一八一四 (一一五四)

〔增〕山城國峰定寺藏磬　愛宕郡花脊村峰定寺

大悲山仁平四年八月五日　(考古學雜誌第十一卷第九號磬ノ研究)

二 乙亥 一八一五 (一一五五)

大和菩提山正曆寺鐘銘　〔朱〕忠友筆記

大和國城上郡長覺寺住僧憲幸云云久壽二年歲次乙亥四月二日僧憲幸云云副刻文洪鐘年久而小破故爲補闕重而今綴之者也于時寬保四甲子年二月廿八日

〔增〕奈良地嶽谷二佛　(奈良縣金石年表)

大和瀧坂奧巖窟所刻佛像銘　〔朱〕忠友筆記

久壽二季八月廿日始之作者今如房願意

大和寬福寺鐘　〔朱〕追考　三香云今所在地名寺院不詳也

後白河

保元　元　丙子　一八一六（一一五六）

〔增〕山城大悲山峰定寺觀音堂經盤　方二尺五寸、高六分（奥田氏金石年表、歷史と地理第七卷第五號天沼俊一氏大悲山峰定寺）

檢非違使別當正三位行權中納言兼」左兵衞督藤原朝臣忠雅爲滅罪生善成佛得道

施入大悲山　保元元年五月五日

〔增〕三河國普門寺經筒（家藏拓本）　渥美郡二川村雲ヶ谷（ウガヤ）、明治十年頃發掘、大正十二年三月國寶指定

久壽三年歲次丙子建辰月二十九日」願主僧勝意」爲現在慈母息才延命无病」平安

現世安穩後生善處法界」衆生平等利益也鑄師散位伴成恒

〔增〕東京帝室博物館藏經筒　青銅製、高七寸五分、口徑四寸八分、蓋徑五寸一分二厘、明治三十年信濃國埴科郡坂城村字背山村發掘

保元二年大才丁丑九月二日甲子定西

二　丁丑　一八一七（一一五七）

〔增〕大和奈良地嶽谷道穴佛　（奈良縣金石年表）

三

〔增〕大和手向山神社菩薩面刻銘　奈良市雜司町

中宮云云保元三年三月十一日　（古代假面裝束及樂器特別展覽會目錄）

〔增〕京都熊谷直之氏藏經筒　（和田千吉氏手控）

奉加如法經筒一口右奉爲六道衆生成佛得道也奉加如件保元三年八月日僧經禪敬

白　（蓋表）

〔增〕法隆寺献納御物銅露盤　高一尺三寸二分、胴周六尺六寸六分、銘陰刻

保元三年十月九日

戊寅

一八一八

（一一五八）

西夏仁宗天盛十年　天盛元寶

金海陵煬王正隆三年　正隆元寶

二條 平治元 己卯 一八一九 （一二五九）

〔增〕河内發掘經筒　島田乾三郎氏藏、文政三年河内金剛山發掘
金剛山　平治元年己卯九月廿日庚子
〔增〕大和東大寺法華堂刻文　奈良市（續奈良縣金石年表）
平治元年七月十四日
〔增〕東大寺廣目天像墨書（續奈良縣金石年表）
平治元年五月廿[二]日
〔增〕松平樂翁公藏琵琶（集古十種）
銘曰平治元年作之
飛驒壽樂禪寺大般若經
此經大治五庚戌ニ始リ天承　長承　保延　永治　康治　天養　久安　仁平　久壽ヲ經テ保元四己卯ニ至リ三十年ニシテ全部書寫ノ功就ト跋文ニ記セリ
同國水無神社古文書
貴札遂拜見此度位山樣□御笏一對並御依析被爲獻殊外叡覽之處御忼掌不淺宣神明　叡慮承候以上
平治元年三月　□大納言□
飛州一之宮　大江□□

永曆元 庚辰 一八二〇 （一一六〇）	東大寺八幡宮假面　集古十種、胡德樂面 易傳子筆記 東大寺奉施入九枚內永曆元年三月十一日上座威儀師覺仁　（裏書） 〔增〕東大寺廣目天胎內經卷外箱　檜製　（續奈良縣金石年表） 妙法金光金剛佛說仁王護國般若波羅密經　永曆元年二月廿九日 〔增〕大和金峯山鐘（七）　（永治元年ノ條參照）
應保元 辛巳 一八二一 （一一六一）	紀伊高野平野村美福門院五輪塔　高三尺許〔朱〕山陵誌 銘　奉爲　美福門院御菩提 大和東大寺大鼓筒中銘　〇庄村易得子筆記 永曆二年三月九日　華嚴會料施入之上座威儀師覺仁

二條 應保二 壬午 一八二二（一一六二）

〔增〕山城峰定寺金札　長九寸五分、幅七分五厘厚三厘

應保二年壬午五月四日庚子願主入念　（歷史と地理第七卷第五號天沼俊一氏大悲山峰定寺）

二條 長寛元 癸未 一八二三（一一六三）

武藏松蓮寺經筒　〔朱〕江戸名所圖會〔增〕武藏國南多摩郡七生村

長寛元年大歲癸未十月十三日庚午

工匠藤原守道

大勸進聖人僧辨豪

結緣者僧玄久

奉納妙法蓮華經如法書寫

僧觀賢僧定圓僧瑞久僧定阿

僧堯尊僧辨意駈使僧樂西

伊勢世義寺藏壷　〔朱〕私云恐經筒歟〔朱〕伊勢名所記〔增〕三重縣史談會誌第四卷第九號三村氏後ニ陶經筒トアリ

〔增〕大和玉置神社梵鐘　大和國吉野郡十津川村玉置川（奈良縣金石年表）

應保三年三月三日

二

大和中之川成身院鐘銘　（朱）鑄字（增）神戸德照寺　大正三年八月國寶指定

成身院鐘大治四季四月七日鑄造匠多治比頼友等也唯願以茲善根修功法信聞人畜乃至群生共成佛道矣　既世六季破損仍長寛二年歳次甲申七月二日乙酉有縁合力以尊智聖人鑄直之

安藝嚴島納經　法華法師功德品第十九　嚴島圖會

長寛二年九月一日從二位行權中納言平朝臣淸盛

同社藏　法華經本事品第二十七　同上

長寛二年六月二日　右兵衛尉平朝臣重康

甲申

一八二四

（一一六四）

南宋孝宗隆興二年　隆興元寶

二條

永萬 元

乙酉

一八二五

（一一六五）

武藏松蓮寺經筒 〔朱〕江戸名所圖會〔增〕武藏國南多摩郡七生村

大勸進僧堯尊大檀主藤原氏滿貞判 永萬元年九月十七日天〔蓋裏文〕大勸進所百

草村松蓮寺

安藝嚴島社藏文書

權中納言平淸盛敬白文 安藝國伊都岐嶋大明神名載常篇禮爲恒典云云 長寬三年

尾張眞福寺藏所傳七六寺年表 永萬元年書寫本〔〕尾張名所圖會

南宋孝宗乾道元年 乾道元寶

六條　仁安元　丙戌　一八二六　（一一六六）

安藝嚴島藏文書　○嚴島圖會〔增〕明治三十年十二月國寶指定

敬白文　榔筆　仁安元年十一月十八日內大臣平朝清盛　弟子敬白夫以蘋蘩風芳
自混芬陀利華之露濆汚水潔遂歸薩婆若海之波云云

二　丁亥　一八二七　（一一六七）

〔增〕越後國發掘經筒　陶製、高八寸二分、口徑九寸、大正八年九月十五日越後國西頸城郡青海村發掘、佐野丈夫氏藏（考古學雜誌第十一卷第四號經筒發見）

仁安二年七月十四日申時了
願主僧定祐□　告奉正禮
粟田重包

安藝嚴島藏心經奥書（嚴島圖會）

仁安二年二月廿三日　太政大臣從一位平朝臣清盛書寫之

六條 仁安三 戊子 一八二八（一一六八）

〔增〕東京帝室博物館藏經筒

表銅製被蓋附、總高三分五厘、口徑五寸四分、蓋表鑄出銘、大正四年三月駿河國駿東郡浮嶋村船津地內千島道發掘、

如法經大檀主平助宗大勸進覺口大工藤原國行仁安三年三月日

高倉 嘉應元 己丑 一八二九（一一六九）

二 庚寅 一八三〇（一一七〇）

大和新藥師寺佛前火舍銘

奉施入新藥師寺金銅閼伽器萬前口五寸沓具嘉應二年庚寅一月八日僧範助

〔米〕思文翁曰範助事迹可考モノ建久多武峯畧記アリ

鳥羽戀塚寺袈裟女墓、

刻曰 嘉應二年庚寅年建立

高倉	承安 元	辛卯	一八三一 （一一七一）

〔增〕岩代國發掘經筒　陶製、高一尺五寸、徑一尺、明治三十二年十一月、岩代國信夫郡飯坂村發掘（東京帝室博物館藏拓本）

敬白　奉施入　信夫御庄天王寺如法堂銅一口　大勸進聖人僧定心　大檀主藤原眞年緣友作者代　同性代同姓代　小勸進白井友包糸井國數　藤原貞淸緣友源代　藤井末遠日田部貞家　小太良殿　佛子僧宴海僧慶勢　僧龍鑒　稻石丸犬子丸　源長宗緣友　右志者爲慈尊三會之時同令一佛淨土往生也　承安元年歲次辛卯大歲八月十九日　取業僧長鑒

〔增〕岩代國發掘經筒　陶製、文化五年岩代國伊達郡睦合村發掘

敬白　奉施入磐瀨郡米山寺如法經筒大勸進聖人僧行祐大檀主僧圓珍糸井國數藤原貞淸白井友包藤井末遠右志者學慈尊三會曉同一佛淨上往生也承安元年歲次辛卯八月廿八日辛午

岩代國發掘經筒　明治十七年三月二十三日、岩代國岩瀨郡西川村村社日枝神社發見

同上ニテ末二字ハ□年ナリ

〔註〕銘文　前掲文化五年發掘經筒ニ同ジタダ考古界第一編第十一號ニ故若林勝邦氏ニヨレバ末ノ辛午ヲ□年トセリ蓋シ年ハ午ノ誤讀カ

西夏仁宗乾祐元　乾祐元寶　泉譜曰文字製作類天盛錢計當時所鑄突中谷顧山孔方鑑以爲北漢今詳見此錢西夏所鑄而無可疑者

高倉　承安　二　壬辰　一八三二　（一一七二）

〔增〕伊勢神宮寺藏經筒　陶製、高九寸、口徑五寸、發掘地及年月不詳（大西源一氏報）
奉施入　如法經箱一　右爲施入意趣僧禪仁現世安穩後生善處也承安二年八月十八日　鍛冶師御薗住人僧觀秀之造　於我滅度後應受持是經是人於佛道決定无有疑願以此功德普及於一切我等與衆生皆共成佛道

肥後佐敷保杉木院古記　〔朱〕信齋紀行
南瞻部州扶桑中肥之後州葦北郡佐敷保承安元年辛卯林鐘十三日下著同壬辰南呂十八日出來畢末代爲證據認之置者也

三　癸巳　一八三三　（二一七三）

〔增〕伯耆大山寺鐵製厨子銘　西伯郡大山村大山寺藏
明治三十七年二月國寶指定（好古山陰めぐり）

本朝伯州會東郡地主紀成盛記文　本系紀納言　于時承字二年壬辰十一月廿日乙酉奉
鑄大山權現御體三尺金剛地藏尊容一軀即鐵鑄厨子奉安置之是無窮之計也抑此願
之起去年七月廿八日乙未夜御寶殿並御正體炎上因茲道俗男女
間今加長〔簷〕同三年癸巳八月廿二日壬午遷宮是則天神地祇不助成者豈遂此大願哉上始
自聖朝下庶民悉依當山之靈驗並〔誇〕願海之成就加之始自願主成盛及于子子孫孫
永預權現之利益久期榮華之繁昌焉
鑄像師延暦寺僧丁西上　願主紀成盛　大行事寶殿檢校南光院遍照金剛基好證署
西明院院主大法師堪秀　南光院別當大法師基俊　中門院座主大法師俊操

〔增〕伊勢金剛證寺藏經筒　土燒、高一尺一寸、外徑六寸五分强、口內徑五寸、伊勢國度會郡朝熊山
發掘（考古學雜誌第一卷第二號伊勢國朝熊山發掘經筒）

奉造立　如法經龜壹口事　右志者爲現世後安隱大平也　承安三年癸巳八月十一日
伊勢大神宮權禰宜　正四位下荒木田神主時盛

安藝嚴島社假面銘　集古十種

嚴島社還城樂面政所御寄進承安三年八月日佛師沙門
摸摹勝直本

伊津岐島社拔頭面　承安三年……………勝寺本佛師行明沙汰

嚴島社二舞面　承安三年八月日　伊津岐島社貴德面

感國朝臣調進　承安三年八月

豐前小倉足立山鏡

安立妙見大井御寶前奉施入鏡一面右志爲在原　市目病消除明鏡安樂也兼女子宇佐氏所生愛子之恩以大延命故也承安四年二月廿日宇佐氏敬白　背文　湖州眞石家上等照子記

伊勢山田菩提寺瓦經

承安四年□月六日

〔增〕伊勢發見瓦製光背　出土年月未詳、伊勢宇治山田市小町塚發見、和田千吉氏藏

過去大中臣氏　蓮妙爲成佛　道也　承安四年五月廿一日作者僧隆圓　□□實

沙彌忝西

〔增〕伊勢且過山某寺瓦經　（墨水鈔）

承安四年甲午五月廿七日納　五部秘經兩部曼荼羅　導西　筆者　觀道　聖賢

瓦工三河國平四郎

〔增〕伊勢發見瓦經　（考古界第二編第十二號伊勢發見の瓦經）

承安四年甲午五月庚午廿九日於南閻浮提日本國

東海道三河國渥美郡伊良期鄉

西觀之勸進釋迦末法之時妙法蓮華經

面如法奉書寫了大勸進金剛佛子

檀越度會常章

女檀那度會氏子

度會奉章

助筆願主等僧良中悲母沒

散位佐伯國親女弟子磯部

六卷十八

安藝嚴島社文書　〔朱〕信齋紀行

右大辨藤原俊經願文　伊都岐島者極聖和光之砌大權垂跡之地云云承安四年

高倉	安元 元	乙未	一八三五 (一一七五)

〔増〕河内金剛山發掘經筒　文化六年發掘、〔考古界第六編第八號經筒沿革考〕

奉納妙法蓮經一部我今弟子彌勒龍花會中得解脱願以此功德普及於一切我等與衆
生皆共成佛道　僧圓然僧春朝僧相祐僧永道僧永俊僧嚴智僧叡辨僧定西僧長尊
承安五年乙未九月辛寅日願主朝尊　散位坂合部俊成縁友三因工名米正

高倉

安元　二

丙申

一八三六

（一一七六）

〔增〕相摸蓮華寺磬　金石摺本考曰鎌倉光明寺ノ舊號ニヤ（考古學雜誌第五卷第十二號磬ノ研究）

蓮華寺之磬爲源氏得脫鑄之安元二年七月一日

不知出銅器　安元二年

參河小坂井兎足社大般若經　奧書　〔朱〕三香手錄

安元二歲丙申二月廿六日　筆立願主大法師覺慶　樂主藤原朝臣宗成

〔增〕紀伊宮村產土神社鐘　（黑川氏日本金石年表）

〔增〕紀伊長谷宮鐘　那賀郡長谷毛原村長谷宮（紀伊續風土記稿）

高野山延壽院奉施入鐘一口爲僧照靜修聖庵源助房尼沙法兼法界衆生也　安元二

季二月六日　勸進入唐三度聖人重源願主　尼大覺

高倉 治承元 丁酉 一八三七 （一一七七）

安藝水精寺鐘 〔朱〕集古十種 〔朱〕寛齋金石目爲宗盛書

伊都岐島彌山水精寺奉施入 建立聖人永意 治承元年丁酉二月二日施主平宗盛

〔朱〕追錄信齋紀行云奉施入伊都岐嶋彌山水精寺治承元年丁酉二月日建立聖人永意施主右施主大將平宗盛

□二月日トノミアル由嚴嶋圖繪ニ出タリ可從歟

大和東大寺銅燈臺 寛齋金石目錄爲陳和卿造忠友曰未知治承丁酉之證

同佛像

筑前宗像阿彌陀經碑 傳云陳仁稜書〔增〕筑前國宗像郡田島村宗像神社藏明治三十九年四月國寶指定

一心不亂ノ下有專持名號以稱名故諸罪消滅卽爲多善根福德因緣之語以爲異

熱田所傳鮀大鼓 治承年中修復ト云

〔增〕此經石ニ關シ市河寛齋金石私志、青柳種信ノ經石銘考等アリ參照スベシ

大和談山妙樂寺十三重塔

和漢三才圖會云定惠和尙在唐中摸唐淸涼山寶地塔作之立廟窟上治承元年再興

高倉

治承 二

戊戌

一八三八

（一一七八）

山城八幡神宮寺鐘（集古十種）

宿院極樂寺鐘　治承二年六月朔日

河内譽田八幡別當石棺

越後青海社境内所出經筒　社人古川藏（朱）集古十種（増）歴代集北越七不思議云寶暦年中蒲原郡加茂市式内青海神社山中ヨリ堀出ス古銅器瓶太刀三品ナリ

銘曰菅原氏治承二年六月廿六日

伊勢世義寺經筒　發掘年所不詳、大正二年四月國寶指定東京帝室博物館藏拓本伊勢宇治山田市（徵古館案内陳列品目錄）

〔増〕敬白　奉施入如法經筒一口　右志者爲敎豪靈出離生死頓證菩提施入如右敬白　治承二年七月十二日造之　願主僧寛喜　造手藤井成重敬白

大和法隆寺銅香爐　（導）御物　高九寸二分强、口徑一尺一寸七分强、底徑九寸五分

大定十八年戊戌五月日　造金山寺大殿彌勒前靑銅埦一座臺具都三重十斤銀八兩棟梁祇毗寺住持三重大師惠琚金山大師仁美京主人郎將金令候妻崔氏伊次加女細絲殿前尙乘　府内承旨同正康信鑄成高尙

加賀江沼郡多太八幡宮矢根　木曾義仲所納　〔朱〕柳庵雜筆治承三年ト記ス

銘曰　治承二年三月十一日　裏有　吉字

狩谷望之藏古器銘　〔朱〕高六寸一分五厘口徑一尺八分腹周三尺七寸〔增〕私云七字恐可八

□定十七年戊戌三月日晋州寶月寺法堂主施主聖前排

金鉢副盖臺都重拾斤陸兩棟梁學明作知鑄成𩒳下　（附圖參照）

尾張長福寺藏經唐櫃蓋所記

勸請鎭守十五所權現大明神御寶前云云治承二季戊戌八月日願主惣大判官代　散位

中臣長女弟子民氏勸進僧榮藝大法師榮俊

金世宗大定十八年　大定通寶

高倉　治承三　己亥　一八三九　（一一七九）

〔增〕河內譽田八幡宮石函　縱九寸四分、横八寸三分、厚二寸、南河內郡譽田八幡宮（攝河泉金石文）

此觀音自熊野權現御夢想仍奉歡生　（蓋面）

唵縛羅馱波怛迷吽　（蓋正面）

治承三年正月十八日平朝臣　藪田三郎兼朝　（左右兩面）

攝津平內府重盛公碑　〔朱〕金石年表二年ノ條ニ入誤也　〔增〕東成郡田邊廢普門寺、眞僞可疑

小松平內府證空公

己治承三年
亥八月朔日

相摸大山寺養智院藏曾我祐成八歲書　曾我村尾澤明神祠官尾崎山城守所寄附云

ふさうめう王樣ゑ申上候われらけうたいはちゝにはなれ母はかりをたのみおもしろき事もなくけうたいつれにてほかゑまいり候ゑはむかいやしきの平さのにせひらかされうはやしたく／＼までもをなしやうにせひらかし候ゆゑうちゑかゑりはゝさまにつけ候ゑはいろ／＼さしかられせつかんにあい申候まゝかなしくそさゑも出申さすはこにてゝふたり內にい申たゝちゝのこさはかりをおもいまこさのさゝさまのないゆゑによそのものにもわらわれ申候はよう大なをさこになりかたきくさうすけつれをうち申たく候はゝ樣の大しにせいさなんおしゑ候まもりほんぞんにて候ゑはさられかいすけつれをころし申たく候恐々謹言

をふさうさま

熱田社所傳古面裏書　（附圖參照）

高倉

治承 四

庚子

一八四〇
（一一八〇）

〔增〕大和東大寺廣目天胎內銘（續奈良縣金石年表）

永久寺住僧[榮心]爲悲母尊靈尼蓮登[并]師爲靈僧信[覺]法生淨土法界衆生平等利益也敬白　治承四年十二月日

駿河清見寺藏大般若經跋〔朱〕信齋紀行

治承四年大歲庚子十二月十一日圓如房一校

下野古河城中源三位賴政卿首塚〔增〕賴政卿ノ墓ニ關シ「賴政墳墓考」ト稱スル書アリ可參考

〔朱〕信齋紀行　賴政卿ノ首級ヲ其郎黨密ニ携ヘ下リテ此地ニ埋葬セシコト鷲峰文集、大日本史註、武者物語等ヲ引證ス將其ノ地ニ猪早太渡邊競ノ菀モ有ト記セリ

南宋孝宗
淳熙七年　淳熙元寶

安德

陸奧石川郡岩法寺村塔

> 施主石川入道基光
> 有光
> 治承五年十月二日

〔朱〕石川安藝守源太有光也　〔朱〕因錄〇清和天皇—貞純親王
—經基王—多田滿仲——大和守賴親—石川稲原二郎賴遠—
—有光柳澤源太石川冠者住陸奧—基光石川三郎

養和元　辛丑　一八四一（一一八一）

〔增〕東京帝室博物館藏經筒

養和元年十月五日聖人澄珍願主米多氏

鍍銀、高九寸、口徑三寸四分、底部破損、明治三十五年攝津國豐能郡東鄉村大字出野村若宮八幡社發掘

山城百萬邊知恩寺什古笈

銘文　南無阿彌陀佛……

養和元年辛丑年正月八日　源空

竪二尺二寸、橫一尺三寸〇庄村易傳子筆記法然上人書シテ勢觀房源智ニ附屬ト見ユ〔增〕恐後世僞作歟

〔增〕武藏八王寺鈴木氏銅磬　（黑川春村）

壽永元　壬寅　一八四二（一一八二）

安德　壽永二　癸卯　一八四三　（一一八三）

加賀多太八幡宮古文書　〔朱〕古志口號云此寄附狀大夫房ノ書ト云ハ可疑

夫以八幡大菩薩者源家宗廟之洪基國土擁護之靈神也云云依之就多太八幡宮蝶屋庄十三町永代令寄進之者也仍添狀敬白　壽永二載五月二十一日源義仲

多太社之神領蝶屋庄十三町之處永代可守之者也

寄宮司殿　樋口次郎兼光承之

柳庵雜筆云今考ルニ此添狀ハ僞作セシモノ也云云去レトモ無解ニ近キ世ノ物ニハ非ナル也源平盛衰記ニ載セタル埴生ノ新八幡宮願書ハ是添狀ノ日付ヨリ僅ニ十日前ニテ大夫房覺明カ草セシ處也其文ニ曾祖父前陸奥守義家朝臣身寄附於宗廟子息名號八幡太郎以降云云ト記ス今此添狀ニ我祖ト記シテ曾祖父ト云ハズ陸奥守義家ト記シテ前字ト朝臣ヲ去テ錄セズ我祖トハ高祖父ヨリ以往ヲ稱スル字也義仲朝臣決シテ義家朝臣ヲ我祖ト稱セラレズ又前字ト朝臣トハ自由ニ取捨スベキニ非ス東鑑ノ列衛ヲ見テモ可知又今年義仲力戰於起仲倶梨伽羅同夏五月又行軍於加賀國ト云ハ誤ナルベシ倶梨伽羅合戰ハ五月十一日也加賀國發行ハ六月一日也宗盛享壽六十餘歲卒ゟ其廿一命時壽永二年五月廿一日ト云モ誤也實盛七十三歲天永二年辛卯ノ誕生ト源平盛衰記齋藤系圖ニ記セルニ從フベシ討死ノ日ハ六月一日ニシテ五月廿一日ニ非ズ

〔增〕伯耆櫻山大日寺鐘　出雲國簸河郡鰐淵村大字別所鰐淵寺藏（好古山陰めぐり）

伯耆洲櫻山大日寺上院之鐘壽永二年癸卯五月戊午十九日壬午改小成大之矣　守護六所權現十二大天十八善神等別熊野權現王子等若有食取人誅罰身命

好古山陰めぐり云、口徑二尺一寸、口厚二寸三分、龍頭ト迄ノ高三尺二寸、龍頭ノ高三寸、撞座中心ノ高一尺、撞座徑三寸七分、銘陽鑄、伯耆國東伯郡櫻山大日寺鐘今在鰐淵寺

南都東大寺銅佛像

東鑑云去壽永二年乙卯四月十九日令大宋國陳和卿始奉鑄本佛御頭至同五月廿五日首尾卅餘日冶鑄十四度鎔範功成訖

玉海云壽永二年五月十九日今日奉鑄東大寺大佛之面云元暦元年六月廿三日右中辨行隆未問大佛三間答云於御身者皆悉奉鑄畢

安藝嚴島社錦卷短刀黑漆宮 底銘 ○嚴嶋名所圖會

大宮 國司從四位下佐伯朝臣景弘調進 壽永二年癸辰○本ノマヽ是可疑三月朔丙辰廿日乙酉神拜次 初度受領

後鳥羽	元曆元	甲辰	一八四四	（一一八四）

攝津須磨寺制札　俗傳云辨慶筆也不知其實

此花江南所無也一枝於折盜之輩者任天永紅葉之例伐一枝可剪一指壽永三年二月
二日

越後福島左内村關根新左衛門藏古文書

來則迎去則送對則和五々十二八十一九十以是可和察虛實識陰伏大絕方所細入微
塵殺活有機變化應時臨事莫動心矣

壽永三年二月日　　法眼鬼一

源九郎との

攝津須磨寺平敦盛朝臣石塔　高九尺餘梵字ヲ刻ス

〔增〕大和當麻寺金堂棟木添木銘　北葛城郡當麻村當麻（續奈良縣金石年表）

壽永三年歲次甲辰二月十九日戊寅棟上云云

〔增〕大和春日神社破陣樂面刻銘　（續奈良縣金石年表）

以元興寺木模之佛師定慶　壽永三年二月

〔增〕武藏烏林稻荷社金皷　私云後世僞作歟

後鳥羽　文治元　乙巳　（宋）元曆二年八月十四日改文治　一八四五（一一八五）

武藏上行寺寶篋印塔

越前御藩宇都宮氏藏古文書

今度九州破相鎭數度軍功達叡聞九州武將勅許並豐前國壹萬五千町內九千七百廿餘町可令自領舊領六ヶ所可任先規事綸旨破仰出其旨令存全可破靜謐仍執達如件

文治元乙巳九月五日　權中納言親利

宇都宮大和守殿

〔增〕正倉院御物開眼筆刻銘（東大寺正倉院御物目錄）

文治元年八月廿八日開眼法皇用之天平筆

〔增〕大和春日神社地久面墨書

元曆二年乙巳二月日

〔增〕大和唐招提寺千手觀音體內銘（續奈良縣金石年表）

文治元年□□□七日依地動令顚倒畢仍以同年九月廿日修造之又中門同以顚倒了依之寺中極大方也奉請東大寺大佛師僧印勝以同年九月廿六日奉造立了

〔增〕河內玉祖神社製札　河內國中河內郡北高安村（國寶目錄）

文治元年十二月

後鳥羽 文治二 丙午 一八四六 (一一八六)

武藏豊島清光寺古碑 文治二年 〔朱〕信齋紀行

尾張眞福寺什 東大寺衆徒伊勢大神宮參詣記 文治二年古寫本〇尾張名所圖繪

同寺什 本朝詩合 文治二年寫本 〇同上

三　丁未　一八四七（一一八七）

陸奥塩竈明神鐵燈籠
奉寄進　文治三年七月十日　和泉三郎忠衡敬白
山城鳥羽安樂寺雲板銘
相模圓覺寺鐘　高一丈五尺、徑五尺八寸、厚六寸　北條時賴寄附
白鶴岡北方富士南有大圓覺云云
文治三年曹桐淸閑和尙自宅筆
東大寺勸進所脇息銘刻字　〔增〕原本文治四年トシ銘文三ナ四トシ「イ本三」トセル、非ナリ
奉施入東大寺念佛所　文治三年歲次戊申九月二日巳記時耳勸進上人　南無阿彌陀佛　〔朱〕易傳子云後乘房野源也

四　戊申　一八四八（一一八八）

後鳥羽	五	己酉	一八四九 （一一八九）

〔増〕美濃大塚多岐神社　（考古學雜誌第四卷第五號小川榮一氏美濃ニ現存スル金石銘追補）

土佐權守紀明棟　女施主藤原氏　如法經文治五年己酉八月廿八日乙卯勸進能仁

信濃借馬村磯禪師墓誌　同人墓自然石ニテ文治五己酉年十一月十八日頓室妙悟比丘尼ト刻シ左側ニ源義經公妻靜御前之母磯禪司墓

信州安曇郡借馬村有源義經妓女靜母磯禪師墓曰頓室妙悟大姉古松一株偃蓋可愛近槁奕換以稗者云云　千辛萬苦到則非也一則龍鐘一則婉變興盡體疲莫苦之何少焉龍鍾者死因葬于此婉變者成尼庵尼終自今之藥師堂此其遺迹而墳勒曰勸融院靜圓妙止大姉文治五年酉九月云云　銘曰生女如此母亦賢哉骨朽名否千載何衰墓表松古槁而復栽杭操歲寒垂蔭夜臺云云

庸園利忠云或人ノ云文治五年奥州ニ於テ義經自害ノ由京都ヘ聞エシカバ靜ハ今ハ世ニ在リテモ何カセントテ尼ニナリテ名ヲモ再性尼ト號シテ暫ク嵯峨ノ邊ニ居タリシカ後ニ南都ニ下リ住シテ二十七歲ニテ身マカリシトカヤ丹後國磯ト云フ里ニ靜ガ墳墓今ニアリ磯ノ禪師母子トモニ出生セシ處也丹後海陸巡遊日錄ニ曰村アリ又磯ト云昔白拍子磯ノ禪司及ヒ靜御前ノ出ル處也靜ガ塔是ニ在リト見エタリ

同國松崎郡藥師堂後靜女之碑　〔増〕後世ノ僞作歟

刻曰　勸融院靜圓妙止大姉　側刻曰　文治五己酉年九月二十三日

後鳥羽　建久元　庚戌　一八五〇（一一九〇）

〔增〕肥後願成寺藏磬　肥後國球磨郡大村（考古學雜誌第十二卷第九號磬ノ研究）

常福寺建久元年庚戌十月

武藏熊谷寺藏直實鞍銘　〔增〕後世僞作歟

如是畜生發菩提心　建久元二月七日

遠江池田宿行興寺熊野侍從老母石塔婆　〔朱〕東海道名所　〔增〕後世ノ僞作歟

建久元年四月三日沒

伊豆堀內村成願寺土肥實平墓　〔朱〕信齋紀行云木像ヲ安置ス烏帽子狩衣ヲ着セリ〔增〕後世ノ僞作歟

建久元年三月廿五日卒

南宋光宗紹熙元　紹熙元寶

二　辛亥　一八五一（一一九一）

相模筑井縣下河尻村寳泉寺石燈臺　〔朱〕擁書漫筆

刻日　建久二年

肥前眞手山徤福寺鐘　〔朱〕追錄三香手錄〔增〕此鐘建久七年在銘宜可削除

甲斐山梨郡藤木鄕法光寺鐘　〔朱〕信齋紀行〔增〕甲斐國東山梨郡松里村藤木法光寺ニシテ現存鐘ハ貞治五年ノ鑄造ニ古銘ヲ用ヒシモノナリ

甲斐國牧庄法光寺奉鑄施鐘一口建久二年辛亥八月廿七日從五位下遠江守源朝臣義定

〔朱〕義定ノ像及ビ神主ヲ安置ス神主ニ當本願從五位前遠江守法光大居士ト題セリ墳墓ハ西部村ノ下村陀羅尼堂是也ト云東鑑建久五年八月十九日安田遠州依謀叛被誅ト見ユルハ即チ此人也

〔增〕此鐘貞治五年ノ改鑄ニ建久二年、建治元年、建武三年ノ三古銘ヲ用ユ今參考ノタメ全文ヲ擧ゲン

「甲斐國牧庄法光寺建久二年辛亥八月廿七日從五位遠江守源朝臣義定」「建治元年乙亥十二月八日願主比丘尼新阿當修理大勸進沙彌性光」「建武三年丙子三月廿七日貞治五年丙午十二月廿七日大工道金」

〔增〕大隅蒲生八幡神社萩飛雀鏡針書　（大日本金石史）

右者若宮八幡宮御寶前」右志者爲□□息災延命」增長福壽□□祈念也」建久二年十月廿日願主敬白

後鳥羽　三　壬子　一八五二　（一一九二）

〔增〕山城金光寺鐘　今攝津東成郡平野鄉長寶寺、大正六年四月國寶指定（東京帝室博物館拓本）

建久三年淸涼七月忽命梟匠新鑄鴻鐘振昏黃晨朝之逸響驚上天下界之遠聞一音攸覃群類悉濟即作銘曰東山有寺名曰金光佛像瑩日鐘聲和盡四空八大一切十方倂預妙韻悉除罪障況斯處主旁滿願望凡同族輩永誇榮昌孫枝子葉傳慶表辭永保松算鎮崇華堂

大和長谷寺鰐口　銘鑄出、徑七寸三分五厘、厚一寸六分、磯城郡初瀨町（考古學雜誌第九卷第三號六四頁建久ノ鰐口、金鼓ト鰐口）

八幡宮福樂寺奉施入金口僧永覺建久三年十一月廿一日

攝津長田社鏡銘　〔增〕恐後世可僞作

武運成就　建久壬子年　集古十種

賴朝

甲斐明見村所傳　〔朱〕信齋紀行

建久三年之古牒

四

癸丑　一八五三　（一一九三）

武藏松蓮寺經筒銘　江戶名所圖會

承釣命　祈　日本幕下　建久四年八月　一宮別當松蓮寺修之

相模大山寺養智院藏古文書　〔增〕私云僞文書

急事曾我五郎時致依將軍憐愍助命被成下謹而是可請給候五月廿九日和田三浦太郎祐信との

私云筥根權現ノ什物ニ北條時宗ノ書アリテ「昨夜隣火忽消貴寺安穩珍重候時宗」トアル由象草ニ出タリ其頃短直ノ文章チ用ヒシ證ト云ベシ

肥後黑川村山中古墳銘　天保十三年秋所撿出云〔增〕恐後世ノ建立ナルヘシ

黑川左衞門尉源近愛女絲作之墳建久四年七月十五日

駿河厚原村曾我八幡社古文書　○道歌百人一首所載眞僞不詳〔增〕後世ノ僞作ナルヘシ

こよひかきりの道なれは一首をつくり書置ける

秩父山おろすあらしのはけしきに枝ちりはてゝ後いかにせん

雖親子一世盟誓於到來再會亡父如影隨形　一乘妙典建久四天五月廿七日　曾我五郎藤原時致行年二十歲書於駿富士狩場

紀伊熊野本宮神供大釜

建久四年

後鳥羽　建久五　甲寅　一八五四（一一九四）

甲斐藤木村法光寺位牌　（朱）信齋紀行云東鑑建久五年八月十五日安助遠州依謀叛被誅ト見ユルハ即此人也墳墓ハ西部村ノ下村

當本願従五位前遠江守法光大居士

〔增〕近江宗泉寺石燈臺　近江野州郡三上村大字妙光寺（以文會筆記抄）

建久五甲寅年六月日施主源定綱敬白

後鳥羽　建久六　乙卯　一八五五（一一九五）

〔增〕大和興福寺一切經版木　（奈良縣金石年表）

越前宇都宮氏藏賴朝卿感狀

九州之殘黨悉捕鎮之條智仁勇之至感不斜因茲豊前國守護職加後勘所也全可被抽

靜謐仍狀如件建久六年五月十六日　賴朝花押　宇都宮大和守殿

武藏松本山廣福寺木牌　（朱）江戸名所圖會云東鑑ヲ考ルニ稲毛三郎重成ノ室ナルヿ明カ也

一室圓如大禪定尼　建久六乙卯年七月上四日

〔增〕尾張名古屋堀江清足氏湖舟鏡

建久六年六月八日

南宋寧宗慶元元　慶元通寶

七

相模極樂寺鐘　〔朱〕市河世寧金石目爲覺然〔增〕相摸國鎌倉郡鎌倉町〔增〕（東京帝室博物館拓本）

極樂寺鐘銘幷序相模國之內大住郡之邊有一伽藍」名極樂寺濫觴季舊効驗日新盖」乃曾祖父藤原盛季之福田也」弟子左兵衛尉有季尋先祖之本」願思當寺之興隆遂致修複添以莊」嚴道場之具於此備焉眞俗之望亦」復足矣箇中欣闕洪鐘而已是以」殊課鑄工專抽微力一音初報十方」咸警罪霜忽消發露尤切仰願以」此善業廻向于彼衆生上自有頂下至無」間虛吼高聞拔苦之利遍被毒睡自覺」與樂之誠遠覃于時建長七年歲次」丙申夏四月十八日丁卯作銘曰」乹槌正控遐邇旁通夜漏警睡曉」更破夢罪隨聲滅福應響蒙」一念疑信三時挺功諸天有聽」悉地無空居肆屠者臨流釣翁」閑懺業障忽識圓融拔苦苦洽」利生巨窮卵胎濕化禽獸魚蟲」逸韻欣及良緣可同誰輕此器」巳用多銅使是神力豈思鑄工作銘者文章生三善宣衡淸書金剛資僧覺然鑄師廣階忠次　（集古十種）

丙辰

一八五六

（一一・六八）

山城笠置寺般若臺鐘　（增）山城相樂郡笠置村笠置寺、明治四十二年國寶指定

諸行無常是生滅法生滅々己寂滅巳樂笠置山般若臺新鑄華鐘遠報梵響願令衆生發菩提心建久七年丙辰八月十五日大和尙南無阿彌陀佛

易傳子筆記所載大同小異アリ並擧テ後考ニ委ヌ

同記云南無阿彌陀佛ハ俊乘坊重源ノ事也解脫上人ト誤也東太寺勸進所文治四年脇息ノ銘ニ勸進上人南無

阿彌陀佛ト刻セルモ同人ナリ

河內譽田八幡宮鐘　集古十種〔增〕今亡

八幡宮　譽田山陵鐘也建久七年丙辰七月日鑄之

相模江島斷碑　○栗原信充翁曰鎌倉志ニ出タリ今見ルニ「大日本江島□碑」トアルノミ其餘不可讀

〔增〕東京帝室博物館藏經筒　青銅製、高六寸二分、口徑五寸二分五厘、明治三十九年武藏國比企郡野本村大字下野本利仁神社境內發掘

勸進聖睿人義大德　壇越應順大德　女施主橘氏　建久七年大歳丙辰三月初日

如法經御筒奉鑄之狀如件

〔增〕東京帝室博物館藏松喰鶴鏡　徑三寸四分五厘、明治三十九年武藏國比企郡野本村大字下野本利仁神社境內發掘、

遠州山名郡木原鄉本住人今武州吉見郡大串鄉住人藤原氏爲滅罪生善往生極樂證

大善薩所奉加如件　建久七年二月日

〔增〕久米民之助氏藏朝鮮鐘　總高一尺六寸九分、口徑一尺一寸三分

明昌七年丙辰四月日鑄」成金鍾一重六十七斤德」興寺懸排普觀丹那同共一心」

聖躬萬歲上棟梁戶長金仁」鳳副棟梁延甫慶讃陳蕃孝」

〔註〕此鐘阿波國海部郡宍喰村壇深大山社鐘ナリシガ蜂須賀侯ノ有ニ歸シ更ニ傳シテ久米氏ノ所藏スルトコロトナレリ

尾張甚目寺二王門　建久七年所建今猶現存棟瓦ニ梶原景時奉行ノ文字アリト云

河内譽田八幡神寶四種

鳳輦　長刀宗近　神馬鞍　釣鐘　右大將頼朝卿建久七年寄附

〔增〕大和興福寺維摩居士座像胎內銘　（奈良縣金石年表）

〔增〕肥前健福寺鐘　肥前國佐賀郡川上村健福寺藏、大正二年九月國寶指定

肥前國山田西郡鄉眞牛山奉鑄洪鐘一口」右且為令法」久住具且為」法界衆生奉鑄洪鐘」建久七年丙辰十一月十九日甲午」滿山大衆定西睿秀蓮生」永舜長勢」良祐聖舜」大檀那散位笠時與」鑄師秦末則」伴兼經笠貞茂源守直」平助國伴季忠」藤原道宗」藤三郎貫首」藤原直保」伴兼信」酒井貞經」

後鳥羽 建久八 丁巳 一八五七 （一一九七）

上野辛科社鏡 〔朱〕多胡神保 〔增〕恐可後世僞作

〔增〕大勸進□大入道」 小勸進淸原國包源大將賴朝建久八年丁巳十二月廿六日

武藏妻沼聖天錫杖銘 〔朱〕信齋紀行云又長井ノ聖天トモ云

奉鑄武藏國長井聖天堂錫杖御正體建立氏人藤原實家宮道國平 建久八年丁巳四月八日

〔增〕金石款識所載經筒 文化七年甲斐國中巨摩郡落合村大字秋山發掘 所在不明

信心大施主源朝臣光經芳緣源氏所生愛子等現在悲母禪定比丘尼建久八年十月十一日

〔增〕周防國佐波郡牟禮村阿彌陀寺鐵多寶塔 明治三十五年七月國寶指定（荻野仲三郎氏藏拓本）

涅槃經日佛塔十三重」 律日相轉十三」 傳云金盤十三」 周防國佐波郡牟禮鄕」南无阿彌陀佛銘」 四至」 東限山峯」 南限大路辰巳經尾」未申多多良界」 西限多多良山界」北限」山峯」淨土堂」奉安阿彌陀丈」六像一躰」 附持僧戒念佛」 衆十二口」 多寶十三輪鐵塔」 奉納五輪水精塔」 釋迦眞舍利七枚。」經藏」 鐘樓」六葉鐘一口竪三尺口一尺八寸」 護法神社」 八幡、 熊野、 春日、」金峯、 山王、 白山」 食堂」 浴室」 釜一口闊六尺」鐵鑄一千斤」右當山者是大和尙位」 南无阿彌陀佛宋朝此」 域名地靈所造寺

起塔｣其｣也於是不斷之｣修念佛遠限未來縣內｣之割地薗住侶資供生｣?則僧伽
也州郡之以檀｣那爲外護邦人也寺塔｣之就靈威宜祈願但州｣裹之盛衰偏寺塔之
崇｣否重請勿舍之矣伏願｣吾與知識以此良因悉｣艤慈船於香海皆導芳｣駕於花
宮云耳｣建久八年丁巳十一月二十二日｣本願造東大寺大勸進｣大和尙位南无阿彌
陀佛｣[illegible]｣少勸進大德觀西｣大德盛圓?｣奉行｣目代法橋上人位證中｣大德仁敎｣
檀那國吏留守所多々良氏、日置氏、大原氏、｣源氏、大中臣氏、上氏｣立野氏、賀
陽氏｣菅野氏、中原氏、佐波氏、胡氏｣安部氏、矢田部氏｣件氏氏等傒□紹繼｣
寺社檀那遐迹不隨｣造東大寺杣始｣文治二年丙午四月十八日｣同寺上棟建久二年
辛亥十月十九日｣[illegible]｣同寺供養建久六年乙卯三月十三日｣鑄大工從五位下行豊｣後
權守草部宿禰是公｣從五位下同助延｣從五位下同是｣執筆圓蓮｣文字彫□祐慶
尊右□□｣

後鳥羽　建久九　戊午　一八五八（一一九八）

東大寺鉦鼓銘（集古十種）

東大寺末寺渡部淨土堂迎講鉦鼓五之內建久九年二月二日大和尙南無阿彌陀佛

遠江池田宿熊野侍從石塔婆　〔朱〕東海道名所〔朱〕行興寺本堂側所建

建久九年五月三日沒

筑前博多石刻彌陀經碑　碑高四尺八寸、幅二尺五寸、厚九寸、石質靑紫色、建久九年宋人所齎來宗像社頭置之〔朱〕信齋紀行〔增〕宗像郡田島村宗像神、社藏　明治三十九年四月國寶指定

追錄一心不亂ノ下有ニ專持名號以稱名故諸罪消滅卽爲多善根福德因緣」ノ廿一字一

〔朱〕追考　平安庄村生手錄ニ云碑ノ右傍ニ文字アリ如左よせたてまつる□□□□□」承久二年庚辰二月十二日ちやうのうち」在判□□□□□　〔朱〕□印ノ分文字不分明ちやうのうち未詳

○再考一書云以曲尺是チハカルニ蓋石ヨリ趺石ニ至リ高五尺一寸五分石色紫ナリ碑面ノ陷中彌陀像チ彫リ像上ニ六字名號幷ニ彌陀經四十八願ノ中第十八十九二十ノ願文チ彫レリ今文字處々沒シテ不見處アリ

○信齋紀行云宋碑ノ宗像ニ渡來セシ事因緣アリ平家物語チ按スルニ小松殿鎭西ヨリ妙典ト云船頭チ召上セ人チ屛テ對面アリ黃金三千五百兩チ授テ汝ハ聞ユル正直ノ者ナレバトテ五百兩チ汝ニ得サス三千兩ナ宋朝ヘ渡シ一千兩チ育王山ノ僧ニ引キ二千兩チ帝ニ參ラセテ田代チ育王山ニ寄テ重盛カ後世弔ハスヘシト記シ此妙典ノ事チ宗肩記ニ宗肩氏國ノ家子斐忠太妙典入道ハ入宋七度渡天二度海雲記ト云舟路自由ノ書チ著ス又斐氏軍要アリ船軍鍛煉ノ者也宗肩舟入宋ノ公役幷商船等皆忠太ノ計也一切經モ唐ノ世ノ本チ渡セリ五部大乘モ七通渡ス此五部大乘チ諸國ヘ納タリ入道ノ後妙典ト號ス又曰氏國ハ博智多才ニシチ小松殿ノ師範トナル又育王山ノ佛照禪師ハ本ヨリ重盛卿ノ歸依ニテ音信數度ニ及ブ梁史ニ卷三寶供養傳五卷チ小松殿ニ贈ルト云是宋使ノ此碑チ爰ニ齎來セシ所以也〔增〕一說ニ此碑チ建久六年ノ製作トナス

〔增〕近江胡宮金銅五輪塔銘　高一尺　近江國犬上郡多賀村胡宮神社藏大正十一年四月國寶指定

奉施入」近江國敏滿寺本堂金銅五輪寶塔壹基於其中」奉安置佛舍利二粒之狀如件建久九年戊午十二月日

土御門

正治元
己未
一八五九
(一一九九)

大和法隆寺經筒 (集古十種)

奉廟堂北氏女敬白正治元年

二
庚申
一八六〇
(一二〇〇)

紀伊高野天野路法眼碑 (朱)私曰金石年表爲天野道智可疑

(左)奉爲前大僧正聖基 天野路法眼泰勝 (右)正治二年十一月日

(增)肥後阿蘇神社 肥後國鹿本郡内田村、高四尺餘(考古界第一編第十一號考古雑綴第三十九)

梵字 □

正治二年庚申二月七日八十有四入滅同閏二月彼岸中五重塔□□

□□

土御門 建仁元 辛酉 一八六一（一二〇一）

〔增〕伊東子爵家藏朝鮮鐘　總高一尺四寸三分、肩部周一尺九寸五分、口徑二尺七寸七分、重量六貫三百三十匁、銘陰刻

承安六年辛酉」二月日造」天井寺金堂懸排」入重四十斤半

〔註〕磐溪詩鈔云蓋侯祖恩公征韓之役取此鐘以爲軍號」トアレバ豐公征韓ノ役ノ戰利品ナルガ如シナホソノ詳細ニ至リテハ考古學雜誌第十二卷第四號「飫肥侯所藏ノ朝鮮鐘」參照スヘシ

南宋寧宗 嘉泰元　嘉泰通寶

二 壬戌 一八六二（一二〇二）

〔增〕大和興福寺金堂內藥王藥上胎內鏡架銘（續奈良縣金石年表）

阿耨多羅三藐三菩指　建仁二年壬戌八月廿日春日氏敬白

建仁二年九月六日　願主大中臣姉子

〔增〕大和興福寺梵天像胎內銘（續奈良縣金石年表）

〔墨書〕　建仁二年壬戌三月十日

三 癸亥 一八六三（一二〇三）

〔增〕羽前西田川郡岡山比企能員碑（考古界第六編第八號莊內ニ於ケル金石文）

土御門	元久元	甲子	一八六四	(一二〇四)

武藏熊谷寺碑　〔貼紙〕金石年表所出可疑

下野東根石塔婆銘　下野國河内郡吉田村大字東根

〔增〕歸命本覺眞法身」常住妙法心蓮臺」本來具足三身德」三十七尊住心□」(東方)

六大无㝵常瑜伽」四種曼荼各不離」三密加持速疾顯」重重帝網名即身」(南方)

八葉白蓮一肘間」炳現阿字素光色」禪智倶入金剛縛」召入如來寂靜智」□□(西方)

右志者過去慈父」現在慈母□□□」□□□菩提造立」元久元年甲子十二月十八日」大檀那佐伯伴行 緣支藤原氏同氏 行 事僧□□山 小 聖大工伴宗安小楊工行眞 (北方)

石實凝灰岩、現在ノ總高六尺三寸、九輪覆鉢以上一尺、屋蓋方二尺八寸、高一尺四寸餘、塔身直徑約一尺八寸、高三尺、頸部高三寸、礎石方二尺七寸、高一尺（以上考古學雜誌第九卷第七號小松利三郞氏下野國東根ニ於ケル元久石塔ニ就テ）

山城高山寺藏無量壽經

跋文云　依法上人勸進爲自他平等往生淨土殊疑信心終書寫功建仁第四曆初月不旬

侯通議大夫藤原朝臣伊經　朱印アリ二　高山寺　方便智院

金　章宗　泰和四年　泰和通寶

土御門

元久二

乙丑

一八六五

（一二〇五）

武藏松本山廣福寺木牌

稻毛三郎平重成禪定門法名道全

〔朱〕江戶名所圖會云此外一類五人ノ靈牌アリ何レモ元久二年乙丑六月二十三日トアリ元久二年六月北條時政ガ讒訴ニヨリ重忠父子ヲ廿二日ニ殺シ翌廿三四ノ間鎌倉騷動ノ時ニ稻毛ノ一族ハ殺サレシ也（東鑑北條九代記等）

同熊谷寺碑　〔朱〕信齋紀行云此碑近年從境內所掘得

南無阿彌陀佛爲無官大夫敦盛頓證菩提令念佛開起者也光明遍照十方世界念佛衆生攝取不捨　武州熊谷住蓮生頓首　于時元久二年二月七日

商宋寧宗開禧元　開禧通寶

土御門	建永元	丙寅	一八六六	(一二〇六)

武藏淺草寺所傳古面　世事百談

裏書云　元久三年三月十八日

不知所出一宮明神甕硯　〔朱〕河世寧金石目〔增〕金石私志云竪五寸五分、幅四寸、厚九分、背有字

〔增〕一宮大明神祈進右元久三年九月吉日

〔增〕武藏泉藏院鐘　久良岐郡森中原村武藏國風土記稿ニ「大鐘今ハナシ古鐘ノ銘文ノ寫シノアリ」トアリ

武藏國紀州山桐谷乘寺鐘銘並序夫鐘也者以音聲爲佛事也所以懸於孤之園開覺八萬大衆控於須彌之頂結集十二分敎業林禮樂自此以興隆地獄辛酸賴是而解脫凡佛祖示生說法靡不用之況此方敎體實在于音聞也武藏州紀州山桐谷乘寺者蓋智覺僧都所創之基而鎌倉右幕下皈依之道塲也然岳師不肯自居開山之位乃請眞淨榮源僧都爲第二世蓋德厚而守之以謙也建久丁巳春遭鬱攸之變幕下輙重新輪奐殿堂門廡無不備矣但未有巨鐘甲子冬寺主榮公募衆檀聚赤金而範之重若于斤晨昏考擊貴乎妙音常住廣演大千之敎圓根淸淨頓脫萬劫之機情與無情同證寂滅者矣豫適寓鄰寺開講楞嚴寺主請豫銘爲之銘曰桐谷淨刹紀州梵筵分天臺敎輝四明燈範成巨器永鎭

山川虛空口谿金剛體堅長鯨吼浪神龍出淵遠徹三世普及大千本聞常住玅音密圓既
離動靜豈籍因緣三昧成就般若現前得一生果脫萬劫纏頓起苦趣高遊義天佛日杲杲
聖曆綿綿　維時建永元年丙寅三月吉旦　洛陽賜紫沙門賢道謹誌　當山第二世傳
燈佛子榮源造建　鑄物師園井和泉守春宣

土御門	承元元	丁卯	一八六七	（一二〇七）

山城圀方寺藏笠　號葵丸、集古十種

函裏面書曰　建永二年

筑前宗像香正寺什安覺書寫經　跋語（朱）信尭行宗像記ヲ引

都計合大乘經律論貝流行者摠六百三十八部二千七百四十五卷二百五十八帙奉書寫外題斷金結緣大宮司從五位下宗像朝臣氏國承元元年十二月十六日書畢執筆比丘良祐

（朱）宗像記備前國吉備津神宮ノ神官王藤齋内ガ兄ニ安覽ト云フ沙門アリ氏ハ伯耆字ハ頁祐名ハ安覺一名ハ色定ト號ス建仁寺ノ開山榮西禪師ノ俗弟也

（朱）松下見林云安覺者釋經祐姓色條氏本名色祐號安覺千光國師弟也

土御門

承元二 戊辰 一八六八（一二〇八）

陸奥郡山如法寺碑

右志者爲慈父也

承元二年八月十□□

□□□慶造立

古磬銘 栗原信充摸傳、所在未詳（朱）追考三香手錄大和弘仁寺ノ磬トス

爲法眼秀清離苦得樂往生淨土也承元二年戊辰十月日

南宋寧宗嘉定元 嘉定通寶

三 己巳 一八六九（一二〇九）

〔增〕北幸一氏藏磬 豐前宇佐郡驛村舘法鏡寺（中山平次郎氏拓本）

承元三季己巳八月五日丙寅奉鑄之彌勒寺金堂御磬自京遣之 法印祐清

土御門 承元四 庚午 一八七〇 （一二一〇）

〔增〕高野山金剛三昧院鐘 紀伊國伊都郡高野村 龍頭高六寸、龍頭迄ノ高二尺五寸三分、撞座直徑三寸五分、撞座中心迄ノ高六寸二分五厘、口徑一尺七寸五分（家藏拓本）

南無地藏菩薩 南無大勢至菩薩 滅罪眞言（此間梵字二行二十四字）滅惡趣眞言（梵字四行五十四字） 滅瞋恚罪眞言（梵字一行十五字） 南無不動明王 尊勝破地獄眞言（梵字二行四十二字） 阿彌陀心咒（梵字一行九字） 三種悉地眞言（梵字二行十八字）南無阿彌陀佛 南無觀世音菩薩 光明眞言（梵字二行廿三字）一切如來隨心眞言（梵字二行廿五字） 寶樓閣陀羅尼（梵字五行六十六字）南無藥師如來

南無釋迦牟尼佛 諸行无常 是生滅法 生滅滅已 寂滅爲樂 金光明鼓出妙聲遍至三千大千界 能滅三途極重罪及以人中諸苦厄 由聞金鼓勝妙音常得親近於諸佛 悉能捨離諸惡業 稅脩清淨諸善品 高野清淨金剛院 承元四年庚午十一月鑄之 鑄師多治比則高

和泉國一宮鐘 （朱）追考三番筆記今云在山科吉利倶八幡社〇嘉永七年初夏往視之銅包古雅

文云 和泉國一之宮天光大明神御寶前 承元年庚午十一月廿□日

順德

〔增〕河內叡福寺藏證空上人舍利器 河內國南河內郡磯長村（攝河泉金石文）

是法住法位 世間相常住 於道塲知已導師方便說（銅製蓋銘）

每自作是念 以仰令衆生 得入無上道 還成就佛身」建曆元年四月廿三日」沙

門 證空 造元（銀壺銘）

建曆元

辛未

一八七一

（一二一一）

西夏襄宗皇建元 皇建元寶

西夏神宗光定元 光定元寶

二

壬申

一八七二

（一二一二）

順德　建保元　癸酉　一八七三（一二一三）

伊豆御山常行堂銅磬　長九寸二分、幅五寸四分、鐫銘、京都林新助氏藏
（考古學雜誌第十一卷第九號磬ノ研究）
〔增〕伊豆御山常行堂磬建保元年癸酉十二月十三日檢非違使左衛門小尉藤原朝臣貞光
〔註〕背面ニ「御嶽山奉納元龜元年八月吉日左京進（花押）」ノ追銘アリ

相模江島建寺碑　寬齋金石目

山城笠置山解脫上塔　〔朱〕信齋紀行
建曆三年二月三日寂

順德

建保二

甲戌

一八七四
（一二一四）

飛驒國一宮水無瀨神社古文書　廳宜可古早令停止基光坊任文書道正隆領掌一宮神領等事副下所進文書等四十一通

一冬野片野兩村之事基光與正隆令相論云而冬野村者從昔至于今他人不相交之由正隆申於片野村者云四並俾寄進云代々國司廳宜令雖蒙被押領基光之訴申之間召兩方文書政所被披見云時基光所進文書中彼兩村訴文不見云云只爲上司職之中訴申云正隆兩村文書等如令申上見在云仍早任證文正隆可令領地者　一公文職事前國司廳宜之上且者基光所帶鎌倉將軍家下文之狀□□仍可爲正隆沙汰者一助高知行神領事於親父助重讓所分者不及申子細基外等神之……□神領者於令違背可爲正隆進止者右三個條可仰下之狀如件國臣承知勿違失以宣建保二年十二月日……

守大江朝臣

尾張八幡山常樂寺什舍利講式殘編一卷　奧書建保二年正月廿七日沙門高辨草之

金昇王珣
貞祐元　貞祐通寶

建保三　乙亥　一八七五　（一二〇五）

相模鎌倉所掘得經筒　（集古十種）

信心大法主昔散位宗岡重房今沙彌重仁凡氏建保三年七月廿五日

〔增〕大和興福寺龍燈鬼立像　奈良市登大路町、明治三十二年四月國寶指定　（奈良帝室博物館列品目錄）

綿百量願主大法師聖勝生年五十一建保三卯月廿六日法橋康辨（花押）　（墨書）

〔增〕大和新樂寺鐘　大和高市郡飛鳥村岡寺　（奈良縣高市郡志料）

城上郡森屋鄉新樂寺建保三年四月鑄

〔註　同寺ハ龍蓋寺ト云フ、奈良縣金石年表ニ亡トアルハ蓋誤レル歟

大和海龍王寺所傳四箇講式

十六羅漢講式　梅尾二月十五日初夜分　建保三年正月廿四日亥時於梅尾草之畢

沙門高辨　南都海龍王寺常住

紀伊侯御藏笙　號小男廉　集古十種

建保三年乙亥三月中旬造出　信貴山僧行圖　生年五十七

順德

日光中禪寺鐘　集古十種　信齋紀行、〔朱〕文化辛未年毀今亡

日光山權現御宮前奉施入□尒　一口事　右志者爲左衛門尉藤原政綱北方藤原並所□□子等　御息災延命恒受快樂心中取念決定成就之也　建保三年丙子三月廿二日願主左衛門尉藤原政綱

追錄　讀耕集云中禪寺有鐘樓寺僧曰有銘識余謂不知何人所作也即登樓見元巨鐘一口範模稍古字面頗渤拂拭而讀則建保四年三月左衛門尉藤原政綱爲祈其妻兒之無恙所施入于日光權現而嘉元二年五月山僧覺音自寺家所挽上也

建保四　丙子　一八七六　（一二一六）

〔增〕大和圓成寺持國天臺座銘　（墨書）明治四十二年九月國寶指定　大和添上郡大柳生村忍辱山（奈良縣金石年表）

建保四年四月四日□□四天　以下摩滅シテ讀メズ

〔增〕陸奥如法寺佛像碑　（金石摺本考）

尾張侯御茂筐　集古一種號二帶

建保三季丙子八月上旬造出之　信貴山行圓大和內山永久寺管絃講方筐

日光中禪寺磬　下野國日光輪王寺藏

〔增〕建保五年六月日奉施入男體權現金剛佛子淨智坊獻宣大工藤原兼則生年六十

三（表面）唵阿謨加尾廬左　摩賀母捺（裏面）

〔增〕下野國佐貫石佛銘　下野鹽谷郡佐貫村慈眼寺

下野國　郡讃岐鄉巖堀修造事」觀進沙門滿阿彌陀佛大檀那右兵衞尉橘公賴

建保五年丁巳三月彼岸

攝津能勢郡出野村一古家所出藤原經房朝臣書

こと建保五年丑ふつき五日に云云從四位上侍從行左少辨藤原經房花押たてまつりける藤原經房　かき

曇る雪けのそらを吹かつて月になりゆく須磨の浦かぜ

〔朱〕私云此古書文化十四年の秋出るものと云もとより無稽の僞書にていさゝかも信ずべきものにあらざる

こと玄同放言に彈斥しつくせりさいへども世にまことしてよろこぶ人のあればしるしおくものにこそ

伊豆堀內村成願寺土肥實平墓　〔朱〕信齋紀行云木像アリ僧形也

建保五年九月廿三日卒

尾張眞福寺藏本朝文粹第十四零本　建保五年古寫本　尾張名所圖會

順德 建保六 戊寅 一八七八（一二一八）

〔增〕下野圓滿寺藥師堂藥師如來銘　（丸山源八氏藏）

建保六年二月廿三日大旦越藤原安則

承久元 己卯 一八七九（一二一九）

陸奥郡山如法寺釜堂碑　高三尺幅六寸〔朱〕〇古十種

建保七年己巳天二月日

私曰女髮ヲ長ク垂テ佛像ヲ禮ス側ニ笠ヲ着タル男三叉ノ物ヲ持タリ其三叉ノ佛像各一體アリ其下ニ同シク笠ヲ着タル人立テリ手ニ持タル器何ナラム不詳古怪ノ碑石也

梵字石卒都婆　〔朱〕三香筆記云大和般若寺邊市所建

椎守行未末子爲菩提所建

〔朱〕私云弘長元年條所出ノ笠卒都婆ト同異加何文中行末ノ二字ハ就テ疑處アリ

〔貼紙〕此梵字碑弘長元年條所載爲正

〔增〕圓空經筒　（市川米庵）（黑川氏日本金石年表）

二
庚辰
一八八〇
（一二二〇）

仲恭 承久 三
辛巳
一八八一
（一二二一）

後堀河 貞應 元
壬午
一八八二
（一二二二）

筑前觀音寺鐘　今在肥前河上山

〔增〕近江金剛輪寺藏磬　近江國愛知郡秦川村

（表）松峯山　金剛輪寺　貞應元年四月日

後堀河

貞應二

癸未

一八八三

（一二二三）

讃岐屋島千光院鐘銘　集古十種〔増〕鑄出銘、讃岐國本田郡瀉元村屋島寺

奉鑄讃岐國屋島峯千光院洪鐘壹口右此鐘者勸進聖人當國住人沙門蓮阿彌陀佛爲濟渡群生發可奉鑄當院洪鐘之願去以承久元年四月佘上洛於六條町勸十方檀那以

貞應二年癸未十月廿六日　勸進聖人蓮阿彌陀佛鑄師散位上所宗文

〔増〕大永四年十一年ノ追銘アリ

山城栂尾石水院

追考、石水院ノ造搆山城眞言教寺虛空藏堂洛北鹿苑寺金閣ノ造製何レ寳鑑內傳所載ノ龍伏ノ法ニヨリテ桂ナルヿ柳庵雜筆ニ詳カ也

〔朱〕柳菴雜筆云栂尾ノ石水院ハ後鳥羽院ノ御學問所ナリシチ承久大亂ノ後賀茂神主能久賀茂社ノ後廿餘町ニ建立セシチ貞應二年ノ秋栂尾ニ移シ立シ也天保甲辰ニ至テ六百廿二年ニ及ト雖トモ草創ノ舊ニミテ古色着然タリ

〔増〕下野足利鑁蔵寺鐘　考古學雜誌第十三卷第三號丸山瓦全氏下野に於ける金石文三

下野足利御庄」鑁蔵寺鐘　貞應二年癸未十一月日

元仁元　甲申　一八八四（一二二四）

大和大福寺鐘　〔増〕和泉國泉南郡貝塚町願泉寺藏

銘曰　大和國廣瀬郡箸尾郷大福寺推鐘也　貞應三年甲申三月日願主圓阿彌陀佛

〔朱〕此鐘今在于和泉耳塚卜云　〔増〕康正二年、天正十三年ノ追銘アリ各年ノ條參照

後堀河

〔增〕大和千光寺鐘　大和國生駒郡南生駒村鳴川（東京帝室博物館藏拓本）

大和平群郡千光寺　元仁二年乙酉四月　日

〔增〕大和吉野水分神社若宮神像裏面　（續奈良縣金石年表）

奉造立若宮御前御正體施主供奉大法師經覺生年卅九嘉祿元年乙酉十二月　日佛
師運慶　（墨書）

〔註〕右殿（三十八所神）及左殿（小守神像）ハ作者ノ名ヲ記サザルト製作年月ガ十一月廿日ナルトノ差異アリ

〔增〕土佐雪蹊寺鐘　（土佐國古鐘類聚）沼田頼輔氏云この鐘維新前鑄銷して大炮を作るといふ

土州高福寺撞鐘大願主女越智氏當寺建立本願主刀念生靈俗名父生大仲臣福光奉
寸增鐘撞鐘也檀那右近將監定光嘉祿元乙酉歲十二月五日鑄之

右吾川郡長濱村雪蹊寺鐘按高福寺者雪蹊寺舊號也

嘉祿元　乙酉　一八八五（一二二五）

宋理宗寶慶元　大宋元寶

二　丙戌　一八八六　（一二二六）

大和笠置山彌勒石前十三重石塔婆

刻曰　嘉祿二年

安貞元　丁亥　一八八七　（一二二七）

相摸星谷寺鐘　相模高座郡座間村入谷

〔增〕相州星谷寺奉鑄鐘一口嘉祿三年丁亥歳次正月廿一日大勸進金剛佛子秀毫大檀越
沙彌西願大檀那源朝臣信綱大工源吉國勸進金剛弟子秀範

（東京帝室博物館拓本）

武藏賀美郡眞光寺鐘　銘文信齋紀行以所載補之〔增〕武藏國大里郡東竹院

奉鑄武州賀美郡阿保鄕眞光寺鐘右志者爲信心大檀那小野氏妙阿彌陀佛現在安穩
後世十善兼法界衆生平等利益也　嘉祿三大歲丁亥五月十日

〔增〕東大寺廢東塔院步廊花瓦　奈良市雜司町、奈良市三宅英慶氏藏

東塔廊瓦嘉祿三年造之

後堀河	伊豆善名寺佛器　〔朱〕集古十種曰田方郡善名村神主藏 館山御佛性器　安貞二年戊子八月日　願主僧幸賢 〔增〕「器」ノ字ハ拓本ニヨルニ鉢ノ誤也 河內譽田八幡宮假面裏書　〔朱〕集古十種 奉施入　譽田宮　安貞二年戊子五月　日　放生會之斷也私曰恐料字也　信貴山行圓自作
安貞二	〔增〕山城東寺鉦鼓　京都市下京區東寺　（考古學雜誌第四卷第一號ノ京都金石文） 爲現世安穩後世菩提奉施入東寺舍利　安貞二年六月卅日藤原爲支並紀氏
戊子 一八八八 （一二二八）	宋理宗紹定元　紹定通寶

寛喜元 己丑 一八八九（一二二九）

河内春日山鐘　〔増〕此鐘ハ次ギノ光德寺鐘即チ雁林堂ノ鐘ナリ原著書ハ之レチ別個ノモノト考ヘシハ誤也

河内光德寺鐘　〔朱〕雁田　尾畑村〔朱〕集古十種

南無无量壽佛　夫松谷者風水地靈而登東廣舊跡春日山兀朝陽照軒窓西海入船曜日多日北信貴寶殿南在法喜金剛靈山集四時美景復雁林堂傍有一井泉名曰龍水福井一汲顯延壽福德耽味不捨其樂佛法威德以可敬信于時寛喜己丑別當俊圓誌焉治工藤原家嗣

〔増〕河内國中河内郡今堅下村光德寺、木崎愛吉氏ノ攝河泉金石文ニ云黒川眞道君ノ日本金石年表（考古界）ニコノ鐘ノ所在チ春日山雁林堂ノ二ツニ分テルハ誤リナリト云フ可從

後堀河

寛喜二

庚寅

一八九〇（一二三〇）

〔增〕肥後城泉寺古塔（肥後國球磨郡湯前村新納忠之介氏報）

奉造立九重石塔一基　右志者爲淨心往生極樂也　寛喜二年庚寅九月廿三日　大檀那沙彌淨心　大工兼佛師幸西小工榮幸　院主念西

奉造立七重石□□□　爲往生極樂□□爲四生皆成佛□□代□之狀如件　寛喜二年庚寅十一月日　大願主沙彌淨心　大工幸西　榮幸　主□□

(1)□造立十三重塔　右爲滅罪生善乃至(2)法界(3)平?等利益造立如件　寛喜二年庚寅十一月日　大檀那沙彌淨心並藤原氏　大工兼佛師幸西　小工榮幸　行事藤原賴忠　源光吉　鍛治永正　院主金剛佛子念西

〔註〕一、1　按奉歟　2　熊本縣史蹟調査會報告第一回法作法非也　3　按□平歟

二、此一基今八代郡植柳村米知德氏藏

三、以上三基ノ庚寅ヲ熊本縣史蹟調査會ニ庚丑トナス蓋シ「刀」ヲ丑ニ誤讀セシモノナルベシ

武藏眞光寺鐘　作嘉祿六

參河藥勝寺鐘

尾張眞福寺藏新樂府畧意　寛喜二年寫本　○本洲名所圖會

後堀河

寛喜三

辛卯

一八九一

（一二三一）

武藏慈光寺鐘

近江井口村山王鐘　〔朱〕信齋紀行　〔增〕近江國伊香郡北富永村大字井之口村

南膽部州大日本國近江國伊香郡己高山推鐘也寬喜參季辛卯三月四日庚寅於富永

御庄圓滿寺鑄之本願主沙彌敎西淺井氏嫡男右馬允生江盛助己高山和尙釋慶奪結

緣衆淺井東西伊香三個郡氏人等大工散位土師宗友

貞永元
壬辰
一八九二
(一二三二)

大和法隆寺金堂阿彌陀佛像記　大和國生駒郡法隆寺村（據拓本）

〔增〕奉鑄顯
阿彌陀如來　觀世音菩薩
大勢至菩薩

右去承德季中白波入金堂侵佛像盜道具自尒以降一百餘歲寺僧等每見須彌座之空殘慶悲端嚴像之永隱非啻一寺之舍悲爭无四隣之傷意依斯勸進十方施主磨瑩三尊聖容于時寬喜三季辛卯三月八日前權僧正範圓寺務之時始鑄之　貞永元季壬辰八月五日法印權大僧都覺遍寺務之時供養之　仰願本師阿彌陁伏乞本願聖靈納受面面懇志不空各各結緣然則斷興修善之道漸以滿之矣　貞永元年八月　日大勸進僧觀　俊大佛師法橋康勝銅工平國友

〔增〕河內得勝寺鐘　河內國南河內郡北八下村大字金田廢得勝寺（古器銘纂）
佐重河內國八上郡金太鄉得勝寺右件鐘者故佐伯時重所施入而依鐘薄於氏人之推所奉鑄替也貞永元年壬辰七月十四日大工大中臣弘兼

四條

武藏東光寺碑　高五尺八寸幅二尺一寸（朱）石戸庄堀之内村（朱）按貞永二年四月十五日改元天福

貞永二年三月七日光明遍照十方世界念佛衆生攝取不捨

河內觀心寺鐵燈銘　大正四年三月國寶指定　南河內郡川上村

奉鑄大燈爐事云云貞永二年己亥中春日願主沙門良心、大工大原光爲敬白（朱）集古十種

天福元

伊豆那賀濱天福寺磨崖佛像

山城栂尾石水院標石（朱）追加三香筆記

〔增〕大和法隆寺鐵燈　大和國生駒郡法隆寺村法隆寺事務所庭園

「貞永二年云云」

癸巳

〔增〕大和玉置神社金鼓（今亡）大和吉野郡十津川村玉置川（大和誌引用奈良縣金石年表）

貞永二年作

一八九三（一二三三）

〔增〕同金堂內東端天蓋銘（同上）（續奈良縣金石年表）

〔增〕大和談山神社笙　大和磯城郡多武峯村多武峰（續奈良縣金石年表）

天福元年癸巳六月下旬之比作之信貴山僧行圓

〔增〕大和唐招提寺戒壇院瓦　京都杉浦丘園氏藏（雅樂堂好古雜誌第一）

天福元年五月造之

越前五分一村鑄物師所傳古文書　〔增〕恐可僞物

藏人所〔朱線〕牒　河内國丹南郡狹山鄕内日置庄鑄物師

燈爐鑄依忠節被下御文訖從右國諸國七道在就任其筋目諸役諸關渡市午山午嶺分例物以下被免除者也全責買御公用等可令運定如件

天福元年十一月日　出納前加賀守朝臣　藏人中務亟菅原　別當式部少亟左知兼

私云此鑄物師ノ家ニ天正八年柴田修理亮天正十一年丹羽五郎左衞門天正十三年增田左衞門尉文祿五年增田左衞門佐是等ノ文書ヲ藏ス又近ク正德五年七月ノ文書ニハ「天福御宇菊御紋御赦免御綸旨頭領大工職松村善兵衞云云禁裏諸司從五位藏人方御藏刑部少輔珍弘」ト記シタリ

〔增〕駿河海長寺鐵燈　駿河國安部郡不二見村大字村松（駿河誌料）

㠬岳寺　天福元年癸巳

四條 | 文曆元 | 甲午 | 一八九四（一二三四）

河内布忍寺鐘　〔朱〕一本作元曆元年甲午案元曆元甲辰而非甲午以文曆可爲眞　〔增〕河内國丹北郡布忍莊ニアリシモ今ハ亡ビタリ

河内國布忍寺奉懸右奉懸意趣者爲件五子往生極樂也文曆元年甲午十二月十八日
孝子等沙彌願西伴時貞平國友平盛澄菅野姉子平姉子平徧子別當僧聖舜東大寺鑄
物師草部信時

〔增〕駿河淺間新宮鐘　（駿國雜志）

……九月十七日當社先神主村……始鐘之其後永久二年庚辰二月　日……逓豖支
源氏大檀那……鑄　改之文曆元年甲午……大勸進惣社別當窻信檀　神主主村
親……付改之……所夫等之
　文曆乙年午十二月三日　大勸進惣社……窻信

足利文庫宋板周易註疏　宋淅江枚十三冊上杉憲忠所寄附〔朱〕柳庵隨筆

第二日　端平改元冬十二月廿三日陸子三遹山寫易東牕禪閲

山城三聖寺鐘　〔朱〕追考三香筆記

東去都門云云佛子蓮文曆首元甲午黃鐘八日云云口二尺九寸高三尺九寸（香山子所示）

〔增〕尾張國照寺磬　尾張國中島郡大和村刈加賀（考古學雜誌第十一卷第九號磬ノ研究）

藤島賢林寺　觀進僧公明天福二年甲午二月十五日

〔增〕足利鑁歲寺棟札　（考古學雜誌第十三卷第三號丸山源八氏）

奉倣起方五間大日如來大殿壹宇天福貳禩歲星甲午正月十六日乙卯甫□同二月十九日戊子立柱八一

孟夏朔七日乙亥上棟　大檀那從五位上左馬頭源義氏方方雜掌大行事法橋上人位權律師

重加大勸進傳燈大法師位阿闍梨了心

僧公文所大進
左近將監

奉行人　大工覺慶法師
藤原兼資藤左近
小野有家萱宇三郎

巽　藤原朝氏野田大宮司殿

坤　廚所允源季能源民部
左衛門尉高階惟行大平

乾　阿闍梨禪阿　小俣別當
中務亟有道　廣經眞下

艮　左衛門尉高階義定刑部左衛門
刑部烝藤原範綱佐野

巽引頭　武藏源六橘宗宛源友景源等十人

坤引頭　國府野源太夫秦國加藤守友源爲友等十人

理教房般若房法印弟子

乾引頭　淵邊藤三藤宗能藤宗宛源重等十人

艮引頭　山下二郎大夫春日兼重平近中清季遠等十人

宋理宗端平元　端平元寶
端平通寶

四條

嘉禎

元

乙未

一八九五

（一二三五）

〔增〕山城淸水寺涅槃堂金口銘（京都下京區東寺 石文）（考古學雜誌第三卷第十二號岩井武俊氏京都ノ金

金口一口 奉爲興隆佛法 所願成就助常苦森寺奉□嘉禎丙□□□奉爲願主志

二

丙申

一八九六

（一二三六）

陸奧白川郡三城目村碑 高二尺七寸、幅一尺八寸

クハン□アフツハウ カテイニ子ンヒノエサル カキヌレクタウハウ 六月二

十六日

三

丁酉

一八九七

（一二三七）

宋徑山無準書　授于東福寺開祖圓爾　辨交徵書

道無南北弘此在人果能弘道則一切處摠是受用處不動本際而歷遍南方不涉別求而普參知識如是則非特此國彼國不隔絲毫至於及盡無邊香水海那邊更那邊猶指諸掌耳此吾心之常分非假於它術如此信得及見得徹則逾海越漠陟嶺登山初不惡矣圓爾上人傚善財遊歷百城參尋知識決明已躬大事其志不淺炷香求語故書此以示之丁酉歲十月住大宋徑山無準左僧書

尾張笠寺勸進文　（宋）信齋紀行

嘉禎三年十二月　日　沙門阿願

宋理宗 嘉熙元　嘉熙通寶 嘉熙重寶

四條
曆仁元
戊戌
一八九八
（一二三八）

紀伊國懸社文書　國造家藏
日前國懸社御遷宮時四面四至糺定鄕之事云云嘉禎四年戊戌九月廿五日　紀伊國司從五位下源長信

延應元
己亥
一八九九
（一二三九）

大和東大寺鐘　龍頭補鑄側面刻字（朱）忠友筆記（增）奈良市雜司町
延應元年己亥九月卅日鑄之大勸進法印行勇　大鑄師左兵衛忠延時小助工廿人

山城平安本能寺所傳笙銘　（朱）集古十種
延應元年□月中旬之比造此　信貴山

仁治元	庚子	一九〇〇	（一二四〇）

大和野田村四恩院石器蓋刻銘　〔朱〕忠友筆記

延應二年二月廿一日

近江石山寺額

石山寺仁治元年庚子十月十二癸卯書之從三位藤原朝臣行能

〔增〕大和春日神社安居屋柱　銘陰刻　（續奈良縣金石年表）

春日御社　奉寄田地事合肆段者字江田」在大和國城下郡西郷十六條百二十三坪内南四段也」四至限東大道限南畔限西畔限北際目』但不輸進官領也段別地子壹石參斗也公事介春秋」參斗之外御幸行御參宮等大臨時役者領家沙汰」也地子正物ハ壹石也今三斗ハ公事也　地子樹十合佐〔タ〕也』右件田地者傳燈法印理玄之先祖相傳私領也理玄者興福寺僧也春日大明神者晝夜各三返之警深」御座豈不蒙擁護哉神恩是重爭不報之故爾割分相傳」之彼地奉寄進論講之大般若經轉讀之供料以倣功」志之所之爲過去二親兼理玄滅罪生吾出離生死證大菩」提乃至法界平等利益仍勒子細敬寄進之狀如件」仁治元年庚子十一月二十七日寺僧理玄在判」藤原姉子在判」同仲子在判』

〔註〕銘陰刻、柱ノ一面幅三寸、高四尺四寸ノ間ニ三行、三段ニ刻サルレバ行ヲ」』ハ段ヲ示ス（考古學雜誌第十三卷第八號高田十郎氏大和ノ金石文補遺參照）

四條

宋國沙門師範答聖一國師書

師範和南手白日本承天堂頭長老維時隆暑綱惟道體安穩去秋初能上人來收書且知住持有況老懷慰喜又荷遠念山門興復重大特化千板爲助良感道義云云

〔貼紙〕私曰國師ノ歸朝仁治二年ノ秋トス年譜ニ同年徑山ノ火チ聞テ千板チ贈ルト云ヒ特化千板ノ語アルヿ可疑釋書ニハ徑山後火アリテ同年ノ事トハ聞エズ後考チマツモノ也

〔朱〕釋書圓尒傳　淳祐元年四月辭佛鑑鑑出密庵祖師法衣幷自贊頂相與之諸友送至山下特湘絕岸飲雪巖二人眷々來行在仲夏發四明孟秋著博多本朝仁治二年辛丑也

〔朱〕隣交徵書云眞書雲藩藏按聖一年譜仁治二年師聞徑山有災勸謝國明化千板贈之國明宋人也嘗投化住博多津

〔朱〕釋書云徑山後火佛鑑作疏索援爾白圓明丞相通巨材珍貨

仁治二

筑前宗像鎭國寺所置釋良祐木像背銘　〔朱〕平安庄村手錄

大日本國鎭西筑前州宗像宮座主色定法師影像一切經律論一筆書寫行人　仁治二年辛丑十一月□□刻之勸進僧榮範明年十一月初六日甲申巳刻入滅畢細工□□□□

辛丑

〔增〕豐後富貴寺碑　豐後西國東郡田村蕗中　（國東金石年表）

一九〇一

仁治二年辛丑八月十二日　造立者廣增彼岸第二日

（一二四一）

宋理宗淳祐元

淳祐元寶

淳祐通寶

三 壬寅 一九〇二 (一二四二)

大和藥師寺古瓦文字
仁治壬寅藥師寺

下野日光中禪寺御供器 (朱)集古十種
奉施入日光山新宮御器仁治三年□□□

(增)上野甘樂笹村大日橋石 (日本金石年表)

後嵯峨	寬元 元	癸卯	一九〇三 （一二四三）

〔增〕大和西大寺舊藏大般若經厨子　東京根津嘉一郞氏藏

始行　春日御社若宮長日轉讀大般若經每日奉轉讀三卷　供僧六口每月五箇日令結番各勤仕之淨行可爲其仁承仕二口爲度勤付之大和國平群郡字椎木庄城下郡字伊保戸水田爲供料限永代所寄進也坪付田代旨裏所等委細之記也　夫以難受人身難遇佛法適具此二緣豈徒默止哉爰春日大明神者威光耀一天靈應普四海　所以久成如來也　深位薩埵也　本地垂跡之方便現當二世之利益誰疎渴仰之志哉　弟子殊所奉尊崇也　仍去貞應元年夏竊企百箇日參詣之間聊有感靈夢　少兒來告曰　汝自可書寫大般若經是悲母之命也云云　大部之自寫敢不堪孤姉之所爲　殊不及思惟空送年月　其後寬喜之比宿因催內忽企微功始寫一軸如趣千里運一步　漸及半分之間重有靈夢於若宮瑞籬內書寫經卷黃衣神人二人令守護之狀也　彌凝强信遂至仁治三年秋八月六百軸之筆功早終　敬捧社壇延開題供養之席如夢想之告奉安置若宮寶前以六口之禪侶致每日之轉讀　爰和州有一領地號椎木庄　本是宜秋門院女房覺阿房領也　弟子有由緒所傳領也　自昔無牢籠向後又有何房哉　然而爲備後代之龜鏡　申請長者宜畢覺阿存生之時深隨喜弟子之愚願　互相議右此庄代代領主者無子孫無遺胤誰訪誰助　不如寄附此典祈累葉之菩提但草菴之煙細懸命於此地自開眼之翼日可始此行也　又同州伊保戸水

田者尼眞如所領也讓淨阿之契狀云淨阿一期之後者　寄附大般若之承仕供貧自身
恩所之亡魂云云　任遺記同所寄進也　乞願奉始春花門院覺阿淨阿眞如等施主乃至
結緣隨喜之輩爲先　無緣無帖之類無漏　皆令得脫　此經者滅罪之用妙也　登岸
之力大也　多劫之罪雲早晴畢竟之空　無始之客塵速拂空門之風　於諸佛土隨願
往生之文所憑也終焉之刻必姹安養之寶蓮　完得其上正等菩提之說所期也　濟度
之道普及四生之群類　所願之趣蓋以如此　冥顯垂照覽矣

寛元元年十月日　　願主　比丘尼淨阿

〔增〕大和當麻寺曼荼羅堂佛壇銘　大和北葛城郡當麻村當麻　（續奈良縣金石年表）

奉□□□寛元元年五月日尼眞道　？？

〔增〕武藏百草松蓮寺經筒　作仁治四　（黑川氏日本金石年表）

〔增〕上野高尾村古碑　（黑川氏日本金石年表）

〔增〕豐後富貴寺碑　西國東郡田染村蕗中村　（國東金石年表）

キリク　サクサ　仁治四年卯月十五日

後嵯峨 寛元二 甲辰 一九〇四 (一二四四)

大和吉野山世尊寺鐘 〔朱〕集古十種 〔增〕保延七年條參照

金峯山洪鐘龍頭鑄續 寛元二年甲辰四月九日云云

不知出所破鏡佛像 〔朱〕寛齋金石本

攝津鯰瀨淨(原本作鴻非也)橋寺鐘 攝津有馬郡生瀨村、明治三十七年二月國寶指定

夫四劍賓眠吒脫刀輪於十頭隋朝智與足夢絹於十匹撞鐘之利益遠速(速字原本脫據拓本補)被于梵漢佛子卜阿練若而排堂舍以淨(原本作鴻非也)橋寺而爲題額 仍命鳧氏有鑄鴻鐘此器之爲體隨意之聲應物兮苔然則每鳴之舍那淨滿之戒體普納得衆類毒叩之彌陀誓願之名聲廣流傳 三有于時寛元二年無射九月作銘曰 銅是土子鐘爲金聲鳧氏和合鯨乳鑄成應霜之韻如雷兮鳴聞於百里告以五更梵響所及毒睡易驚此器久(原作文非也) 駐我寺無傾傳之三會利其群生南無阿彌陀佛 願主沙門證空

文字ノ右ニ〇ヲ附セルハ原本ニ□即チ不明ナルヲ示ス、又爲題額以下三有ニ至ル五十二字ハ原本ニ省畧セルモノ

武藏西別府九品佛堂梵文碑 高五尺、幅二尺〔朱〕信齋紀行云別府左近將監成改ノ碑ニヤ

寛元二年甲辰二月日

三　乙巳　一九〇五（一二四五）

武藏比企慈光寺鐘　〔增〕武藏國比企郡平村　明治三十九年四月國寶指定

〔增〕奉治鑄六尺推鐘一口天臺別院慈光寺大勸進遍照金剛深慶善知識入唐沙門妙空大工物部重光寛元三年乙巳五月十八日辛亥願主權律師法橋上人位榮朝

〔增〕攝津正法寺鐘　攝津豊能郡南豊島村、今亡　〔黒川氏日本金石年表〕

四　丙午　一九〇六（一二四六）

大和矢田山金剛寺鐘　〔增〕大和國生駒郡矢田村矢田

諸行無常　是生滅法　生滅々己　寂滅爲樂」御庄官公文左衞門少尉藤原宗光寛元四年丙午三月日鑄師大工散位師宗貞　金剛山字矢田寺　大勸進大法師聖曉大法師玄長

〔增〕武藏岩槻彌勒寺鐘　私云此鐘恐可爲後世贋物歟、ナホ考古學雜誌第二卷第十二號沼田賴輔氏彌勒寺槌鐘考ヲ參照ス可シ

南閻浮提大日本國關東道武州埼玉郡簸輪鄕岩村光岩山釋迦院彌勒寺願主法印宗典時代鑄施主北條相摸守平朝臣重時爲善根奇進慈功力此鐘一度撞則出離三界之苦成就正覺」維時寛元四年丙午夷則上澣」鎌倉御鑄師推名伊豫守藤原吉次」當時皇矣天下泰平國土安穩殆庶而鎌倉騷動靜謐殊者願望成就旨趣願文進別紙而已所

周防富田龍文寺什品金剛般若波羅密經一卷跋 〔朱〕信齋紀行大内義興寄附云
以天臺敎僧宗印所校本寫此經奉爲顯嬪恭人楊氏一娘子遠忌莊嚴淨報 淳祐六年
歲在丙午五月十三日即之時年六十一歲遺方廣寺

後深草 寶治 元 丁未 一九〇七（一二四七）

大和東大寺花嚴會座勾欄擬寶珠 〔朱〕追錄三香所示

戊申　一九〇八　（一二四八）

二

相模建長寺鐘　〔朱〕集古十種

〔増〕集古十種ニ次項常樂寺鐘ヲ誤ツテ建長寺鐘トナス本書モ亦次項ノ銘文ヲ揭クト雖モ蓋シ誤レリト云フベシ

相摸粟船常樂寺鐘

鎌縣北偏幕府傍面有一仁祠盖家君禪閤墳墓之道場也境隔囂塵足催坐禪之空觀寺號常樂自擬安養之淨刹弟子追慕難休夙夜于苔壠之月遺恩欲報欣求於華界之雲使鑄鳧乳之鐘聊添鴈堂之餝於見任風韻遠可以驚長夜之夢經霜響和可以傳三會之曉當時若不記錄者後代誰得相識哉仍課刀筆以刻銘文寶治二季戊申三月廿一日左馬允藤原行家法師法名生蓮作辭曰偉哉斯器造化自然陰陽炭調山谷銅甄鳧氏舊蒲牢名傳入秋兮報應律兮懸響和靑女聲驚金仙動三千界振九五天於是先主早歸泉介來弟子屢溺涙泉深恩海淺報以涓夙夜之志且夕未悛桑門閑鑠鎌廬墳墓邊華鐘新鐘安道場前揚九乳韻祈七覺緣開曉獲益長夜罷眠下自八大上至四禪以此善種薊彼福田

〔増〕集古十種ニ建長寺鐘トナス非也、相模國鎌倉郡小坂村粟船山常樂寺ノ鐘ナリ、蓋シ常樂寺ハ建長寺末ナレバ之レヲ誤リシモノナルベシ、ナホ原本ニ前揭建長寺鐘トシテ此ノ銘ヲ記スハ蓋非也

越前永平寺樓門額　〔朱〕古志日號所載

南閻浮提日本國越前州吉田郡志比庄傘松峯從今日名吉祥山寶治二年十一月一日

〔增〕大和大藏寺磬　大和吉野郡龍門村栗野　（奈良縣金石年表）

奉寄進　御影堂　寶龜院　阿闍梨　政與　寶治二己亥曆六月五日

此銘大藏寺住職丸山貫長師ヨリ報ゼラレシモノナリ蓋干支合セザレバ後考ヲ俟ツ

〔增〕東京帝室博物館藏舊荏柄天神社藏鏡

荏柄天神宮　寶治二年戊申二月日義順

後深草 建長元 己酉 一九〇九 (一二四九)

安藝嚴島社假面

伊都伎嶋社 採桑老面 建長元年九月十四日于時右近將監久資舞之

越前永平寺禪師碑 建長年中ノ物ト云フ說可考究

〔增〕大和東寺古瓦

建長元年東大寺三面僧坊

後深草	山城市姫宮鏡　〔朱〕集古十種所載、恐是非建長之物歟、徑壹尺一寸七分
	深鬼神悪満福謙亘闕盈
	誓沽賈榮護 市日米の神の宮井にぬかつ來て あきふひ人の千代都□□□之 市比賣大明神 市立のあしきふ時も居紀肥賣に まふて亭出は何かくるしき
	有信鬼神副其吉祥神納猶在已矣
	建長二庚戌歲孟春吉日
建長二	相模閻王寺本尊　腹中記文
	建長二年出來永正十七年再興佛師下野法眼如圓
庚戌	武藏多摩郡百草村松蓮寺阿彌陀座像銘　〔朱〕江戸名所圖會　信齋紀行　〔增〕武藏多摩郡七生村八幡神社骸、大正三年四月國寶指定
一九一〇	敬白治磨金銅影像法體彌陀座光三尺六寸奉爲皇帝日本主君當國府君地頭名主御願圓滿安穩泰平信心法主子孫平安悉地成就師長父母二親亘魂助成合力同共往生乃至法界平等利益建長二年大歲庚戌孟夏之天七日壬寅南閻浮提日本武州多西吉富眞慈悲寺施主原氏願主佛子慶祐敬白
（一二五〇）	

尾張野間大坊鐘銘

建長二年十一月十九日大工藤原光延勸進沙彌正因

〔增〕陸前中尊寺磬

奉施入毛越寺千手堂建長二年大才庚戌正月日

〔增〕大和超昇寺古瓦（考古學雜誌第五卷第十一號高橋健自氏）

建長二庚戌四月超昇寺

〔增〕武藏八幡神社阿彌陀像 武藏多摩郡七生村 大正三年四月國寶指定

後深草

建長三

辛亥

一九一一

（一二五一）

山城清水寺鐘　〔增〕京都市下京區清水町一

清水寺者蓋山岳之神窟者也千手千眼觀世音大慈大悲隨人心也謂草創則延鎭聖者訪檀那亦田村將軍延曆以降經四百餘載之緣廻大日本中一切衆生之素願凡厥貴賤無不往詣就此寶地一鐘樓頃年炎上鯨乳空消應德之年梟氏冶鑄曉夕之逸韻無絕遠近衆聞巳舊然間華鐘之勢漸破蒲牢之姿甚踈當寺別當權律師圓經以下營今之新範巳以終其功矣聞此音之人皆成觀音之梵音合其力之輩必預佛力與法力始自一人及千萬民一寺住侶十方施主相合諸心鑄冶一口長七尺二寸七分徑五尺三寸五分于時建長三年辛亥閏九月二十日　三品李部員外大卿菅原爲長依滿寺衆徒命染筆採紙作銘曰

二氣之炭　萬物之銅　陶冶異品　造化有功　清水寺畔　白雲樓中　鴻鐘復舊

梟氏爲工　待霜而和　比嶺猶豊　九乳逸韻　無所不通　音驚毒睡　十方夜夢

可待梵響　三會曉風

大和般若寺碑

大界外相　建長三年正月二十九日

山城善法寺鐘　〔增〕今在和泉泉南郡小巨寺福寺村福瀨巨堂寺

善法寺者始祖參議宮內三卿善淸行朝臣所艸創也謂尊像則十一面之月輪計薰修則三百載之星序弘誓湛海功德隣者歟是以專凝五內之棘誠忽鑄一口之補牢何謂豊霜之韻豈非發露之力哉于時建長三歲辛亥夏四月辛卯朔十八日戊申正四位下行修理權大夫兼算博士美濃守雅衡迺作銘曰大聖信鼓梟匠功成暗天聽徹長夜夢驚虛受心應秋分自鳴脫苦六趣霑慈群生

〔增〕尾張觀音堂鐘　尾張國中島郡中島村觀音寺（金石款識）

尾張國中嶋郡觀音寺堆鐘當寺者尾張宿禰長俊建立也然子孫左衛門　門院代俊村鑄改之其後俊村之子息左衛門尉尾張俊秀鑄設者也建長三年辛亥二月十五日

尾張笠覆寺鐘銘　尾張國愛知郡笠寺村（金石款識）

尾張國星前笠覆寺　建長三年辛亥五月廿三日阿願（花押）

〔增〕原本尾張國星前笠覆寺ノ八字ナシ今金石款識所收ノ拓本ニヨリ補ヘリ

〔增〕越前國大善寺藏磬　越前坂井郡兵庫村下兵庫村（考古學雜誌第十卷第十號上田三平氏）

菅生寺　施主沙彌仁淨　建長三年辛亥　四月日

〔增〕相模圓應寺初江王像　鎌倉郡小坂村明治三十二年四月國寶指定（考古界第七編第一號平子鐸嶺氏湘南訪古錄）

建長三年八月佛像師康有作

高野山藏阿闍梨道範撰南海流浪記

文尾云　建長三年辛亥七月九日阿闍梨道範

〔增〕伊豫興隆寺鐘　伊豫周桑郡德田村古田（今在伊豫道後不手寺高三尺四寸二分口徑一尺八寸大正元年九月國寶指定）（考古學雜誌第五卷第一號香取秀眞氏丹治姓ノ鑄物師）

建長三年歲次辛亥六月八日　大工河內國丹治國忠　願主僧良圓大德僧慶賢大德

〔註〕天文十七年ノ追銘アリ同年參照スベシ、ナホ又現存ノ興隆寺鐘ハ弘安九年在銘ナリ同年ノ條參照セヨ

四

壬子

一九一二

(一二五二)

河内金剛寺鐘樓 建長四年十月二十七日、最明寺時頼所寄附云〔增〕河内國南河内郡天野村金剛寺(此鐘今亡失歟)

〔增〕金剛寺河内國錦部郡建長四年壬子十月二十七日

〔增〕備前妙覺寺鐘 備前三津郡金川村 (大日本金石史)

敬白法勝寺御領備州金剛寺鐘一口右志者爲御本家並法界衆生平等利益建長四年歲次壬子十二月日沙彌蓮佛

後深草	建長五	癸丑	一九一三	（一二五三）

山城二尊院二世正信房湛空行狀碑〔朱〕世俗爲源空上人之碑者其誤甚云〔增〕山城葛野郡嵯峨

□□□空公上人行業碑　聖曆建長五年秋七月廿五日□□歸寂于西山二尊院行年
七十八僧臘六十□空公□□□□□□□□□□□□□□遺□出相將累家三餘塵入
覺王□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□後四曼蹟瑜珈之觀洞達五□灌
頂元□（以下三十一字欠）朝□□□□□□□□□□□□□遺蹟文嗣嫡然而公常觀浮生於水
月棄□□□□□喜□□□□□□□□□□□□大德專學念佛往生三正路菩提留支
巳後敎行無異數□傳師師資相感□□□釋迦如來以降至公一十人是故□□□□□
□□太上天皇徵而爲□師□□□□□□而歸高德况以菩提爲慈悲我心以衆生若樂爲
我思爲他不惜自爲自□□□資若自然大德之應化豈有利之化如此不及□□□□應
火欲滅又手念佛端座而終于時祥雲映日香薰風逐□□□葬寺之西山門生□如石及
泣回波遺旨明刻此許石銘曰　□□□□　□□□□　世有權化　非公是誰　生來
穢國　敎益弘施　死生他利　徵祥顯慈　稱彌陀號　昇命爲□　佛功大聖　言莫
督欲　□□復學　樹比豊偉　大宋國慶元府打石梁成覺刻

一本所載□□上人行業碑トアリ又秋七月二十□□□寂于西山二尊院行年七十八□臘六十一等ノ文字見ユル由ヲ記セリ

私案此碑剝落スヘキ物ニ非サルヲ處々穿チ取テ强テ源空上人碑トセシ事寺僧ノ黠智ナルヘシ尤可惡モノ也其證ハ廟前ノ石器ニ圓光大師等ノ文字アルモノヲ立タルニテ寺僧其僞造ヲ好事ト思ヒテ是ヲ傍觀セシ了明

カ也。追考甲寅四月自往見之上ニ空公行狀ノ四大字アリ不可疑〇追考叢林集七ノ上云法林寺法然上人ノ唐石ノ碑ト號スルモ實ニハ湛空公ノ牌ナリケリト東暉ノ寫本ニハ見エタレドモ誠ニ法然上人御尊牌ソト年久シク云云私云叢林集正德四年子甲ノ梓行ト見エタリ此碑法然上人ノ碑トスルヿモ古キ說可知〔貼紙〕〔朱〕黑谷上人繪詞傳第九嵯峨ノ正信房湛空ハ德大寺ノ左大臣〔實能公〕ノ孫法眼圓實ノ眞弟大納言律師公全是也瑜伽ノ壇ノウヘニハ四曼不離ノハナフサヲモテアソヒ觀念ノ窓ノウチニハ五相成身ノ月ヲスマシ三密ノ法將四明ノ智德タルヘキ器用ナリケレバ實全僧正ノ附弟ニゾタノマレケルサレドモ浮世ノ名利ヲ厭フ心ネンコロニ菩提ノ直路ヲネカウ志深カリケレバツヒニ聖道門ヲステヽ上人ノ弟子トナリヒトスヂニ淨土門ニゾ入玉ヒケルマノアタリ上人ノ眼光ヲ拜シテ後ハ信仰コトニ深シ圓戒ヲツタヘテ天下ノ和倘タリキ稽古ヲ事トセズ小學ノ單修ヲコノミテ學問選擇集ニハスクヘカラストゾ申サレケル年タケ齡カタフクマヽニ道心イヨイヨ堅固ニシテ專修功ツモリ行德アラハレケレバ世コゾリテコレヲタウトキ毘沙門堂ノ法印明禪最後ノ智識ニハ此人ヲソ用ヒラレケル嵯峨ノ二尊院ハ上人草庵ヲムスヒテ通ヒ玉ヒシ地ナリ其アトヲカウハシクシテ居ヲ爰ニシメ寺院ヲ興隆シ楞嚴雲林院兩院ノ法則ヲウツシテ二十五三昧ヲ勤行シ上人ノ墳墓ヲタテモツパラカノ遺德ヲゾ戀慕シ玉ヒケル上人遷謫ノトキモ配所マテトモナハレケルガ御カタミノ爲ニトテ船ノウチニテ上人ノ眞影ヲハリタテマツラヒケル船ノウチノハリ御影トテ當時二尊院數百ノ塔ニマシマス是也生年七十八建長五年五月ノ比ヨリ所勞動ノ事オハシケルガ同キ七月廿七日念佛數百遍ネフルガ如クニ終リ給ニケリ〔朱〕追考黑谷上人傳卷九第十紙云遺骨ヲヒロヒ寶瓶ニオサメ奉リ幸阿彌陀佛ニアヅケオキオノオノ退散シ又其後正信房ノサタトシテカノ芳骨ヲオサメ奉ラン爲ニ二尊院ノ西ノ岸ノ上ニ雁塔ヲタテヽ貞永二年正月廿五日ニ正信房御骨ノ御ムカヘニ粟生野ノ幸阿彌陀ノモトニマカリ向フ處ニ」トアリ然レバ元祖ノ御墓ハ五輪塔ナドニテ有シナラン決シテ傍難ヲ憚リテ立碑ノ沙汰ニ及バザリシヿ必セリ

武藏六所明神鐵佛　〔朱〕坐像阿彌陀高七尺許、銘文江戸名所圖會所載最詳悉今從之　〔增〕東京府北多摩郡府中町善明寺（大正三年四月國寶指定）
大勸進念阿彌陀佛明蓮大士藤原助近右志者過去二親並行嚴□新發意乃至法界衆
生平等利益奉鑄一丈二尺佛身也　建長五年癸丑二月十八日丙辰彼岸初日　原氏
藤原氏　〔增〕原以下五字右方膝所鑄、

武藏新曾觀音寺碑

〔增〕相模建長寺銅鉢銘　今在神戸市外奧平野村祥福寺（攝河泉金石文）
建長伍年五月吉祥日之納相州鎌倉建長寺寶什北條時頼寄附京岩上住森島播磨大
掾義只作

相模鎌倉建長寺梁簡銘
今上皇帝千佛垂手扶持諸天至心擁護長保南山壽久爲北闕尊同胡越於一家通車書
於萬國正五位下行相模守平朝臣時頼敬書伏願三品親王征夷大將軍干才偃息海晏
河淸五穀豊登萬民康樂法輪常轉佛日增輝建長五年癸丑十一月五日住持傳法宋沙
門道隆謹立

僧覺融書藁一卷　〔朱〕貞幹小錄
跋秘藏繪本也建長五年五月日竹丸花押

宋理宗寶祐元　皇宋元寶

六

甲寅

一九一四

（一二五四）

大和東大寺三月堂石燈臺銘

敬白奉施入石燈爐一基　右志者爲果宿願所奉施入之狀如件建長六年甲寅十月十二日伊豫權守行末

私云般若寺笠卒都婆ノ銘ニ伊豫權守行末正元二年七月十一日死亡シケルニ其子某子弘長元年七月十一日父ノ三回忌菩提ノ爲ニ一本ヲ建立シ又現存ノ母ノ爲ニモ一本ヲ建立セシ也」ト信齋筆記ニ見エ

大和千手院石佛銘　〔朱〕忠友筆記

建長六年八月日　勸人多門尼

武藏國野本寺鐘　〔朱〕集古十種〔增〕武藏比企郡野本村無量寺

奉鑄鐘一口二尺七寸野本寺諸行無常是生滅法生滅滅已寂滅爲樂　右紀忠淸並橘氏女爲大施主爲佛法興隆爲衆生利益　建長六年甲二月十五日

武藏比企郡無量寺鐘　〔增〕野本寺ノ鐘ト同一也

〔增〕下總淨土寺鐘

寶福寺　奉施入四尺鐘　建長六年甲寅二月十五日　大巧磯上眞長　勸進僧　隆圓　貫主明𧮾

振鈴銘

伊勢山田常明石　日蓮上人首題（朱）追考三香手錄

〔增〕大和向淵三地藏石　大和宇陀郡三本松村（奈良縣史蹟調査會報告第二冊）

建長六年二月卅　定罡守定

日大施主宗罡氏氏下司　高橋正末

沙彌善定

〔增〕大和榛原磨崖石地藏（奈良縣金石年表）

建長六年甲寅八月十五日

後深草

建長七

乙卯

一九一五

（一二五五）

相模建長寺鐘　相模鎌倉郡小坂村〔增〕明治四十二年四月國寶指定

巨福山建長禪寺鐘銘南閻浮提各以音聲長爲佛事東州勝地聊芟榛莽拠此道場天人影向龍象和光雲斂霏開兮樓觀百尺嵐敷翠掃兮勢壓諸方事既前定法亦恢張圍范洪鐘結千人之緣會宏撞高架鎮西四海之安康脫自一模重而難擧圓成大器鳴則非常蒲牢纔吼星斗晦藏群峯答響心境俱亡扣之大者其聲遠徹扣之小者其應難量東迎素月西送夕陽昏寐未惺攪之則寤宴安猶恣警之而莊彼塵勞之大夢息物類之顚狂妙覺覺空根塵消殞返聞聞盡本性全彰共圓通三昧永臻檀施千祥回此善利上祝親王民豊歲稔地久天長　建長七年乙卯二月二十一日本寺大檀那相模守平朝臣時賴謹勸千人同成大器建禪寺住持宋沙門道隆謹題

〔增〕出雲鰐淵寺藏菊枝蝶鳥鏡刻銘　（紀年鏡鑑圖譜）

祇園（裏面）　建長七年癸口六月日　宮主　林成

長門般若寺鐘　〔增〕周防國熊毛郡平生町般若寺藏、總高四尺三寸、內龍頭七寸、口徑一尺四寸、乳廓四ケ所（考古學雜誌第十二卷第六號弘澤史氏）

〔增〕若我誓願大悲中」一人不成二世願」我墮虛忌罪科中」不還本覺捨大悲」南無觀世音菩薩」妙法蓮華經是大摩訶何」衆生如敎行自然成佛道」南無妙法蓮華經」南無阿

彌陀如來」諸行無常是生滅法」生滅々已寂滅爲樂」願以此功德普及於一切」我等與衆生皆共成佛道」周防國」一般若寺洪鐘」建長七年大歲乙卯十一月十八日造鑄之」諸檀施主敬白」大工丹治助利

天童了惠贈圓爾書　眞書東福寺藏　（宋）隣交徵書

了惠頓首再拜上覆東福堂上禪師法兄大和尙侍者 即日奉事告闌共惟尊候有 相萬福云云　大宋寶祐乙卯三月二十五日

日本國亟相藤原公捨經之記　寶祐三年天童了惠文　四明陳洪利

平安大通寺實法院藏文書

建長七年乙卯十一月九日於鹿島社遂供養常州笠間前長門守從五位上藤原朝臣時朝大宋高僧傳第二十八奉渡唐本一切經內　右庄村易得筆記

鹿島社所傳宋藏散逸今所希見　奉渡唐本一切經內　建長七乙卯十一月九月於鹿島社遂供養常州笠間前長門守從五位上行藤原朝臣時朝　提醒紀談

後鳥羽 康元元 丙辰 一九一六 （一二五六）

大和聖峯寺鐘銘 〔朱〕龍門鄕山口村宮寺所懸〔朱〕忠友筆記 〔增〕奈良縣金石年表云吉野郡龍門村佐々羅

大和國添上郡辰市鄕聖峯寺鐘一口右爲一朝□大菩提爲自自滅罪生善爲法界」衆生平等利益發□□□新町鑄之也兼又四箇條人□□□分等各□奉加畢所志同」前之儀如件」 建長八年丙辰二月廿八日願主等」 坂本忠守、 藤井巾子 丹波勸世丸 水主大郞丸 委女宋國 藤井長壽丸 坂本久國 丹波正則 清原國依 王造多門 壬生貞弘 笛置國弘 安井文殊

大和布留社額

岩上大明神 康元元年丙辰十一月二日 慶

大和法華寺廢金堂鰐口 今在講堂之後房〔朱〕忠友翁曰卯字冶工所誤

奉施入京法華寺金堂 建長八年丙卯七月十日鑄立之尼道阿彌陀佛

〔增〕下御國分寺鐘銘 （考古學雜誌第十二卷第九號三編）

下總國分山金光明寺」 奉鑄純銅鐘」 右當伽藍之鐘者清和天王之時」 權少掾貞世奉鑄顯也星霜推移而壞形勢力微少而失音變邦仁御」 伊也建長八年丙辰地主平氏勸進俺阿彌陀佛唱知識奉大方」 不遠這心本長鑄顯口同合力助成結」 建長八年丙辰九月廿四日」大勸進佛阿彌陀佛」助勸進□阿彌陀佛」大工廣階重守」勸聖僧圓正坊

後鳥羽　正嘉元　丁巳　一九一七（一二五七）

山城壬生地藏堂金鼓銘　〔朱〕忠友翁手錄

地藏院奉鑄顯金鼓一口　正嘉元年丁巳五月廿九日　鑄物師大工大和權守土師宗貞

○磧礫集曰此鰐口ハ東山殿ノ御寄附也
○嘉永七年之冬親視之正嘉元年之文字明白也重サ凡十三貫餘
○亡忠友以正嘉爲正喜之誤蓋和事考證曰藝文類聚云「肇元正之嘉會」文章博士菅原在章考之」此說ニヨレバ正喜ハ却テ誤ナルカ可後考
○壬生寺緣起云又正嘉元年五月廿九日鑄工宗貞ニ課セテ鰐口一口ヲ鑄サセ本尊ノ御前ニ掛左金吾政平自ラ三箇ノ逸音ヲ鳴シテ云云
〔增〕原本（正嘉元年）ノ四字ノ拓本ヲ貼ルモ今之レ畧セリ

武藏騎西阿彌陀

大隅臺明寺鐘

武藏大里郡肥塚村石卒堵婆二基中　高三尺八寸厚二寸上有阿彌陀種字

設我得佛十方衆生至心信樂欲生我國乃至十念若不生者不取正覺　康元二年丁巳三月

〔朱〕信齋紀行云多治比古王三十六代肥塚太郎九郎光長ノ墓ナルヘシ

〔增〕山城海住山寺鐘　山城相樂郡瓶原村（考古學雜誌第三卷第六號岩井武俊氏京都ノ金石文）

修禪院別院　無量壽院鐘　正嘉元年十月九日　院主印玄　鑄物師丹治國忠

後鳥羽 正嘉二 戊午 一九一八 （一二五八）

山城鞍馬山銅燈臺銘 〔增〕山城愛宕郡鞍安村鞍馬寺本堂前（明治四十四年四月國寶指定）

爲伯母 春日範康 助成人 正嘉二季戊午六月九日丁亥勸進沙彌西蓮 藤井景

元 助成人也 （格狹間ノ銘）

?〔光〕阿彌陀佛 ?□蓮□□所也?

物部氏尼□□? 妙印所爲母 散位橘朝臣兼朝 （緣） 物部氏子チ□葛木北□女?

沙彌蓮向 比丘尼法忍

〔增〕原本「正嘉二年戊午六月」ト記スルノミ、今考古學雜誌第二卷第六號岩井武俊氏「京都ノ金石文」ニヨリテ補ヘリ、又此燈籠ニ正嘉三年及元祿二年ノ追錄アリ各年ノ條參照

山城瓶原海修山寺石棺銘 〔朱〕三香手錄爲石盤〔朱〕庄村手錄云山中ノ谷者宿坊ヨリ出タリ、高サ二尺餘、橫六尺餘ニ三尺

正嘉二年戊午十二月日

後鳥羽	正元 元	己未	一九一九 (二五九)

大和吉野山藏王堂磬　大和國吉野郡吉野村

正元元年己未六月廿日

山城三鈷寺蓮生塔　平安庄村生筆記云、高二尺九寸蓮華缺、坐高七寸、廣一尺三寸方

實信上人大菩提　正元元年己未年　十一月十二日

擬集古錄云釋蓮生字實信藤關自通兼之裔也俗名賴綱奕葉任下野州宇都宮別當兼領其地仍宇都宮爲號好和歌

山城鞍馬山銅燈臺銘　（朱）追考三香手錄　正嘉二年ノ條參照

〔增〕正嘉三年正月日　施主沙彌□□並源氏女平野村　[周]?[沐]?雨物部氏女　沙彌

[願生]　僧順心　奉爲父母藤原末氏女

正嘉三年十月日施主沙彌觀阿彌陀佛　並□□□[葛]?[木]□源實重　記友清　藤原

朝[隆]?　秦[重]?兼　菅原安立　中原忠能　清原□□□長久　藤原成經　[恩]?宅成介

信阿彌陀佛　僧有承　藤原宗弘　沙彌[慈]?願　[忘]尊靈　左□□[附]?[官]?成無

高橋女　藤井女　沙彌　炎善　秦賴清　平行保[元]?□師前　清原實經

〔註〕原本「正嘉三年□□□□物部茂女」トアルノミ、今考古學雜誌第二卷第六號岩井武俊氏「京都ノ金石文」ニヨリテ補ヘリ

龜山　文應元　庚申　一九二〇　（二三〇）

武藏東光寺碑　竪四尺六寸、橫一尺五寸、厚三寸餘
〔朱〕石戸庄堀之内村〔朱〕言同放言

文應元年　右志者爲覺嚴大法師後生極樂修大菩提也

武藏河肥養壽院山王社鐘　〔朱〕銘文信齋紀行以所載追錄

武藏國河肥庄新日吉山王宮奉鑄推鐘一口三尺五寸大檀那平朝臣經重大勸進阿闍梨圓慶　文應元年大歲庚申十一月廿二日鑄師丹治久支大江眞重

〔增〕周防松崎神社鐘　周防國佐波郡防府町字宮市總高四尺二寸
龍頭九寸口徑二尺四寸

大宰附之元博多津之離有練」若號油山嶺生眞松留群仙古」居硐有飛泉矣諸侶去垢爰佛」子禪念昔訪當寺剃髮受具」今住他鄉發願鑄鐘涓露朝于海土壕崇于山㠀氏成功必遂」三々之白業塢露悉警互々」之昬沉于時文應辛酉年沽」洗庚午日」大檀那比丘禪念故鄭三網眞之息」鑄工沙彌生蓮」作銘曰」陰陽之工軋坤之銅造化異品」陶冶施風油山靈崛玖州敬崇奕壇盡力功匠成功本人叩之」銕開自通泥生牛鳴之堅牢忽融」三千等覺九品共逢報及群類」化被無窮」

弘長元	辛酉	一九二一	(一二六一)

武藏南河原阿彌陀佛

〔增〕文應二年辛酉貳　下缺

武藏高麗郡勝樂寺鐘　（朱）三香子手錄

武州高麗勝樂寺奉鑄鐘長二尺七寸、諸行無常　是生滅法　生滅滅已　寂滅爲樂　文應二年歲次辛酉三月日　大檀那比丘尼信阿彌陀佛平定澄朝臣大工物部季重

〔增〕銘文中○ヲ附セルハ原本ニ見ヘザルモノ、拓本ニヨリ補ヘルコトヲ示ス

大和般若寺笠卒堵婆　二基銘、長各丈餘〔朱〕忠友手錄

南方刻字　先考宋人行末者異朝明州住人云云　（貼紙）宋人行末

北方刻字　弘長元年辛酉七月十一日□造

〔朱〕追考信齋筆記字畫多ハ漫滅ス大旨ハ伊豫守行末正元二年七月十一日死シケルニ其子某弘長元年七月十一日父ガ三回忌菩提ノ爲ニ三本ヲ建立シ又現存ノ母ノ爲ニモ一本ヲ建立セシナリ三月堂前建長六年ノ石燈臺ニ伊權守行末ト刻メルト同人也蓋シ行末ト云フ人ノ履歴詳カナラズ宋國ヨリ歸化セシ人ニヤ

〔增〕コノ石柱ノ記文ハ文學博士三宅米吉氏ガ市河寬齋ノ金石摺本考ノ記文ニ就キ親シク訂正ヲ試ミタルモノ次ギノ如シ

先考宋人行末者吳（今按似異字）朝明州住人也而來（今按來字上榻本有向字）日域經歲月即大佛殿石壇
四面廻廊諸堂垣楊荒□（今按似蕪字）□悉□（今按似毀字）孤（今按孤字非）爲□□□□（今按似發字）□吾
朝□陳和卿爲鑄金銅大燈（今按似佛字）□（今按似以字）明州伊行末與（今按似爲字）□□（今按似衆二字）□石
壇（今按似鋪字）故此□（今按似土字）匪直也□者也則於東大寺靈地邊土中得石脩造之正元二年
七月十一日晏（今按似安字）然卒（今按似逝字）去彼□□（今按嫡男二字）伊行吉□（今按似志字）□三年建立一丈六
尺石卒都坡二基以一本廻過去慈考以一本□現在慈母就中般若寺大石塔者爲□□
□□□（今按似房字）□□□影（今按或似前字）□□□□□□□□□□□□同合
與力□（今按并字）經□□人作石壇大功德結縁畢願以此功德□□□□□□□□□□□□
□□□□□□□忉利天今□（今按似子二字）一行吉造石之（今按疑非之字）詣極樂界□一功□□（今按衆生二字）
□□□□□　弘長元年辛酉七月十一日伊行吉□（今按似敬白二字）

〔增〕廣瀨治兵衞氏藏楓葉丸紋蝶鳥鏡　徑三寸三分五厘、裏面刻銘、（紀年鏡鑑圖譜）
文應二年八月日　法印快□□　與然

下總千葉寺鐘　〔朱〕俗號戻鐘　追錄三香筆記

弘長元年十二月廿二日

〔增〕相馬日記卷四ニ云もとり鐘とて弘長元年十二月廿二日と銘せしおほかれあり中ころ鑄改せんとて江戸の鑄工が許へつかはしけるにおのすから鳴りて千葉寺〳〵といふ音のしければおそろしがりそのまゝ戻せしゆゑ戻鐘とはよべりとなん

龜山	
弘長二	山城法性寺廢趾鐵燈籠屏 弘長二季壬戌三月九日　勸進沙彌西蓮藤井景光助成 佐渡常樂寺鐘　鐘銘集曰此鐘今在山城西岡來迎院 奉鑄造梵鐘大日本國佐州羽茂郡常樂院常住諸行無常是生滅法生滅滅已寂滅爲樂 經曰器世間中有十七清淨量性形種々色觸三種水地空雨妙妙聲主眷屬祝曰皇風永 扇帝道遐昌天長地久國土安全　弘長壬戌林鐘日治大工藏原某 紀伊根來山傳法院鐘　〔朱〕忠友筆記 大和國城下郡森屋鄉新樂寺鑄鐘本願主僧延等建保三年乙亥四月廿八日而本鐘破 損之間鑄改之當願主沙彌佛念並顯實欲結一佛淨土緣遍法界衆生利益矣弘長二年 壬戌十一月日大工舟治國則 〔朱〕忠友翁曰丹治作舟治者則異字耳建長八年聖峯寺鐘施主署名中丹波氏作舟波又舊本今昔物語丹波守平貞 盛同之藥師寺藏經謂魚養者般若還作般若
壬戌 一九二二 （一二六二）	武藏比企慈光寺山中碑 〔增〕光明遍照十方世界念佛衆生攝取不捨弘長二年　〔下缺〕

大和新福寺鐘　〔朱〕道考三香筆記

信濃常樂寺石寶塔　惣高九尺

銘曰大勸進法橋上人位入禪別當堅者性算奉納金銀泥如法書寫一切經一部奉納施
主阿闍梨賴眞　弘長二年壬戌四月五日

○善光寺道名所圖會云後ノ方ハ文字無之處傳テ不失爲中古○天長二年乙巳十月二十五日北向觀世音火阬出
現之靈塲初造之寶塔壽永燒失ノ文ヲ彫タリト記セリ（附圖參照）

〔增〕山城東小藪石佛　山城相樂郡當尾村大字小藪地（考古學雜誌ニテ京都ノ金石文）

東小田原西谷淨土院　弘長二年□□四月廿四日□立大工□小二平負　願主沙彌
□法比丘尼善阿□□□千手女僧戒一石上力衆僧戒增門僧久□淸太郎僧良增

〔增〕山城發掘古鐵塔　京都深草法性寺癈跡（集古十種）

弘長二年壬戌三月九日　勸進沙彌西蓮　藤井景光　助成

安藝嚴島所傳玄上琵琶　板裏書云　○嚴島圖會

南無妙音菩薩
南無觀世音菩薩弘長貳年壬戌十月十一日以玄上引照作之喹念作花押

龜山

弘長三

癸亥

一九二三

（一二六三）

武藏勝福寺鐘　此鐘今在于南總奈良輪村東坂戸明神之境内

〔朱〕此寺廢、江戸名所圖會

武州河崎莊内勝福寺鐘銘蓋聞洪鐘之響者蘿洞之莊嚴聞法之聲者禪侶之知識也是以勸五千有餘之人鑄三尺五寸餘之鐘廻向之趣非他大檀那禪定比丘尼千阿並從五位上行壹岐守源朝臣泰綱大勸進僧賴俊想結緣之諸衆除災與樂現住南山之壽域供百二十之籌當生西土之實刹三々品之蓮矣　合數輩力鑄一口鐘響穿冥地聲滿夏冬飛禽免苦走獸轉蹤備閑吐月松房開甯　弘長三年癸亥二月八日當寺院主僧隆禪鑄物師源有貞

〔增〕原本武州河崎莊内勝福寺云云弘長三年癸亥二月八日大檀那禪定比丘十阿云云壹岐守泰綱トアルノミ今黑川眞道氏所藏ノ拓本ニ據リソノ全文ヲ擧ク

「增」下野雞足寺鐘銘　下野國足利郡小俣村（類字墨水鈔卷一〇）

寺號鷄足有下劢坤」朱雀皇帝御願所羽林中郎將」歸依地爰門乱國五大明王」罰之盜賊偷鐘六夜叉神縛之」始天慶建立星霜三百二十余」廻洪鐘破殘建保乙亥僧禪阿」勸進諸方三尺鑄之猶以未快然」問剪林易鐘本物加之誂工目」友長鑄長四尺徑一肘適質與聲」得好衆望已滿矣冀擬典廐孝養脩檀那息災鏤文」九界同生本

覺性身不求圓」海阿字法佛湛然具足矣。弘長三歳次癸亥年二月十七日　奉行僧祐圓
金剛佛子密尊

〔註〕此鐘磨滅シテ讀メザルトコロアリ、弘化三年四月黒春村翁ハコレヲ手拓シ、ソノ不明ナルハ堂守山藤六左衛門ノ家ニ藏セシ古墓本ト同寺過去帳トヲ參考シテ之ヲ補ヘリ文字ノ右ニ○ヲ附セルハ春村翁ノ補ヒシモノナホ字ノ左下ノ」ハ各行ノ終リヲ示ス（著）

〔增〕近江小谷寺鐘　刻銘　近江國東淺井村郡小谷村（考古學雜誌第十一卷第九號磬ノ研究）
大聖寺弘長三年癸亥三月十日鑄之　願主淨暹

尾張眞福寺藏源爲憲口遊　弘長三年二月五日寫　○尾張名所

龜山　文永元　甲子　一九二四　（一二六四）

鎌倉新長谷寺鐘　相摸國鎌倉長谷寺

新長谷寺椎鐘威力十方施主消除不祥消除災難心中所願決定成就檀波羅密具足圓滿　文永元年甲子七月十五日當寺住職眞光勸進沙門淨佛大工物部季重

大和吉野藏王堂鐘　大和吉野郡藏王堂

敬白奉鑄鐘一口大日本國大和國吉野郡金峯山下藏王堂文永元年甲子八月二日鑄之大工鎌倉新大佛鑄物師丹治久次　廣階友國藤原行恒勸進聖河內國住人僧實圓

〔增〕原本久次云云トシテ下ヲ畧セリ、今東京帝室博物館藏拓本ニヨリテ之レヲ補フ

大和眞言院鐘　在東大寺中〔朱〕集古十種〔朱〕忠友云銘文刻字〔增〕東大寺塔頭眞言院

東大寺眞言院者弘法大師之聖跡密敎傳持之靈地也而建立之後迭春秋顚廢以來涉星霜愛依高祖之冥助以大神之加護忽遂中興之誓願弄祐上乘之靈塲剩勵一身微力瑩鑄九乳洪鐘願三有驚虛夢六趣感妙聲于時文永元年甲子卯月九日鑄物師所〻佛寺大工丹治久友　眞言院再興沙門聖守謹記

庄村氏云洛南下鳥羽飛鳥田神社旅行老樹下石塔婆ニ文永ノ文字アリ

二　乙丑　一九二五　（一二六五）

武藏秩父碑
文永二年未口乙丑
武藏南河原地藏
〔增〕文永二年歲次乙丑二月
武藏石峯寺石函　今在東江寺　（金石私志）
砂羅連山石峯寺文永二年三月吉辰
筑前彌勒碑
常陸水戸常照寺銅經筒
山城善妙寺阿難塔　〔朱〕追考三香手錄
文永二年八月八日建之
大和尼辻石地藏
文永二乙丑八月

大和極樂院正堂内陳柱刻字　（朱）忠友筆記（增）奈良市中院町
沽却家地文事云云文永二年乙丑三月廿二日
（增）續奈良縣金石年表ニ「沽却家地新訴訟文事」トアリ
大和三月堂紫銅花瓶銘
東大寺法華堂花瓶一具右花瓶者令觀進鑄之　文永二年乙丑閏四月日銅細工大工
西智
（增）大和極樂院本堂柱銘　奈良市中院町（續奈良縣金石年表）
文永二年乙丑三月廿二日
近江竹生島藏大般若經二百三　甲寅三月親視之
跋文云　文永二年乙丑六月九日於西塔東谷南家光房幸幷交點了
（增）紀伊高野山町石　紀伊國伊都郡高野山
六十二町　彈正少弼平業時　文永二年二月日
自壇場至慈尊院第六十二町、高野村大字花坂字八丁坂六二〇山林内
宋度宗咸淳元　咸淳元寶

三

丙寅

一九二六

（二三八六）

武藏勝樂寺村大坊邊古碑　五尺二寸餘〔朱〕武藏夜話

文永三年丙寅十二月十二日

〔増〕山城廢金色院扁額　裏面刻銘、山城久世郡宇治町白河村庫（考古學雜誌第二卷第四號岩井武俊氏京都ノ金石文）

文永三年十二月十五日書之　前内大臣正二位藤原

〔増〕紀伊高野山町石　紀伊國伊都郡高野村（水原堯榮師）

二十三町　忠成　文永三年三月廿一日

頭缺損、自壇場至慈奥院第二十三町、五百五十三番地墓地内

三十五町　比丘尼意阿　文永三丙寅年十二月二十八日

自壇場至奥院第三十五町　五百五十三番地墓地内

六十五町　爲先師阿闍梨襲遍入寺範勇……文永三年十月四日圓口寺

自壇場至慈尊院第百六十五町、大字山崎字久保藪八、山林）

〔増〕大和談山神社石佛　大和國磯城郡多武峯村多武峯、此石佛モト飛鳥法興寺ノ東金堂ニ安置セシチ曆應二年此所ニ移セリト（續奈良縣金石年表）

文永三年八月八日奉造立

紀伊熊野山標石　〔朱〕追加三香筆記

平安錦小路烏丸順照寺本尊裏書　〔朱〕追考同上

丁卯 一九二七 (一二六七)

四

大和法貴寺金鼓 〔朱〕忠友筆記

河內國交野郡康福寺文永第四丁卯二月日領主紀行友

〔增〕紀伊高野山町石 紀伊國伊都郡高野山(水原堯榮師)

十八町 沙彌貞阿比丘尼徧戒文永四年八月四日 至奥院第十八町

二十五町 爲四恩法界平等利益撿校法橋覺仙文永四年九月二十一日

自壇場至奥院第二十町、五百五十三番地墓地內

三十六町 太上天皇 文永四丁卯年三月二十一日

自壇場至奥院第三十六町御廟玉垣內

八十九町 比丘尼唯妙 文永四年十一月日

自壇場至慈尊院第八十九町九度山町大字笠木字休場三三〇山林

百卅四町 爲先祖□□阿彌陀佛菩薩戒尼眞行文永四年

自壇場至慈尊院第百三十四町天野村大字上天野字古峠山林中

平安本能寺藏笙 號鶯丸〔朱〕集古十種

銘 文永四年丁卯長十一日

宋徑山智愚送南浦知客　平安一故家藏
敲磕門庭細揣路頭盡處再經過明々說與虛堂叟東海兒孫日轉多　咸淳丁卯秋住大
唐徑山智愚書于不動軒

播磨摩耶山路傍標石　高五尺許（朱）庄村生手錄

岐阜稻葉山神社額後銘　（朱）三香手錄

五

戊辰

一九二八

（一二六八）

相模筥根社頭釜銘

大筥根山東福寺湯釜一口滿山大衆別當法橋上人位隆實文永五辰戊十一月十二日

上野　巖寺鐘　〔朱〕本朝博古圖

奉鑄二尺五寸鐘一口文永五年戊辰二月十日　大勸進僧榮國大工高階友俊

武藏河口善光寺碑　〔朱〕信齋記行

文永五年

山城靈山正法寺鐘　〔朱〕平安庄村生手錄云是ハ古銘ナリ後世靈山ヘ寄附セリト見ユ此外ニ四句文アリ別ニ彫銘アリ東山靈山正法寺越前寺木新寄進白嶺宗越禪定門

文永歲次戊辰九月廿五日鄕人等敬白

〔增〕紀伊高野山町石　紀伊國伊都郡（高野山水原堯榮師）

二十二町　秋田城介藤原朝臣泰盛　爲祖父入道秋田城介藤原景盛　文永五年戊辰閏正月十七日

自壇場至奥院第二十二町

二十五町　秋田城介藤原朝臣泰盛　爲曾祖父藤原朝臣盛長入道　文永五戊辰閏正月十七日

自壇場至奥院第二十五町、高野村五百五十三番地墓地內

七　町　文永五年閏正月日
頭部缺、自壇場至慈尊院第七町

二十五町　爲先考入道秋田城介藤原義景　文永五年閏正月日
自壇場至慈尊院　第十二町

二十六町　左近將監平朝臣義宗　文永五年閏正月日
自壇場至慈尊院　第二十五町

四十三町　文永五年閏正月日　前上野介藤原廣綱
自壇場至慈尊院　第四十二町

六十二町　文永五年二月日　彈正少輔平業時
自壇場至慈尊院　第六十二町

七十四町　宮内權大輔　大江朝臣時秀　文永五年二月日
自壇場至慈尊院　第七十四町、高野村大字花坂字馬ノセ山林

七十七町　源朝臣家時　文永五年閏正月日
頭缺損　自壇場至慈尊院第七十七町　高野村大字花阪字ウケブミ四四山林

九十三町　左衞門尉藤原行淸　文永五年三月日
自壇場至慈尊院第九十三町　高野村大字花坂字ウケフミ一五山林花坂區中

百一町　比丘尼□□□　文永五年八月□□

百九町　文永五年閏正月十七日　駿河守平朝臣義政
自壇場至慈尊院第百八町　天町村大字神田字堂ノ原四七、山林

〔增〕大和東大寺廣目天躰内支木銘（續奈良縣金石年表）
文永五年戊辰五月八日修理大師法橋慶圓　平治年中以前修理之□

大和當麻寺金堂柱銘

〔增〕大和當麻寺西塔平瓦　大和北葛城郡當麻村當麻
文永五年三月

〔增〕大和法隆寺食堂藥師厨子銘

〔增〕大和信貴山鏁樂笙
文永第五之曆玄冬初月之天造　鸞　信貴山阿闍梨賴尊于時行年八十三

〔增〕土佐青龍寺鰐口　沼田賴輔氏云形式銘文共ニ疑フベシ（土佐國古鐘類聚）
文永五年戊辰五月廿七日妙樂寺　殿藤原次郎兵衛

〔增〕豐後富貴寺碑三基　西國東郡田染村蕗中村（國東金石年表）
文永五年戊辰正月八日

〔增〕遠江頭陀寺鰐口（金鼓ト鰐口）

龜山

文永六

己巳

一九二九

（一二六九）

頭陀寺奉鑄金口一口大勸進僧敬意　文永五年戊辰十二月十五日　寺家同志

常陸凌霄寺經筒

三部妙典　本聖人白信　大旦那阿上　文永六年己巳十月四日

武藏稱名寺鐘　〔增〕武藏久良岐郡金澤村　正安三年ノ條參照　大正十年國寶指定

〔增〕大日本國武州六浦庄稱名寺鐘銘降伏魔力怨除結盡無餘露地擊揵槌菩薩聞當集諸欲聞法人度流生死海聞此妙響音盡當雲集此諸行無常是生滅法生滅々已寂滅爲樂一切衆生悉有佛性如來常住無有變易一聽鐘聲當願衆生斷三界苦頓證菩提文永己巳仲冬七日奉爲先考先妣結緣人等同成正覺鑄之大檀那越後守平朝臣實時

〔註〕此鐘正應年間缺ケシヨリ、正安三年ニ改鑄シ、文永ノ古銘ト正安改鑄銘トヲ採レリ、原本正安三年ノ條ニ擧ゲテ此處ニハ省畧セリ、今增補ニ際シ文永ノ古銘ノミヲコヽニ收メヌ

銅磬銘

〔增〕紀伊高野山町石　（水原堯榮師）

百三十六町　比丘尼寶□　文永六年八月日

自壇場至慈尊院百三十六町　見好村教良寺字橋田六六四山林

百七十八町　阿闍梨明澄　文永六年十月七日
自壇場至慈尊院百七十八町　九度山町字亀尾九二五山林
百七十九町　陸奥守平朝臣時茂　文永六年十二月日
自壇場至慈尊院　百七十九町

龜山　文永七　庚午　一九三〇　（二一七〇）

〔增〕大和西大寺金銅舍利塔臺座裏面銘　明治三十四年八月國寶指定　（續奈良縣金石年表）

舍利之流布當時雖盛果承之明鏡古今尤」稀而去年秋不圖感得招提寺舍利壹粒相」傳之由來信仰無貳機緣之純[熟]感欽且千」尓以連連相續復相承奇瑞之舍利兩參粒」或傳從靈寺之寶囊哉出徒名山之神油無」上之法寶待時而自集興隆之祥地寧可不」崇哉因茲冶鑄參尺金銅寶塔一基奉納此」佛舍利所安置西大寺塔院也永爲一寺之」靈寶將傳萬代之後葉而已」　文永七年歲次庚午六月一日己巳星宿金曜　本願主西大寺衆首叡尊　行事比丘慶印實海禪尊　銅細工末長入道成佛坂上友末　鑄物師友吉入道西珍

〔註〕金銅寶塔ハ四方ニ階ヲ有セル方形ノ壇上ニ建テ各部ノ寸法ハ壇方一尺〇六分、高三寸一分、塔身徑七寸高一尺〇五分、首徑三寸六分、軒口長一尺〇九分、相輪高一尺〇六分、總高（自壇上至水煙頂上）二尺六寸二分、銘ハ壇ノ裏面及ソノ四方ニ刻セリ

〔增〕大和圓成寺虎瀧和上座像躰內墨書　大和添上郡大柳生村（續奈良縣金石年表）

忍辱山食堂安置像也古像者往年安置今依評定奉籠之造立年代不知也　于時文永七年庚午六月十四日始新造之
勸進靜念　功匠堯慶　一和尙大法師

武藏多田藥師石函

〔增〕紀州高野山町石　（水原堯榮氏）

十七町　爲二親養父母竝比丘尼觀阿　右衛門尉草部創弘　文永七年三月十七日

自壇場至慈尊院第十七町　國有林第十區内
十八町　法印權大僧都實寶　文永七年六月二十一日
自壇場至慈尊院第十八町　同所
十九町　爲先師前權僧正勝尊　權少僧都覺濟　文永七年八月二十三日
自壇場至慈尊院第十九町　同所
二十町　大法師良猷　爲主君聖靈　文永七年八月二十三日
自壇場至慈尊院第二十町
廿一町　爲主君聖靈　大法師能心　文永七年八月二十三日
自壇場至慈尊院第二十一町　同所
四十町　宗像入道淨惠　文永七年三月廿一日
自壇場至慈尊院第四十町　國有林第八區内
六十町　阿闍梨□□　文永七年八月一日
同第百六十町　九度山町大字慈尊院字龜尾谷九二五山林
七十二町　文永七年二月日
百二十町　爲父母□□沙彌了心　文永七年□□二月□□
百三十二町　平朝臣盛房　文永七年九月廿五日
百六十七町　爲則一切衆生阿闍梨能瑛　文永七年十一月五日

亀山
文永八
辛未
一九三一
（一二七一）

武藏平村碑　高七尺五寸餘（朱）江戸名所圖會云此村ノ山ニ農民平氏累代ノ墓アリ康正ノ年號ノモノ也
文永八年辛未中冬日

〔增〕攝津温泉寺經函　攝津有馬郡有馬町（攝河泉金石文）
文永八辛未年八月卄日　勸進比丘尼俊尊

〔增〕紀伊高野山町石
四十四町　滋野氏女　沙彌蓮願　文永八年十月
八十六町　右衞門尉藤原知綱　文永八年十一月日
自壇場至慈尊院第八十六町、高野村大字花坂字ウケフミ四三〇ノ田畦畔ニアリ
八十九町　比丘尼唯妙　文永八年十一月
百三十五町　口左原門尉藤原行村　文永八年十一月
百三十九町　平朝臣頼康　文永八年九月日
同第百三十九町、見好村大字教良寺字橋田六六四山林
百四十一町　文永八年四月廿五日
百六十三町　爲檢校眞辨幷ニ觀法界衆生金剛佛子辨海　文永八年正月日

元國信使趙弼書　眞書東福寺所傳
大蒙古國皇帝差來國信使趙良弼欽奉皇帝聖旨奉使日本國請和云云至元八年九月廿五日　陝西四州宣撫使小
中大夫秘書監國信使趙良弼

九

壬申　一九三二　(二七一二)

山城醍醐石標銘　嘉永七年自登覗之恐後世重摸所建

文永九年壬申三月日

〔増〕東大寺廣目天右肩銘

〔註〕右肩ト右手上腰トノ接續面ニ白緑ノ如キ色ニテ書ス（續奈良縣金石年表）

文永九年五月　以下不明

〔増〕同右足支木銘（續奈良縣金石年表）

文永九年五月廿七日（墨書）

〔増〕周防國新寺鐘　周防國玖珂郡高森村字用田新寺山極樂寺（考古學雜誌第十二卷第八號弘津氏）

周防國玖珂庄新寺　文永九年十一月日　大工依元願主但眞

〔増〕紀伊高野山町石

九十五町　肥田新左衞門入道引佛　沙彌能念沙彌行蓮　文永九年五月十四日

自壇場至慈尊院第九十五町　高野村大字花坂字ツケフミ一五山林

百四町　左衞門尉藤原景經　文永九年五月日

自壇場至慈尊院百四町　天野村大字神田字東山林七一ノ一二

百七町　爲出母聖靈佛果圓滿　金剛佛子勝聖　文永九年九月二十七日

自壇場至慈尊院第百七町　九度山町大字笠木字古谷下切二五三山林

百十一町　遠江守平朝臣經重　文永九年五月日

自壇塲至慈尊院百十一町　同所

爲先師權律師隆實　法印祐賢　文永九年五月日

自壇塲至慈尊院第百十四町　天野村大字神田字龍王谷七、八山林

百三十町　左衛門尉平□綱　文永九年五月日

自壇塲至慈尊院百三十町　天野村大字上天野字小土峰二九山林內

百四十八町　藤原朝臣俊盛　文永九年二月

自壇塲至慈尊院百四十八町　見好村大字敎良寺字橋田六六四路傍

百八十町　權僧正□信爲先師前大僧正　聖基文永九年十二月日

一〇 癸酉 一九三三 (一二七三)

紀伊高野山秋田城介願文碑　紀伊國伊都郡高野山奥院廟所玉垣前(家藏拓本)

夫以善報恩者佛陀之敎也金仙之說在眼以孝訓德者人倫之常也素王之訓銘肝兼聞先言彌勵中誠爰弟子者東鄙之幽界下愚之徽質也秋田盤城之城務多年掌任朝請大夫之階級仁跨誇化是則家之餘慶也　君之洪慈也倩憶連々之朝恩已輸區區之涯分就中二史文選之古典者萬代不朽之重寶也而忝憐寸陰之好學幸及恩下之拜領意端之喜懼未休慮外之登遐忽催嗟吁兼披玉卷採訓業於先儒之詞兼聞緗帙灑洗華於故人之夕是以爲奉謝其御叡志爲奉訪彼御菩提占高野之奥院建石塔之洪基然即聖靈願答　造塔之自然　必證增進之妙果　願斷昏衢輪廻宜遊　安養之淨刹誠壹之趣敬白

只且敬白文永十季癸酉二月十七日弟子從五位上行秋田城介藤原朝臣泰盛敬白

〔註〕流布ノ金石年表ニ十三年トナス季ヲ參ト讀ミ誤レル也、

武藏高幢村金剛寺金鼓　〔增〕直徑一尺九寸五分、鑄出銘、武藏國多摩郡高幡村不動堂

敬白奉懸　右尋當寺者慈覺大師建立淸和天皇御願所第二建立斗圓陽成天皇彼時賴義朝臣自於登山奉崇八幡第三建立承意得行蜜兩大檀那前美依助眞並記氏一宮田人鍋師源恒有　文永十年癸酉五月廿日銀念西守氏鐵靑蓮

下總新勝寺金鼓
文永十年

〔增〕高野山町石
百四町　比丘尼慈觀沙彌明智　文永十年癸酉十一月五日
自壇場至慈尊院第百六町　九度山大字笠木字古谷丁切三五三山林
百十五町　爲□治父母法界衆生也　沙彌寂妙　文永十年七月十四日
百十六町　爲中務權少輔藤原重敬比丘尼寶觀　文永十年九月十八日
百四十六町　奉爲前大僧正圓實法印房　文永十年三月日
自壇場至慈尊院第百四十六町　九度山町大字下古澤字山內五七一路傍

〔增〕紀伊蓮花院磬　針書　紀伊國伊都郡高野山（考古學雜誌第十一卷第九號磬ノ研究）
文永十年十一月八日

〔増〕伊豆國桂命神社（金鼓ト鰐口）

奉施入白山權現並伊豆筥根兩所權現金鼓一口

右志者爲心中所願圓滿也　文永十年八月十日平奉行上

龜山

文永
一一

甲戌
一九三四
（一二七四）

攝津盛福寺鐘　〔朱〕集古十種云今在于西宮六湛禪寺塔頭茂松菴

攝津國西成郡□淵庄盛福寺鐘右志者九□玄尼蓮向文永十一年甲戌卯月九日願主成佛大工助示（原銘）

攝津武庫郡西宮六湛禪寺公平鐘也　嘉慶元丁卯霜月十八日願主講衆等並施主上音（追銘）

相模法船寺碑

世尊寺經朝卿額　〔朱〕私案位署三位トアリシカ二畫漫滅セシニヤ〔朱〕集古十種不記所在

正一位稻荷大明神　文永十一年甲戌二月廿三日庚午書　一位藤原朝臣經朝

B7
1

増補
尚古年表

四

後宇多　建治元　乙亥　一九三五　（一二七五）

常陸土浦完家邑般若寺鐘　〔朱〕集古十種
大日本國常州信太庄般若寺建治元年乙亥八月廿七日乙巳時正第二　大勸進源海願以此
功德普及於一切我等與衆生皆共〇恐可共字　成佛道　大工丹治久友　大工千門重延

武藏多摩郡谷保村天神額　〔朱〕集古十種　〔朱〕江戶名所圖會刻字ト云

相模江島辯財天額　〔朱〕集古十種曰土御門帝宸書
天滿宮　建治元年乙亥六月廿六日乙巳書之
正三位藤原朝臣經朝
大辨才天　再興　建治元九月十二日平時宗
〇東溟追考江嶋大明神ノ五字建治元年九月廿二日後宇多帝ノ宸翰ノ由東海道名所圖會ニ出タリ

武藏騎西名號碑　〔增〕銘文據金石私志
右志者奉爲過往
主君幽儀滅罪生善
乃至法界群類平等
利益仍造立之如件
〔增〕南無阿彌陀佛　建治元年乙亥九月日　沙彌西念敬白

尾張眞福寺藏　所撰朗詠集　建治元年ノ奥書（尾張名所圖繪）

CN 1180 .I7 v.4

後宇多

河內長樂寺鐘

大和柳本天神社碑

陸奥安積郡如法寺梵文碑

建治三年丙子　夫□□□□三世諸佛內證功德道群□類□

菩提□□禮離三遂造立□凡品仍當悲母三

三月□日　七日所立如件　孝子敬白

建治二

〔增〕紀伊高野山天野路碑　高廿八尺幅九寸五分橫八寸二分

天野路法眼泰勝奉爲前大僧正聖基　建治二年十一月日

丙子

洛南泉涌寺山門額　〔朱〕傳云唐玄宗宸書

補陁海山圓通閣昔當寺比丘湛海□渡宋比將來觀音像並額盤但思照建治二年季秋

九月云云

一九三六（三七六）

元世祖至元十一　至元通寶

三　丁丑　一九三七　(一二七七)

近江菅山寺鐘

近江國伊香郡有式靈窟尤是稱矣是故本願聖靈菅大相國建立精舍於當山安置明王於本尊自尓以降年紀貌矣靈驗炳然繁昌無窮故滿徒等廣爲救群生改薄少椎鐘成洪聲之青腰及音響於十方普利益於九界仍所鑄如件　建治三年丁丑五月八日一山衆徒大工右馬允丹治國則

〔增〕紀伊大歳明神社鐘　紀伊那賀郡吉永村　（紀伊國續風土記稿）

紀州吉仲御莊大年宮建治三年丁丑九月十四日大工河内國平重永

河内長樂寺鐘　京都衣笠龍安寺　（攝河泉金石文）

〔增〕河内國岸田堂長樂寺洪鐘　建治三年丁丑十一月二日寺塔鐘惣大勸進定眼房良圓

大工左馬允丹治國則

〔註〕原本此鐘ヲ建治二年トナス非也

〔增〕神戸善學院鐘　（考古學雜誌第二卷第十二號小川榮一氏美濃ニ現存スル金石銘）

美濃國安八郡平野庄日吉新宮上社鐘一口治工入道實圓建治三年大歳丁丑十月十六日

〔註〕此鐘寶永七年改鑄ノトキ古銘ヲ刻セリ

〔增〕大和達磨寺聖德太子像銘　〔墨書〕大和北葛城郡王寺村王寺（續奈良縣金石年表）

大佛師法印院惠作者法橋印道　建治三年十一月

後宇多	弘安元	戊寅	一九三八	（一二七八）

武藏東光寺碑　竪六尺、横二尺一寸〔朱〕石戸庄堀之内村　〔朱〕亡同放言

弘安元年□□□□月□□

建治四年

大和龍門佛師院石塔　〔朱〕忠友筆記

大和橘村菩提寺鐘　一名橘寺　〔朱〕忠友翁曰此鐘今亡、現在之物寛政七年所鑄改

〔增〕和泉國泉北郡上條村廢善福寺

建治四年泉州大鳥郡深井村善福寺鐘

陸奧宮城村山王社碑　高四尺三寸余、横三尺七寸餘

右奉爲過去先妣聖靈遣捨五障苦域之身速居九品淨刹之土乃至六趣有情生含若得脫同圓而巳于時弘安元曆戊寅夷則上旬之踝爲永代侯壽諸之左衛門尉源朝臣敬白

〔朱〕信齋紀行所載、弘安元年□□□源朝定

〔增〕山城法泉寺層塔　山城綴喜郡草内村草內、元文四年ノ追銘アリ、大正五年五月特別保護建造物指定（考古學雜誌第二卷第一號岩井武俊氏京都の金石文）

弘安元年十一月廿六日建立之大工□□□

〔增〕下總本土寺鐘　下總小金町

大日本下總國印東庄六崎大福寺奉治鑄洪鐘三尺三寸右志者爲令法久住利益人天也住持小比丘瞻阿一聽鐘聲當願衆生脫三界苦得見菩提　建治四年大歲戊寅三月十一日口　勸進沙彌妙?圓　上總國形部郡大工大中臣兼守

釋迦　上行　日蓮　日朗　日傳　日實

文明十四年正月ノ追銘ニ據レバ日蓮ヨリ第十番師日瑞ノ時ニ大福寺鐘ヲ得テ本土寺ニ移レルコト明ナリ

尾張眞福寺藏　擲金抄　弘安元年古寫本　○尾張名所圖會

尾張眞福寺寺藏　文鳳抄

熱田社所傳陵王面　弘安元年修覆ト記シタレバ恐クハ千年ノ古物ナルベシト云ヘリ

大和長谷寺藏眞俗雜記

廿八卷跋文曰弘安元年八月十九日於高野山以覺明院法印柳房御參籠之次石山道場觀並妙舉傳受事金剛資賴瑜

〔增〕紀伊高野山町石

四里爲祖父秋田城介藤原義景藤原長宗　弘安元年十月

自壇場至慈尊院四里　國有林第八區

後宇多　弘安二　己卯　一九三九（一二七九）

〔增〕信濃新善光寺鐘銘　〔增〕信濃國佐久郡大井庄

敬白信州佐久郡大井庄附今新善光寺　弘安二年己卯八月十五日大勸進法師阿彌陀

佛　勸進說法者二八　念阿　道空　大旦那源朝臣光長幷諸旦那　大工伴□

奉施入拒鐘一口　長田□□□　□□□□□　右志者法界衆□□□

武藏寺嶋村瑞泉寺碑

弘安二年八月日

武藏國忍井中所出碑

阿內譽田八幡宮藏天童假面　〔朱〕集古十種

八幡譽田山陵天童面　弘安二年己卯八月日勸進僧覺圓

陸奧信夫山鐘　〔朱〕信齋紀行

弘安二年

秋田城介泰盛刻大日經

跋文曰　弘安二年己卯四月

後宇多

弘安三

庚辰

一九四〇

（一二八〇）

〔增〕河內敎興寺鐘　紀伊國伊都郡高野山案內所前水盤上 銘陰刻（家藏拓本）

敬白　河內國高安郡敎興寺洪鐘一口」右一結諸衆同心合力且爲佛」法興隆滅罪生善且爲法界衆」生平等利益所奉鑄也」弘安三年庚辰正月廿五日」大工沙彌專念

施主　美乃正吉　僧敎善　坂上二子　僧行念　葛井末正　僧禪慶　僧善識

物部末次　坂上守末　坂上影助　菅野友正　坂上助守　沙彌賀佛　山口末吉

物部賴安　坂上影恒　沙彌西念　安部吉弘　坂上助光　坂上助安　僧良暹

左衞門尉中原淸季　僧念生　大勸進淨緣　修理本願南都西大寺長老叡尊

武藏勝樂寺村碑　竪一尺二寸

弘安三年五月口井比鬼金石改

〔增〕美濃大垣八幡社鐘　今所在不明（考古學雜誌第四卷第五號小川榮一氏美濃に現存する金石銘追補）

美濃國一宮法體宮御鐘　右奉金輪聖主玉體　安穩征夷大將御願圓滿依所題如件

弘安三大歲庚辰十月日　大工西喜　大勸進沙彌田門

東大寺新造舍辛櫃　（朱）追考三香筆記

後宇多	弘安四	辛巳	一八四一	(一二八一)

武藏野火止金鳳山平林寺村碑　斷碑三尺三寸、幅一尺四寸五分　〔考〕武藏夜話

光明遍照十方世界弘安四年辛巳二月　日
念佛衆生攝取不捨

和泉善福寺鐘　〔增〕今大和國高市郡高市村橘、橘寺

〔增〕此鐘銘建治四年ナリ原著書ノ此處ニ編入シタルハ蓋シ誤リト云フベシ

駿河國青山八幡宮鐘　（金石款識、金石私志）

〔增〕駿河國青山八幡宮鐘銘洪鐘震雷覺群生聲通十方无量土佛陁和光增法樂拔除四生長夜苦色心常昏久迷情晝夜聞鐘發道心含識種類並聞知怡神淨刹得神通弘安四年辛巳三月十五日大檀那沙彌蓮阿勸進阿闍梨寂心大工藤原惟久大鳥吉正平末行

〔增〕紀伊高野山町石

三十二町　比丘尼了證　弘安四年十二月廿一日光安院□□□
□□□□□□

自壇場至慈尊院

飛驒宮村一宮藏鐘銘　飛州志所載

奉鑄　鐘一口飛驒國一宮社右鑄洪鐘詰衆然則上答四恩下賚三有法界衆生俱越解脫之道忍土群類同到涅槃之城弘安四年辛巳九月八日大工妙蓮　勸進藤井年守地

頭朝高

〔增〕大和藥師寺東院堂花瓦

弘安辛巳藥師寺東院

〔增〕大和鳴川石佛　大和生駒郡南生駒村（奈良縣金石年表）

〔增〕近江覺永寺鐘　近江國蒲生郡桐原村中小森覺永寺、舊近江坂田郡息長村字箕浦小字正福寺山廢寺舊藏（考古學雜誌第五卷第九號中川泉三氏近江覺永寺の古鐘）

諸行無常　是生滅法　生滅々已　寂滅爲樂　敬白奉鑄三尺鐘一口　右日本國近江國坂田南郡　箕浦御庄馬塲正福寺鐘也若於此鐘盜取輩者受重罪身來世者三惡道仕一門无永出期　弘安三辛巳八月十七日庚戌　奉懸願主　沙彌道佛　比丘尼道信

〔註〕此鐘ナホ弘安六年明德二年ノ追銘アリ

河內西琳寺藏太政官符

正二位行大納言源朝臣定實宣奉勅依請者弘安四年五月廿六日

紀伊那智瀧本標銘

太上天皇恒仁弘安四年二月晦日初度

○鐘成云瀧道ノ左傍ニアリ　高六尺許以木造尤是模造之物眞物在寶庫云

後宇多	弘安五	壬午	一八四二（一二八二）

陸奥燕澤碑　僧祖元所建

夫𠮷ノ直宜絆斟乙足益斗效の〻乂业刋中砥弔止竃元巿扈乍後殞　弘安第五禿玄

戰敦牂仲秋二十日彼岸終里未清俊謹搏

○藤塚知明燕澤碑考譯之曰　夫以人直宜從道人正益擧教云刈丘陋凶砥弔亡魂元前死次後矣矣弘安第五天

玄默敦牂仲秋彼岸里末清俊謹拜

〔參〕元亨釋書祖元宋國慶元府人姓氏云云　弘安四年春正月平帥來謁元采筆書呈帥曰莫煩惱何事元曰春夏之間博多擾騷而一風纔起方艦掃蕩願公不爲慮也果海虜百萬寇鎭西風浪俄來一時破沒

〔增〕下總觀福寺十一面觀音坐像光背銘　（家藏拓本）

奉造香取大神宮御本地四體内十一面觀世音菩薩右志者爲天長地久當社繁昌異國降伏心願成就造立如件　弘安五年壬午八月一日　佛師　沙彌蓮願

〔增〕仙臺大日碑　仙臺市片平町神宮奉齋會境内（考古界第一篇第四號蒙古の碑と大日碑）

其面諸衆生一切皆悉是璃才得天眼肉眼力明是弘安年壬午九月八日敬白

後宇多　弘安六　癸未　一九四三　（一二八三）

近江朝妻庄日撫社鐘　顏土村土中所出云

弘安六年癸未十月廿三日

〔朱〕一向沙彌西信願主而勸進鑄之以上十六字顏戶村証光寺青山所記贈

〔增〕中川泉三氏ニヨレバ日撫神社ノ鐘古ヘ戰亂ノ時奪ハレンコトヲ恐レテ土中ニ埋メ後年掘出タリト云フ、マタ明治維新後村童ノ亂妨ニヨリ鐘肌荒レテ銘文讀難キモ漸ク左ノ文字ヲ探リ得ヘシナホ明德二年ノ追銘アリ（考古學雜誌第五卷第九號五四頁參照）

近江國坂田南郡法勝寺□□□□爲奉□□□□□□□□□□□□□□乃至

法界平等利益也弘安六年癸未十二月二十五日大勸進□□□□敬白

尾張一宮燈臺　〔朱〕集古十種

奉造欽勝軍救世什傳尊造者三成立日心五明能化七日成弘安辛未十月日

〔朱〕私曰弘安年間癸未アリテ辛未ナシ集古十種ノ誤刻ナルカ

甲斐最勝寺鐘　鑄出銘（東京帝室博物館藏拓本）

〔增〕諸行無常　是生滅法　生滅々已　寂滅爲樂　甲斐國大井庄」最勝寺之洪鐘」

弘安六年癸未」八月日時正」當寺住持長老」比丘空圓」大工沙彌十念

〔增〕大和靈山寺本堂棟札

靈山寺本堂棟上弘安六年癸未十一月四日

〔增〕法隆寺西圓堂本尊背光銘

〔增〕法隆寺五重塔護札

弘安六年癸未六月九日　西大寺沙門叡尊

〔增〕豐後岩寺石塔　豐後國東國東郡來浦村（國東金石年表）

如法經奉納石塔一基右志者爲當山平安」佛法興隆廣作修?善」乃至法界平等利益」
弘安六年大歲癸未九月日」一大勸進金剛佛子尊忍」一造立者專日坊

〔增〕淡路千光寺鐘　淡路國津名郡中川原村、追銘ハ永正十六年條參照（考古界第一編第十一號考古雜誌）

淡路國日本最初先山鐘也　願以此功德　平等施一切現世无比樂後世至極樂　弘
安六年歲次癸申二月十八日奉鑄之　大工　平貞弘　本願主佛子忍阿彌陀佛　助成沙
彌妙德　當願主　別當忍聖　比丘尼　西阿彌陀佛

尾張眞福寺　倭名類聚抄　尾張名所圖繪

弘安六年於東寺知足院圓朝所書

後宇多	弘安七	甲申	一九四四（一二八四）

相模箱根社釜　〔朱〕銘文湮滅難讀今所記一據栗原翁之手錄

奉鑄治大筥根山東福寺浴堂釜一口奉爲天長地久御願圓滿併關東静謐武家安穩別當法眼和尚位隆實並滿山大衆奉鑄之狀如件弘安七年五月〔朱〕（一日遊囊賸記）大工豆州磯部康廣

近江番場蓮華寺鐘

敬　奉鑄江州馬場宿蓮華寺突鐘事右當寺者彌陀安置之道場念佛勤行之靈砌也仍近隣諸人卜寺中之勝地爲葬倫之墓所然間欲醒靈魂妄想之睡更無晁鐘逸韻之響爰畜能歎此事廻思之處禪定大法主忝爲大檀那有莫大之御助成亦沙門畜生勸請諸檀果大願我願既滿衆望亦足伏請堂宇勢不傾鏡磬音無絶庄內靜謐諸人泰平乃至法界平等利益弘安七年十月十七日勸進僧畜生法師願主畜能大檀那沙彌道曰

大和榮山寺石燈臺

榮山寺　弘安七年甲申□□勸進□

武藏比企慈光寺碑

〔增〕諸行無常　是生滅法　生滅々己　寂滅爲樂　弘安七年甲申八月日　敬白

武藏八條村碑

河內譽田八幡宮假面

弘安七年甲申二月十八日太子御廟陵王當寺住侶法橋圓信作之

〔增〕大和法隆寺新堂棟札　文祿二季三百四ヶ季（追書）（奈良縣金石年表）

新堂院棟上弘安七季甲申七月二日勸進聖人圓覺大工橋國継

〔增〕法隆寺新堂藥師脇士日光月光臺座銘（法隆寺大鏡）

弘安七年甲申八月　新堂院本尊藥師之脇士坐也

佛師定慶　法橋生年卅九　修複之並西薗堂藥師佛光同作也

弘安七年甲申八月　新堂院本尊藥師脇士座也

佛師越前法橋定慶修複之

〔增〕大和西大寺鐵塔　大和生駒郡伏見村西大寺（奈良縣金石年表）

〔增〕土佐竹林寺鐘　土佐國長岡郡五臺山村五臺山竹林寺文殊堂（土佐國古鐘類聚）

土州五臺山五岳靑山添千峯之色海中靈崛似蓬萊洞歟我願云滿令一切衆生同成佛

道于時弘安七甲申二月二十五日鑄之大願主法橋上人位圓家大工左馬允紀盛忠

乙酉　一九四五（一二八五）

八

〔增〕大和藥師寺東院堂棟札　（奈良縣金石年表）

弘安八年乙酉三月廿一日建立之大工末清國重權大工宗藏

〔增〕大和興福寺多聞天增長天（四天王ノ内）修理銘　（奈良帝室博物館第一回陳列目錄）

北方多聞天大安寺四天王延曆十年四月造立之破損過半支體散落依住侶語興福寺
僧經玄得業手自取斧奉加修復訖弘安八年乙酉安居中

〔增〕大和法隆寺聖德太子十七條憲法版木　高八寸六分、幅二尺八寸七分（法隆寺大鏡）

入道大納言家　奉施入　十七條憲法　右文者依爲本願聖靈御作　有祈念事開模
所施入如件　弘安七年三月日

大和二月堂鈴　〔朱〕追錄三香筆記

〔增〕紀伊朝日寺鐘　紀伊國那賀郡長谷毛原村毛原宮（好古山陰めぐり、紀伊國續風土記）

紀伊國那賀郡毛原莊朝日寺　弘安八年乙酉二月二十三日東大寺鑄物師大工山川
助末

後宇多　弘安九　丙戌　一九四六（二八六）

山城宇治川石塔婆　（朱）信齋紀行云觀尊塔ハ十三重高五丈余今ハ流亡ノ餘ヲ僅ニ存スルノミ
（増）山城久世郡宇治町塔之島

弘安九年十月

（朱）興正菩薩傳開無遮會於宇治河水永代救有命鱗搆吾朝第一石塔之基於河上施四身無ニ金剛之益於水中
信齋紀行云宇治ノ網代ヲ停廢セシハ弘安以來ト聞ユレ𪜈台記久安三年七月廿八日平等院申請停止寺邊漁獵仰云依請ト云ニ依レハ寺邊ヲハ早ク禁示セラレタルニヤ新六帖寛方中將宇治川ノアシロノ永魚ノコノ比ハ阿彌陀佛ニソヨルトコソキケトヨメルモ是等ノ事ト可知
〇川口好和云或年ノ洪水ニ河上ノ小島欠損シ十三重ノ石塔婆モ流失セシニ其塔中ニ納有シ經卷佛具金銀器物等槇ノ島ノ里人拾ヒ得テ今ハ橘寺ノ預ル處也尋見ルヘキ古物ナリ

下野中禪寺瓶子銘　（朱）栗原翁手錄

奉施入日光山中禪寺大郎大明神御供御瓶子一具弘安九年丙戌四月日當上人朝禪

武藏騎西梵文碑

（増）十方恒沙佛六通誰知乘今二尊教□門淨土門弘安九年二月日　上彫梵文釋

攝津平相國淸盛公石塔婆銘　（朱）十三重、高二丈六寸、趺石方五尺一寸

平相國淸盛之塔　弘安九年二月四日鎌倉西勝園寺貞時建之

武藏弘明寺村弘明寺鐘　〔朱〕江戸名所圖會ニ云寛政十年改鑄(拓本)東京帝室博物館藏

弘安九年九月廿五日願主

〔朱〕追錄信齋文政元戊寅ノ紀行ニ鐘銘ニ捷槌一打三千之衆雲集霑鐘三振四生之苦永消ト云ルヲ佳句也ト賞シタルハ舊銘ヲ刻シタル者ナルベシ紀行ノ文ニ鐘ニ弘安九年ノ文ヲ載テト書ルモ改鑄ヲ知ラセタルニヤ

〔增〕安房小網寺鐘　安房國豊房村

金剛山　大莊嚴寺

夫大隨求陀羅尼梵鐘者經云」常雨七寶無病災難身心安穩」福壽無量乃至傍生禽獸耳根」所聞彼等皆於無上菩提永不」退轉若人親近持一字人捨此」身已一切世尊即授其記(梵字三行一十九字省畧)若得纔聞此隨求陀羅尼」一切罪消滅安樂諸有情」椎鐘告四方諸有流者」若爲我解說身當爲奴僕(梵字四行四十四字省畧)何況自誦若具足誦決定往生」極樂世界上品上生」弘安九季(歲次丙戌)九月十八日」大願主金剛佛師隆尊」大檀那矢作助定」大檀那大田末延」大工大和權守物部國光

後宇多　弘安一〇　丁亥　一九四七　（一二八七）

陸奥岩切山信田小太郎館跡碑

弘安十年二月時□□上

陸奥高杉郷主碑

肥後大慈寺鐘　今飽託郡河尻町○扶桑僧寶傳大慈寺寒巖禪師名義尹號寒巖顯德帝第三號也云云正安三年八月謝世壽齡八十四

日本國鎮西路肥後州飽田郡大渡津始草創大慈禪寺新鑄造青銅洪鐘其銘云開金剛眼振鐵酸擧塵點五百界淨三千扶桑國家滄溟海邊州之肥後郷之飽田撰地勝地崇天中天興大慈寺者大梁便拘留孫族釋迦文傳梵鐘擬作寶器新研撞此鴻韻驚彼聖賢佛宗弘世法子集蕩滿曉鳴也黃昏打乖堆曹溪道靜少林禪龍角峭聳法乳並連鬼畜嘗味那樂覺眠皇帝萬歲大將千年聞音安樂見政公然伽藍檀主施材齋肩福比須達壽等神仙歸依合掌參詣續纏耳門入理身後生蓮弘安十歲次丁亥四月七日造之十方檀那一百餘人四輩合力結縁三百餘人幹縁僧都寺宗鑒行如智光惠秀可良妙智禪勝崇智僧願覺道等十餘輩也　兩字比丘衆三十四人報恩寺法位修惠等尼衆三十餘人鑄治大工四郎太夫春日國正小工一十八人鐘高都合六尺一寸口廣三尺二寸用錢三百餘十貫文雜用米二十六石六升八合也伽藍檀主左金吾源泰明開闢當山住持傳法比丘義

尹謹題

〔增〕原本釋迦文傳云云弘安十年四月造伽藍檀主左金吾以下ヲ擧グルノミ今肥後國志ニヨリ全文ヲ擧ク

備中玉島碑

〔增〕紀伊高野山奥院金銅寶篋印塔　明治末年文殊堂修繕工事中發掘高サ八寸六分我カ國現存在銘ノ寶篋印塔ノ最古ノモノナリ

大師御入定奥院埋土中」安置高野山八葉峯上南」保又二郎入道遺骨也」弘安十年六月二十二日卒

大和東大寺新造石器銘　〔朱〕忠友筆記

新藥師寺閼伽井水船　弘安十年十一月日大工則老

長門赤間關阿彌陀寺文書　〔朱〕信齋記行

長門國赤間關阿彌陀寺得田拾二町事右任代々廳宣並關東御下知可令法眼長全致沙汰之狀弘安十年七月十一日前上總介

〔朱〕玉海建久二年閏十二月廿二日安德天皇御事長門一堂事一同可然國忌山陵事可依崇德院例依不擬神社無奉幣之沙汰也同月廿八日長門國可建一堂之由可宣下者皆任御定可宣下云由仰了

〔增〕大和唐招提寺木造彌勒像體內銘

奉修補丈六彌勒如來像一體　弘安十年八月　勸進眞[乘]?

伏見

丹後岩邊寺鐘

愛宕護山別院丹州岩邊寺鐘正應元年十月十八日庚午鑄大工橘則弘（灌項光眞言以下二十四梵字）

咒願打始沙門信鍐

〔增〕下野日光東照宮錫杖　（日光寶物館陳列目錄）

奉施入日光山女體權現御寶前正應元年戊子十一月沙彌生阿

正應元

〔增〕大和興福寺廢西金堂二王體內銘　（續奈良縣金石年表）

西金堂　奉修複二王施主合力之內　權小僧都英禪緣願房大導師　咒師大法師專藝慶印房

後見大法師慶學房于時雜堂第也」木大佛師善增岩見公　繪大佛師薩摩公　染公寄入等六人國貞國光　宗家宗弘

仲次郎童子太郎　正應元年戊子九月十四日　執筆僧信專　慶眞房

戊子

〔增〕大和興福寺密迹力士足部銘　（續奈良縣金石年表）

正應元年戊子十月十日了修覆西金堂力士

一九四八

（一二八八）

〔増〕奈良市高畑町石塔臺石　今奈良市荒地西堤ノ北端大隅音造別宅塀外ニ五輪塔ノ地輪ニ用ヒラレタリト（續奈良縣金石年表）

正應元年戊子十□月十　（北面）
三日右爲沙彌宗佛尼阿　（東面）
彌陁佛□法界衆生平等　（南面）
利益□□幷？□造立之矣　（西面）

武藏總泉寺碑　〔朱〕江戸名所圖會曰此法阿ハ千葉六郎大夫從五位下入道胤頼ナルヘシ

法阿　弘安十一年正月廿三日

相模尊來寺鐘

大和寶生寺鐘

山城栂尾高山寺藏觀世音講式　跋文云栂尾報恩院解脱上人撰也〇甲寅初夏親視之

「正應元年仁眞上人箋」ト記セリ

高山寺一僧云栂尾又梅尾ト書ケリ當山ニ古ク梅尾方ト云名號アリ栂梅通用セリト見ユ

尾張眞福寺藏本朝文粹第十四零本　尾張名所圖會

正應元年藤原清範寫

伏見

正應二

己丑

一九四九

（一三八九）

山城行願寺鐘

正應二年己丑十一月八日鑄之　施主沙彌等　奉行法眼和尙位嚴于　結緣道俗三千餘人　別當權律師法橋上人位法隆　權別當阿闍梨傳燈法師位經尋鑄物師橋則弘　土師藤原則吉

〔增〕原本嚴于云云トシテ省畧セリ、今扶桑鐘銘集ニヨリテコレヲ補ヘリ

常陸長福寺鐘　〔朱〕集古十種

常陸州中郡庄長福禪寺鐘　宗形氏時藤原氏女　工行正則

正應二年己丑五月十五日

〔增〕陸前那智神社藏三柏散雙雀鏡　（紀年鏡鑑圖譜）

正應二年十月廿一日御願也　虎女敬白

〔增〕秋篠寺梵天首眞木銘　大和國生駒郡伏見村秋篠　（墨書）

正應二年七月二十五日

三　庚寅　一九五〇　（一二九〇）

〔增〕大和海龍王寺舍利塔　明治四十二年九月國寶指定　大和國添上郡佐保村法華寺

海龍王寺常住大願主比丘實忍正應三年七月　日彫工七條昇蓮大工白河行圓　（續奈良縣金石年表　奈良帝室博物館第三回陳列品目錄）

〔增〕丹後智恩寺鐵製湯船銘　丹後國與謝郡吉津村（好古山陰めぐり）

興法寺湯船鑄事　右以本願主並大方檀那之合力所鑄船如件　正應三季庚寅七月七

日　大願主物部□□　大工山川眞淸　每月八日阿彌心經　大願主□□□□

周防春日社鉾

樂官多氏藏笙　念佛丸今號玉椿　〔朱〕集古十種

正應第三天初秋下旬之比周防□造之時見人御念佛十返

越前府中增永雅臣藏古刀

越中國婦負郡住則重　正應三年八月中子日

信濃長谷寺古文書

一門除地拾五石一境內八丁四方山林共　一大門左右橫三尺余長サ拾丁八間餘　觀

世音菩薩依靈夢書面之通　久明親王可爲御寄附者也

正應三年正月七日信濃國更級郡長谷鄉　貞時

金峯山長谷寺住眞海上人

伏見 正應四 辛卯 一九五一 （一二九一）

大和宇陀郡山邊村戒長寺鐘（增）原本正應ヨリ正信房迄二十二字ヲ書ス、今考古學雜誌第九卷第十二號高田十郎氏ノ報告ニヨリ全文ヲ擧ゲタリ

一聽鐘聲□願衆生 斷三界欲證大菩提 正應四年辛卯三月十三日施主三百二十人

勸進正信房 大和國宇陀郡山邊□戒長之藥師佛鐘也

陸奧中尊寺白山社假面 （朱）集古十種

正應四年三月廿四日別當了禪

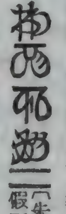
陸奧高杉鄉主碑

山城東福寺二世湛照禪師納骨器 弘化丁未七月廿日從隣寺之地所堀得云（朱）三香摸傳

三聖開山東山湛照禪師備之中州之人年六十一示寂四十五臘葬西光寺塔圓通院子

時 正應四辛卯年八月初八日 法弟等謹記

此器ハ今云奈良石ノ類ニテ造リ合縫ノ處紙ヲ貼シ花押四ヲ書其紙其書新ニ書スル如ク奇妙ノモノト云



（朱）花押ハ虎關禪師ノ書ニテ其餘ハ未詳ト寺僧ノ説ナリト云フ （朱）此外ヲ假玉器ヲ以包ミ又錫器ヲ以テ覆ヒ固封謹密ナリシト云フ

○追考山州名勝志云圓通寺或云寺跡今泉涌寺境內戒光寺ノ地是也開山寶覺禪師塔所也

元亨釋書第八云釋湛照號東山備之中州人云云正應帝詔入宮問道照權方壽帝賜寺產四年秋八月八日盜伺籌室委順而化闍維收骨第七之朝其徒有乞分骨者開函舍利燦然不可數也初念大休計至或曰大休火浴流舍利奇哉照曰然我又他時賞子之奇哉一詞耳至此世欽照之先知焉塔于圓通寺賜諡寶覺禪師

尾張眞福寺藏後七日御修法記 （尾張名所圖會）正應四年宗可書寫本

五　壬辰　一九五二　（二一九二）

河内葛木慈光寺鐘　河内郡中河内郡枚岡村

〔増〕河内國河内郡葛木北峰慈光寺字神功山鐘也本鐘奉鑄年號永保二年乙卯七月八日所奉鑄鐘依少奉寄進阿闍梨增壽之一周忌佛寺用途於門弟僧實辨之沙汰寺僧等相共所奉鑄改之也正應五年壬辰十一月廿四日一和尚阿闍梨辨圓　大工山河貞清

勸進聖人僧行音　僧覺秀　僧聖音　（攝河泉金石文）

下野日光新宮銅燈臺　易得子筆記引日光山志〔増〕大正三年八月國寶指定

奉治鑄　新宮御寶前　御燈爐一基　右志者爲二世悉地成就圓滿也利益普及群類矣　正應五年壬辰三月一日　願主　鹿沼權三郎入道教阿　並清原氏女敬白　大工常陸國三村六郎守季　〔増〕奉以下矣迄原本欠

相模國分村藥師堂鐘　徑二尺二寸五分、高サ龍頭共四尺五寸五分　相摸國中郡國分村　（新編相摸風土記卷六十四）

大日本國相州國分尼寺大檀那源季頼　夫以當寺者維聖武皇帝之御願醫王善逝之聖跡也鐘聲者亦佛閣住持之莊嚴魔界降伏之形聲歟奚逸韻絕而茲久樓臺荒而陽積

乏縁之跂之凡厥所祈者天下靜謐國土豊饒矣所仰者伽藍繁昌子孫泰平焉乃至法界平等利益無邊而已　正應五年歳次丙辰十月六日　平氏女　源氏女　源季久　大工大和權守物部國光作　一聽鐘聲　當願衆生　脫三界苦　得證菩提

信濃碓氷峠今熊野鐘　〔朱〕栗原翁手錄信齋紀行所載有脫文

奉施入臼井到今熊野大鐘事　正應五年壬辰卯月八日　右志者爲松井田庄衆十二人現當志地成就也

大和傳香寺鐘　〔朱〕忠友筆記

正應五年壬辰十一月廿四日

大和法隆寺所傳朗詠要集　〔朱〕栗原手錄

跋文　已上詠數六十七首博士口傳悉奉授于琳弘敎禪房了更不可有披露者也先達等被秘故也又三首奉授者也正應五年三月日聖玄

伏見

山城安居院悲田院鐘

願聞鐘聲獲利益亡若離苦存者得樂衆病除愈憂腦止息遠近群蒴解脫纏縛　正應六年癸巳二月三日光明遍照十方世界念佛衆生攝取不捨大勸進沙門圓證　鑄物師大工橘則正　大施主沙彌行圓　沙彌慈願　沙彌西信　清原國貞　四百七十一人

〔増〕原本大施主云云トシテ大勸進以下省畧今扶桑鐘銘集ニヨリテ補ヘリ

永仁元

武藏青山圓明寺斷碑

〔増〕奥州大鷹宮鰐口

正應六年癸巳五月□□□□□□□□□

癸巳

一九五三

（一二九三）

伏見 永仁 二 甲午 一九五四（二二九四）

陸奧南宮村慈雲寺斷碑

四十□□□□□□

永仁二年八月□□　□□一番　三十五人□敬白

信濃上諏訪鐘　〔朱〕追考三香手錄

〔增〕恐ラク永仁五年在銘ノ古鐘ヲ誤リシモノナルベシ後考ヲ俟ツ

三

洛南大佛石塔町石塔婆銘　山城名勝志云一基無銘〔朱〕俗傳曰繼信忠信塔也

永仁三年二月二十日　願主法西

佐渡羽黒山正光寺鐘銘　〔朱〕飛驒高山小野氏手錄

佐州羽黒山正光寺　奉施入推鐘一口長三尺　右奉鑄志者爲陸奥守平朝臣御祈禱並結緣助成乃至天下法界平等利益故也　銅匠藤原守重　沙彌能生　院主僧信任敬白　永仁三年乙未九月

〔增〕大和法隆寺聖靈院二臂如意輪觀音臺座銘

永仁三年乙未三月十日始奉修複之處也爲生生世々値偶頂載今生必得發菩提心爲二親聖靈頓證菩提乃至法界衆生平等利益矣敬白　永仁三年卯月　大法師慶舜

乙未

一九五五

（一二九五）

元成宗元貞元　元貞通寶

伏見　永仁四　丙申　一九五六　（一二九六）

陸奥岩切山信田小太郎館跡碑
永仁四年丙申十一月八日
〔朱〕西據栗原翁手錄翁曰集古十種所載文字有漏脫

大和法隆寺所傳假面
墨書曰　惡魔降伏面　永仁四年七月七日諸總源信氏作

下野都賀郡小藥村稱念寺鐘　〔朱〕集古十種〔增〕東京帝室博物館藏拓本ニヨルニ鰐口也
加賀國中隱岐藤原家綱鑄進一阿彌陀佛　永仁四年十二月日

相模筥根社鐘
大筥根山鐘銘並序當山者盖山嶽之神秀也孝謙皇帝御宇天平寳字年中萬卷上人草創擇地三所權現松瑞並甍尒降鎭座坐餘五百歲鏡應被十二州衛護之德外現風馨周遍之願內證月明希夷之道心言叵乃粤若大茲協冷之曆仲冬嚴□之天回祿成□祠壇欠基是以便跋土木之殊功將復瑞籬之舊制光鑄華鐘專備寳器宜達逸音於遐邇永垂勝利於幽顯仍作銘曰梟匠呈巧冶鑄功新聲驚曉夕韻徹霄是霜後高和嵐底遠臻普利三界悉滌六塵芥城猶盡劫石縱磷累多歲序茲器無悛永仁三年五月日大工伊豆權頭礒部安弘

蜷川氏藏劒銘　〔朱〕信充著書

御魂大明神永仁以丙申二月圓日願主敬白

多武峯衆徒戰死供養塔　〔朱〕追考三香筆記

山城大悲山鐘銘　〔朱〕同〔增〕山城國愛宕郡大悲山

阿波國以西郡八萬金剛光寺鐘願主三部阿闍梨耶實秀永仁四年歲次丙申十月五日　大工

內藤範賴

國所未詳古碑　〔朱〕嘉永六年秋自易得子來

奉修法華經一千部

永仁四年　二月十三日

彼岸修　爲一百日供養造立

〔增〕山城淨琉璃寺手水鉢　山城相樂郡富尾村（考古學雜誌第四卷第三號京都の金石文）

西小田原　永仁四年正月廿日

伏見	永仁五	丁酉	一九五七	（一二九七）

信濃諏訪上宮鐘　〔朱〕信齋紀行
永仁五年丁酉九月二日檀那知久左衛門入道行將大工上野國住人久江
〔增〕大和海龍王寺五重小塔臺座銘　大和添上郡佐保村法華寺（續奈良縣金石年表）
永仁五年丁酉九月廿日修理之　大工季國奉行僧玄智

元成宗大德元　大德通寶　今世希存

六

戊戌

一九五八

（一二九八）

〔増〕武藏東漸寺鐘　武藏久良岐郡杉田村（東京帝室博物館藏拓本）

久良岐古拓提號曰東漸前」主山僧宗鑑緣契檀門掃蟻」窟蜂房革爲禪刹幢々雲水文武於途然視諸方叢林所」宜有者闕典住山了欽獨病」無洪鐘諭晦明自知一力難」成旁募衆緣得辨大器既就矣無銘其可乎」銘曰大器圓成遐邇訇訇覺夢孤客」息苦幽生聲石到耳耳溪到聲」無來無去」非虧非盈根塵消殞」自他齊平圓通三昧觸處洞明」烏回兎轉海曇河清板圖傳遠」帝基不傾　旹永仁六年戊戌孟春望日住山比丘了欽謹題大工大和權守物部國光

〔増〕大和圓福寺寶篋印塔　大和國生駒郡南生駒村有里（奈良縣金石年表）

「永仁六年云云」ノ銘アルモ磨滅シテ讀ムコトヲ得ズ

〔増〕大和峯堂石塔　大和國磯城郡多武峰（奈良縣金石年表）

陸奥高杉郷主碑

東征傳繪緣起　五卷（朱　好古小録

奉施入鹿招提寺永仁六年戊戌八月日極樂律寺住持沙門忍性

伏見	正安元	己亥	一九五九（一二九九）

相模筥根崎山鐘

相模法福寺鐘

南禪寺所傳龜山帝宸書

永仁七年己亥三月五日　佛子金剛眼　（朱）簡文左右御朱印

追錄（朱）朕聞古云人身難逢佛法難聽吾被催十善餘薫忝踐万乘之帝祚雖有亢龍之悔猶待金仙之樂竊思何幸法逢大乘聞南禪處於五百世之間如在三百餘會之砌爰以建寺度僧有漏善根雖非本望利生悲願化物要徑也吾子々孫々宜知吾所思當寺繁昌者蘿圖永固玉葉久茂背吾若所思廢亡旋踵若在天界以天眼照之若在佛界以佛眼鑑之思之思之

武藏總泉寺碑　（朱）江戸名所圖會、信齋紀行

正安元年十一月廿二日

六條道場一遍聖人繪記　十二卷（朱）應安二年僧阿修補延德四年覺阿再修補

卷尾云　元安元年己亥八月廿三日西方行人聖戒記

山城高尾下乘石　（朱）追錄三香筆記

飛驒小萱村藥師華基銘　（朱）飛驒高山小野氏手錄

永仁七年次己亥二月十五日彼岸初日丁卯建天恩日角宿水曜本尊圖面形作始同十六日戊辰亢宿本曜種子書顯同十七日己巳氐宿金曜燬（追考鑿字也）奉大檀那左兵衛尉藤原國家勸進僧覺祐

尾張眞福寺藏明文抄　（尾張名所圖繪）

正安元年古寫本

〔增〕但馬東樂寺鐘　土佐國土佐郡朝江村妙國寺鐘（土佐古鐘類聚）

但馬國氣多郡東樂寺諸旦施主等助成合力輩現世安穩後生善所故也正安元年己亥十一月日大工河內國大春日重守　（原銘）

〔註〕（一）此鐘ハ延德二庚戌八月一日ノ追錄アリ、同年ノ條參照（二）土佐國古鐘類聚云右土佐國潮江村妙國寺鐘此鐘原京師頂妙寺之什寳物也妙國寺之記曰此鐘原京都頂妙寺鐘樓之鐘也近世頂妙寺移二條川原新鑄大鐘延寳六戊午日純上京時從頂妙寺授之此鐘京師名鐘一而律中黃鐘天王寺六時堂與鐘同音或四季易云

〔增〕山城岩船三大ノ石佛　（考古學雜誌第四卷第三號京都ノ金石文）

永仁七年二月十五日　願主□□□

後伏見　正安二　庚子　一九六〇　一三〇〇

洛南八幡藥師堂前碑　〔朱〕寄遊讀云高四尺餘
正安二年八月　市野邊無常講

陸奥妙音寺碑　高三尺五寸幅一尺九寸
右□□□
正安二庚子八月日
□□□　連衆三十人

駒込長安寺鐘

相模筥根磨崖六地藏緣起　〔增〕金石榻本考
〔增〕筥根山六地藏□□像緣起事　奉造立六地藏本願□□建□□□　正安二年庚子八月二十四日　□地且那　□□□□□

鳩井筥崎山鐘
〔增〕武藏國足立郡鳩井郷筥崎山依悲母命奉鑄之正安二年庚子三月十八日　沙彌慶願
大工源景恒

春日龍神社石器　〔朱〕追錄三香手錄

武藏仙波喜多院鐘　〔朱〕追錄信齋紀行

〔增〕山城瀧堂石佛（彌勒立像）相樂郡西和東村字瀧堂（考古學雜誌第四卷第七號京都ノ金石文）

爲尼法阿同子萬壽？□□渡？□安穩？□佛國？□彫？之施主□□正安二年四月日當釋迦牟

尼佛滅度之後二千二百餘歲比

〔增〕日光常行堂鉦皷

山河大木道場鐘大發主前佛　正安二年庚子五月十四日

〔增〕山城金胎寺寶篋印塔　山城相樂郡東和村大字原山

後伏見 正安三 辛丑 一九六一 （一三〇一）

相模圓覺寺鐘 〔增〕相摸鎌倉郡小坂村、明治四十二年四月國寶指定

相模州瑞鹿山圓覺興聖禪寺鐘銘鶴岡之北富士之東有大圓覺爲釋氏宮恢廓賢聖蹴踏象龍範圍天地蠹籥全功鎔去鑛煆煉頑銅成大法器啓迪昏蒙長鯨吼月幽谷傳空法王號令神天景沒裕民贊國植德旌忠停酸息苦超越樊籠高輝佛日普扇皇風浩々聲震寰中 正安參年辛丑八月初七日本寺大檀那從四位上行相相模守平朝臣貞時神緣同成大器當寺住持宋西澗和尙子曇 謹銘 勸進耆舊僧宗證 奉行兵部㪅橋朝臣邦博 兵庫允源朝臣仲範 大工大和權守物部國光 掌財監守僧寺源道虔 此月十七日巳時 大鐘昇樓 供音發虛 謹具名于后 喜捨助緣善信共壹千五百人本寺僧衆二百五十員 大耆舊慧寧 覺眼 宗證 道範 宗英 頭首覺泉 覺俊 師侃 玄挺 崇喜 道生 性仙 知事聰恩 智足 可珍 至牧 文順 元安 祖安 西堂 德熙 自聰 德詮 源淸 志遠當寺住持宋西洞和尙 子曇

皇帝萬歲重臣千秋風調而順國泰民安 〔朱〕集古十種

〔註 原本ニ〔朱〕私云銘．名所記所出有小異〇聲震寰中風調雨順國泰民安皇帝萬歲重臣千秋正安三年辛丑七月初七日大檀那從四位上行相摸守平朝臣貞時勸緣同成大器當寺住持傳師宋沙門子曇謹銘」トアリ集古十種ニ擧クルハ恐ケハ錯誤アルニ似タリ」トアリ今拓本ニヨリ訂正ス

後二條 乾元元 壬寅 一九六二 （一三〇二）

伊豆田方郡善名寺村碑 〔朱〕秋山章伊豆志作中條村

承慶僧都 釋迦如來滅後二千二百五十二歳

定仙大和尚 正安壬寅卯月二日奉為報謝師恩

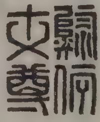
自他得道金剛佛

左金吾政□ 子權律師□頂□

遂造立供養矣

下總山川古碑 〔朱〕栗原翁手錄

正安四年



三月十五日

大和多武峰六角堂鐘 〔增〕今亡歟

美濃長瀧寺石燈臺銘 〔朱〕一基也 自往檢之嘉永辛亥之秋也

正安四壬寅七月云云

陸奥松島瑞岩寺五大堂金鼓　〔朱〕三香手錄

乾元元年正月十一日草壁入道勸進五郎爲武運長久寄附之

〔增〕正安四年十一月二十一日乾元ト改元アリ
然ラバ銘文ニ元年正月トナスハ蓋シ誤記ナルカ恐ク僞物ナルベシ

相模筥根滿仲追福碑

正安四年

攝津千手院法華塔

乾元元年

尾張亀尾天王御正體鏡　背銘摚尻〔增〕恐後世僞作歟

奉施入牛頭天王御正体勸進沙門勝尊幷緣阿彌陀佛正安四年壬寅四月十一日

後二條 嘉元元 癸卯 一九六三 （一三〇三）

河内地藏堂鐘 〔朱〕大縣郡雁田尾〔朱〕集古十種〔朱〕追錄三香子云雁林堂新福寺ト云是也

河内國□力郡鴈多尾

□□寺鐘

乾元二年癸卯四月八日鑄之

龍頭二尺七寸云云

正平二十一□丁未七月七日鑄改以所加龍頭三尺云云

大和多武峰妙樂寺摩尼輪塔 〔朱〕忠友筆記

妙覺究竟　乾元二年五月日立

〔增〕近江金剛輪寺鐘 （廣瀨郡巽氏）

近江國　愛智郡金剛輪寺奉鑄造鐘一口右去承元雖造之今乾元師鑄改也夫椎槌一打三千之衆雲集霜鐘三振四生之苦氷銷般若之標道場之主唯在鳴鐘卒　天長地久結緣尊卑成以御願滿以志願矣　乾元貳年癸卯四月十五日大工河内國丹南郡黒山

鄉河内助安

〔增〕下總二ノ宮鐘銘　下總國印幡郡久住村土室祥鳳院（東京帝室博物館藏拓本）

諸行無常是生滅法生滅々己寂滅爲樂一切衆生悉有佛性如來常住而無變易三界雖廣外無別法心佛及衆生是因無着別大日本總州二宮社壇奉鑄爲現世安穩後生吉處乃至法界平等利益乾元二年癸卯南時季日□當社務大僧都沙彌行觀敬白檀那代沙彌良圓比丘尼蓮性源範治

若以色見我以音聲求我是人行邪道不能見如來行時　阿闍梨澄圓阿闍梨良秀　大工清原弘兌末重公文信性比丘尼鏡阿

追銘　奉寄進賀律宮大鐘大旦那永正十四天丁丑八月廿日午刻

〔增〕大和竹林寺忍性舍利瓶記　大和唐招提寺藏五輪塔下發掘（奈良縣史蹟勝地調査會報告第七）

良觀上人舍利瓶記

和尚法諱忍性、西大寺沙門也、俗姓伴氏厥考伊貞行、厥妣橘氏女、建保五年丁丑七

月十六日、誕㆓於大和國城下郡屏風里㆒貞永元年七月十日十六歲出家皈㆑道天福元年、於㆓東大寺戒壇院㆒登壇受戒、爾後隨㆓興正菩薩㆒仁治元年四月十一日通㆓受於西大寺㆒受之、寛元三年九月十四日別受㆓於家原寺㆒受㆑之遂則專恢㆓興律宗㆒兼弘傳㆓密教㆒智行相備薰修差積、人歸㆓慈悲㆒世仰㆓興隆㆒是以遐方近土尊卑緇素莫㆑不㆓恭敬頂禮歸服信仰㆒況亦匪㆓啻東關之歸敬㆒既及㆓上都之尊崇㆒特奉㆓東大寺大勸進㆒再補㆓天王寺別當職㆒壽八十七、今玆七月十二日子刻端座如㆑常着㆓僧伽梨㆒威儀安詳、心住㆓觀念㆒手結㆓密印㆒口誦㆓秘明㆒奄終㆓於極樂寺㆒便其曉㆓更寅刻火㆒葬於寺之西畔㆒弟子等再覲永絶、攀慕無休只拭㆓悲淚㆒泣擁㆓遺骨㆒相㆓分舍利㆒留㆓置三所㆒一分極樂寺、一分竹林寺、一分額安寺、是依㆓遺命㆒也入㆓銅瓶之中㆒納㆓遺蹟之靈境㆒勵㆓一心之禮㆒約㆓當來之三會㆒嘉元元年歲次癸卯十一月日付法住持沙門榮眞、石塔願主比丘禪意、彫手作沙門入道良殿

于時天正十七年己卯年春正月十五日當寺住持沙門性善比丘六十八歲記焉

陸奥飯坂天王寺碑　高三尺八寸　幅二尺

諸行無常是生滅法　右志者爲過去□天一□一徃生

生滅□己寂滅爲樂　嘉元二年甲辰七月廿五日

極□及以法界□□□也

二
甲辰
一九六四
（一三〇四）

陸奥安達郡西内村相應寺碑　高三尺餘、幅一尺九寸餘

奉施法花經一部籾五石□平太郎

相應寺　嘉元二年七月八日　且那妙圓敬白

右願者爲天長地久御願圓滿也

陸奥松島五大堂金鼓　作乾元三　〔朱〕三香手錄元年トス今爲三年可疑追錄

武藏勝樂寺村大坊邊古碑　一尺四寸餘　〔朱〕武藏夜話

嘉元二年二月日

參河狹投神社額　〔朱〕三香手錄

正□位狹投大明神　裏書　嘉元二甲辰八月一日辛巳書之
左近衛權中將源朝臣朝忠

近江石塔寺山古碑　一書云嘉元二年者多

〔增〕美濃國雄總護國寺寶篋印塔　（考古學雜誌第二卷第一號小川榮一氏）

祖父命雨慈父惟親沙彌道蟲嘉元二年八月時正

〔增〕大和無量寺五輪塔　大和國生駒郡南生駒村大字一分（奈良縣史蹟調査會報告第三）

右爲二親幷法界衆生平等利益也夫以弟子慈勝宿因有幸生佛法流世善果感是預行基之益是則生々値愚也世々結緣也依之且爲報菩薩恩德且爲訪法界衆生所造立如件敬白嘉元二年二月十八日願主慈勝比丘入西沙彌願永尼心阿彌大工卜行氏

尾張眞福寺藏醍醐寺灌頂受者記　○尾張名所圖會

嘉元二年快圓寫

三　乙巳　一九六五　（一三〇五）

武藏勝樂寺村大坊邊碑　斷碑一尺一寸二分〔朱〕武藏夜話
嘉元三年乙巳六月八日奉造立之

中氏藏笙　號白菊丸〔朱〕集古十種
嘉元三年乙巳十月

武藏河口善光寺碑　〔朱〕信齋紀行
嘉元三年

〔增〕大隅勝栗神社藏松竹散雀鏡表面針書　（紀年鏡圖譜）
施入右藤原氏女嘉元三年十一月十二日　施主敬白

後二條

德治元

丙午

一九六六

（一三〇六）

陸奥津輕長勝寺鐘　陸奥國弘前市西茂森町長勝寺（東京帝室博物館藏拓本）

皇帝萬歳重臣千秋風調雨順國泰民安嘉元四年丙午八月十五日大檀那相摸州菩薩戒弟子巣演當寺住持傳法沙門德熙謹書施錢檀那見阿彌陀佛沙彌道曉沙彌行也平高直安倍季盛沙彌道性沙彌行心丹治宗貞平經廣源光氏僧證嚴沙彌道法藤原宗直藤原宗氏沙彌覺性勸進僧口都寺僧良秀大工□大夫入道

〔註〕原本ニ朱ヲ以テ集古十種ト書シテ前文ヲ載セス今帝室博物館藏拓本ヲ以テ補ヘリ

陸奥松島碑　丁未不可見金石年表誤於一年

相摸海藏寺彌陀如來佛像

德治元

〔增〕能登伊夜比咩神社棟札　鹿島郡中之島村（考古學雜誌第八卷第八號沼田頼輔氏）

奉造立御殿一宇嘉元四年歲次丙午二月六日丁未地頭長谷部宗信神主則正大工右近又三郎藤三郎小工中太郎

攝津安曇寺鐘　〔朱〕追考鐘銘集曰此鐘今在山城安祥寺

攝州渡邊安曇寺洪鐘一口右爲警覺三世諸佛濟度一切衆生受諸人之助成作一口之洪鐘宜爲一寺之重寶永傳萬代之不朽而已

〔增〕東京帝室博物館藏搭鈴

嘉元四年歲次丙午播州增位寺常住物勸進快圓

〔增〕伊豫道後石手寺鐵燈籠　（大日本金石史）

安養寺奉施入燈籠事大願主僧昌徹備後國三原之大工津守守眞嘉元四年丙午二月日

謹記

陸奥御島賴賢上人行實碑　陸前宮城郡松島御島

奥州御島妙覺庵賴賢庵主行實銘幷序

巨福山建長禪寺住唐僧一山一寧撰

德治丙午冬予再居福山丁未春有僧匡心孤運來禮謁言來自奥州手其師行實一通往香禮足謂予曰吾鄕奥州有松島其側有御島有庵曰妙覺乃曩歲見佛上人來結茅而居見佛淸苦精進身淸敎口緘默日誦法華經先十二年中已滿六萬部後到十二入滅其後所誦又不可以數計也六根旣淨能役使神物靈異頗多道乃□布聲聞朝野適鳥羽院嘗字賜本尊器物以旌異之其島本名千松島以見佛蒙御賜之故時人乃易今之名凡松島左右列島僅百數獨此名最揚蓋由見佛之故也吾之師名賴賢號觀鏡房生於羽州源氏幼而端愿父母俾出家乃依長崎成福寺爲童子十五薙髮而學天台及眞言敎于講席久之忽自悟謂文字之學非出世法至年四十二今圓覺無隱範和尙住松島圓福寺往依之居弟子列復遊方參聖一于東福大覺于建長佛源于壽福孜孜請控法無異味仍回圓福

將終老焉無隱遷相州淨妙空巖慧和尙當繼席適此庵乏主者空巖乃擧師以補之旣居歷年光大振興凡法之未完者咸修備之口誦法華心住禪寂二十二年影不出山鬱爲叢社四衆攸歸人謂見佛上人之再世也剗其天性慈和眼無畛畦待物如一淸濟安怡精勤不怠誠末法化物之儀軌也世壽八十二僧臘六十七居處如平居度弟子三十餘人匠心孤運等以師之德之功不著于後我之責也相與議立卒堵波以記之敢求數語以信于贊後予聆其語又覽其詞因思古之立道趨構法門者率由是道賢師其由是道手贊寧師作僧傳有興福之一科賢師其在斯料乎旣有補於法門故爲銘之銘曰

人惟德馨地由人興御島之庵見佛始營賢師後居乃臻厥成淸明勝淨開迷醒醒玆善根力克享脩齡弟子樹玆卒堵波記其德行予爲銘

是歲三月十五日書小師三十餘人匠心孤運同立石

〔註〕金石私志云碑在奧州宮城郡松島德治二年建高丈餘幅四尺海內碑碣此爲最大胡元歸化僧一山一寧撰書行草書全出集聖教序淸逸可愛文亦能記賢師及見佛上人行事而如云御島之稱出於鳥羽帝御賜之故亦可以補入風土記矣元通鑑載成宗大德三年江浙平章政事也速答兒復勸帝用兵日本帝曰今非其時

因其俗奉佛遂遣僧一山往使而日本竟不至蓋一山初來奉其密旨覘吾邦及使事不成罹其罪已不敢歸也澤弟佚遊與曆以爲宋僧誤矣

後二條　德治二　丁未　一九六七（一三〇七）

武藏総泉寺碑　〔朱〕江戸名所、信齋紀行
德治二年丁未二月七日

武藏御丘社鐘
〔增〕敬白金峰山奉鑄金峰山槌鐘右志者爲天長地久御願圓滿乃至法界衆生平生利益也　德治二年丁未十一月廿七日大檀那壬生氏女納之　大工行重　播摩權守利重

〔增〕山城當尾阿彌陀像　（考古學雜誌第四卷第四號　岩井武俊氏）
德治二年丁未四月廿九日造立之

〔增〕土佐禪師峰寺　（土佐國古鐘類聚）
大日寺院主權律師敎成德治二年四月十五日

〔增〕山城當尾村石佛銘 山城國相樂郡當尾村西尾札場

德治二年丁未四月廿九日 造立之 （考古學雜誌第四第三號岡井武俊氏）

山城葛野郡眞言敎寺虛空藏堂梁簡銘 （柳庵雜筆）

德治二年

尾張須尾天神寶古鉾柄銘

德治二年九月十三日荒木田劔若丸

〔增〕大和蓮臺寺五輪塔大和磯城郡高久山村吉備 （續奈良縣金石年表）

爲一切衆生奉造立處也德治二年丁未卯月八日

花園
大和奈良二月堂半鐘
德治三年二有施主阿古女修復之

延慶元
武藏駒留社經筒　紫銅長五寸〔朱〕江戶名所圖會　天和年中堀出卜云
德治三季戊申十月廿三日沙彌見佛左近太郎入道成願
武藏神體皆面木牌銘　〔朱〕同上
最明寺時賴守本尊
同經塚　駒留八幡宮
北條左近太郎入道成願
奉安鎭所德治三戊申年十月廿三日

戊申
一九六八
（一三〇八）
陸奥伊達郡石母田村碑

陸奥松島賴賢碑　〔朱〕追考三香手錄

德治三春觀鏡房□□弟匡心孤雲立

〔增〕筑前法輪寺經筒　文政六年發見、筑前國遠賀郡蘆屋町字山鹿（考古學雜誌第二卷第二號九三頁）

妙法蓮華經全部八卷奉爲關東御曹司千壽御前相當一百日忌景御爲滅罪生頓證菩提一日頓寫供養如右德治三年正月廿三日導師遍照金剛證空勸進遍照金剛皇笙母儀菩薩戒尼遍照金剛淸淨覺敬白

〔增〕大和吉水院大鼓　吉野郡吉野村（續奈良縣金石年表）

德治三年七月廿五日作之新造十一面內沙彌（花押）筒工□

延慶二
己酉
一九六九
（一三〇九）

常陸久慈蓮光寺鐘　今在下野國小藥村稱念寺〔朱〕集古十種

奉治鑄常陸國久慈西郡戸崎村蓮光寺鴻鐘右奉爲公家武家御願圓滿當寺檀那除□樂寺內安穩令法久住重乞一統講衆三界有情鎮閻清永除業睡成二世願共生佛會而己延慶二天大歲己酉三月廿一日願主十八日講衆等大工沙彌善性

〔增〕參河國鳳來寺金剛盤　考古學雜誌第二卷第二號（堀江清足）

鳳來寺御影堂延慶二巳酉七月日

〔增〕下総觀福寺地藏菩薩銘　（家藏拓本）

敬白下総國香取大明神御寶前一奉立金銅地藏大菩薩一體一奉讀誦般若心經萬卷並觀音經千卷右志者爲亡父實政並海雲比丘兵衛奉建立如件　延慶二年大歲己酉三月八日 佛□□□□地敬白
橘□□□□胤

〔增〕播磨慈眼寺鐘　播磨國印南郡神吉村（大日本金石史）

播州印南郡益田村佐伯寺鐘爲二親□□沙彌道佛　大檀那沙彌圓性爲二親並比丘尼淨空　大助成人々眞如　尼法性尼無心　尼了念　沙彌覺一　右衛門尉佐伯基任　合力人　沙彌覺禪　僧唯覺　沙彌敎阿　尼明了　左衛門尉佐伯氏　信左衛門尉佐伯秀信佐伯氏夜刃女　佐伯信朝　長景信　結緣衆　左兵衛尉平重成　沙彌道念　沙彌西蓮　藤原氏女　僧覺眠　佐伯宗依　右爲一紙半錢與助成之輩出離生死頓生菩提也　延慶二年己酉四月十四日大工伊豆友宗

延慶三
庚戌
一九七〇
（一三一〇）

陸奥山日村碑
右志爲先考□□成佛得道延慶二年己酉大□二□

同高杉鄕主碑

武藏騎西施無畏寺鐘　武藏國荏原郡池上村
武藏國崎西郡池上村施無畏寺冶鑄梵鐘一枚右當寺者曩祖奉爲關東右□□家御菩提所令建立也願主正六位上行左衛門尉藤原朝臣道敏大工遠江權守朝豪　延慶二己酉十一月五日

春日權現驗記　二十卷書高階隆兼〔朱〕貞幹好古小錄

延慶二年三月

尾張北勝山自性院緣起二卷　延慶二年所書寫

相模鶴岡社鐵燈　〔朱〕集古十種

冶鑄鶴岡八幡宮寶前燈籠一基右且爲祈天下泰平之御願且爲貴尊神鎭　之威光□
一基之冶鑄修萬代之莊嚴伏願諦哀納懇篤之心誠令成就現當之願望親疎不限利無
益邊敬白　延慶三年庚戌七月日　願主滋野量善

八幡大乘院前鐘　〔朱〕三香子云神宮寺鐘ト云是也〔朱〕奇遊談

延慶三年庚戌三月十九日鑄之　願主右衛門尉紀近延妻□淡客人氏女大工壹岐得實

紀伊六代御前碑

〔增〕近江日野綿向卒都婆銘

右卒都婆志者爲二親幽靈並物故□英成佛得道焉　延慶三年十月十六日 願主 小舍人紀重方

〔朱〕江漢司馬筆記云神輿庫ノ南封彊ノ裏ニアリ上ニ梵字ヲ刻ス

〔朱〕私云碑文五行ニ刻シタル由ナリ、毎行ノ終ノ文字土中ニ隱レタルニヤ文意通暢ナラス

〔增〕讃岐善通寺阿彌陀造像銘

延慶三年三月日　惚三郎大夫佐伯盛弘

〔增〕下總大慈恩寺鐘銘　香取郡吉岡村　（下總舊事考）

雲富山慈恩寺鐘銘開山住持比丘眞源書右銘是賢聖雲集之作相塗炭霜滅之秘法也羅漢之打建椎也其聲遙息尼吒鈕輪之答智興之鳴梵鐘也其響遠拔□完地獄之報温故知新今豈無感乎因茲眞源起大誓願矣願此鐘聲上逼有頂下徹無間横逼法界竪窮來際有苦者脱二死之苦無樂者素得四德之樂凡厥銘背片銅與力之人見聞觸知結緣之類現世共穩後世淨土乃至法界利潤無涯耳一有鐘聲當願衆生一一覺悟生死夢想拔苦與樂發菩提心證無上覺得失圓寂延慶三年庚戌三月二十九日

元武宗　大元通寶

至大元　至大通寶

〔增〕下總藥師寺鐘

敬白下州印東庄八代郷船方藥師寺一奉鑄鐘一口右志者爲現世安穩往生善處乃至法　平等利益也應長元年大歲辛亥十一月日願主僧良圓敬白大工沙彌善性

應長元

〔增〕下野光嚴寺鐘銘

武藏瀨戶大山積社額

正一位　大山積神宮　延慶四年辛亥四月廿六日

戊辰書之　沙彌寂尹　〔朱〕世尊寺從二位經伊師法文寂尹

辛亥

一九七一

（一三一一）

相摸筥根山中碑　〔朱〕栗原翁手錄ニ向阿追福碑ト云アリ同異可考

六條道場觀善喜寺一遍上人繪傳箱　俗稱錦天神箱黒漆以(朱)書朱追錄三香手錄

件書圖者奉顯一遍上人之行跡殊感六字稱名之勝利爲示中母之懇志敬圖後素之新樣爰自北山入道太政大臣家被見之間令進上之處所納之櫃破損之間被納于新調櫃所被返渡于六條道場也彼古文之殘壁底也遙傳絲竹之聲此畫圖之納櫃中世永得盤石之堅于時應長元年辛亥仲冬上旬記之而已

美濃長龍寺講堂梁箱銘

應長元年　大工棟梁肥前權守狛宗重飛驒權守藤原宗安已下三十六名ヲ記ス

尾張眞福寺藏□洞院入壇資記　尾張名所記

應長元年古寫本

同寺藏具支日記　同記

應長元年榮海筆

正和元
壬子
一九七二
（一三一二）

下野宇都宮淸巖寺鐵塔婆　宇都宮市淸水町淸巖寺藏明治四十四年八月國寶指定

八葉白蓮一肘間炳現阿字素光[色]禪知倶入金剛縛召入如來寢靜智
夫母者四恩之先也孝者百行之源也因玆當一十三之忌景營卒都婆之冶鑄彌陀之種
子三尊之聖容　祈先妣之菩提則作之照覽早出六趣之苦域速生九品之臺乃至法界
平等利益敬白正和元年壬子八月日孝子□□

○桂林漫錄曰上人ハ六郞公綱ガ造ル所ナリト云ハ何ニ依テノ說ナルヤ信シ難シ此塔婆昔ヨリ淸巖寺ニ建タルニ非ズ此邊ノ川中ニ數百年來沈沒セシガ以前大水ノ後土人岸ノ崩チ築ク時無端見出シタリシチ此寺ヘ建タルニテハ有レリトナリ

〔增〕參照大正六年四月刊行宇都宮考古學雜誌第七卷第八號森本樵作氏淸巖寺ノ鐵塔婆ニ就テ

陸奥須賀川愛宕山碑　〔朱〕庄村子模本ニ五月十七日トアリ高三尺トス又成佛ノ二字成竹ト記ス

奉爲一百ケ日　孝子等敬白
應長二年五月成佛造立之

武藏勝樂寺村碑　立二尺六寸（朱）武藏夜話

正和元年十二月

飛彈吉城郡大村土中所出鐘鼓銘　同國古川人何某告予云往年此物高山商人買去失所在可惜

應長二年□□□□越中國住人云云

相摸泉谷石地藏背銘　一野史所載

供養導師性仙長老　施主眞覺正和元年十一月

飛彈久津宮藏大般若第六十跋文

正和元年九月十五日執筆道仙

同水無神社藏大般若三十二
正和元壬子八月八日僧賴信

同水無神社大般若三十四
正和元壬子八月八日執筆道仙

同水無神社大般若三十六
正和元年八月十日金剛佛子賴實

元仁宗皇慶元 皇慶通寶

武藏河原宿觀音院碑　三尺六寸〔朱〕武藏夜話

正和二年四月五日

陸奥高杉鄉主碑

正和
二

越前三國湊室屋直方藏蓮葉形貯水鐵器銘　〔朱〕嘉永元年初冬所親見

正和二年丑八月日

癸丑

平安誠心院境內和泉式部塔臺石銘　〔朱〕平安庄村生手錄云文字漫滅難讀

大願主勸進僧祥心　比丘尼妙性（以下數人）正和二年五月日

一九七三

（一三一三）

飛彈久津宮所傳大般若經跋文

正和二年正月五日於飛驒國清峰寺長光院書寫云云

〔增〕山城十念寺磬　京都市寺町頭　考古學雜誌第十一卷第十號

（表）太秦　廣隆寺　（裏）正和二年九月吉日

〔增〕甲斐善光寺鐘　甲斐國甲府市善光寺　（東京帝室博物館藏拓本）

當寺之起其義□矣、昔有長者在天笠特、奉佛久名之月盖一人少女於毗舍離國忽

過五種暴疾雖耆婆醫道不驗十全秘方參試大林精舍敬禮佛所体也只願、垂本師釋

尊之哀愍速疾救所生、女子（以下五行磨滅不可讀）、、、他施以佛力之救癘病者、、、

□□人爲厥令。生□、、、、向之尊像[以]□壇、、、[即]□生身放光明國、、、

本佛於本願之、、、相利衆生□、、、（以下九行磨滅不可讀）

□□無休就中本鐘依法□□一朝夕之勤行修、□□口雖推遷（以下十字不可讀）寺衆別當源基法有珠　檀施令鑄蒲牢天爲善人好□夫勤□志□五尺高六尺□切磨終功於□都鄙結緣之彙皆遂二世望村里聞響之輩宜罷長夜之夢子將時正和二年歲次癸丑六月日作銘曰本朝勝跡我寺善光安三尊□□百濟國白毫遮眼金色銹祖膺宇之内鳴鐘在勸誘戮力冶鑄如銘鳴□□德及十方送高樓月、和豊顏霜閑窓夢絕遠村響長叶罷妄想聞際業障施入有益功能無量

〔註〕此鐘荒レテ文字讀ミ難シ善光寺住職大庭寮門氏ニ照會シテ記ス

正和三

甲寅

一九七四

（一三一四）

駿河清見寺鐘　（朱）集古十種、銘文煙滅（増）駿國雜誌ニ云鐘高三尺九寸四分差渡二尺六寸八分、厚二寸五分伊豆那賀郡濱村ノ北大鐘山發掘、年月不詳、駿河國庵原郡興津町清見寺藏

正和三年甲寅七月

（増）銘文陽、但「七」字ノミ陰刻、而シテ此鐘天正十八年四月二十九日豐臣秀吉小田原征伐ニ借リ出シテ陣鐘トセリト云ヒ今清見寺ニソノ文書アリ云「當時撞鐘之儀韮山取卷候者共ニ借遣候爲奉行石川兵藏新庄新三郎相渡候也四月二十九日朱印（秀吉）清見寺」トアリ

○市川寛齋金石私志云清見寺鐘銘文陽鑄凡三百計字磨滅殆書僅餘六七十字不得詳其爲何語甚可惜也

武藏新堀村路傍碑　一丈二尺餘、幅二尺二寸（朱）武藏夜話

（梵字蓮瓣）

光明遍照、、、、

十方世界

念佛衆生

攝取不捨、、、、

正和三年甲寅八月八日

陸奥醫王寺碑　高二尺八寸餘横一尺七寸餘、〔朱〕私云以三年爲癸丑者可疑恐是打碑者之所誤

右造立之□爲□□逆修

正和三年癸丑十月上旬日

（如理除議）

门業兼法界拜明正覺故也

〔增〕和泉小川春風藏蓬萊雙雀鏡墨書

明心求順定位　正和三年五月午日

〔增〕大和西大寺金剛盤裏面銘　（續奈良縣金石年表所收拓本）

西大寺　眞言堂東壇佛具事　鈴七寸　五鈷三鈷獨鈷　金剛盤　閼伽器四具三十四口　尻伽

四具二十四　火舍四口在蓋甑　花瓶五口　灑水器一口在蓋並坐　塗香器一口在蓋並坐　輪一在坐
羯磨在坐　□四本　香爐一枝　香筥一　念珠一連菩提子裝束在箱　磬臺在□鐘目　正和三年甲寅六月六日記之

河內金剛寺藏什寶　阿育王鐵塔

正和三年忍實上人感得云

伊勢神庫古文書

仁平元年六月廿五日申刻以少納言入道摺木之釋文見合之總州之御時以古本並唐本釋文所被付意義也然而依有不意事重所校合古本勘物能雖有委細事今委之摺本合点畢不裁摺本勘物付輪應保二年四月廿六日見合或古本之仲書江家之繼本也披合之處其可取之事數仍一事所校合也建保六年七月九日授仲光了在判建長第八曆晚春十一日書默了至此書者以摺本書寫之以古本校点之凡虞夏商周書者壁中舊本隸古之遺存也雖然改古字爲今字唐本又如此其上高倉上皇御讀之本又如此歟當蒙右可用之哉但古字之躰一向不可失之仍本用今字傍附古字者也一部十三卷五十八ヶ篇雖爲一字半字不借他人之手偏至墨點朱點皆用自身之

功子々孫々深□匱内號不出門外也淸原正和第三曆孟夏初五日以家之秘說授申生德才子以十一代之學業終十三卷之詔訓當時希有者也明經得業生淸原長時

○島原城主從四位下主殿頭源忠房貞享元年甲子夏四月上旬奉納ノ由記セリ

〔增〕大和唐招提寺佛像蓮臺墨銘（續奈良縣金石年表）

正和三年五月□□

備前吉永保大明神　相模流鏑馬注文

武藏碑文谷法華寺碑　〔朱〕信齋紀行

南無妙法蓮華經　開基日源聖人正和第四乙卯九月十三日

〔增〕大和安樂寺金鼓　大和添上郡柳生村邑地　（奈良縣金石年表）

〔增〕奈良高山神社水船　奈良春日山中

東金堂施入高山水船也　正和四年乙卯五月日置之石工等三座

正和四　乙卯　一九七五　（一三一五）

正和五
丙辰
一九七六
（一三一六）

相模鶴岡社鐘　〔朱〕集古十種

鶴岡八幡宮鐘銘并序夫當宮者馬臺東成之州鶴岳甲區之地模男山之宗祉弘尊廟之權扉以降禮神之閟頌祇之堂焉禮頌不儼春□之奠秋嘗之儀矣春秋幾廻鎭護年尙答睍日新然間去玆迎姑洗不圖次靈祠肆深仰玄鑑忽跋經始課般□□是尋是尺用規矩□不□不忌土木之勤旣雖及爾祀斧斤之功殆可謂不日傍斯苔□而□鴻基先擊蒲牢而發鯨音乃作銘曰冶鑪甫就寶器鑄陶龍文製妙彪巧奇模形非侈揜聲不□□應陰陽律入宮商調小大共振淸濁孔昭帶霜早和隨風自搖式驚千界高徹九□梵響無斷覃三會期　正和五年二月日

常陸安福寺鐘　〔朱〕集古十種

常州鹿島郡寶雲山安福禪寺建椎正和丙辰三月十四日鑄大工完戸鳴井善性大檀那菩薩戒尼觀心資助當國住沙彌善明幹緣住持僧光琮識

大和常門村長保寺石燈臺

〔銘云〕正和五年施入於長保寺

〔增〕豊後照恩寺國東塔

、、、、奉納如法經、、、、（塔身ニ銘文アレド磨滅甚タシク判讀不能ト）

正和第五暦丙辰太簇下旬作

〔增〕大和淨國寺石燈　高市郡新澤村（奈良縣金石年表）

文保元

丁巳

一九七七

（一三一七）

江戸八幡山圓禪寺所傳靈牌

文保元丁己年十月廿三日寂

當寺開基心覺宗圓庵主

北條家孫左近太郎入道成願

〔增〕大和唐招提寺鼓樓文珠厨子臺座銘　（續奈良縣金石年表）

文保元年二月十九日云云　（墨書）

尾張眞福寺藏章律通敎章第二　文保元年東大寺大法師勋心筆（尾張名所圖會）

文保二　戊午　一九七八（一三一八）

近江大萱寶光寺鐘　〔朱〕鐘銘集曰此鐘今在干横川

寶光寺淨御原天皇奉爲除病延命所被造立供養也而中古之比洪鐘空偸梁上公冶劍獨懸寺中僧然日月空移星霜差隔方今氏人等抽丹神□鐫之凝懇府□瑩之美及聽於大千小千之疆普施益於八寒八熱之底同心之傳合力之徒濕福苗於千秋村之雨開榮華於萬春山之風耳于時文保二年歳次戊午七月八日寶光寺住人等敬記

洛東愛宕寺梁簡銘　〔朱〕寄遊談

文保二年八月十四日

上總推津村碑　〔朱〕古墟所堀得

文保二年□月日

武藏王子權現社大般若經一卷 （朱）江戸名所圖會、信齋紀行

奉施入武州豊島郡熊野權現御寶前文保二年戊午初秋大施主右衛門尉平行泰敬白

山城寺戸寶菩提院鰐口 山城國乙訓郡寺戸村

寶光寺金口 文保二年戊午七月八日氏人等敬白

相摸證菩提寺

海東相州山内本鄕有寄麗祠號菩提寺文治五年剖厥終功素律八月供養贅儀金刹敎主之安尊像也瑩氷雪以微妙幕府賢將之凝信心也寄田園以隨喜□降寒暑相換一百餘廻雁宇雖未及頽危鴻鐘既以破損□茲管領施主金吾禪儀一族抽精誠三下冶鑄宜達逸音於千界永垂勝利於群生作銘曰偉哉法鼓陶冶呈勤二儀合氣九乳備文控待霜

降動知秋分聲報山月響達嶺雲白邇覃遐告曉與□無明除睡十方驚听德之廣被豈敢不欣凡厥四衆委預餘薫文保二年戊午四月日大工山城權守物部依光

〔增〕淡路千光寺經筒　大日本金石史

敬白淡路國千光寺爲奉納如法經寶篋塔一基右旦那繁昌法界同利益故勸進如在文保二年戊午八月日大工平弘氏藤原弘貞勸進金剛佛子圓如上座敬白

陸奥石川郡岩峰寺碑　高一丈一尺五寸〔朱〕本朝博古圖

奉爲巖峰開〔朱〕中興可疑與空谷禪師第三年忌景。文保二戊午五月十五日大勸進觀念。大和尙導靈花嚴報地宊

〔朱〕上ノ方梵字ヲ刻ス

〔增〕攝津大地藏石碑　大阪府三島郡石河村字安元敎誓寺
（佛敎研究第三卷第四號日本金石文拾遺）

爲二親得果一切衆生重延造之文保二年戊午九月日

架 B7
棚 1